

令和4年度
(2022年度)

農作物病害虫発生予察事業年報

Annual Report of Plant Protection

Kumamoto Prefecture

熊 本 県

目 次

第1	事業運営状況	
1	関係機関の設置状況	2
2	病害虫発生予察員の設置状況	2
3	病害虫防除員の設置及び活動状況	3
4	病害虫発生予察事業の体系図	5
5	主な対象病害虫	6
6	発生予察調査地点	8
第2	事業等内容	
1	病害虫の発生及び防除状況	
(1)	発生経過、発生原因及び防除の概要	10
(2)	農作物有害動植物の発生面積及び防除面積	24
(3)	普通作病害虫発生予察事業（大豆・イグサを含む）	
ア	病害虫防除所における調査	
(ア)	巡回調査	27
(イ)	予察灯における水稲害虫調査	30
(ウ)	ネットトラップにおける水稲害虫調査	31
(エ)	フェロモントラップによるコブノメイガ調査	32
(オ)	無防除田におけるウンカ類の調査	33
(カ)	無防除田におけるスクミリンゴガイ越冬調査	34
(キ)	イグサシウムシガ予察灯誘殺数	35
(ク)	イグサシウムシガ越冬調査結果	36
イ	県予察ほ場における調査	
(ア)	水稲害虫	37
(4)	果樹等病害虫発生予察事業（茶を含む）	
ア	病害虫防除所における調査	
(ア)	巡回調査	38
(イ)	果樹カメムシ類の発生状況（フェロモントラップ、予察灯）	40
(ウ)	茶害虫のトラップ調査による誘殺状況	48
(エ)	チャトゲコナジラミの発生状況	52
イ	県予察ほ場における調査	
(ア)	果樹病害虫	53
(イ)	茶害虫	62
(5)	野菜・花き病害虫発生予察事業	
ア	病害虫防除所における調査	
(ア)	巡回調査	65
(イ)	野菜害虫のフェロモントラップによる誘殺状況	73
(ウ)	野外におけるコナジラミ類の捕獲状況	86
(エ)	トマト黄化葉巻ウイルス保毒状況調査	87
イ	県予察ほ場における調査	
(ア)	野菜害虫	88
2	発生予察情報の提供	
(1)	警報、注意報、特殊報、技術情報	91
(2)	発生予報	150
(3)	ホームページ掲載内容	195
3	植物検疫事業	
(1)	ミバエ類等特殊病害虫侵入警戒調査	196
(2)	アリモドキゾウムシ侵入警戒調査	198
(3)	イモゾウムシ侵入警戒調査	198
(4)	スイカ果実汚斑細菌病侵入警戒調査	198
(5)	火傷病侵入警戒調査（特殊病害虫侵入警戒調査事業）	198
(6)	カンキツグリーンング病侵入警戒調査（特殊病害虫侵入警戒調査事業）	198
(7)	ジャガイモシストセンチュウ侵入警戒調査	199
(8)	ツマジロクサヨトウ発生調査	199
(9)	トマトキバガ発生調査	199
第3	その他	
1	病害虫診断	201
2	気象概要	203
3	試験成績書	204

第 1 事業運営状況

- 1 関係機関の設置状況
- 2 病害虫発生予察員の設置状況
- 3 病害虫防除員の設置及び活動状況
- 4 病害虫発生予察事業の体系図
- 5 主な対象病害虫
- 6 発生予察調査地点

1 関係機関の設置状況

機 関 名	所 在 地	県予察 ほ 場	地区予察 ほ場
病虫害防除所 (農業研究センター生産環境研究所 予察指導室)	合志市栄 3801		○
農業研究センター生産環境研究所	合志市栄 3801	○	
農業研究センター果樹研究所	宇城市松橋町豊福 2566	○	
農業研究センター茶業研究所	上益城郡御船町滝尾 5450	○	
農業研究センターアグリシステム 総合研究所	八代市鏡町鏡村 363		○
農業研究センター高原農業研究所	阿蘇市一の宮町宮地 5896-2		○
農業研究センター球磨農業研究所	球磨郡あさぎり町上 2248-16		○
農業研究センター天草農業研究所	天草市本渡町本戸馬場 2315		○

2 病虫害発生予察員の設置状況

(1) 病虫害防除所勤務職員

(熊本県農業研究センター 生産環境研究所)

職 名	氏 名	勤務年月日	担 当
所 長	身次 幸二郎	R 3 . 4 . 1 ~	総括
予察指導室長 (副所長)	江口 武志	R 4 . 4 . 1 ~	総括補佐
主任技師	中井 クノ	R 3 . 4 . 1 ~	野菜病虫害、花き病虫害
主任技師	福岡 美里	R 4 . 4 . 1 ~	野菜病虫害
主任技師	清永 徹	R 4 . 4 . 1 ~	普通作病虫害
技 師	岡島 大貴	R 3 . 4 . 1 ~	果樹病虫害、茶病虫害

(2) 農業研究センター 生産環境研究所 病虫害研究室

職 名	氏 名	勤務年月日	担 当
室 長	戸田 世嗣	R 2 . 4 . 1 ~	総括 (普通作・野菜虫害)
研究参事	坂本 美沙	R 2 . 4 . 1 ~	普通作・野菜病害
研究主任	舂本 将明	R 2 . 4 . 1 ~	普通作・野菜病害
研 究 員	春山 靖成	R 4 . 4 . 1 ~	普通作・野菜虫害
研 究 員	吉永 英樹	R 2 . 4 . 1 ~	普通作・野菜虫害

(3) 農業研究センター 果樹研究所 病虫化学研究室勤務職員

職名	氏名	勤務年月日	担当
研究員	中村 桂介	R 4. 4. 1～	果樹病害
研究員	後藤 聖士郎	R 4. 4. 1～	果樹虫害

(4) 農業研究センター茶業研究所勤務職員

職名	氏名	勤務年月日	担当
研究員	永田 開人	R 3. 4. 1～	茶病虫害

3 病虫害防除員の設置及び活動状況

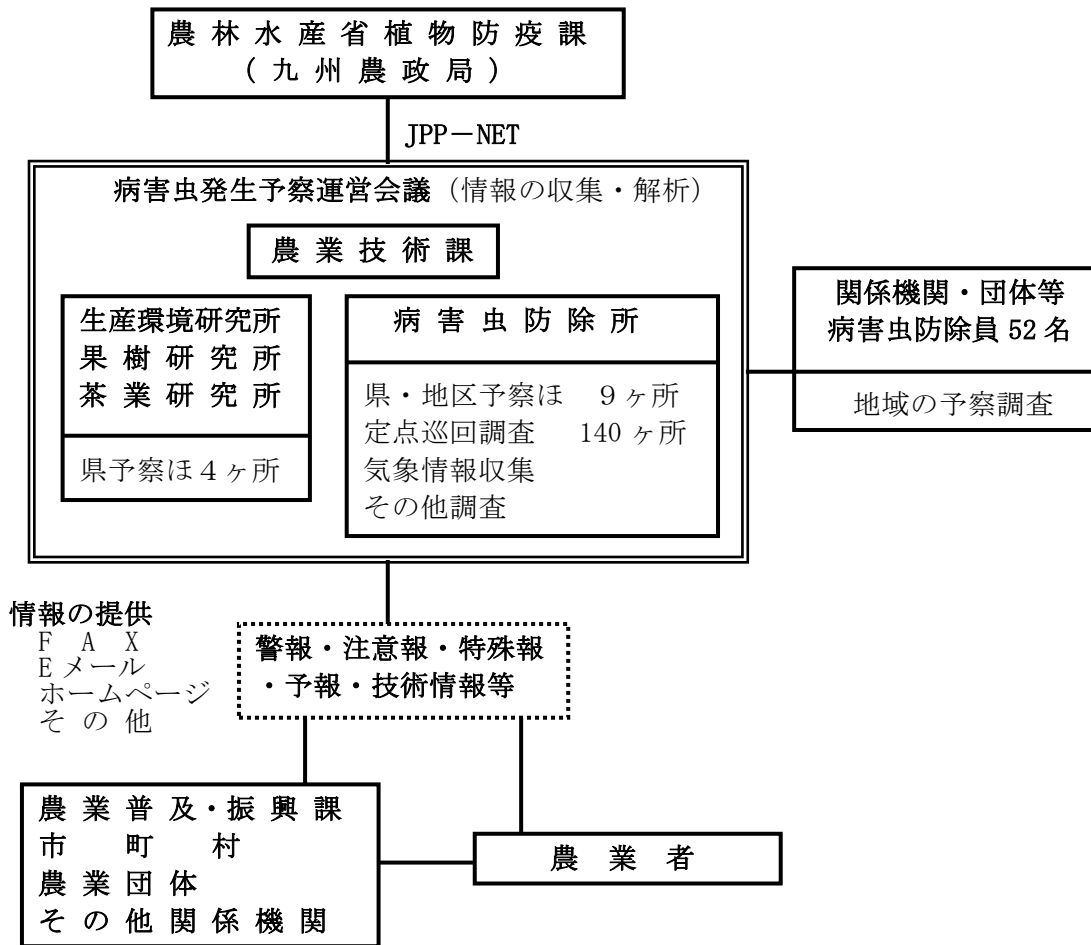
(1) 設置状況

地区名	防除員数	作物別内訳				
		普通作	果樹	野菜	花き	特産
熊本	6	2	1	4	0	0
宇城	3	1	1	1	0	1
玉名	5	1	2	2	0	0
鹿本	5	1	1	1	1	1
菊池	3	1	1	1	0	0
阿蘇	4	2	0	2	0	0
上益城	5	2	0	3	0	1
八代	7	3	1	3	0	3
芦北	3	1	2	0	0	0
球磨	5	1	2	1	0	1
天草	6	2	2	2	0	0
計	52	17	13	20	1	7

(2) 活動状況

	No.	病害虫発生状況調査		防除指導		農業安全使用指導		講習会・協議会		関係機関との打ち合わせ		その他		計	
		回	時間	回	時間	回	時間	回	時間	回	時間	回	時間	回	時間
熊本	1	6	5	4	3	3	2	8	7	10	17	0	0	31	33
	2	10	18	8	10	0	0	0	0	4	5	0	0	22	33
	3	12	18	7	7	0	0	5	5	6	6	0	0	30	36
	4	9	10	11	19	1	1	5	5	1	1	0	0	27	36
	5	11	33	0	0	0	0	0	0	1	3	0	0	12	36
	6	4	8	9	21	2	4	1	1	2	2	0	0	18	36
宇城	7	11	21	8	8	3	3	1	1	0	0	0	0	23	33
	8	7	15	3	3	4	4	5	7	3	4	0	0	22	33
	9	7	10	6	6	5	5	2	2	5	13	0	0	25	36
玉名	10	6	26	5	7	0	0	0	0	0	0	0	0	11	33
	11	3	6	4	5	0	0	4	7	8	17	1	2	20	36
	12	9	14	11	15	6	7	0	0	0	0	0	0	26	36
	13	11	18	9	9	0	0	6	9	0	0	0	0	26	36
	14	12	17	11	11	1	1	4	4	3	3	0	0	31	36
鹿本	15	4	6	1	1	0	0	0	0	12	30	0	0	17	36
	16	9	7	11	22	1	1	2	1	7	6	1	1	31	36
	17	12	34	0	0	0	0	0	0	2	2	0	0	14	36
	18	6	10	4	4	0	0	4	4	7	15	0	0	21	33
	19	11	29	3	4	1	1	0	0	2	2	0	0	17	36
菊池	20	8	24	3	9	0	0	0	0	1	3	0	0	12	36
	21	9	21	4	8	0	0	0	0	4	6	1	1	18	36
	22	7	13	5	8	0	0	2	2	5	13	0	0	19	36
阿蘇	23	5	6	4	6	0	0	5	8	8	17	0	0	22	36
	24	4	8	5	5	0	0	1	2	7	21	0	0	17	36
	25	3	7	3	3	2	3	4	7	8	16	0	0	20	36
	26	6	9	3	3	3	3	4	6	6	14	1	1	23	36
上益城	27	3	4	5	7	0	0	4	6	10	20	0	0	22	36
	28	11	17	7	5	5	3	1	0	5	6	5	5	34	36
	29	7	10	8	11	1	0	3	9	2	6	0	0	21	36
	30	6	17	1	3	1	2	1	3	4	6	1	2	14	33
	31	10	26	3	4	0	1	1	1	1	2	0	0	15	33
八代	32	11	12	10	10	1	1	4	4	9	11	0	0	35	36
	33	4	4	6	10	2	3	2	2	9	17	0	0	23	36
	34	5	10	3	7	0	0	2	2	9	17	0	0	19	36
	35	5	15	0	0	0	0	4	8	5	13	0	0	14	36
	36	3	9	1	2	0	0	1	3	7	19	0	0	12	33
	37	11	16	6	8	2	3	3	6	3	3	0	0	25	36
	38	12	21	7	12	0	0	2	3	0	0	0	0	21	36
芦北	39	5	7	5	6	2	2	6	8	7	15	0	0	25	36
	40	10	17	9	10	1	1	2	4	2	4	0	0	24	36
	41	7	14	4	5	1	1	1	1	1	1	7	14	21	36
球磨	42	9	17	5	5	2	2	3	5	6	7	0	0	25	36
	43	5	11	1	2	0	0	2	2	10	19	0	0	18	33
	44	6	18	4	12	0	0	1	3	1	3	0	0	12	36
	45	11	25	3	3	3	4	0	0	3	3	1	1	21	36
	46	12	30	0	0	1	1	1	1	3	3	1	1	18	36
天草	47	0	0	4	7	2	2	2	2	11	22	0	0	19	33
	48	12	20	9	9	0	0	6	6	1	1	0	0	28	36
	49	7	8	5	5	2	2	4	6	7	15	0	0	25	36
	50	12	24	2	2	3	3	6	6	1	1	0	0	24	36
	51	8	20	6	9	0	0	2	4	0	0	0	0	16	33
	52	1	3	6	16	1	3	2	5	4	9	0	0	14	36
	合計	395	765	262	364	62	67	129	177	233	436	19	28	1,100	1,836
	平均/人	7.6	14.7	5.0	7.0	1.2	1.3	2.5	3.4	4.5	8.4	0.4	0.5	21.2	35.3

4 病虫害発生予察事業の体系図



5 主な対象病害虫

	作物名	国指定/ 指定外	有害動植物名
普通 作物 病害虫 発生予 察事業	水 稲	国指定	いもち病、紋枯病、縞葉枯病、ばか苗病、もみ枯細菌病、トビイロウンカ、セジロウンカ、ヒメトビウンカ、イネミズゾウムシ、ツマグロヨコバイ、コブノメイガ、斑点米カメムシ類
		指定外	黄化萎縮病、萎縮病、白葉枯病、スクミリンゴガイ
	麦	国指定	うどんこ病、赤かび病
		指定外	斑葉病、さび病類、アブラムシ類
	大豆	国指定	ハスモンヨトウ、吸実性カメムシ類
		指定外	べと病、葉焼病、コガネムシ類
ばれい しよ	国指定	疫病、アブラムシ類	
	指定外	ニジュウヤホシテントウ類、モザイク病、軟腐病	
いぐさ	指定外	イグサシンムシガ	
果樹等 作物 病害虫 発生予 察事業	かんきつ	国指定	そうか病、黒点病、かいよう病、ハダニ類、果樹カメムシ類、アブラムシ類
		指定外	灰色かび病、アザミウマ類、カイガラムシ類、ゴマダラカミキリ、ハマキムシ類、ミカンサビダニ、ミカンハモグリガ
	な し	国指定	黒斑病、黒星病、シンクイムシ類、ハダニ類、果樹カメムシ類、アブラムシ類、ハマキムシ類
		指定外	赤星病、輪紋病、炭疽病、カイガラムシ類、吸汁性ヤガ類
	ぶどう	国指定	べと病、灰色かび病、晩腐病
		指定外	黒とう病、褐斑病、チャノキイロアザミウマ
	く り	指定外	実炭疽病、モモノゴマダラノメイガ
	か き	国指定	炭疽病、カキノヘタムシガ、果樹カメムシ類、アザミウマ類、カイガラムシ類
		指定外	落葉病、うどんこ病、灰色かび病
	茶	国指定	炭疽病、ハマキムシ類、ハダニ類、チャノホソガ
指定外		もち病、網もち病、輪斑病、チャノキイロアザミウマ、ツマグロアオカスミカメ、チャノミドリヒメヨコバイ、クワシロカイガラムシ	

	作物名	国指定/ 指定外	有害動植物名
野菜・ 花き類 病害虫 発生予 察事業	トマト	国指定	灰色かび病、疫病、葉かび病、アブラムシ類、ハスモンヨトウ、コナジラミ類、オオタバコガ
		指定外	すすかび病、輪紋病、うどんこ病、ウイルス病（黄化葉巻病）、ハモグリバエ類
	なす	国指定	灰色かび病、うどんこ病、アブラムシ類、ハスモンヨトウ、ハダニ類、アザミウマ類、オオタバコガ
		指定外	すすかび病、コナジラミ類、ハモグリバエ類
	きゅうり	国指定	灰色かび病、べと病、うどんこ病、褐斑病、アブラムシ類、アザミウマ類、コナジラミ類
		指定外	斑点細菌病、ウイルス病（黄化えそ病、退緑黄化病）
	すいか	国指定	アブラムシ類
		指定外	疫病、炭疽病、うどんこ病、つる枯病、菌核病、ウイルス病（退緑えそ病）、ハダニ類、アザミウマ類、コナジラミ類
	メロン	指定外	べと病、つる枯病、うどんこ病、ウイルス病（黄化えそ病、退緑黄化病）、アブラムシ類、コナジラミ類、ハダニ類、アザミウマ類
	キャベツ	国指定	黒腐病、菌核病、コナガ、アブラムシ類、オオタバコガ
		指定外	軟腐病、黒斑細菌病
	レタス	国指定	灰色かび病、菌核病、アブラムシ類、ハスモンヨトウ、オオタバコガ
		指定外	軟腐病、斑点細菌病、腐敗病
	いちご	国指定	灰色かび病、うどんこ病、炭疽病、アブラムシ類、ハスモンヨトウ、ハダニ類、アザミウマ類
	きく	国指定	白さび病、アブラムシ類、アザミウマ類、ハスモンヨトウ、オオタバコガ
		指定外	ハダニ類、ハモグリバエ類
作物共通	指 定	シロイチモジヨトウ	

6 発生予察調査地点

(1) 県予察ほ場、地区予察ほ場

ほ場名	箇所数	普通作物	果樹	茶・特作	野菜・花
県予察ほ場	4	1 生産環境研	1 果樹研	1 茶研	1 生産環境研
地区予察ほ場	9		2 天草農研 球磨農研	3 〈茶〉農大 〈イグサ〉 アグリ総研 八代市千丁町	4 アグリ総研 高原農研 阿蘇市波野 山都町鶴ヶ田

(2) 巡回調査地点

地域名	普通作物			果樹等			野菜					計
	水稲	麦	大豆	かんきつ	なし	茶	トマト	なす	きゅうり	レタス	いちご	
熊本	6	2	4	4				5	3			24
宇城				8					3			11
玉名	2	2	2	4	2		3				3	18
鹿本	2	2										4
菊池	4	6	2			4						16
阿蘇	4		2				3					9
上益城	4	2	2				3					11
八代	2	2			2		4			3	3	16
芦北	2			6								8
球磨	4	2	2		2	4						14
天草	6									3		9
計	36	18	14	22	6	8	13	5	6	6	6	140

第2 事業等内容

1 病害虫の発生及び防除状況

(1) 発生経過、発生原因及び防除の概要

(2) 農作物有害動植物の発生面積及び防除面積

(3) 普通作病害虫発生予察事業（大豆・イグサを含む）

(4) 果樹等病害虫発生予察事業（茶を含む）

(5) 野菜・花き病害虫発生予察事業

2 発生予察情報の提供

(1) 警報、注意報、特殊報、技術情報

(2) 発生予報

4月

5月

6月

7月

8月

9月

10月

11月

12月

1月

2月

3月

(3) ホームページ掲載内容

3 植物検疫事業

1 病害虫の発生及び防除状況

(1) 発生経過、発生原因及び防除の概要

農作物名	病害虫名	発生時期	発生量	発生経過の概要	発生要因の解析	防除の概要
水稻 (早期・早植え)	苗立枯病	平年：並 前年：並	平年：やや少 前年：並	発生量は平年比やや少であった。	適期管理が徹底されていたため。	適正な育苗管理。 種子消毒の実施。
	苗いもち	平年：並 前年：並	平年：やや少 前年：並	発生量は平年比やや少であった。	適期管理が徹底されていたため。	適正な育苗管理。 種子消毒の実施。
	葉いもち	平年：並 前年：並	平年：多 前年：並	5月中旬頃から発生し、6月中旬頃には早期、早植え共に多発は場が見られたため、早期は6月17日に注意報、早植えは8月2日に技術情報を発出した。	5月中旬から6月下旬にかけて、BLASTAMによる感染好適日が多かったことから、感染が拡大した。	箱施用剤。 本田防除。
	穂いもち	平年：並 前年：並	平年：やや多 前年：並	早期、早植え共に平年比やや多の発生であった。	葉いもちが多かったことから、感染源が多かったと思われる。	本田防除。
	紋枯病	平年：並 前年：並	平年：並 前年：並	早期水稻は7月上旬、早植え水稻は8月中旬頃から発生を確認したが、いずれも発生は平年並であった。		本田防除。
	白葉枯病	平年：並 前年：並	平年：並 前年：並	目立った発生は見られなかった。		箱施用剤。
	ヒメトウモロコシ	平年：やや遅 前年：並	平年：やや少 前年：やや少	巡回調査では、6月中旬に成虫を初確認、7月中旬頃から次世代幼虫が発生したが、発生量は平年より少なかった。	予察灯調査で6月22日に初誘殺があり、7月末までの累積誘殺数は平年並であった。	箱施用剤。 ヒメトウモロコシとの同時防除。
	トビイロウカ	平年：やや遅 前年：並	平年：やや少 前年：やや多	巡回調査では、7月下旬に成虫を初確認、8月中旬頃から次世代幼虫が発生したが、発生量は平年より少なかった。	予察灯調査で6月26日に初誘殺があり、7月末までの累積誘殺数は97頭(平年117頭)と平年並であったが、主飛来が7月20日と遅かった。	箱施用剤。 本田防除(7月上旬～8月下旬の間に1回～2回)。
	ヒメトウモロコシ	平年：並 前年：並	平年：やや少 前年：やや少	巡回調査では、5月から発生ほ場が確認されたが、全期間を通じて低密度に推移した。	麦や雑草で越冬し、水田に移動するが防除が徹底している。	箱施用剤。 ヒメトウモロコシとの同時防除。
	ツマクワコバエ	平年：並 前年：並	平年：やや少 前年：やや少	巡回調査では、5月から発生ほ場が確認されたが、全期間を通じて低密度に推移した。	雑草で越冬し、水田に移動するが防除が徹底している。	箱施用剤。 ヒメトウモロコシとの同時防除。
	イネトウモロコシ	平年：並 前年：並	平年：並 前年：並			イネトウモロコシとの同時防除。
	イネゾウムシ	平年：並 前年：並	平年：並 前年：並			イネゾウムシとの同時防除。
	イネコカメシ	平年：並 前年：並	平年：並 前年：並			常発地では分けつ期の防除が行われた。
	斑点米カメムシ類	平年：やや早 前年：やや早	平年：やや多 前年：やや多	巡回調査では、7月に早期でやや多く、8月の早植えでやや少なくなったが、全体的には平年比やや多であった。	予察灯(合志市)に誘殺された斑点米カメムシ類は、平年よりピークが早く、早期水稻の出穂～登熟期と重なった。	畦畔の除草。 早期水稻では出穂期と穂揃い期、他の作期では穂揃い期に防除が行われた。
	コブメカ	平年：並 前年：並	平年：やや少 前年：並	7月から発生を確認したが、平年より少なかった。	飛来量が平年に比べ少なかった。	箱施用剤および本田防除。
イネズグムシ	平年：並 前年：並	平年：やや多 前年：やや多	5月から発生を確認し、特に中山間地で多かった。	山林での越冬量が多かったと思われる。		
水稻 (早期・早植え)	スクミリンゴガイ	平年：並 前年：並	平年：並 前年：並	6月より発生を確認し、平年並の発生量であった。	水稻生育前半に降雨が少なく、ほ場の侵冠水等による侵入が少なかった。	

農作物名	病害虫名	発生時期	発生量	発生経過の概要	発生要因の解析	防除の概要
水稲 (普通期)	苗立枯病	平年：並 前年：並	平年：並 前年：並	一部地域で確認されたものの、普通期全体では平年並の発生であった。		適正な育苗管理。 種子消毒の実施。
	苗いもち	平年：並 前年：並	平年：やや多 前年：やや多	普通期全体で平年より発生が多かった。	育苗期後半となる6月中旬頃にBLASTAMによる感染好適条件となった日が多かった。	適正な育苗管理。 種子消毒の実施。
	葉いもち	平年：並 前年：並	平年：やや少 前年：少	巡回調査では、田植え直後の6月に発生が見られたが、7月以降の発生は少なかった。	7月から8月にかけて高温と少雨により発生が少なくなった。	箱施用剤。 本田防除。
	穂いもち	平年：並 前年：並	平年：並 前年：並	発生は平年並であった。	出穂期となる8月5下旬の降雨は多かったが、葉いもちの発生が少なかったため、平年並にとどまった。	出穂期または穂揃い期に他の病害虫(ウンカ、カメムシ等)と同時に防除されている。
	紋枯病	平年：やや早 前年：並	平年：やや多 前年：やや多	一部で多発ほ場が見られるなど全体的に平年より多い発生であった。	田植え以降高温に経過し、感染、拡大が助長された。	7月下旬～9月上旬に混合剤による防除が行われた。また、箱施用剤に紋枯病剤を含んだ混合剤の使用。
	白葉枯病	平年：並 前年：並	平年：並 前年：並	目立った発生は認められなかった。		箱施用剤。
	ばか苗病	平年：並 前年：並	平年：並 前年：並	目立った発生は認められなかった。		種子消毒の実施。
	心枯線虫病	平年：並 前年：並	平年：並 前年：並	目立った発生は認められなかった。		種子消毒の実施。
	初枯細菌病	平年：並 前年：並	平年：並 前年：並	目立った発生は認められなかった。		
	ごま葉枯病	平年：並 前年：並	平年：並 前年：並	目立った発生は見られなかった。		適正な肥培管理。 いもち病と同時防除。
	縞葉枯病	平年：並 前年：並	平年：少 前年：並	目立った発生は見られなかった。		ヒメトビウカに対して効果のある箱施用剤の使用。
	萎縮病	平年：並 前年：並	平年：並 前年：並	目立った発生は見られなかった。		ツマグロヨコバイのウンカ類との同時防除。
	コメイチユ	平年：並 前年：並	平年：並 前年：並	目立った発生は見られなかった。		
	カンメイチユ	平年：並 前年：並	平年：並 前年：並	目立った発生は見られなかった。		
	ヒメトビウカ	平年：並 前年：並	平年：やや少 前年：やや少	期間を通じて平年比やや少の発生だった。	飛来量が平年に比べ少なかった。	箱施用剤。 トビイロウカとの同時防除。
	トビイロウカ	平年：並 前年：並	平年：やや少 前年：並	期間を通じて平年比やや少の発生だった。	予察灯調査で6月26日に初誘殺があり、7月末までの累積誘殺数は97頭(平年117頭)と平年並であったが、ゼクサロン系の箱施用剤が普及し増殖が抑えられた。	箱施用剤。 本田防除(7月下旬～9月上旬の間に2回)。
ヒメトビウカ	平年：並 前年：並	平年：やや少 前年：並	期間を通じて平年比やや少の発生だった。		箱施用剤。 トビイロウカとの同時防除。	
水稲 (普通期)	ツマグロヨコバイ	平年：並 前年：並	平年：やや少 前年：並	期間を通じて平年比やや少の発生だった。		箱施用剤。 トビイロウカとの同時防除。

農作物名	病虫害名	発生時期	発生量	発生経過の概要	発生要因の解析	防除の概要
水稻 (普通期)	斑点米 カミシ類	平年：並 前年：並	平年：並 前年：並	予察灯の誘殺数及び9月の巡回調査は平年並の発生であった。		畦畔の除草。 穂揃い期の防除。
	イネトリ	平年：並 前年：並	平年：並 前年：並	目立った発生は見られなかった。		コブノメイガとの同時防除。
	アヲトリ	平年：並 前年：並	平年：並 前年：並	目立った発生は見られなかった。		コブノメイガとの同時防除。
	コブノメイガ	平年：やや遅 前年：やや遅	平年：やや多 前年：やや多	7月～8月の巡回調査ではやや少ない発生であったが、9月以降に晩生の品種を中心に多発したほ場が見られた。	飛来量は少なかったが、第3世代幼虫の加害時期に晩生品種の生育が適していた。	箱施薬剤および本田防除。 一部では9月上旬に追加防除が実施された。
	イネミズゾウムシ	平年：並 前年：並	平年：やや少 前年：やや少	目立った発生は見られず、平年比やや少の発生であった。		箱施用剤。
	スクリンコガイ	平年：並 前年：並	平年：並 前年：並	田植え直後から発生を確認し、一部のほ場で被害が見られたが、全体的には平年並の発生量であった。	生育前半に豪雨がなかったため、被害は平年並であった。	水位調整、捕殺。
麦	さび病類	平年：並 前年：並	平年：並 前年：やや少	4月から発生が見られ、平年並の発生であった。		
	うどんこ病	平年：並 前年：並	平年：並 前年：並	4月から発生が見られ、平年並の発生であった。		
	赤かび病	平年：やや遅 前年：やや遅	平年：やや多 前年：やや多	5月から発生が見られ、平年比やや多の発生であった。	感染時期（開花～乳熟期）にあたる4月中旬から5月上旬に降雨があり、アメダスを使った感染好適条件となった日が11日と過去5年の平均（5.4日）より多かった。	小麦は、開花最盛期と、その7～10日後、大麦は、穂揃い期10日後と、その7日後の防除を実施。
	縞萎縮病 (大麦)	平年：並 前年：並	平年：並 前年：並	4月、5月の巡回調査では発病が確認されなかった。		常発地では抵抗性品種（はるしずく）に転換。
	斑葉病	平年：並 前年：並	平年：並 前年：並	平年並の発生であった。		
大豆	紫斑病	平年：並 前年：並	平年：並 前年：並	平年並の発生であった。		種子消毒及び落花期から子実肥大期にかけての薬剤防除。
	べと病	平年：並 前年：並	平年：やや少 前年：並	8月から発病が確認されたが、発生量は平年比やや少であった。	7月～8月の降雨が少なかったため。	
	葉焼病	平年：並 前年：並	平年：やや多 前年：多	8月から発病が見られ、平年比やや多の発生であった。	9月上中旬の台風11号及び14号による風雨のため。	
	コガネムシ類	平年：並 前年：並	平年：並 前年：並	8月から被害が見られ県下全域で発生したが、発生量は平年並であった。		
	ハスモンヨトウ	平年：やや早 前年：やや早	平年：やや多 前年：やや多	8月から被害が見られ県下全域で発生し、発生量は平年比やや多であった。	県内5か所に設置したフェロモントラップでは、平年より2半旬早い7月5半旬にピークがあり、初期防除が遅れた。	8月中旬から若齢幼虫を中心に2～3回程度の防除を実施。
	吸実性カメムシ類	平年：並 前年：並	平年：やや多 前年：やや多	8月から発生が見られ、発生量は平年比やや多であった。	合志市に設置した予察灯調査では、9月の誘殺数が平年よりやや多かった。	子実肥大期を中心に防除を実施。
茶	炭疽病	平年：並 前年：並	平年：並 前年：やや少	一部多発した園もみられたが、概ね平年並の発生であった。	連続的な降雨が少なく、梅雨期の降水量も平年より少なかったため、発生量が抑制されたと考えられる。	二番茶、三番茶の生育初期の防除。 秋芽生育期の防除。適宜せん枝の実施による感染源の除去。

農作物名	病虫害名	発生時期	発生量	発生経過の概要	発生要因の解析	防除の概要
茶	もち病	平年：並 前年：並	平年：並 前年：並	一部の常発茶園でわずかに発生。		炭疽病との同時防除を実施。
	網もち病	平年：並 前年：並	平年：並 前年：並	一部の常発茶園でわずかに発生。		炭疽病との同時防除を実施。
	輪斑病	平年：並 前年：並	平年：並 前年：並	摘採後に一部茶園にてわずかに発生が確認されたが、概ね平年並の発生であった。		二、三番茶摘採後に防除を実施。
	チャノコカモンハマキ	平年：やや早 前年：並	平年：やや多 前年：並	巡回調査では調査期間を通して概ね平年並の発生であった。フェロモントラップ調査においては、発消長が平年よりもやや早く推移し、ピーク時の誘殺数も多くなっていた。	乾燥した状況が続いたことから発生時期が早まり、発生量も多かったと考えられる。	一、二番茶摘採後及び秋芽生育期に防除を実施。発蛾最盛日から7～10日後に防除実施。
	チャハマキ	平年：並 前年：並	平年：並 前年：並	巡回調査では調査期間を通して概ね平年並の発生であった。フェロモントラップ調査においては、発生時期は平年並だが誘殺数は平年よりやや多かった。	乾燥した状況が続いたことから好適な条件となり、発生の増加が助長されたと考えられる。	チャノコカモンハマキとの同時防除。
	チャノホガ	平年：並 前年：並	平年：並 前年：並	巡回調査では4月に発生がやや多かったが、概ね平年並の発生であった。フェロモントラップ調査では一時的に急激な増加がみられた地域もあったが、発生時期及び誘殺数どちらも概ね平年並の発生であった。	乾燥した状況が続いたことから好適な条件となり、発生の増加が助長されたと考えられる。	二、三番茶期、秋芽生育期にチャノミドリヒメコバ、チャノキイロアザミウマとの同時防除。
	チャノミドリヒメコバ	平年：やや早 前年：やや早	平年：やや多 前年：やや多	巡回調査では5月に複数の園で寄生頭数・被害葉ともに平年比多の発生であったため、6月2日注意報を発令した。地域からも5月～7月までの期間に発生量が多かったと報告されたが、8月以降は概ね平年並の発生となった。	乾燥した状況が続いたことから好適な条件となり、発生の増加が助長されたと考えられる。	チャノキイロアザミウマ、チャノホガとの同時防除。
	カンザワダニ	平年：早 前年：やや早	平年：やや多 前年：並	巡回調査では2月から4月まで平年比多の発生がみられ、5月は平年比やや多、6月以降は平年並に推移した。各地からの報告においても4月は平年比やや多の報告であった。	越冬した個体数が多く、3月～4月の気温は平年より高く、乾燥した状況も多かったため発生が助長されたと考えられる。	越冬ダニの産卵開始時期と一番茶摘採後、秋芽生育期に防除。
	チャノキイロアザミウマ	平年：並 前年：並	平年：並 前年：並	調査期間を通して平年並の発生であった。		チャノミドリヒメコバ、チャノホガとの同時防除。
	ツマグロアオカミカメ	平年：並 前年：並	平年：並 前年：やや多	巡回調査では調査期間を通して平年並の発生であった。		萌芽期～1葉期の防除を実施。
クワシカカハラムシ	平年：やや早 前年：並	平年：やや多 前年：やや多	巡回調査では、平年より早い時期から寄生株が確認され、ほ場によって発生量のばらつきはあるが平年比やや多の発生であった。	越冬量が多く、冬季の降水量が少なく推移したため、発生が助長されたと考えられる。	有効積算温度による防除適期の予測。各世代の幼虫ふ化最盛期における薬剤防除及び中切り、深刈り等耕種的防除を実施。	
かんきつ	そうか病	(春葉) 平年：並 前年：遅 (果実) 平年：やや早 前年：やや遅	平年：並 前年：並	巡回調査では春葉、果実ともに平年並の発生であった。宇城市(果樹研究所)における無防除区「興津早生」の春葉の初発日は、4月18日(平年4月17日)と平年並、果実は5月11日(平年5月16日)と平年比べてやや早かった。	連続的な降雨が少なく、乾燥した状況になることも多かったため、発生量は平年並となったと考えられる。	伝染源となる発病した葉や枝のせん除と幼芽期のジチアノン剤による防除。開花期は、灰色かび病との同時防除。落弁期は、黒点病と灰色かび病との同時防除。

農作物名	病害虫名	発生時期	発生量	発生経過の概要	発生要因の解析	防除の概要
かんきつ	黒点病	平年：並 前年：遅	平年：並 前年：並	巡回調査では、調査期間を通して平年並の発生であった。また、宇城市の無防除区「興津早生」では、果実の初発確認日が6月8日（平年6月4日）で発生時期は平年並であった。	梅雨期の期間がほぼ平年並であり、降水量も平年より少なかったため、発生時期及び発生量は平年並だったと考えられる。	伝染源となる枯れ枝剪除および摘果による発病果の除去。薬剤による防除は、落弁期以降、降雨日数や累積降水量に基づき、マンゼブ水和剤、QoI剤等が散布されている。
	かいよう病	(春葉) 平年：早 前年：遅 (果実) 平年：並 前年：遅	平年：やや多 前年：やや多	巡回調査では一部の常発園での発生が多く6～9月にかけて平年比やや多の発生であった。宇城市（果樹研究所）無防除区「川野なつたいだい」では、春葉の初発は5月1日（平年5月10日）で平年より早く、果実は6月13日（平年6月10日）と平年並であった。	調査の中で発生が多かった園は、昨年から多発傾向にある園であり、感染源が多いことから発生量も多くなったと考えられる。また、台風等の強風や害虫の発生により傷がつき、感染が助長されたとも考えられる。	伝染源となる発病葉、枝のせん除と、発芽直前、花弁落下直後、梅雨時期、および台風襲来直前の無機銅剤による防除。
	ヤノカイガラムシ	平年：並 前年：並	平年：並 前年：並	調査期間を通して平年並の発生であった。		基幹防除としてのマシン油乳剤の散布と他のカイガラムシ類との同時防除。
	ミカンダニ	平年：並 前年：並	平年：並 前年：やや少	巡回調査では、2月には平年比やや多の発生であったが、3月以降は減少傾向となった。地域によっては多発している園地もみられたが、概ね平年並の発生量であった。	冬季は降水量が少なく推移したため発生量が増加したと考えられる。3月以降は定期的に降雨があり、発生が抑制されたと考えられる。	①冬期～春先のマシン油乳剤散布による初期密度の抑制。 ②5～6月のマシン油乳剤散布による夏ダニの発生予防。 ③8月下旬～9月上旬の密度が低い時期のダニ剤散布による初期防除。
	ミカンヒゲダニ	平年：並 前年：やや遅	平年：並 前年：並	乾燥の影響から一時的に発生が多かった地域もみられたが、調査期間を通して概ね平年並の発生であった。	乾燥によって発生が助長されたと考えられる。	6月中旬～7月上旬、9月上旬～中旬の防除。
	カメムシ類	(越冬世代) 平年：早 前年：早 (当年世代) 平年：並 前年：早	(越冬世代) 平年：やや多 前年：多 (当年世代) 平年：やや多 前年：多	チャバネアオカメムシの越冬量は平年比多で、予察灯・フェロモントラップの7月までの誘殺数は地域によってばらつきがあり、平年比やや多～並であった。8月以降の当年世代の予察灯・フェロモントラップ誘殺数についても平年比やや多～並であった。ヒノキ球果に寄生する成幼虫数は平年比多であった。果樹園への飛来については各地域で確認されたが、飛来量は少なく、大きな被害も発生しなかった。	越冬量が平年より多く、ヒノキ球果の着果量も多かったため、越冬世代及び当年世代どちらも発生量が多くなったと考えられる。また、口針鞘数の増加も平年より早く推移し、ヒノキ樹上からの離脱も早まることが予想されたが、果樹園への飛来が確認された地域は少なく、ヒノキ球果の量が果樹カメムシ類の増殖に充分な量あったのだと考えられる。	飛来が認められた園や地域での薬剤防除。
	アザミウマ類	平年：並 前年：並	平年：並 前年：並	調査期間を通して概ね平年並の発生であった。		有効積算温度による各世代の羽化最盛期予測に基づいた薬剤防除（5月上旬～10月上旬）。

農作物名	病害虫名	発生時期	発生量	発生経過の概要	発生要因の解析	防除の概要
かんきつ	カガラムシ類	平年：並 前年：並	平年：やや多 前年：並	2月から3月にかけて平年比やや多の発生であった。その後、減少傾向にあるが一部地域ではやや多の発生のまま推移した。	冬季は降水量が平年より少なく、昨年からの越冬虫が多かったことから2月～3月に発生量が多くなったと考えられる。また、樹勢等を考慮し、冬季のマシン油乳剤散布を実施していない園が増えていることも増加の要因だと考えられる。	冬季のマシン油乳剤の散布。各世代の幼虫発生時期に基づいた適期防除。
	ミカハモグリガ	平年：並 前年：並	平年：並 前年：並	6月から9月にかけて一部地域で平年比やや多の発生が確認されたが、概ね平年並の発生であった。	気温の高さと乾燥した状況から発生が助長されたと考えられる。	新梢伸長期のIGR剤、ネオニコチノイド系薬剤の散布や苗木移植時の粒剤施用。
	アブラムシ類	平年：並 前年：並	平年：並 前年：並	調査期間を通して平年並の発生であった。		新梢伸長期にネオニコチノイド系薬剤やカーバメート系薬剤で防除が行われた。
なし	黒斑病	平年：並 前年：並	平年：並 前年：並	調査期間を通して平年並の発生であった。		越冬期の罹病枝、ボケ芽の除去。開花直前、開花直後、袋かけ直前及び梅雨期の重点防除。
	黒星病	平年：やや早 前年：やや遅	平年：並 前年：やや少	6月から7月にかけて一部の園で局所的な発生の報告があったが、概ね平年並の発生であった。宇城市(果樹研究所)における幸水での初発日は4月18日(平年4月25日)と平年に比べてやや早かった。	昨年の秋季の発生量は平年並であり、越冬した感染源があまり多くなかったと考えられる。6月までは短期的に集中した降雨が多く、乾燥した状況となることも多かったため、感染が抑制されたと考えられる。	罹病芽鱗片の除去と落葉の処分。発病した葉・果実の園外処分。開花初期のDMI剤散布および梅雨期のDMI剤等の散布。
	赤星病	平年：並 前年：遅	平年：並 前年：並	調査期間を通して概ね平年並であった。宇城市(果樹研究所)における幸水での初発日は4月18日(平年4月18日)と平年並であった。		黒星病との同時防除。
	輪紋病	平年：並 前年：並	平年：やや多 前年：やや多	一部地域で8月から9月にかけての発生量が平年比やや多であった。	梅雨期の断続的な降雨により、感染が助長され、発生が増えたと考えられる。	冬季の罹病枝の剪除。黒星病との同時防除。
	ナシメシクイ	平年：並 前年：やや遅	平年：並 前年：並	フェロモントラップ調査で3月下旬に一時的に急激な増加がみられたが、概ね平年並の誘殺数であった。また、6月から8月にかけて一部の地域でやや多の発生であった。	気温の高さと乾燥した状況から発生が助長されたと考えられる。	フェロモン剤(交信攪乱剤)の使用。他害虫との同時防除。
	ハマキムシ類	平年：並 前年：並	平年：並 前年：並	調査期間を通して平年並の発生であった。		他害虫との同時防除。
	ハダニ類	平年：並 前年：並	平年：やや多 前年：並	巡回調査で7月に一時的な多発が確認され、概ね平年比やや多の発生であった。	梅雨入り前までの降水量が少なく、乾燥した状況となることがあったため、発生が助長されたと考えられる。梅雨入り後は断続的な降雨があり、減少したと考えられる。	発生初期の薬剤防除。

農作物名	病害虫名	発生時期	発生量	発生経過の概要	発生要因の解析	防除の概要
なし	カミシ類	(越冬世代) 平年：早 前年：早 (当年世代) 平年：並 前年：早	(越冬世代) 平年： やや多 前年：多 (当年世代) 平年： やや多 前年：多	チャバネアオカメムシの越冬量は平年比多で、予察灯・フェロモントラップの7月までの誘殺数は地域によってばらつきがあり、平年比やや多へ並であった。8月以降の当年世代の予察灯・フェロモントラップ誘殺数についても平年比やや多へ並であった。ヒノキ球果に寄生する成幼虫数は平年比多であった。果樹園への飛来については各地域で確認されたが、飛来量は少なく、大きな被害も発生しなかった。	越冬量が平年より多く、ヒノキ球果の着果量も多かったため、越冬世代及び当年世代どちらも発生量が多くなったと考えられる。また、口針鞘数の増加も平年より早く推移し、ヒノキ樹上からの離脱も早まることが予想されたが、果樹園への飛来が確認された地域は少なく、ヒノキ球果の量が果樹カメムシ類の増殖に充分な量あったのだと考えられる。	飛来が認められた園や地域での薬剤防除。
	カイガラシ類	平年：並 前年：並	平年：並 前年：並	調査期間を通して平年並の発生であった。		①各種カイガラシ幼虫の防除適期における薬剤散布 ②冬期の粗皮削りやマシン油散布
	アブラムシ類	平年：並 前年：並	平年： やや多 前年： やや少	4月～6月に巡回調査で平年比やや多の発生がみられた。	梅雨入り前の4月、5月は降水量が平年より少なく、乾燥している状況があったため発生を助長したと考えられる。	新梢発生期から展葉期（4月下旬～5月中旬）にかけて重点的に防除。
ぶどう	晩腐病	平年：並 前年：並	平年： やや少 前年： やや少	調査期間を通して、平年並～少の発生であった。	5月から梅雨期の降水量が平年より少なく推移したため、発生が抑制されたと考えられる。	伝染源の除去。 5月下旬～6月上旬（果実小豆粒大期）に他病害との同時防除。6月下旬（袋かけ後）に他病害との同時防除。
	うどんこ病	平年：並 前年：並	平年： やや少 前年： やや少	調査期間を通して平年並～やや少の発生であった。	5月から梅雨期の降水量が平年より少なく推移したため、発生が抑制されたと考えられる。	5月下旬～6月上旬（落花期～果実大粒期）防除。
	褐斑病	平年：並 前年：並	平年：並 前年：並	調査期間を通して概ね平年並の発生であった。		5月上旬（開花前）、6月下旬（袋かけ後）の防除。施設栽培では、園の排水対策を実施。落葉の処分。
	黒とう病	平年：並 前年：並	平年： やや少 前年： やや少	調査期間を通して平年比やや少の発生であった。	4月から5月にかけて乾燥した状況が多くあり、降雨も短期に集中していたため発生が抑制されたと考えられる。	巻づるや罹病枝の除去。 露地栽培では、4月中旬（発芽初期）、5月上旬（開花前）の防除。開花期以降は、べと病と同時防除。
	べと病	平年：並 前年：並	平年： やや少 前年： やや少	調査期間を通して平年比やや少の発生であった。	乾燥した状況が多くあり、梅雨期の降水量も平年に比べて少なかったため発生が抑制されたと考えられる。	予防散布に努め、発生初期防除の徹底。 袋掛け後の銅剤散布。 落葉の処分。
	灰色かび病	平年：並 前年：並	平年：並 前年：並	調査期間を通して平年並の発生であった。		開花初期からの他病害とも同時防除。
	チャノキイロサシマ	平年：並 前年：並	平年：並 前年：並	調査期間を通して平年並の発生であった。		開花前から落花後約1ヶ月間の重点防除。

農作物名	病害虫名	発生時期	発生量	発生経過の概要	発生要因の解析	防除の概要
かき	炭疽病	平年：並 前年：並	平年：並 前年：やや少	調査期間を通して平年並の発生であった。		冬期の発病枝のせん除と園外処分。 発病した果実、徒長枝のせん除と園外処分。 開花期から果実肥大期の予防防除。特に5月中旬～梅雨時期、8月中旬～9月の秋雨時期を重点防除。
	うどんこ病	平年：並 前年：並	平年：並 前年：やや少	調査期間を通して平年並の発生であった。		伝染源となる落葉の園外処分。 落花後から梅雨期および秋期の防除。
	落葉病類	平年：並 前年：並	平年：並 前年：並	調査期間を通して平年並の発生であった。		伝染源となる落葉の園外処分。 落花後から梅雨期の他病害との同時防除。
	灰色かび病	平年：並 前年：並	平年：並 前年：やや少	調査期間を通して平年並の発生であった。		落弁期（5月下旬～6月上旬）の防除。 落弁後の果実に付着した花弁の除去。
	カキノハタムシガ	平年：並 前年：並	平年：並 前年：やや少	調査期間を通して平年並の発生であった。		冬期の粗皮削りや第1世代幼虫（5月下旬～6月上旬）および第2世代幼虫期（7月下旬～8月中旬）の防除。
かき	カキノミミシガ	(越冬世代) 平年：早 前年：早 (当年世代) 平年：並 前年：早	(越冬世代) 平年：やや多 前年：多 (当年世代) 平年：やや多 前年：多	チャバネアオカメムシの越冬量は平年比多で、予察灯・フェロモントラップの7月までの誘殺数は地域によってばらつきがあり、平年比やや多～並であった。8月以降の当年世代の予察灯・フェロモントラップ誘殺数についても平年比やや多～並であった。ヒノキ球果に寄生する成幼虫数は平年比多であった。果樹園への飛来については各地域で確認されたが、飛来量は少なく、大きな被害も発生しなかった。	越冬量が平年より多く、ヒノキ球果の着果量も多かったため、越冬世代及び当年世代どちらも発生量が多くなったと考えられる。 また、口針鞘数の増加も平年より早く推移し、ヒノキ樹上からの離脱も早まることが予想されたが、果樹園への飛来が確認された地域は少なく、ヒノキ球果の量が果樹カメムシ類の増殖に充分な量あったのだと考えられる。	飛来が認められた園や地域での薬剤防除。
	アザミウマ類	平年：並 前年：並	平年：並 前年：並	調査期間を通して平年並の発生であった。		加害期の予防散布。 摘果時の被害果のせん除。
	カキノミミシガ	平年：並 前年：並	平年：並 前年：並	調査期間を通して平年並の発生であった。		第1世代（6月中下旬）および第2世代（8月中下旬）の防除。 バンド誘殺や粗皮削り。
くり	実炭疽病	平年：並 前年：並	平年：並 前年：並	調査期間を通して平年並の発生であった。		間伐、整枝を行うとともに果実肥大期（7月中旬～8月下旬）の防除。

農作物名	病害虫名	発生時期	発生量	発生経過の概要	発生要因の解析	防除の概要
くり	モモゴマダラメイガ	平年：並 前年：並	平年：やや多 前年：やや多	8月から9月にかけて平年比やや多の発生であった。	7月下旬から8月上旬と8月下旬から9月中旬の降水量が少なく推移し、乾燥していたため発生が助長されたと考えられる。	被害果や空のイガ、残った球果の園外処分。早生種では、7月中旬から下旬、中晩生種では8月中旬から下旬の防除。
冬春 トマト R3.10 ～R4.4	疫病	平年：並 前年：並	平年：並 前年：並	栽培期間を通して平年並の発生であった。		発生初期の薬剤防除、被害株の抜き取り、ほ場の排水対策。
	灰色かび病	平年：やや遅 前年：やや遅	平年：やや少 前年：やや少	3月までは平年比やや少で推移し、4月のみ平年比多の発生となった。	12～2月にかけて降水量が平年より少なく推移し、多湿条件が少なかったことで発生も少なくなったと考えられる。3月以降は降雨量が多く、4月に多発生となった。	薬剤散布、通風換気、排水対策。
	葉かび病	平年：並 前年：並	平年：やや少 前年：並	巡回調査では栽培期間を通して発生は確認されず平年比やや少の発生であった。	12～2月にかけて降水量が平年より少なかったため、発生も少なくなったと考えられる。また、殺菌剤による初期防除が定着している。	発生初期の薬剤散布。
	アブラムシ類	平年：並 前年：並	平年：並 前年：並	栽培期間を通して平年並の発生であった。		防虫ネット被覆、薬剤散布。
	コナジラミ類	平年：並 前年：並	平年：多 前年：多	野外での発生状況は少なかったが、ほ場における発生は、9月から10月にかけて平年に比べて多く、その後も11月から2月まで平年に比べてやや多く推移した。	平年より10月の気温が高く、増殖スピードが早まったためと考えられる。また、9月の台風接近に伴う強風などの要因により、タバココナジラミの多発生ほ場から、他のほ場へ移動が生じた可能性も考えられる。	防虫ネット被覆、薬剤散布。
夏秋 トマト R4.6～9	疫病	平年：並 前年：並	平年：並 前年：並	栽培期間を通して平年並の発生であった。		発生初期の薬剤防除、被害株の抜き取り、ほ場の排水対策。
	灰色かび病	平年：並 前年：並	平年：少 前年：少	栽培期間を通して、平年比少の発生であった。	降雨量が6月は少なく、7月～8月も平年より少なく推移したため、発生が少なく抑えられたと考えられる。	薬剤散布、通風換気、排水対策。
	葉かび病	平年：並 前年：並	平年：多 前年：並	栽培期間を通して平年比多の発生であった。	期間を通して夜温が25℃前後と高く、好適条件になる機会が多かったこと、また、9月の台風接近によりハウスを閉めこんだことにより発生が助長したと考えられる。	発生初期の薬剤散布。
	アブラムシ類	平年：並 前年：並	平年：並 前年：並	栽培期間を通して平年並の発生であった。		薬剤散布。
	コナジラミ類	平年：並 前年：並	平年：やや多 前年：やや多	7月以降平年比やや多で推移した。	平年より気温が高く、増殖スピードが早まったためと考えられる。	薬剤散布。
冬春なす R3.10～ R4.4	灰色かび病	平年：やや早 前年：やや早	平年：並 前年：並	1月に平年比やや多の発生となったが、栽培期間を通して概ね平年並の発生であった。		薬剤散布、通風換気、排水対策。

農作物名	病虫害名	発生時期	発生量	発生経過の概要	発生要因の解析	防除の概要
冬春なす R3.10～ R4.4	うどんこ病	平年：並 前年： やや早	平年： やや多 前年：並	11～1月にかけて平年比やや多の傾向で推移した。	10月の降雨が極端に少なく、乾燥条件により発生が助長され、11月以降発生量が平年に比べて多くなったと考えられる。	薬剤散布。
	すすかび病	平年：並 前年：並	平年：並 前年：並	栽培期間を通して平年並の発生であった。		発生初期の薬剤散布。
	ハダニ類	平年：並 前年：並	平年：並 前年：並	栽培期間を通して平年並の発生であった。		薬剤散布。
	アザミウマ類	平年：並 前年：並	平年： やや少 前年： やや少	栽培期間を通して平年比並～やや少の発生で推移した。	ハウス内の天敵（タバコカスミカメ）が定着しており、春先の増殖が低く抑えられたと考えられる。	薬剤散布、天敵。
夏秋なす R4.5～8	うどんこ病	平年：並 前年：並	平年：並 前年：並	栽培期間を通して平年並の発生であった。		下葉の除去、薬剤散布。
	すすかび病	平年：並 前年：並	平年：並 前年：並	栽培期間を通して平年並の発生であった。		下葉の除去、薬剤散布。
	ハダニ類	平年：並 前年：並	平年：並 前年：並	栽培期間を通して平年並の発生であった。		薬剤散布。
	アザミウマ類	平年：並 前年：並	平年： やや多 前年：並	栽培期間を通して平年比やや多の発生で推移した。	7月に気温が高く、乾燥傾向だったことから発生が助長された。	薬剤散布。
冬春 きゅうり R3.11～ R4.6	べと病	平年：並 前年：並	平年： やや多 前年： やや多	11～12月は平年比やや少で推移したものの、1月以降は平年比やや多で推移した。	1月は一部地域で冬作から春作への栽培転換期にあたり、冬作終期の防除不徹底により増加した。また、3月以降は平均気温が平年より高く推移し、定期的な降雨もあったため、発生を助長したと考えられる。	施設内換気。薬剤散布。適正な肥培管理。
	灰色かび病	平年：早 前年：早	平年： やや多 前年：多	平年は3月以降に発生が見られるが当年は1月から発生した。また、5月・6月には発生量も平年比やや多となった。	1月は一部地域で冬作から春作への栽培転換期にあたり、冬作終期の防除不徹底により増加した。また、3月以降は平均気温が平年より高く推移し、定期的な降雨もあったため、5月・6月の発生を助長したと考えられる。	施設内換気。薬剤散布。
	褐斑病	平年：並 前年：並	平年：並 前年：並	調査期間を通して平年並の発生であった。		抵抗性品種の利用、薬剤散布。
	うどんこ病	平年：並 前年：早	平年： やや多 前年：並	調査期間を通して平年比やや多の発生であった。	11月の降水量が平年よりやや多く湿度も高くなったことで発生を助長し、11～12月の発生量が増加した。また、早期に発生したことから、栽培期間を通じて平年比やや多で推移したと考えられる。	薬剤散布。
	アブラムシ類	平年：並 前年：並	平年：並 前年：並	調査期間を通して平年並の発生であった。		薬剤散布。

農作物名	病害虫名	発生時期	発生量	発生経過の概要	発生要因の解析	防除の概要
冬春 きゅうり R3.11～ R4.6	コジラミ類	平年：並 前年：並	平年： やや多 前年：並	11～12月は平年比やや少の発生であった。その後、2月、5月は平年比やや多の発生となったが、その他は平年並～やや少の発生であった。	R3年8月の野外誘殺数は平年並であったが、8月の長雨等により虫数が減少し、栽培初期の発生量は少なかったと考えられる。また、平年比やや多となった時期は、その前旬の平均気温が平年より高く、湿度も低かったことから、増殖に好適な条件となったと考えられる。	薬剤散布。 防虫ネット設置。 天敵利用。
	アザミウマ類	平年：並 前年：並	平年： やや多 前年： やや多	2月以降は平年比やや多で推移した。	2月～3月上旬は、外気温は平年並～低かったものの、日照時間が平年より多くハウス内が温暖となり、増殖を助長したためと考えられる。それ以降は平均気温が平年より高くなったためと考えられる。	薬剤散布。 UVカットフィルム、防虫ネット設置。 天敵利用。
夏秋 きゅうり R4.5～8	べと病	平年：並 前年：遅	平年：並 前年：並	概ね調査期間を通じて平年並の発生であったが、7月は平年比やや多となった。	梅雨入りが6月11日と平年より7日遅く、梅雨期間の降水量も平年より少なかったが、7月にはまとまった雨が降ったため平年比やや多の発生となった。 発生時期について、前年は梅雨入りが早く病害発生も早かったため、前年比では遅くなった。	薬剤散布。適正な肥培管理。密植を避け通風採光を図る。
	うどんこ病	平年：並 前年：並	平年：並 前年：並	調査期間を通して平年並の発生であった。		薬剤散布。密植を避け通風採光を図る。
	灰色かび病	平年：並 前年：並	平年：並 前年：並	調査期間を通して平年並の発生であった。		薬剤散布。
	褐斑病	平年：並 前年：並	平年：並 前年：並	調査期間を通して平年並の発生であった。		薬剤散布。
	斑点細菌病	平年：並 前年：並	平年：並 前年：並	調査期間を通して平年並の発生であった。		薬剤散布。窒素肥料過多を避ける。
	アブラムシ類	平年：並 前年：並	平年：並 前年：並	調査期間を通して平年並の発生であった。		薬剤散布、防虫ネット。
	アザミウマ類	平年：並 前年：並	平年：並 前年：並	調査期間を通して平年並の発生であった。		薬剤散布、防虫ネット。
	コジラミ類	平年：並 前年：並	平年：並 前年：並	調査期間を通して平年並の発生であった。		薬剤散布、防虫ネット。
すいか R4.1～5	つる枯病	平年：並 前年：並	平年：並 前年：並	調査期間を通して平年並の発生であった。		株元の乾燥。薬剤散布。排水対策。施設内換気。適正な肥培管理。被害残さ処分。
	菌核病	平年：並 前年：並	平年：並 前年：並	調査期間を通して平年並の発生であった。		薬剤散布。施設内換気。
	アブラムシ類	平年：並 前年：並	平年：や やや多 前年：並	調査期間を通して平年比やや多の発生となった。	1～2月に発生が多かったのは、日照時間が平年より多くハウス内が温暖となり、増殖を助長したためと考えられる。また、4月以降に発生が多かったのは、平均気温が平年より高くなったためと考えられる。	薬剤散布。

農作物名	病害虫名	発生時期	発生量	発生経過の概要	発生要因の解析	防除の概要
すいか R4. 1～5	コナジラミ類	平年：並 前年：並	平年： やや多 前年：並	調査期間を通して平年比やや多の発生となった。	1～2月に発生が多かったのは、日照時間が平年より多くハウス内が温暖となり、増殖を助長したためと考えられる。また、4月以降に発生が多かったのは、平均気温が平年より高くなったためと考えられる。	薬剤散布。 施設内除草。
	ハダニ類	平年：並 前年：並	平年： やや多 前年： やや多	調査期間を通して平年比やや多の発生となった。	1～2月に発生が多かったのは、日照時間が平年より多くハウス内が温暖となり、増殖を助長したためと考えられる。また、4月以降に発生が多かったのは、平均気温が平年より高くなったためと考えられる。	薬剤散布。
	アザミウマ類	平年：並 前年：並	平年：並 前年：並	調査期間を通して平年並の発生であった。		薬剤散布。
春メロン R4. 1～4	べと病	平年：並 前年：並	平年：並 前年：並	調査期間を通して平年並の発生であった。		施設内換気。排水対策。薬剤散布。適正な肥培管理。
	つる枯病	平年：並 前年：並	平年：並 前年：並	調査期間を通して平年並の発生であった。		被害残渣除去。排水対策。薬剤散布。株元の乾燥。
	うどんこ病	平年：並 前年：並	平年：並 前年：並	栽培後期に一部地域で発生がやや多かったが、調査期間を通して平年並の発生であった。	栽培後期にやや多となったのは、3月以降の平均気温が平年より高くなったためと考えられる。	施設内換気。薬剤散布。
	退緑黄化病	平年：並 前年：並	平年：並 前年：並	調査期間を通して平年並の発生であった。		コナジラミ類の防除。
	黄化えそ病	平年：並 前年：並	平年：並 前年：並	調査期間を通して平年並の発生であった。		アザミウマ類の防除。
	アブラムシ類	平年：並 前年：並	平年：並 前年：並	調査期間を通して平年並の発生であった。		薬剤散布。
	アザミウマ類	平年：並 前年：並	平年：並 前年：並	調査期間を通して平年並の発生であった。		薬剤散布。
	ハダニ類	平年：並 前年：並	平年：並 前年：並	調査期間を通して平年並の発生であった。		
	コナジラミ類	平年：並 前年：並	平年：並 前年：並	栽培後期に一部地域で発生がやや多かったが、調査期間を通して平年並の発生であった。	栽培後期にやや多となったのは、3月以降の平均気温が平年より高くなったためと考えられる。	施設内の除草。 薬剤散布。
秋冬メロン R4. 8～10	べと病	平年：並 前年：並	平年：並 前年：並	調査期間を通して平年並の発生であった。		施設内換気。排水対策。薬剤散布。
	つる枯病	平年：並 前年：並	平年：並 前年：並	調査期間を通して平年並の発生であった。		排水対策。薬剤散布。
	うどんこ病	平年：並 前年：並	平年：並 前年：並	調査期間を通して平年並の発生であった。		施設内換気。薬剤散布。
	退緑黄化病	平年：並 前年：並	平年：並 前年：並	調査期間を通して、一部地域で発生がやや多かったものの、平年並の発生であった。	発生が多かった地域は、8月に実施した野外コナジラミの保毒虫検定において、保毒虫率が平年より高かったためと考えられる。	コナジラミ類の防除。
	黄化えそ病	平年：並 前年：並	平年：並 前年：並	調査期間を通して平年並の発生であった。		アザミウマ類の防除。

農作物名	病害虫名	発生時期	発生量	発生経過の概要	発生要因の解析	防除の概要
秋冬 メロン R4. 8～10	アブラムシ類	平年：並 前年：並	平年：並 前年：並	調査期間を通して平年並の発生であった。		薬剤散布、防虫ネット。
	アザミウマ類	平年：並 前年：並	平年：並 前年：並	調査期間を通して平年並の発生であった。		薬剤散布、防虫ネット。
	ハダニ類	平年：並 前年：並	平年：並 前年：並	調査期間を通して平年並の発生であった。		
	コナジラミ類	平年：並 前年：並	平年：並 前年：並	調査期間を通して、一部地域で発生がやや多かったものの、平年並の発生であった。	発生が多かった地域は、8月上旬の野外コナジラミの誘殺数が平年並であり、その後の高温・少雨により発生が助長されたためと考えられる。	薬剤散布、防虫ネットの被覆 育苗期のネオニコチノイド粒剤処理。 施設内除草。
夏秋 キャベツ R4. 5～9	黒腐病	平年：並 前年：並	平年：並 前年：やや少	栽培後期に一部地域で発生が多くなったが、平年並の発生であった。	9月の台風接近時にまとまった降雨量があり、栽培後期に発生が増加した。	薬剤散布、排水対策。
	軟腐病	平年：並 前年：並	平年：並 前年：やや少	7月以降に発生が増加したが、その後は発生量が落ち着き、平年並の発生で推移した。	6月の断続的な降雨により発生が助長した。	薬剤散布、排水対策。
	菌核病	平年：並 前年：並	平年：やや少 前年：やや少	栽培期間を通して平年比やや少の発生であった。	6月の降水量が少なく、断続的な降雨はあったが、長雨や大雨は少なかった。	薬剤散布。
	コガ	平年：並 前年：並	平年：並 前年：並	栽培期間を通して平年並の発生であった。		薬剤散布。
	材カコガ	平年：やや早 前年：並	平年：並 前年：やや多	フェロモントラップへの誘殺は平年比多で推移したが、ほ場での多発生は見られず、平年並で推移した。		薬剤散布。
	アブラムシ類	平年：並 前年：並	平年：並 前年：並	栽培期間を通して平年並の発生であった。		薬剤散布。
冬レタス	灰色かび病	平年：並 前年：並	平年：並 前年：並	栽培期間を通して平年並の発生であった。		薬剤散布、排水対策
	菌核病	平年：並 前年：並	平年：並 前年：並	栽培期間を通して平年並の発生であった。		薬剤散布
	軟腐病	平年：並 前年：並	平年：並 前年：並	栽培期間を通して平年並の発生であった。		薬剤散布、排水対策
	斑点細菌病	平年：並 前年：並	平年：並 前年：並	栽培期間を通して平年並の発生であった。		薬剤散布
	腐敗病	平年：並 前年：並	平年：並 前年：並	栽培期間を通して平年並の発生であった。		薬剤散布、排水対策
	アブラムシ類	平年：並 前年：並	平年：並 前年：並	11月の寄生葉率が平年比多の発生であったが、その後は平年並で推移した。	高温少雨傾向であったため、発生が増加したと考えられる。	薬剤散布
	ハスモンヨトウ	平年：並 前年：並	平年：並 前年：並	栽培期間を通して平年並の発生であった。		薬剤散布、黄色防蛾灯、苗床の防虫ネットの被覆
	オオタバコガ	平年：並 前年：並	平年：並 前年：並	栽培期間を通して平年並の発生であった。		薬剤散布、黄色防蛾灯
冬春 いちご R3. 10～ R4. 4	うどんこ病	平年：並 前年：並	平年：並 前年：並	12～1月に一部地域で平年比やや多となった他は、平年並みの発生であった。	定植前に薬剤防除が徹底されたことで、本ぼへの持ち込みを防ぐことができ、本ぼにおいても栽培期間を通して薬剤防除等の対策徹底により発生が抑制されたと考えられる。	老化、被害葉の除去、薬剤散布。
	灰色かび病	平年：並 前年：並	平年：並 前年：並	栽培期間を通して平年並の発生であった。		薬剤散布、通風換気、排水対策。

農作物名	病害虫名	発生時期	発生量	発生経過の概要	発生要因の解析	防除の概要
冬春 いちご R3.10～ R4.4	炭疽病	平年：並 前年：並	平年：並 前年：並	栽培期間を通して平年並の発生であった。	健全苗の選抜や発病株の早期持ち出しが徹底されたことで、発生が抑制されたと考えられる。	健全親株、無病苗確保。 高設雨よけ育苗、薬剤散布。
	ハダニ類	平年：並 前年：並	平年：やや多 前年：やや多	10～11月は一部の調査ほ場で多発したことから平年比やや多となった。その後12～2月は平年並～やや少となったものの、3月以降は多くの調査ほ場で発生量が増加し、再び平年比やや多となった。	10～11月の多発ほ場は、9月の育苗ほ調査においても発生が多く、本ほへの持ち込みによると考えられる。その後、防除対策により発生が落ち着いたものの、3月以降は平均気温が平年より高く、多くの調査ほ場で発生量が増加したと考えられる。	下葉の除去、薬剤散布、天敵利用。
	アザミウマ類	平年：並 前年：並	平年：やや多 前年：やや多	栽培期間を通して平年比やや多の発生であった。	10～1月にかけて日照時間が平年より長く、ハウス内が温暖となったことで発生が助長され、初期の発生量が増加したことで栽培終期まで多いまま推移したと考えられる。また、ハダニ類に対する天敵を利用しているほ場では、アザミウマ類防除に使用できる薬剤が限定された可能性もある。	薬剤散布。
	アブラムシ類	平年：並 前年：並	平年：やや多 前年：やや多	10～12月は概ね平年並の発生であったが、1月以降は平年比やや多の発生となった。	1～2月に発生が多かったのは、日照時間が平年より多くハウス内が温暖となり、増殖を助長したためと考えられる。また、3月以降に発生が多かったのは、平均気温が平年より高くなったためと考えられる。	薬剤散布。
	ハスモンヨトウ	平年：並 前年：並	平年：やや多 前年：やや多	10月は平年比多の発生、11月以降は概ね平年並の発生となった。	9月下旬から10月中旬にかけて、平均気温が高く日照時間が長くなったことから、発生が助長されたと考えられる。また、11月以降は気温の低下により発生が落ち着いたと考えられる。	薬剤散布。
夏秋さく (露地) R4.6～9	白さび病	平年：並 前年：並	平年：並 前年：並	栽培期間を通して平年並の発生であった。		健全苗植栽、薬剤防除。
	ハダニ類	平年：並 前年：並	平年：並 前年：並	栽培期間を通して平年並の発生であった。		薬剤防除。
	アザミウマ類	平年：並 前年：並	平年：並 前年：並	栽培期間を通して平年並の発生であった。		薬剤防除。
	アブラムシ類	平年：並 前年：並	平年：やや多 前年：やや多	栽培期間を通して平年比やや多の発生であった。	栽培期間を通して降水量が平年より少なく、平均気温は高かったために発生が助長された。	薬剤防除。

(2) 農作物有害動植物の発生面積及び防除面積

(※は同時防除)

作物名	作付面積 (ha)	病害虫名	程度別発生面積 (ha)					防除面積 (ha)	
			甚	多	中	少	合計	実防除	延防除
水稲 (早期・ 早植え)	7,752	苗立枯病				30	30	7,752	7,752
		苗いもち				20	20	※7,752	※7,752
		葉いもち	50	100	500	4,350	5,000	7,700	11,500
		穂いもち		10	50	740	800	7,700	7,700
		紋枯病		100	300	500	900	4,000	4,000
		白葉枯病				60	60	3,000	3,000
		セジロウンカ				1,500	1,500	※7,700	※15,000
		トビイロウンカ			100	1,900	2,000	7,700	15,000
		ヒメトビウンカ				3,000	3,000	※7700	※15000
		ツマグロヨコバイ				1,000	1,000	※7700	※15000
		イネドロオイムシ				100	100	※100	※100
		イネゾウムシ				60	60	※100	※100
		イネクロカメムシ				60	60	※100	※100
		斑点米カメムシ類			300	1,200	1,500	※7,700	※15,000
		コブノメイガ				1,000	1,000	1,000	1,000
		イネミズゾウムシ			200	1,800	2,000	2,000	2,000
		スクミリンゴガイ			100	900	1,000	1,000	1,000
水稲 (普通期)	24,056	苗立枯病				100	100	24,000	24,000
		苗いもち				1,000	1,000	※24,000	※24,000
		葉いもち				2,000	2,000	24,000	24,000
		穂いもち				2,000	2,000	24,000	24,000
		紋枯病			500	9,000	9,500	24,000	24,000
		白葉枯病				200	200	1,000	1,000
		ばか苗病				100	100	※24000	※24000
		イシガレセンチュウ (種子消毒)						24,000	24,000
		もみ枯細菌病				500	500	※24,000	※24,000
		もみ枯細菌病 (種子消毒)				100	100	24,000	24,000
		縞葉枯病				100	100	※24,000	※48,000
		萎縮病				100	100	※24,000	※48,000
		セジロウンカ				3,000	3,000	※24,000	※48,000
		トビイロウンカ			50	1,950	2,000	24,000	48,000
		ヒメトビウンカ				3,000	3,000	※24,000	※48,000
		ツマグロヨコバイ				3,000	3,000	※24,000	※48,000
		斑点米カメムシ類			400	2,000	2,400	※24,000	※48,000
		コブノメイガ			1,000	4,000	5,000	15,000	16,000
		イネミズゾウムシ				500	500	1,000	1,000
スクミリンゴガイ			200	800	1,000	1,000	1,000		

作物名	作付面積 (ha)	病害虫名	程度別発生面積 (ha)					防除面積 (ha)	
			甚	多	中	少	合計	実防除	延防除
麦	7,170	さび病類				400	400		
		うどんこ病				400	400		
		赤かび病				800	800	7,000	8,000
		斑葉病				100	100		
大豆	2,420	紫斑病				100	100	300	300
		べと病				500	500	1,800	1,800
		葉焼病				1,500	1,500	1,500	1,500
		コガネムシ類				2,000	2,000	500	500
		ハスモンヨトウ				2,000	2,000	2,400	2,400
		吸実性カメムシ類				1,000	1,000	1,000	1,000
かんきつ	5,161	そうか病				300	300	3,000	9,000
		黒点病			100	1,000	1,100	5,000	15,000
		かいよう病		5	150	600	755	2,000	6,000
		ミカンハダニ	3	15	100	1,200	1,318	5,000	15,000
		チャノキイロアザミマ			100	800	900	5,000	20,000
なし	357	黒星病				50	50	350	2,100
		赤星病			10	60	70	※350	※1,050
		ハダニ類		5	20	100	125	350	1,050
		アブラムシ類			5	50	55	350	700
茶	1,130	炭そ病				400	400	800	2,400
		もち病				40	40	※800	※2,400
		網もち病				20	20	※800	※2,400
		輪斑病				200	200	800	1,600
		チャノカクモンハマキ		2	30	260	292	1,000	3,000
		チャハマキ				130	130	※1,000	※3,000
		チャノホソガ				250	250	1,000	1,000
		チャノドリヒメヨコバイ		10	60	400	470	※1,000	※3,000
		カンザワハダニ		5	60	350	415	1,000	3,000
		チャノキイロアザミマ		1	20	300	321	※1,000	※3,000
		ツマグロアカスミカメ			10	300	310	500	500
クシロカイヤラムシ	3	20	150	500	673	1,000	2,000		
夏秋 トマト R4.6~9	411	疫病				30	30	411	822
		灰色かび病				128	128	411	2,055
		葉かび病			53	305	358	411	4,110
		うどんこ病			73	200	273	411	2,055
		すすかび病		85	85	184	354	411	2,055
		コナジラミ類			65	335	400	411	4,110
		アブラムシ類				30	30	411	411

(※は同時防除)

作物名	作付面積 (ha)	病害虫名	程度別発生面積 (ha)					防除面積 (ha)	
			甚	多	中	少	合計	実防除	延防除
冬春 トマト R3.10～ R4.4	845	灰色かび病				700	700	845	4,225
		葉かび病				40	40	845	4,225
		うどんこ病			15	55	70	845	2,535
		すすかび病				95	95	845	2,535
		コナジラミ類	7	38	119	188	352	845	13,520
		アブラムシ類				40	40	845	2,535
冬春なす R3.10～ R4.4	175	うどんこ病				70	70	175	875
		灰色かび病				60	60	175	875
		すすかび病				80	80	175	875
		アザミウマ類				60	60	175	525
		コナジラミ類				143	143	175	875
		ハモグリバエ類				44	44	175	525
		ハダニ類				20	20	175	525
冬春 きゅうり R2.11～ R3.5	75	べと病	1	2	15	32	50	75	900
		炭そ病				1	1	75	900
		うどんこ病	2	3	15	30	50	75	900
		斑点細菌病				2	2	75	900
		灰色かび病			3	27	30	75	900
		褐斑病				20	20	75	900
		菌核病				9	9	75	900
		黄化えそ病				5	5	75	900
		退緑黄化病	2	3	10	40	55	75	900
		アザミウマ類			10	50	60	75	900
		アブラムシ類				20	20	75	900
コナジラミ類			5	55	60	75	900		
レタス	511	灰色かび病				70	70	511	1,022
		菌核病				50	50	511	1,022
		アブラムシ類				230	230	511	511
		ハスモンヨトウ				17	17	511	
		オオタバコガ				17	17	511	
いちご R3.10～ R4.4	305	灰色かび病				50	50	305	1,515
		うどんこ病			5	45	50	305	1,515
		炭そ病				50	50	305	1,515
		アブラムシ類		5	10	135	150	305	2,135
		アザミウマ類	5	10	40	145	200	305	2,135
		ハダニ類	5	10	65	170	250	305	2,135
		ハスモンヨトウ			20	130	150	305	1,515

(※は同時防除)

(3) 普通作病虫害発生予察事業 (大豆・イグサを含む)

ア 病虫害防除所における調査

(ア) 巡回調査

作物名「水稲 早期・早植」

調査月	対象 病虫害	葉いもち		穂いもち		紋枯病		萎縮病	黄化 萎縮病	縞葉枯病
		発病株率	発病度	発病穂率	発病度	発病株率	発病度	発病株率	発病株率	発病株率
4	本年値	0.00	0.00	—	—	—	—	—	—	—
	平年値	0.15	0.04	—	—	—	—	—	—	—
5	本年値	0.00	0.00	—	—	—	—	0.00	0.00	0.00
	平年値	0.05	0.01	—	—	—	—	0.00	0.00	0.00
6	本年値	16.50	4.94	—	—	0.00	—	0.00	0.00	0.25
	平年値	1.00	0.25	—	—	0.05	—	0.05	0.00	0.00
7	本年値	51.25	13.56	0.33	0.09	0.38	0.09	0.00	0.00	0.00
	平年値	9.73	2.91	0.01	0.00	0.76	0.20	0.00	0.00	0.05
8	本年値	54.40	13.90	0.69	0.37	1.80	0.45	0.00	0.00	0.00
	平年値	14.72	3.72	0.21	0.08	2.77	0.80	0.00	0.00	0.04

調査月	対象 病虫害	白葉枯病	ばか苗病	もみ枯 細菌病
		発病株率	発病株率	発病穂率
4	本年値	—	—	—
	平年値	—	—	—
5	本年値	—	0.00	—
	平年値	—	0.00	—
6	本年値	0.00	0.00	—
	平年値	0.00	0.00	—
7	本年値	0.00	0.00	0.19
	平年値	0.00	0.00	0.18
8	本年値	0.00	—	0.67
	平年値	0.00	—	0.08

調査月	対象 病虫害	ツマグロ ヨコバイ	ヒメトビ ウンカ	セジロ ウンカ	トビイロ ウンカ	コブノ メイガ	カメシ類	イネミスヅウムシ		スクミリン ゴカイ
		頭/株	頭/株	頭/株	頭/株	葉巻数/株	頭/25株	被害度	頭/25株	頭/m ²
4	本年値	—	—	—	—	—	—	0.00	0.00	—
	平年値	—	—	—	—	—	—	0.17	0.16	—
5	本年値	—	—	—	—	—	—	11.50	2.33	0.00
	平年値	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	—	8.42	1.05	—
6	本年値	0.08	0.33	0.01	0.00	0.00	—	6.56	0.25	0.37
	平年値	0.09	0.20	0.13	0.00	0.00	—	5.57	0.44	—
7	本年値	0.05	0.09	0.03	0.00	0.00	0.38	—	—	—
	平年値	0.70	0.65	1.79	0.14	0.23	0.08	—	—	—
8	本年値	0.15	0.21	0.04	0.33	0.01	0.00	—	—	—
	平年値	0.80	0.42	0.45	9.35	0.13	0.21	—	—	—

作物名「水稲 普通期」

調査月	対象病害虫	葉いもち		穂いもち		紋枯病		萎縮病	黄化萎縮病	縞葉枯病
		発病株率	発病度	発病穂率	発病度	発病株率	発病度	発病株率	発病株率	発病株率
6	本年値	0.50	0.13	—	—	—	—	—	—	—
	平年値	0.00	0.00	—	—	—	—	—	—	—
7	本年値	0.20	0.05	—	—	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
	平年値	0.28	0.07	—	—	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
8	本年値	2.60	0.65	—	—	8.00	2.00	0.00	0.00	0.20
	平年値	4.35	1.11	—	—	0.06	0.02	0.00	0.00	0.04
9	本年値	0.80	0.20	0.25	0.07	8.30	2.83	0.00	0.00	0.00
	平年値	2.84	0.72	0.21	0.09	2.58	0.81	0.00	0.00	0.08

調査月	対象病害虫	白葉枯病	ばか苗病	もみ枯細菌病
		発病株率	発病株率	発病穂率
6	本年値	—	—	—
	平年値	—	—	—
7	本年値	0.00	0.00	—
	平年値	0.00	0.00	—
8	本年値	0.00	0.00	—
	平年値	0.00	0.00	—
9	本年値	0.00	1.34	0.45
	平年値	0.00	0.08	0.15

調査月	対象病害虫	ツマグロヨコバイ	ヒメトビウンカ	セジロウンカ	トビイロウンカ	コブノメカ	カメシ類	イネミスジウシ		スクミリンゴガイ
		頭/株	頭/株	頭/株	頭/株	葉巻数/株	頭/25株	被害度	頭/25株	頭/m ²
6	本年値	—	—	—	—	—	—	0.00	0.00	—
	平年値	—	—	—	—	—	—	0.20	0.00	—
7	本年値	0.01	0.03	0.17	0.00	0.00	—	—	—	2.07
	平年値	0.06	0.10	0.31	0.01	0.01	—	—	—	—
8	本年値	0.11	0.26	0.24	0.06	0.03	0.00	—	—	—
	平年値	0.49	1.06	0.95	0.20	0.12	0.02	—	—	—
9	本年値	0.10	0.36	0.03	0.75	0.34	0.35	—	—	—
	平年値	0.78	1.12	0.17	2.23	0.20	0.02	—	—	—

作物名「麦」

調査月	対象病害虫	赤かび病		うどんこ病		さび病類		斑葉病 (大麦のみ)	縞萎縮病 (大麦のみ)	
		発病穂率	発病度	発病莖率	発病度	発病莖率	発病度	発病株率	発病莖率	発病度
4	本年値	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
	平年値	0.87	0.16	0.00	0.00	0.20	0.02	0.25	0.00	0.00
5	本年値	0.89	0.30	0.00	0.00	0.67	0.17	0.00	0.00	0.00
	平年値	0.87	0.16	0.03	0.00	0.19	0.01	0.25	0.00	0.00

調査月	対象病害虫	アブラムシ類
		調査項目
4	本年値	0.33
	平年値	0.38
5	本年値	0.00
	平年値	0.22

作物名「大豆」

調査月	対象病害虫	葉焼病		べと病		かみシ類	ヨトウムシ類		
		発病株率	発病度	発病株率	発病度	頭/10株	頭/10株	食害株率	食害度
8	本年値	5.14	1.29	0.29	0.07	1.37	6.69	41.14	13.71
	平年値	2.97	0.74	2.34	0.62	0.01	1.04	19.15	5.46
9	本年値	40.00	10.21	12.86	3.21	3.94	7.71	49.14	19.57
	平年値	18.14	5.37	38.52	9.67	0.11	5.07	32.57	8.65
10	本年値	98.33	41.58	1.67	0.42	6.14	0.03	45.33	21.58
	平年値	63.09	19.41	28.34	7.50	0.86	0.73	29.49	8.17

調査月	対象病害虫	ハスモンヨウ	コガネムシ類	
		調査項目	白変葉株率	食害株率
8	本年値	6.71	28.29	7.36
	平年値	1.62	37.45	9.85
9	本年値	—	54.29	13.79
	平年値	—	56.46	15.93
10	本年値	—	6.33	1.58
	平年値	—	64.80	20.15

(イ) 予察灯による水稻害虫調査 (合志市)

①セジロウンカ

月	半旬	平年	R4年
4	1	0	0
	2	0	0
	3	0	0
	4	0	0
	5	0.1	0
	6	0.1	0
5	1	0	0
	2	0	0
	3	0.1	0
	4	0.2	0
	5	0	0
	6	0.2	0
6	1	0.1	0
	2	0.8	0
	3	0.9	0
	4	1.9	0
	5	17.4	14
	6	30.4	31
7	1	91	5
	2	106.3	54
	3	339.3	162
	4	43.2	276
	5	11.2	86
	6	23	101
8	1	15.5	2
	2	29.1	7
	3	36.9	48
	4	44.6	77
	5	24.1	118
	6	42.2	37
9	1	124.8	16
	2	48.8	16
	3	41.5	17
	4	19.8	0
	5	86.3	2
	6	11.5	10
10	1	6.2	6
	2	4.2	0
	3	0.5	0
	4	1.1	21
	5	1.2	1
	6	0.6	0
合計	1,205	1,107	

②トビイロウンカ

月	半旬	平年	R4年
4	1	0	0
	2	0	0
	3	0	0
	4	0	0
	5	0	0
	6	0	0
5	1	0.1	0
	2	0.1	0
	3	0	0
	4	0	0
	5	0.1	0
	6	0	0
6	1	0	0
	2	0.7	0
	3	0.1	0
	4	0	0
	5	1	0
	6	1.5	8
7	1	26.3	0
	2	41.6	7
	3	39	2
	4	2.6	73
	5	1.6	2
	6	2.1	5
8	1	7.6	4
	2	10	0
	3	6.3	1
	4	4.3	6
	5	4.1	6
	6	24.2	2
9	1	230.2	1
	2	118	6
	3	105.5	20
	4	17.5	1
	5	21	1
	6	343	14
10	1	179.8	23
	2	123.2	4
	3	26.9	0
	4	73.4	156
	5	33.2	39
	6	8.4	2
合計	1,453	383	

③ヒメトビウンカ

月	半旬	平年	R4年
4	1	0	0
	2	0	0
	3	0	0
	4	0	0
	5	0	0
	6	0	0
5	1	0	0
	2	0	0
	3	0	0
	4	0.1	0
	5	0.1	0
	6	0.8	0
6	1	0.6	0
	2	0.4	0
	3	0.3	0
	4	0.3	1
	5	0.3	1
	6	2.2	16
7	1	15.4	31
	2	15.6	31
	3	14.2	26
	4	17.7	7
	5	7.1	4
	6	11.2	14
8	1	10.9	23
	2	10.4	5
	3	6.2	9
	4	3.5	0
	5	4	1
	6	2.8	3
9	1	12.1	2
	2	13.6	3
	3	10.2	2
	4	3.6	0
	5	0.9	0
	6	0.8	0
10	1	1.5	0
	2	1.9	0
	3	1.3	0
	4	0.1	2
	5	0	0
	6	0.2	0
合計	170	181	

④ツマグロヨコバイ

月	半旬	平年	R4年
4	1	0	0
	2	0	0
	3	0	0
	4	0	0
	5	0	0
	6	0	0
5	1	0	0
	2	0.1	0
	3	0.2	0
	4	0.2	0
	5	0.5	2
	6	1.5	0
6	1	1.6	4
	2	9.1	7
	3	2.8	7
	4	3.8	3
	5	1.3	1
	6	2.3	6
7	1	4	9
	2	5.2	10
	3	8.1	17
	4	21.8	12
	5	10.7	14
	6	12.1	85
8	1	14.1	83
	2	14.5	39
	3	12.5	33
	4	22.1	10
	5	10	10
	6	8.9	1
9	1	25.9	3
	2	59.7	10
	3	28.2	5
	4	24.1	0
	5	11	34
	6	7.7	32
10	1	6.9	8
	2	9.6	1
	3	1.5	0
	4	0.2	1
	5	0	0
	6	0.1	0
合計	342	447	

(ウ) ネットトラップによる水稻害虫調査 (合志市)

①セジロウンカ

月	半旬	平年	R4年
4	1	0.1	0
	2	0	0
	3	0	0
	4	0	0
	5	0	0
	6	0	0
5	1	0	0
	2	0.2	0
	3	0.2	0
	4	0.4	0
	5	0.3	0
	6	0.4	0
6	1	2.1	0
	2	0.6	0
	3	4.8	0
	4	10.9	0
	5	17.5	1
	6	13.4	1
7	1	34.8	1
	2	18.8	0
	3	10.9	1
	4	1.1	7
	5	3.5	9
	6	6.8	0
8	1	6.3	18
	2	2.5	0
	3	1.8	2
	4	1.7	1
	5	4.1	6
	6	8.8	2
9	1	5.8	2
	2	3.6	1
	3	3.7	1
	4	2.2	0
	5	2.4	1
	6	3.4	1
10	1	5.5	0
	2	1	0
	3	3	0
	4	1.6	0
	5	0.5	0
	6	0.8	1
合計	186	56	

②トビイロウンカ

月	半旬	平年	R4年
4	1	0	0
	2	0	0
	3	0	0
	4	0	0
	5	0	0
	6	0	0
5	1	0	0
	2	0	0
	3	0	0
	4	0	0
	5	0	0
	6	0	0
6	1	0	0
	2	0	0
	3	0	0
	4	0.1	0
	5	0.1	0
	6	0.2	0
7	1	0.3	0
	2	1	0
	3	0.2	0
	4	0	0
	5	0	0
	6	0	0
8	1	0	0
	2	0.1	0
	3	0.1	0
	4	0	0
	5	1.4	0
	6	5.1	0
9	1	0.6	0
	2	1.8	0
	3	12.2	0
	4	4.5	0
	5	4	0
	6	3.7	1
10	1	59	0
	2	25	0
	3	56.8	2
	4	23.2	32
	5	18.3	12
	6	12.8	157
合計	231	204	

③ヒメトビウンカ

月	半旬	平年	R4年
4	1	1.8	0
	2	0.2	1
	3	1.7	5
	4	1	0
	5	0.6	0
	6	0.2	0
5	1	0.2	0
	2	0.3	1
	3	1.2	0
	4	3	18
	5	11.7	19
	6	19.4	10
6	1	17.6	6
	2	4.2	11
	3	4.8	0
	4	1.9	0
	5	1.1	1
	6	2.7	7
7	1	5.7	11
	2	4.9	0
	3	2.4	2
	4	3.2	0
	5	0.8	1
	6	2.7	2
8	1	1.3	4
	2	1.2	1
	3	0.3	0
	4	0.6	0
	5	1.6	0
	6	3	2
9	1	5.6	0
	2	2.1	1
	3	5.5	2
	4	3.4	0
	5	3.7	2
	6	6.5	1
10	1	35.3	0
	2	8.9	0
	3	13.1	5
	4	7	2
	5	4.4	1
	6	1.9	5
合計	199	121	

④ツマグロヨコバイ

月	半旬	平年	R4年
4	1	0	0
	2	0	0
	3	0	0
	4	0.1	0
	5	0.1	0
	6	0	0
5	1	0.3	0
	2	0.1	0
	3	0.3	0
	4	0	0
	5	0	0
	6	0.3	0
6	1	0.1	0
	2	0.1	0
	3	0.2	0
	4	0	0
	5	0	0
	6	0.1	0
7	1	0.3	0
	2	0.1	1
	3	0.1	0
	4	0.2	1
	5	0	0
	6	0.1	0
8	1	0.1	0
	2	0	0
	3	0.3	1
	4	0.5	0
	5	0.3	0
	6	0.1	0
9	1	0.2	0
	2	0.2	0
	3	5.6	0
	4	2.4	0
	5	0.6	0
	6	0.4	0
10	1	1.4	0
	2	0.1	0
	3	1.5	0
	4	0.4	0
	5	0.1	0
	6	0	0
合計	17	3	

(エ) フェロモントラップによるコブノメイガ調査

コブノメイガのフェロモントラップへの誘殺数 (コーントラップ 2 か所の合計)

月	半旬	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	平年値 (H24~R3)	R4
6	1				0	0	0	0	0	0	0	0	0
	2				0	0	0	0	6	1	0	1	0
	3	0			0	0	0	0	16	6	0	3	0
	4	0			0	0	0	0	7	51	0	7	0
	5	0	0		4	0	0	0	2	383	0	43	0
	6	1	0	0	26	20	5	1	0	47	1	10	3
7	1	0	0	0	23	3	8	3	5	36	2	8	4
	2	0	0	0	37	8	9	0	7	44	0	11	1
	3	4	0	0	9	6	3	2	5	63	8	10	0
	4	0	0	0	15	0	4	1	19	108	1	15	0
	5	0	0	0	35	4	3	2	1	70	0	12	0
	6	0	0	0	14	13	6	0	7	60	0	10	1
8	1	0	10	0	13	35	11	0	5	23	0	10	1
	2	0	20	0	3	5	3	0	1	0	3	4	0
	3	0	24	0	2	15	4	0	10	18	0	7	3
	4	0	6	0		19	0	0	19	75	0	13	1
	5	0	2	0		19	3	0	23	55	0	11	6
	6	0	32	0		24	2	1	44	4	0	12	1
計		5	94	0	181	171	61	10	177	1,044	15	186	21

(オ) 無防除田におけるウンカ類の調査

- 1 調査場所 合志市生産環境研究所ほ場 ほ場面積 4 a
- 2 耕種概要 1) 品種 ヒノヒカリ
2) 移植 5月13日
- 3 調査方法 25×18cmの粘着板に2回叩きの払い落とし法で、1区30株2反復でウンカ・ヨコバイ類の発生状況を調査した。

4 調査結果

区名		6月29日	7月8日	7月21日	8月4日	8月17日	8月25日	9月16日	9月26日	
セジロウンカ	成虫	長翅	0.4	0.2	0.0	0.3	0.0	0.0	0.0	0.0
		短翅	0.0	0.0	0.0	0.3	0.0	0.0	0.0	0.0
	幼虫	老齢	0.0	0.0	0.2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
		中齢	0.0	0.0	0.0	4.3	1.0	0.0	0.0	0.0
		若齢	0.0	1.0	0.0	19.7	0.0	0.0	0.0	0.0
	合計		0.4	1.2	0.2	24.7	1.0	0.0	0.0	0.0
ヒメトビウンカ	成虫	長翅	0.4	0.2	0.0	0.0	5.0	0.0	19.0	19.0
		短翅	0.0	0.0	0.0	0.0	2.0	2.0	1.0	0.0
	幼虫	老齢	0.0	0.2	0.8	0.3	10.0	2.0	4.0	12.0
		中齢	1.4	0.2	2.2	6.3	8.0	4.0	7.0	1.0
		若齢	3.6	0.6	2.8	10.3	0.0	2.0	4.0	0.0
	合計		5.4	1.2	5.8	17.0	25.0	10.0	35.0	32.0
トビイロウンカ	成虫	長翅♂	0.0	0.0	0.0	0.0	4.0	2.0	37.0	270.0
		長翅♀	0.0	0.0	0.0	0.0	7.0	1.0	0.0	0.0
		短翅♂	0.0	0.0	0.0	0.7	9.0	3.0	19.0	2.0
		短翅♀	0.0	0.0	0.0	0.0	14.0	5.0	0.0	0.0
	幼虫	老齢	0.0	0.0	0.8	0.3	31.0	8.0	178.0	182.0
		中齢	0.0	0.0	0.0	0.7	18.0	9.0	141.0	18.0
		若齢	0.0	0.2	0.0	20.7	7.0	19.0	59.0	28.0
	合計		0.0	0.2	0.8	22.3	90.0	47.0	434.0	500.0
ツマグロヨコバイ	成虫		8.8	6.2	1.0	0.0	1.0	2.0	0.0	1.0
	幼虫	老齢	4.4	4.6	0.0	0.3	0.0	0.0	1.0	1.0
		中齢	3.2	2.4	0.4	5.0	1.0	2.0	3.0	1.0
		若齢	2.2	0.6	0.6	6.3	0.0	2.0	1.0	0.0
	合計		18.6	13.8	2.0	11.7	2.0	6.0	5.0	3.0

注：10株あたり頭数

(カ) 無防除田におけるスクミリンゴガイ越冬調査

1. 目的

スクミリンゴガイの発生予察を行うため、農研センター無防除田と現地巡回地点の発生量を比較し、予察の可能性を検討する。

2. 方法

1) 生息調査

農研無防除田内で6月に3㎡(稲2条間×5m)×5カ所で生息貝数を調査した。

2) 越冬調査

農研無防除田内2カ所で3月に1㎡×深さ15cmの土を掘り取り、6mmの振るいにかけて、残った貝を30℃の温水に浸け、生死を判定した。

3) 現地巡回調査地点の調査

巡回調査地点36ほ場で、移植約1カ月後に3㎡(稲2条間×5m)の調査を行なった。

3. 結果

農研無防除田で行ったスクミリンゴガイの越冬調査では、生貝率26.1%、6月の生息頭数2.1頭(前年7.0頭)と、前年同時期より減少しており、生貝率が低かった影響と思われた(表1、2)。

巡回調査地点では、早期水稻の生息頭数平均が0.0頭/㎡(前年0.4頭/㎡)、発生ほ場率が0.0%(前年16.7%)と、農研無防除田と同様に前年より減少していたが、早植え水稻では生息頭数平均0.4頭/㎡(前年0.2頭/㎡)、発生ほ場率40.0%(前年20.0%)と、前年より増加していた。また普通期水稻でも、生息頭数平均2.1頭/㎡(前年2.0頭/㎡)、発生ほ場率75.0%(前年45.0%)と前年を上回っており、農研無防除田とは傾向が異なった(表3)。

このことから、水稻の巡回調査地点におけるスクミリンゴガイの生息数は、各ほ場毎の防除や管理の違いによる影響が大きいため、農研無防除田とは発生傾向が異なるのではないかと思われた。

表1 農研無防除田における越冬調査結果

調査地点	採集貝数 (頭/㎡)	生貝数 (頭/㎡)	生貝率
水口付近	16	2	12.5%
排水口付近	7	4	57.1%
合計	23	6	26.1%

表2 スクミリンゴガイの生息調査

調査地点	令和3年	令和4年
	頭数/㎡	頭数/㎡
無防除田	7.0	2.1

表3 巡回調査地点におけるスクミリンゴガイの生息調査結果

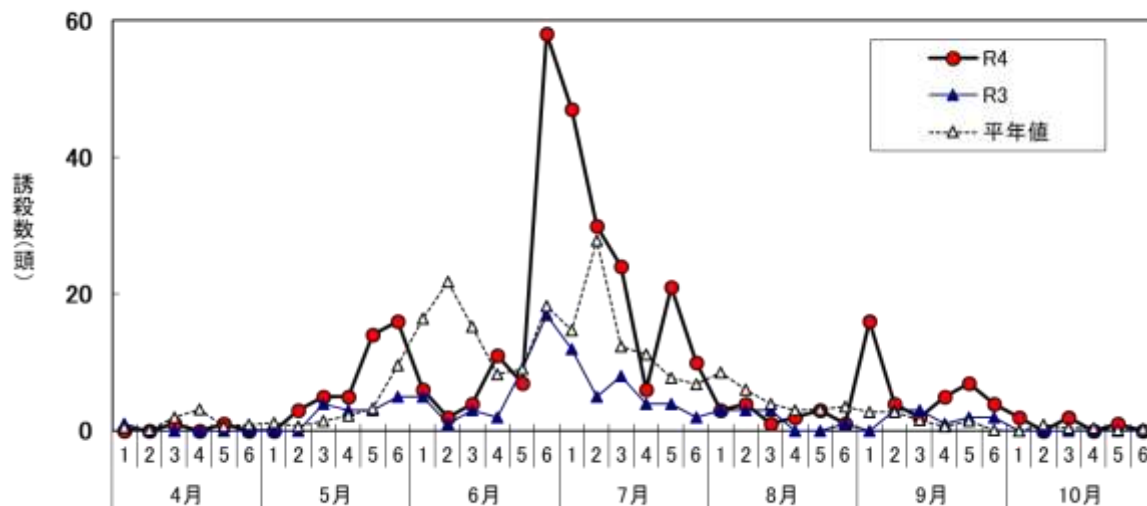
作型	調査月	調査地点	令和3年		令和4年			
			頭数/㎡	ほ場率	頭数/㎡	ほ場率		
早期	5月	上天草市松島1	0.0		0.0			
		上天草市松島2	2.3		0.0			
		天草市亀場1	0.0		0.0			
		天草市亀場2	0.0		0.0			
		天草市河浦1	0.0		0.0			
		天草市河浦2	0.0		0.0			
		平均	0.4	16.7%	0.0	0.0%		
早植え	6月	阿蘇市狩尾1	0.0		0.0			
		阿蘇市狩尾2	0.0		0.0			
		阿蘇市的石1	0.0		0.0			
		阿蘇市的石2	0.0		0.0			
		山都町入佐1	1.7		0.0			
		山都町入佐2	0.7		0.0			
		錦町木上1	0.0		1.0			
		錦町木上2	0.0		0.7			
		あさぎり町上1	0.0		1.3			
		あさぎり町上2	0.0		0.7			
		平均	0.2	20.0%	0.4	40.0%		
		普通期	7月	熊本市画図1	0.0		1.0	
				熊本市画図2	0.3		0.7	
				熊本市川口1	4.0		4.0	
熊本市川口2	3.0				11.3			
熊本市富合1	0.0				3.3			
熊本市富合2	2.0				1.3			
玉名市両迫間1	0.0				2.3			
玉名市両迫間2	0.0				0.7			
山鹿市鹿央1	3.0				8.3			
山鹿市鹿央2	16.0				1.0			
菊池市赤星1	7.7				1.7			
菊池市赤星2	0.0				1.0			
大津町陣内1	0.0				0.0			
大津町陣内2	0.0				0.0			
益城町福原1	3.0				0.0			
益城町福原2	0.0				2.7			
氷川町網道1	0.0		0.0					
氷川町網道2	0.0		0.0					
芦北町宮浦1	0.0		1.0					
芦北町宮浦2	0.3		1.0					
平均	2.0	45.0%	2.1	75.0%				

(キ) イグサシムシガ予察灯誘殺数 (60W白熱灯)

アグリシステム総合研究所

月	半旬	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	平年値	R4
4月	1	0	0	0	3	1	0	0	0	0	1	0.5	0
	2	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0.1	0
	3	0	0	0	13	2	0	3	2	0	0	2.0	1
	4	1	4	0	25	0	0	0	1	0	0	3.1	0
	5	1	3	0	0	0	0	2	0	0	0	0.6	1
	6	5	0	0	2	2	0	0	0	0	0	0.9	0
5月	1	3	0	2	0	3	3	1	0	0	0	1.2	0
	2	2	0	0	1	2	1	0	0	0	0	0.6	3
	3	0	2	1	0	0	1	0	5	1	4	1.4	5
	4	2	3	1	4	0	1	2	5	1	3	2.2	5
	5	4	4	2	2	5	0	12	1	0	3	3.3	14
	6	27	23	1	19	5	0	8	1	7	5	9.6	16
6月	1	48	71	0	7	10	0	5	10	8	5	16.4	6
	2	136	28	0	10	15	3	10	9	6	1	21.8	2
	3	77	43	3	10	2	7	4	3	0	3	15.2	4
	4	49	11	5	6	0	0	5	4	1	2	8.3	11
	5	17	8	4	5	2	5	19	16	5	9	9.0	7
	6	34	64	19	9	0	3	16	9	12	17	18.3	58
7月	1	16	21	2	13	17	3	18	35	10	12	14.7	47
	2	80	76	1	29	4	5	32	42	4	5	27.8	30
	3	0	16	17	30	3	7	15	25	3	8	12.4	24
	4	0	0	19	22	13	6	28	12	8	4	11.2	6
	5	1	0	0	4	27	5	22	7	7	4	7.7	21
	6	0	0	0	9	18	0	14	16	9	2	6.8	10
8月	1	0	10	0	29	3	19	9	5	7	3	8.5	3
	2	7	11	0	6	0	16	8	5	5	3	6.1	4
	3	13	7	0	0	0	7	1	4	5	3	4.0	1
	4	12	3	1	1	0	0	1	10	2	0	3.0	2
	5	12	4	9	0	3	0	0	1	2	0	3.1	3
	6	15	1	7	0	6	3	0	2	0	1	3.5	1
9月	1	15	0	1	0	6	1	0	5	0	0	2.8	16
	2	9	4	0	0	6	0	0	5	1	3	2.8	4
	3	2	6	0	0	1	0	0	3	1	3	1.6	2
	4	0	3	0	0	0	0	0	0	2	1	0.6	5
	5	0	4	0	0	0	0	0	0	8	2	1.4	7
	6	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0.2	4
10月	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0	2
	2	7	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0.9	0
	3	2	1	0	0	1	0	0	0	0	0	0.4	2
	4	0	0	0	0	3	1	0	0	0	0	0.4	0
	5	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0.1	1
	6	0	0	0	0	3	0	0	0	0	0	0.3	0
年計		597	431	96	260	164	99	233	244	115	109	234.8	328

イグサシムシガの予察灯への誘殺状況(アグリシステム総合研究所)



(ク) イグサシムシガ越冬調査結果

(調査日：令和5年3月24日)

No.	市町村名	地点名	調査株数	被害茎数	幼虫数	蛹数	合計	頭数/10 m ² (幼虫+蛹)	茎数/株
1	氷川町	中島	100	0	0	0	0	0.0	82.6
2		鹿野	100	2	0	0	0	0.0	81.0
3		鹿島	100	4	1	1	2	5.6	53.8
4	八代市	両出	100	11	1	2	3	8.4	115.2
5		鏡村	100	4	0	0	0	0.0	88.2
6		北新地	100	9	0	1	1	2.8	97.8
7		古閑出	100	0	0	0	0	0.0	54.2
8		太牟田	100	2	0	0	0	0.0	65.2
9		吉王丸	100	0	0	0	0	0.0	60.4
10		松高	100	26	1	8	9	25.2	32.2
11		三江湖	100	0	0	0	0	0.0	84.4
12	日奈久	100	5	0	0	0	0.0	54.0	
計			1,200	63	3	12	15	3.5	72.4
平年			1,790	51	15	7	22	3.3	

越冬世代の蛹化率および発蛾最盛日

年次	調査日	蛹化率 (%)	発蛾最盛日予測 (実測日)
本年	3月24日	83.3	3月26日 (27日)
前年	3月25日	29.4	4月12日 (13日)
平年	3月26日	30.4	4月14日 (14日)

注) 蛹化率：調査区と調査区外の幼虫、蛹数も含めて算出

予測式：調査日の蛹化率と過去10年間の「調査日の蛹化率係数(傾き)」と「調査日から発蛾最盛日までの日数係数(切片)」を用いた予測式

発蛾最盛日 = 調査日の蛹化率(%) × (-0.3028) + (27.31) + 調査日

実測日：乾式予察灯(地点：八代市千丁、鏡)で3月～4月に誘殺のピークが見られた日

(ア) 水稻害虫

1. 目的

水稻主要害虫の発生動態を調査し、適期防除の推進と情報システム化の資料とする。

2. 方法

1) 調査場所 合志市 生産環境研究所ほ場

2) 耕種概要 中苗機械移植 植栽密度 30cm×18cm 調査圃場面積 1区 240 m²

作 期	品 種	移 植	出穂期
普通期	ヒノヒカリ	6月16日	8月25日

3) 調査方法

払い落とし調査：25×18cmの粘着板に1区20株、2回叩きでウンカ・ヨコバイ類を払い落とし法で調査した。3反復で行った。

[具体的データ]

第1表 ウンカ、ヨコバイ類の発生状況

種類	調査日 移植後日数	7/6 20	7/15 29	7/26 40	8/5 50	8/15 60	8/26 71	9/5 81	9/15 91	9/26 102
トビロウンカ	♂成虫	0	0	0	4	5	3	16	83	43
	♀成虫	0	0	0	1	6	1	30	97	39
	老齢幼虫	0	0	0	0	4	16	163	309	227
	若中齢幼虫	0	1	19	22	65	245	810	1168	2084
	合計	0	1	19	27	80	265	1019	1657	2393
セジロウンカ	♂成虫	1	1	3	7	6	1	3	0	0
	♀成虫	0	1	12	3	8	1	2	0	0
	老齢幼虫	0	2	8	5	9	7	15	1	2
	若中齢幼虫	0	9	42	31	47	19	10	5	12
	合計	1	13	65	46	70	28	30	6	14
ヒメトビウンカ	♂成虫	2	2	1	6	5	1	4	3	3
	♀成虫	11	10	2	13	13	5	19	10	1
	老齢幼虫	0	0	25	36	18	19	34	2	2
	若中齢幼虫	13	146	174	86	104	69	29	22	20
	合計	26	158	202	141	140	94	86	37	26
ツマグロヨコバイ	♂成虫	0	1	2	4	2	0	11	1	2
	♀成虫	1	3	3	12	7	3	15	12	1
	老齢幼虫	1	6	24	31	19	15	48	6	3
	若中齢幼虫	15	45	120	64	48	78	33	31	32
	合計	17	55	149	111	76	96	107	50	38

注：粘着板払い落とし虫数の20株調査3反復合計値

3. 結果の概要・要約

- トビロウンカの水田での発生は、7月15日（移植29日後）に幼虫が初確認された。その後密度が増加し、成虫は9月15日（移植91日後）に1.4頭/株、幼虫は9月26日（移植102日後）に38.5頭/株のピークが認められた。
- セジロウンカの水田での発生は、7月6日（移植20日後）に成虫が初確認された。その後密度が増加し、8月15日（移植60日後）に成虫0.2頭/株、幼虫0.9頭/株のピークが認められた。
- ヒメトビウンカの水田での発生は、7月6日（移植20日後）に成幼虫が初確認された。その後密度が増加し、成虫は9月5日（移植81日後）に0.4頭/株、幼虫は7月26日（移植40日後）に3.3頭/株のピークが認められた。
- ツマグロヨコバイの水田での発生は、7月6日（移植20日後）から発生が認められ、7月26日（移植40日後）に成幼虫数が2.5頭/株と最大となった。

(4) 果樹病虫害発生予察事業 (茶を含む)

ア 病虫害防除所における調査

(ア) 巡回調査

作物名「かんきつ」

調査月	調査対象	そうか病		かいよう病		黒点病	ハダニ類		チャノキイロアザミマ	アブラムシ類
		発病葉率	発病果率	発病葉率	発病果率		寄生葉率	頭／10葉		
4	本年値	0.17	-	-	-	-	0.82	0.11	-	0.33
	平年値	0.06	-	-	-	-	4.80	0.49	-	0.10
5	本年値	1.00	-	0.60	-	-	4.00	0.67	-	0.55
	平年値	0.17	-	0.12	-	-	4.57	0.98	-	0.68
6	本年値	0.17	0.33	5.40	0.60	0.00	13.00	5.60	0.00	0.27
	平年値	0.10	0.05	0.51	0.00	0.03	14.59	7.80	0.04	0.15
7	本年値	0.00	0.17	4.20	1.80	1.18	7.36	2.35	0.64	0.09
	平年値	0.05	0.35	0.78	0.45	0.63	6.02	2.11	0.22	0.37
8	本年値	-	-	3.20	4.20	2.73	2.18	1.04	2.82	-
	平年値	-	-	0.87	0.89	2.16	2.63	0.70	0.44	-
9	本年値	-	-	4.20	4.80	1.82	0.36	0.05	0.91	-
	平年値	-	-	0.40	1.43	2.84	4.10	1.02	0.61	-
10	本年値	-	-	-	-	-	0.55	0.09	-	-
	平年値	-	-	-	-	-	2.81	0.70	-	-
2	本年値	0.00	0.00	3.20	0.00	-	3.55	0.60	-	-
	平年値	0.03	0.00	0.46	0.03	-	4.14	1.13	-	-
3	本年値	0.33	0.00	3.20	0.00	-	6.27	1.01	-	-
	平年値	0.11	0.00	0.48	0.03	-	3.90	1.40	-	-

作物名「なし」

調査月	調査対象	黒星病	赤星病	ハダニ類	アブラムシ類
		発病葉率	発病葉率	寄生梢率	寄生葉率
4	本年値	0.00	0.00	-	0.33
	平年値	0.00	0.03	-	0.53
5	本年値	0.00	1.67	0.00	3.33
	平年値	0.93	0.40	0.00	1.40
6	本年値	0.33	3.00	0.00	0.00
	平年値	1.30	1.20	0.20	1.03
7	本年値	0.33	-	12.33	-
	平年値	2.20	-	2.50	-
8	本年値	0.00	-	3.67	-
	平年値	1.33	-	8.87	-

作物名 「茶」

調査月	調査対象	炭疽病	もち病	網もち病	輪斑病	ハダニ類	スリップス類
	調査項目	病葉/m ²	病葉/m ²	病葉/m ²	病葉/m ²	寄生葉率	寄生葉率
4	本年値	-	-	-	-	13.00	0.25
	平年値	-	-	-	-	5.65	0.48
5	本年値	0.00	0.00	0.00	0.00	8.25	0.25
	平年値	2.38	0.29	0.00	0.05	5.46	1.43
6	本年値	11.38	0.00	0.00	0.00	0.50	0.75
	平年値	2.78	0.07	0.00	0.18	2.40	3.61
7	本年値	5.75	0.00	0.00	3.25	1.25	0.00
	平年値	9.81	0.09	0.00	0.28	0.50	1.63
8	本年値	2.13	0.00	0.00	1.38	2.25	0.25
	平年値	5.55	0.01	0.00	1.90	2.31	1.28
9	本年値	1.00	0.00	0.00	-	1.00	0.00
	平年値	5.34	0.01	0.00	-	3.35	1.13
10	本年値	-	-	-	-	0.00	-
	平年値	-	-	-	-	2.08	-
2	本年値	-	-	-	-	1.75	-
	平年値	-	-	-	-	2.00	-
3	本年値	-	-	-	-	2.25	-
	平年値	-	-	-	-	3.53	-

調査月	調査対象	チャノミドリヒメヨコバイ		ツマク ^ロ アオカスミカメ	チャノホソガ	チャノコカモンハマキ	チャハマキ	クワシロカイ ^ラ ムシ
	調査項目	寄生葉率	被害芽数/m ²	被害芽数/m ²	三角巻数/m ²	葉巻数/m ²	葉巻数/m ²	寄生株率
4	本年値	0.00	1.38	0.00	2.13	4.63	0.13	20.00
	平年値	0.29	0.44	0.94	0.29	0.61	0.38	8.05
5	本年値	1.25	7.63	6.38	0.88	3.00	0.00	14.38
	平年値	0.45	1.40	5.37	0.16	0.29	0.43	5.24
6	本年値	2.00	6.38	6.13	0.25	2.75	0.25	30.63
	平年値	2.85	1.42	2.40	0.32	0.53	0.25	17.23
7	本年値	1.00	1.75	1.13	0.00	0.75	0.00	13.13
	平年値	2.50	3.14	0.91	1.06	1.24	1.29	7.81
8	本年値	0.25	3.13	2.63	0.63	0.00	0.25	11.25
	平年値	1.23	1.49	0.88	0.90	0.93	0.56	7.15
9	本年値	2.50	3.25	-	1.63	0.25	0.13	10.00
	平年値	1.11	2.38	-	3.01	0.48	0.74	1.78
10	本年値	-	-	-	-	-	-	-
	平年値	-	-	-	-	-	-	-
2	本年値	-	-	-	-	-	-	-
	平年値	-	-	-	-	-	-	-
3	本年値	-	-	-	-	-	-	18.75
	平年値	-	-	-	-	-	-	8.75

(イ) 果樹カメムシ類の誘殺状況

チャバネアオカメムシ (合志市・フェロモントラップ)

月	半旬	R4	トラップの誘殺数										H24~R3 平年値
			R3	R2	R1	H30	H29	H28	H27	H26	H25	H24	
4	1	0	1	0	0	1	0	0	3	0	0	0	0
	2	1	0	1	0	0	0	0	1	0	0	0	0
	3	1	0	0	0	1	0	2	0	1	0	0	0
	4	0	0	0	0	1	0	0	3	0	4	1	1
	5	1	4	0	4	8	0	0	1	0	0	10	3
	6	4	1	4	1	0	2	1	3	2	0	0	1
5	1	3	0	76	0	25	1	1	2	0	0	10	11
	2	5	4	39	5	1	5	4	16	7	3	0	8
	3	2	8	73	3	30	1	3	12	16	12	4	16
	4	3	2	117	0	159	0	6	10	8	6	1	31
	5	2	1	36	0	11	1	3	1	2	11	8	7
	6	4	3	84	2	22	0	3	13	14	5	12	16
6	1	9	5	180	5	74	3	2	21	87	14	5	40
	2	11	7	287	6	3	0	8	3	47	25	5	39
	3	17	5	82	2	95	4	13	16	10	48	22	30
	4	24	3	168	4	73	6	10	4	15	68	2	35
	5	15	6	199	4	97	1	6	33	27	21	21	41
	6	30	2	294	3	111	9	2	10	12	7	8	46
7	1	31	1	94	1	204	75	7	3	32	39	37	49
	2	39	1	438	1	108	12	2	17	17	10	5	61
	3	22	1	217	0	149	4	0	30	3	9	2	41
	4	5	0	424	0	297	2	0	6	4	14	4	75
	5	7	1	836	0	87	2	1	18	7	9	1	96
	6	11	0	1,526	0	111	1	0	19	3	3	10	167
8	1	15	2	1,441	0	43	3	1	25	5	8	3	153
	2	7	0	138	0	66	1	1	16	2	9	4	24
	3	0	0	458	1	30	2	1	7	9	3	1	51
	4	0	0	188	2	10	1	1	6	10	4	6	23
	5	3	3	22	1	0	2	0	13	2	2	4	5
	6	2	4	23	3	3	2	0	7	3	2	10	6
9	1	0	2	18	8	3	10	1	6	9	7	3	7
	2	1	1	3	16	0	4	3	4	4	9	2	5
	3	1	2	2	22	0	15	0	2	4	14	2	6
	4	0	1	1	18	3	5	0	2	4	10	1	4
	5	0	0	1	2	1	6	0	6	4	22	1	4
	6	1	1	1	34	1	18	1	1	2	6	0	6
10	1	6	8	5	26	2	54	12	0	2	4	1	11
	2	0	4	0	14	1	23	1	0	2	4	1	5
	3	0	6	2	16	1	18	2	1	0	2	2	5
	4	0	1	0	5	0	0	1	1	1	0	0	1
	5	0	0	1	24	0	3	0	2	4	1	0	3
	6	0	0	0	0	0	1	0	1	0	0	0	0
	合計	283	91	7,469	226	1,831	295	99	345	381	415	209	1,136

チャバネアオカメムシ (天草市・フェロモントラップ)

月	半旬	R4	トラップの誘殺数										H24~R3
			R3	R2	R1	H30	H29	H28	H27	H26	H25	H24	平年値
4	1	-	3	0	-	11	-	-	-	-	-	-	5
	2	-	0	1	-	5	-	-	-	-	-	-	2
	3	-	0	1	-	64	-	-	-	-	-	-	22
	4	-	0	1	-	4	0	-	-	-	6	-	2
	5	-	26	1	45	417	0	-	2	-	1	63	69
	6	-	1	10	0	182	0	51	330	31	4	25	63
5	1	0	0	788	0	13	24	15	245	5	0	25	112
	2	90	23	243	0	136	0	2	28	3	9	78	52
	3	31	6	346	0	1,961	1	5	148	0	18	2	249
	4	11	3	711	0	1,336	0	4	586	6	13	3	266
	5	34	0	630	0	1,376	5	6	135	6	14	4	218
	6	9	0	337	14	837	6	3	248	5	1	7	146
6	1	10	0	431	17	394	6	2	75	12	28	2	97
	2	24	3	2,091	7	608	2	0	57	12	29	26	284
	3	36	0	250	2	91	13	1	340	5	140	28	87
	4	66	1	430	5	313	8	4	32	4	98	42	94
	5	44	0	1,537	7	1,208	24	8	96	8	30	10	293
	6	292	0	1,764	2	2,974	51	5	466	1	74	29	537
7	1	146	2	405	0	2,553	21	15	256	0	223	24	350
	2	343	0	872	2	1,363	5	5	2,331	0	1,151	5	573
	3	93	0	358	0	2,982	2	1	1,361	2	2,164	0	687
	4	76	0	11,839	0	3,361	0	0	809	0	1,336	1	1,735
	5	57	0	2,612	0	2,806	0	0	1,425	0	1,207	0	805
	6	44	0	9,723	0	1,833	9	0	9,231	1	562	0	2,136
8	1	109	0	8,401	0	509	0	0	2,122	0	362	0	1,139
	2	370	1	4,456	0	316	0	4	831	1	494	0	610
	3	306	0	2,144	0	230	0	1	416	2	273	1	307
	4	63	0	1,245	1	22	3	8	303	6	114	3	171
	5	358	0	535	1	15	21	9	232	1	28	7	85
	6	120	1	114	0	15	25	0	149	5	12	3	32
9	1	24	4	18	0	1	10	16	83	6	4	16	16
	2	51	8	12	0	1	51	12	23	10	0	30	15
	3	91	1	14	0	3	15	9	8	5	0	45	10
	4	0	0	2	0	5	5	7	8	1	0	6	3
	5	28	4	10	0	0	19	11	11	9	1	11	8
	6	24	12	3	0	1	79	15	7	13	0	9	14
10	1	26	12	5	1	0	6	20	0	16	0	3	6
	2	1	8	1	0	4	130	14	0	14	0	5	18
	3	2	2	2	0	1	55	1	0	1	0	1	6
	4	0	0	0	0	0	0	7	1	4	0	9	2
	5	7	0	1	17	0	2	0	0	2	0	1	2
	6	0	0	2	2	0	7	1	0	3	0	1	2
	合計	2,986	121	52,346	123	27,951	605	262	22,395	200	8,396	525	11,327

チャバネアオカメムシ (合志市・予察灯)

月	半旬	R4	トラップの誘殺数										H24~R3 平年値
			R3	R2	R1	H30	H29	H28	H27	H26	H25	H24	
4	1	0	0	0	0	1	0	0	1	0	0	0	0
	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	3	2	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0
	4	0	0	0	0	0	1	1	1	0	0	0	0
	5	2	0	0	5	19	0	0	0	0	0	1	3
	6	25	0	0	0	1	2	0	5	0	4	1	1
5	1	0	2	35	2	1	4	3	41	4	1	5	10
	2	9	1	27	5	0	10	8	7	2	13	20	9
	3	7	5	99	12	12	5	9	17	17	17	1	19
	4	0	2	134	5	204	3	2	21	14	2	2	39
	5	1	0	71	0	20	3	2	3	21	20	3	14
	6	0	0	46	2	34	6	3	10	31	11	7	15
6	1	7	2	35	5	26	2	0	12	15	11	4	11
	2	6	5	59	0	65	0	6	2	31	9	6	18
	3	10	3	27	0	9	6	9	8	13	40	9	12
	4	29	2	70	1	18	9	6	4	36	36	28	21
	5	23	2	96	5	62	12	12	21	29	9	4	25
	6	52	0	55	3	47	22	2	8	14	5	9	17
7	1	22	3	30	1	56	33	9	9	10	13	4	17
	2	24	1	66	3	46	5	6	5	15	12	1	16
	3	26	5	34	2	96	10	3		6	12	3	19
	4	14	3	83	2	55	3	7	11	10	9	9	19
	5	13	4	99	1	42	5	1	4	21	8	9	19
	6	48	17	220	4	50	2	2	19	56	51	15	44
8	1	18	6	169	19	178	21	1	13	195	31	96	73
	2	20	11	59	17	39	24	7	21	161	125	37	50
	3	16	11	61	47	55	54	33	15	108	90	72	55
	4	24	11	33	48	68	64	25	70	105	234	104	76
	5	16	60	8	131	44	171	40	50	94	115	438	115
	6	11	27	4	140	28	289	33	43	42	144	182	93
9	1	7	9	16	272	18	90	40	36	43	15	128	67
	2	8	6	11	298	9	74	46	20	72	133	61	73
	3	7	11	10	308	12	105	9	14	30	188	22	71
	4	2	12	1	110	22	159	17	5	13	141	19	50
	5	2	6	4	67	6	113	53	34	38	138	9	47
	6	1	2	3	430	0	435	29	6	12	38	12	97
10	1	2	1	31	216	4	125	52	1	3	28	2	46
	2	0	0	2	94	21	181	15	0	10	46	42	41
	3	1	2	4	25	2	64	2	0	3	5	2	11
	4	0	0	0	25	0	3	8	0	1	2	3	4
	5	0	0	0	23	1	0	0	0	1	0	0	3
	6	0	0	0	2	0	9	0	0	0	0	0	1
合計		455	232	1,702	2,330	1,372	2,124	501	537	1,276	1,756	1,370	1,322

チャバネアオカメムシ (天草市・予察灯)

月	半旬	R4	トラップの誘殺数										H24~R3 平年値
			R3	R2	R1	H30	H29	H28	H27	H26	H25	H24	
4	1	-	7	0	-	0	-	-	-	-	-	-	2
	2	-	0	0	-	5	-	-	-	-	-	-	2
	3	-	0	0	-	58	-	-	-	-	-	-	19
	4	-	0	0	-	4	0	-	-	-	6	6	3
	5	-	3	0	33	650	0	-	0	-	0	4	86
	6	773	0	16	3	46	0	60	221	6	33	11	40
5	1	16	1	782	0	100	74	7	650	3	0	40	166
	2	135	37	2,110	2	112	2	4	99	11	66	79	252
	3	87	24	344	9	3,542	23	17	1,026	0	183	9	518
	4	6	9	2,447	18	2,037	1	1	1,443	9	140	6	611
	5	61	4	1,713	6	1,731	11	4	176	4	148	7	380
	6	11	5	687	12	987	3	0	186	10	137	16	204
6	1	25	4	2,714	31	278	7	0	81	16	76	16	322
	2	35	15	865	5	1,032	1	1	81	15	22	23	206
	3	29	5	972	4	88	2	3	253	4	178	29	154
	4	87	1	643	5	755	6	3	36	4	196	68	172
	5	89	2	1,860	6	1,394	45	10	121	10	31	46	353
	6	331	3	4,464	11	2,974	43	1	496	2	72	55	812
7	1	380	5	6,930	3	3,654	69	11	155	2	362	26	1,122
	2	459	2	7,493	2	1,857	21	0	2,259	1	770	18	1,242
	3	186	9	7,373	5	1,880	10	2	1,027	1	1,043	21	1,137
	4	202	6	30,043	6	2,532	3	1	815	6	1,125	17	3,455
	5	235	31	21,456	11	3,506	5	1	1,811	9	1,546	11	2,839
	6	315	66	11,015	9	2,423	9	0	3,073	11	1,236	13	1,786
8	1	2,852	62	5,897	20	1,080	16	4	1,596	16	565	39	930
	2	3,700	154	2,383	33	579	66	17	943	45	817	74	511
	3	3,375	167	1,128	47	360	62	45	355	101	709	140	311
	4	5,949	1,129	608	361	349	287	78	261	210	390	337	401
	5	2,986	1,924	539	697	226	1,310	167	280	635	200	734	671
	6	1,554	1,363	271	1,070	285	2,127	118	109	931	126	1,090	749
9	1	285	532	125	1,889	87	589	322	62	628	78	1,838	615
	2	564	296	82	2,967	61	1,251	168	45	466	341	1,191	687
	3	816	137	64	1,561	96	496	79	6	120	126	718	340
	4	411	153	23	121	50	1,224	22	13	50	13	210	188
	5	211	192	12	147	21	1,279	38	10	129	37	242	211
	6	154	253	4	468	3	1,398	30	18	55	7	91	233
10	1	138	61	7	1,326	1	994	136	3	56	4	42	263
	2	4	89	4	951	5	1,131	21	0	27	21	14	226
	3	8	46	12	199	0	368	0	0	3	2	0	63
	4	2	0	0	35	0	6	9	0	0	0	5	6
	5	1	0	0	24	0	2	4	0	7	0	6	4
	6	0	0	5	2	0	9	2	0	3	0	8	3
	合計	26,472	6,797	115,091	12,099	34,848	12,950	1,386	17,710	3,606	10,806	7,300	22,294

ツヤアオカメムシ (合志市・フェロモントラップ)

月	半旬	R4	トラップの誘殺数										H24~R3	
			R3	R2	R1	H30	H29	H28	H27	H26	H25	H24	平年値	
4	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	6	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0
5	1	1	0	2	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0
	2	0	0	3	0	0	1	0	1	0	0	0	0	0
	3	1	0	3	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0
	4	0	0	8	0	3	0	0	2	2	0	0	1	1
	5	0	0	2	0	2	1	0	1	0	1	0	1	1
	6	0	0	2	0	3	0	0	1	2	1	0	1	1
6	1	0	0	4	0	0	1	0	2	3	0	0	1	1
	2	1	0	8	0	0	0	0	0	3	1	0	1	1
	3	0	0	1	0	1	0	0	0	1	0	0	0	0
	4	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0
	5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	6	0	0	6	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
7	1	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	3	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	4	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	5	0	0	3	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0
	6	0	0	12	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
8	1	0	0	11	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1
	2	0	0	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	3	0	0	7	1	0	0	0	0	0	0	0	1	1
	4	0	0	2	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	5	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	6	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
9	1	0	0	1	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0
	2	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0
	3	1	0	0	0	1	0	0	2	1	1	0	1	1
	4	0	0	1	0	1	1	0	2	1	1	0	1	1
	5	0	0	4	2	1	1	0	5	2	2	0	2	2
	6	7	0	9	5	2	8	1	4	1	2	0	3	3
10	1	33	2	10	4	4	37	2	1	4	7	4	7	7
	2	1	0	4	4	2	28	1	1	4	4	1	5	5
	3	1	0	4	6	1	10	4	0	2	4	0	3	3
	4	1	0	0	1	0	0	14	0	0	1	0	2	2
	5	1	0	0	25	0	5	1	0	3	5	0	4	4
	6	0	0	0	1	1	0	1	0	0	0	0	0	0
	合計	50	2	109	49	25	92	24	25	30	30	5	39	

ツヤアオカメムシ (天草市・フェロモントラップ)

月	半旬	R4	トラップの誘殺数										H24~R3 平年値
			R3	R2	R1	H30	H29	H28	H27	H26	H25	H24	
4	1	-	0	0	-	2	-	-	-	-	-	-	1
	2	-	0	0	-	11	-	-	-	-	-	-	4
	3	-	0	0	-	2	-	-	-	-	-	-	1
	4	-	0	0	-	0	0	-	-	-	12	-	2
	5	-	0	0	1	58	0	-	0	-	1	7	8
	6	-	1	1	0	23	0	12	55	5	10	8	12
5	1	0	0	88	0	5	4	5	59	14	0	10	19
	2	10	2	81	0	55	0	1	14	6	23	63	25
	3	23	0	23	0	184	1	0	160	12	22	7	41
	4	9	0	194	0	98	1	1	192	14	17	1	52
	5	9	0	112	1	189	10	0	36	9	33	8	40
	6	3	0	68	1	270	3	0	73	1	5	20	44
6	1	1	0	166	0	47	1	0	55	0	2	3	27
	2	0	0	232	0	63	0	0	22	0	11	3	33
	3	1	0	21	0	0	0	0	13	0	4	0	4
	4	2	0	8	1	0	0	0	1	0	6	0	2
	5	0	0	11	0	10	10	0	1	3	2	0	4
	6	3	0	20	0	15	3	0	4	0	0	0	4
7	1	2	0	8	0	23	1	0	1	0	3	0	4
	2	9	0	10	0	17	0	0	11	0	1	1	4
	3	0	0	51	0	57	0	0	5	0	47	0	16
	4	0	0	104	0	76	0	0	8	0	36	0	22
	5	0	0	60	0	45	0	0	27	0	18	0	15
	6	0	0	50	0	32	0	1	412	0	12	0	51
8	1	0	0	90	0	9	0	0	42	0	5	1	15
	2	1	0	31	0	1	0	0	10	0	4	0	5
	3	5	0	14	0	0	0	0	3	0	2	0	2
	4	1	0	4	0	2	0	0	7	0	2	0	2
	5	3	0	3	0	0	0	0	6	0	1	0	1
	6	4	0	4	0	0	0	0	13	0	4	0	2
9	1	1	0	0	0	1	0	0	21	0	1	0	2
	2	7	0	3	0	0	1	0	5	0	1	0	1
	3	41	0	2	0	0	3	1	4	0	0	0	1
	4	0	0	0	0	1	3	12	15	0	0	0	3
	5	30	8	0	0	0	3	21	17	2	1	3	6
	6	66	3	2	2	0	9	5	3	8	0	1	3
10	1	25	3	3	4	2	0	18	0	45	0	4	8
	2	21	4	0	0	2	0	16	1	25	0	6	5
	3	1	1	0	1	0	1	5	0	0	0	3	1
	4	36	0	1	1	0	0	12	0	3	0	3	2
	5	7	0	1	21	0	1	7	0	6	0	1	4
	6	0	0	0	3	0	9	4	0	7	0	1	2
	合計	321	22	1,466	36	1,300	64	121	1,296	160	286	154	497

ツヤアオカメムシ (合志市・予察灯)

月	半旬	R4	トラップの誘殺数										H24~R3 平年値	
			R3	R2	R1	H30	H29	H28	H27	H26	H25	H24		
4	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	4	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0
	5	2	0	0	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	6	25	0	1	0	0	0	0	0	3	0	0	0	0
5	1	0	1	15	3	0	5	1	8	1	0	0	3	
	2	15	3	33	0	4	0	8	3	9	0	0	6	
	3	21	6	27	22	12	4	7	35	30	2	1	15	
	4	5	1	92	54	117	2	3	23	39	5	0	34	
	5	11	1	46	5	16	2	1	3	59	8	1	14	
	6	3	0	20	4	80	6	3	14	27	7	0	16	
6	1	16	2	54	36	25	12	4	26	22	14	9	20	
	2	18	5	93	32	71	0	16	22	42	6	5	29	
	3	15	1	28	2	21	10	7	23	10	27	25	15	
	4	22	0	9	3	33	11	0	10	15	5	2	9	
	5	10	0	17	3	10	7	1	8	7	0	0	5	
	6	55	4	35	2	6	16	1	8	6	2	0	8	
7	1	33	0	17	0	30	20	2	1	8	1	0	8	
	2	12	0	16	0	25	4	2	24	26	1	1	10	
	3	3	2	18	1	33	1	1		7	2	0	7	
	4	1	3	27	1	30	4	2	29	4	0	2	10	
	5	4	13	36	1	27	1	0	12	9	1	0	10	
	6	17	36	35	24	17	13	2	36	84	21	8	28	
8	1	28	9	21	47	116	102	3	14	191	18	50	57	
	2	7	11	25	102	39	35	3	60	28	34	30	37	
	3	6	5	28	163	32	41	10	15	41	12	20	37	
	4	4	3	7	23	32	30	3	30	42	23	14	21	
	5	7	8	6	8	17	16	10	14	39	55	19	19	
	6	7	12	8	13	14	15	7	13	21	19	6	13	
9	1	7	12	7	35	31	16	8	60	42	5	10	23	
	2	7	7	3	107	3	34	7	61	15	17	16	27	
	3	30	11	1	53	69	57	3	71	40	37	9	35	
	4	4	12	2	21	41	176	1	72	14	32	4	38	
	5	11	7	46	21	12	134	62	105	78	191	11	67	
	6	38	18	8	358	10	197	123	35	41	52	4	85	
10	1	33	10	14	251	13	95	68	3	23	66	19	56	
	2	2	6	10	137	68	124	80	6	43	131	17	62	
	3	13	9	7	49	3	32	33	1	4	28	5	17	
	4	6	0	1	66	9	10	36	3	11	9	13	16	
	5	8	0	4	63	1	6	10	2	5	5	0	10	
	6	3	0	0	9	0	1	12	0	0	0	0	2	
合計		509	218	817	1,723	1,067	1,240	540	853	1,083	836	301	869	

ツヤアオカメムシ（天草市・予察灯）

月	半旬	R4	トラップの誘殺数										H24~R3 平年値
			R3	R2	R1	H30	H29	H28	H27	H26	H25	H24	
4	1	-	4	0	-	6	-	-	-	-	-	-	3
	2	-	0	0	-	9	-	-	-	-	-	-	3
	3	-	0	0	-	20	-	-	-	-	-	-	7
	4	-	0	22	-	1	0	-	-	-	72	11	18
	5	-	1	3	109	204	0	-	0	-	0	25	43
	6	203	1	2	41	14	0	19	250	47	42	35	45
5	1	11	0	849	1	234	144	2	139	33	0	48	145
	2	101	9	671	1	286	8	6	173	21	185	58	142
	3	154	2	620	32	728	49	5	1,074	14	236	25	279
	4	20	3	2,668	122	972	10	1	628	145	281	16	485
	5	127	3	778	12	1,043	55	6	102	29	194	35	226
	6	41	0	590	32	926	84	0	296	23	295	75	232
6	1	79	6	1,279	51	355	207	1	109	43	167	57	228
	2	104	5	1,230	11	1,221	21	1	124	41	93	58	281
	3	107	10	873	6	166	47	14	154	15	774	34	209
	4	305	1	200	4	314	8	2	57	12	690	42	133
	5	149	0	312	11	326	41	5	107	11	111	27	95
	6	368	1	544	6	725	73	1	73	8	131	23	159
7	1	241	0	443	3	892	160	4	19	6	162	21	171
	2	243	4	469	2	1,132	61	1	254	4	251	7	219
	3	93	4	537	1	814	8	2	147	4	220	6	174
	4	109	1	348	4	321	10	0	343	3	179	6	122
	5	127	5	73	9	357	9	2	312	12	103	17	90
	6	157	30	83	21	127	14	7	232	42	104	16	68
8	1	1,198	29	36	14	100	25	9	39	267	39	61	62
	2	841	36	46	11	66	104	12	27	152	36	93	58
	3	774	39	30	15	95	75	12	19	272	49	104	71
	4	1,146	106	13	55	185	107	14	11	238	29	68	83
	5	459	146	10	97	48	191	27	12	174	152	94	95
	6	163	184	16	94	104	182	27	19	240	190	80	114
9	1	118	127	8	126	33	154	42	34	104	95	116	84
	2	157	97	9	315	14	712	61	35	150	140	308	184
	3	303	117	19	312	59	936	62	25	165	105	318	212
	4	44	46	6	70	53	2,253	24	69	162	10	82	278
	5	222	58	16	571	30	2,167	119	43	465	39	162	367
	6	233	96	3	1,576	5	2,372	51	5	251	39	88	449
10	1	175	23	3	947	9	2,311	72	3	436	52	72	393
	2	18	37	10	712	24	2,178	51	2	221	69	93	340
	3	27	39	4	199	2	1,008	10	0	22	1	48	133
	4	27	2	3	233	2	48	25	0	15	1	58	39
	5	18	2	0	111	0	9	4	0	120	4	53	30
	6	6	3	1	41	0	86	2	1	56	0	50	24
	合計	8,668	1,277	12,827	5,978	12,022	15,927	703	4,937	4,023	5,340	2,590	6,587

(ウ) 茶害虫のトラップ調査による誘殺状況

チャノホソガフェロモントラップ (農大ほ場)

月	半旬	トラップ誘殺数											H24~R3 平年値
		R4	R3	R2	R1	H30	H29	H28	H27	H26	H25	H24	
4	1	0	0	28	0	1	1	114	35	2	1	3	18.5
	2	0	0	3	1	0	9	22	23	0	0	1	5.9
	3	0	0	1	0	0	0	4	4	1	0	1	1.1
	4	0	1	2	0	0	0	0	0	1	1	0	0.5
	5	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1	0	0.3
	6	0	0	0	0	1	0	0	0	1	0	0	0.2
5	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0
	2	1	22	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2.2
	3	8	156	0	0	0	0	87	50	0	0	0	29.3
	4	20	381	8	0	7	2	358	421	0	0	5	118.2
	5	64	123	81	5	6	19	984	270	2	40	8	153.8
	6	26	26	299	34	7	135	705	462	107	11	13	179.9
6	1	17	5	306	16	10	40	80	77	24	16	5	57.9
	2	23	4	49	14	3	19	21	10	12	18	4	15.4
	3	20	39	10	15	41	11	42	12	5	8	6	18.9
	4	11	111	3	15	34	9	196	20	2	5	1	39.6
	5	43	123	22	12	43	17	398	49	14	15	12	70.5
	6	83	53	32	35	20	48	327	417	38	37	21	102.8
7	1	28	22	42	126	25	197	152	249	159	31	24	102.7
	2	111	9	65	54	10	233	79	363	133	23	23	99.2
	3	86	14	69	23	7	153	150	44	111	15	18	60.4
	4	52	107	34	110	37	37	349	86	36	16	13	82.5
	5	55	51	64	35	22	22	284	173	52	13	53	76.9
	6	28	68	188	11	17	41	141	334	76	2	106	98.4
8	1	11	20	106	3	4	38	15	211	123	1	32	55.3
	2	29	4	66	0	5	13	40	55	74	3	17	27.7
	3	26	13	64	1	0	3	27	49	66	1	18	24.1
	4	10	13	32	3	3	1	53	63	56	3	2	22.9
	5	43	7	32	12	0	3	21	26	342	1	3	44.7
	6	8	9	74	6	1	4	3	315	899	0	5	131.6
9	1	34	18	30	3	0	8	4	348	582	0	13	100.6
	2	89	27	14	4	0	6	4	124	521	5	22	72.7
	3	85	37	32	8	11	22	10	61	68	2	19	27.0
	4	0	37	7	18	10	2	12	97	99	1	9	29.2
	5	26	51	13	3	4	5	5	53	53	4	16	20.7
	6	36	40	16	34	4	7	11	181	88	10	28	41.9
10	1	91	91	40	17	3	10	6	554	59	25	18	82.3
	2	125	115	16	54	8	25	35	506	302	15	4	108.0
	3	87	109	55	9	11	28	52	289	213	12	7	78.5
	4	129	28	51	5	5	44	91	529	583	17	9	136.2
	5	89	7	42	59	7	16	90	352	450	8	8	103.9
	6	41	7	34	64	11	15	119	445	343	3	10	105.1
	合計	1,635	1,948	2,030	809	378	1,243	5,092	7,357	5,698	363	558	2,547.6

チャハマキフェロモントラップ (農大ほ場)

月	半旬	トラップ誘殺数											H24~R3
		R4	R3	R2	R1	H30	H29	H28	H27	H26	H25	H24	平年値
4	1	1	4	9	0	1	3	5	7	5	7	1	4.2
	2	13	6	8	0	0	20	13	18	0	5	4	7.4
	3	29	3	2	0	0	4	14	7	6	1	12	4.9
	4	8	3	11	0	0	5	11	16	9	9	31	9.5
	5	9	0	0	0	0	7	17	9	4	4	9	5.0
	6	3	0	8	0	0	10	6	7	5	6	0	4.2
5	1	11	6	16	0	0	15	0	7	7	2	35	8.8
	2	7	4	9	0	0	7	25	2	6	4	5	6.2
	3	1	1	4	0	0	2	8	6	6	3	2	3.2
	4	1	1	2	0	0	2	6	1	1	7	1	2.1
	5	0	0	1	0	0	0	2	1	1	1	1	0.7
	6	1	0	5	0	0	0	0	0	0	0	1	1
6	1	0	1	1	0	0	4	1	0	0	1	2	1.0
	2	2	3	8	1	0	5	4	7	0	0	2	3.0
	3	3	1	12	0	0	4	9	9	0	1	4	4.0
	4	1	2	5	0	0	8	9	15	0	0	2	4.1
	5	0	0	0	0	0	4	5	18	0	2	3	3.2
	6	0	1	2	0	0	5	0	9	0	0	5	2.2
7	1	1	6	7	0	0	26	6	0	1	1	6	5.3
	2	1	1	1	4	1	12	6	7	0	2	9	4.3
	3	0	1	0	0	0	5	0	4	0	0	4	1.4
	4	0	0	0	0	0	1	2	0	3	0	4	1.0
	5	0	0	0	3	0	1	1	1	1	0	0	0.7
	6	2	0	1	0	0	3	2	0	1	0	0	0.7
8	1	0	2	2	0	0	13	3	0	2	0	5	2.7
	2	0	0	4	0	0	10	1	1	1	3	2	2.3
	3	0	0	1	1	0	6	1	0	2	0	1	1.2
	4	0	0	0	0	0	5	0	0	1	0	0	0.6
	5	0	0	0	0	0	4	0	0	1	0	0	0.5
	6	0	2	0	0	0	0	1	2	2	0	0	0.7
9	1	2	2	3	0	0	3	3	9	1	0	0	2.1
	2	3	3	14	0	0	2	6	4	3	2	2	3.6
	3	5	3	3	0	0	19	11	8	0	1	4	4.9
	4	0	6	4	0	0	2	19	4	2	18	4	5.9
	5	3	11	2	0	0	16	2	1	1	2	1	3.6
	6	2	3	1	0	0	31	22	0	1	3	5	6.6
10	1	9	30	5	1	1	63	22	13	8	13	4	16.0
	2	12	44	8	3	0	27	17	13	15	14	7	14.8
	3	5	40	7	0	0	22	12	14	11	23	9	13.8
	4	6	18	18	0	8	86	16	12	0	20	8	18.6
	5	0	13	10	2	3	29	12	12	5	15	1	10.2
	6	0	2	4	0	4	30	28	17	0	1	3	8.9
	合計	141	223	197	15	18	521	328	261	112	172	199	204.6

チャノコカクモンハマキフェロモントラップ（農大ほ場）

月	半旬	トラップ誘殺数											H24～R3
		R4	R3	R2	R1	H30	H29	H28	H27	H26	H25	H24	平年値
4	1	6	484	7	0	0	3	19	51	0	0	0	56.4
	2	55	38	2	0	0	13	34	40	6	0	0	13.3
	3	104	56	9	0	8	3	41	65	23	0	0	20.5
	4	128	46	24	0	3	19	49	172	21	5	4	34.3
	5	434	52	18	2	1	30	39	25	10	8	0	18.5
	6	100	15	48	0	1	14	29	29	26	3	1	16.6
5	1	41	0	44	0	2	19	8	20	21	3	8	12.5
	2	51	5	13	1	0	7	22	11	11	6	6	8.2
	3	9	8	4	1	0	4	1	7	2	2	1	3.0
	4	7	8	1	0	0	4	4	6	4	1	0	2.8
	5	2	18	0	0	0	6	9	14	0	0	1	4.8
	6	7	50	6	0	1	4	12	12	0	0	1	8.6
6	1	38	36	8	0	1	8	16	105	0	2	1	17.7
	2	249	10	63	1	1	4	16	181	9	3	1	28.9
	3	271	3	65	1	0	3	37	99	15	10	1	23.4
	4	235	4	29	2	0	3	33	116	9	8	3	20.7
	5	53	3	24	1	0	3	7	210	20	7	6	28.1
	6	22	4	3	1	0	3	6	83	6	4	4	11.4
7	1	0	6	4	0	0	15	15	18	11	6	2	7.7
	2	0	2	2	0	0	7	17	33	1	3	2	6.7
	3	14	5	11	0	1	10	32	67	3	0	1	13.0
	4	216	4	271	0	0	24	172	199	11	1	0	68.2
	5	339	0	189	0	0	24	351	72	19	3	2	66.0
	6	65	12	81	1	0	43	51	90	15	7	10	31.0
8	1	5	2	35	0	0	20	4	45	34	7	5	15.2
	2	3	5	19	1	0	0	4	38	9	4	3	8.3
	3	1	6	9	0	0	2	9	14	10	4	5	5.9
	4	11	10	16	0	0	7	23	32	19	3	2	11.2
	5	109	33	57	0	0	9	13	32	23	1	1	16.9
	6	43	137	69	0	0	28	12	510	23	10	4	79.3
9	1	216	48	56	0	0	12	0	299	57	7	9	48.8
	2	76	57	1,328	0	0	28	5	254	55	28	10	176.5
	3	35	62	236	0	1	67	10	427	35	27	3	86.8
	4	0	41	41	1	3	4	8	360	135	23	2	61.8
	5	11	157	16	0	4	41	2	78	27	10	2	33.7
	6	16	290	7	1	0	54	16	85	14	13	17	49.7
10	1	111	292	108	0	3	72	37	27	14	19	8	58.0
	2	349	85	148	3	3	39	80	18	21	12	9	41.8
	3	125	111	182	3	1	31	72	49	20	12	12	49.3
	4	190	90	486	9	5	33	106	26	11	13	14	79.3
	5	321	310	252	13	6	5	25	55	30	20	9	72.5
	6	110	193	946	3	1	94	6	114	5	7	20	138.9
	合計	4,178	2,798	4,936	44	46	819	1,452	4,188	785	302	190	1556.0

チャノキイロアザミウマ黄色粘板（農大ほ場）

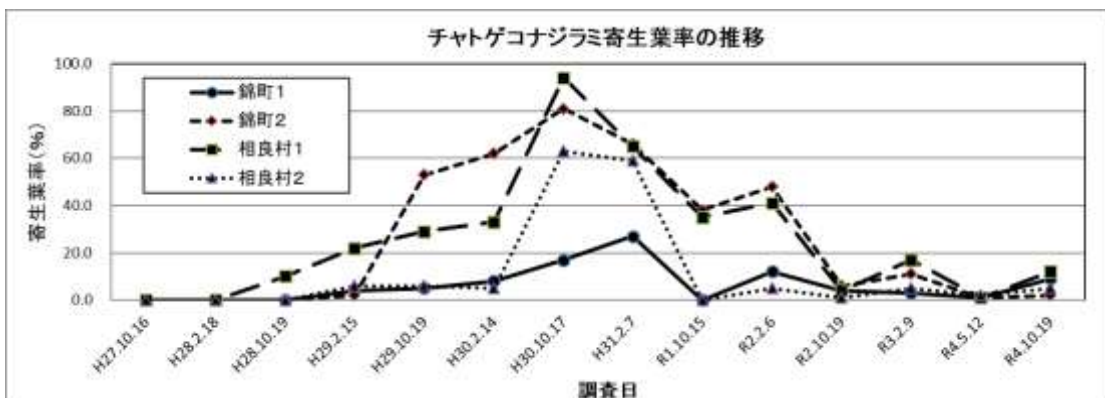
月	半旬	トラップ誘殺数											H24~R3
		R4	R3	R2	R1	H30	H29	H28	H27	H26	H25	H24	平年値
4	1	0	0	0	3	1	1	34	1	2	1	14	5.7
	2	0	0	0	2	0	27	17	1	0	0	20	6.7
	3	0	0	0	0	0	0	5	0	0	0	19	2.4
	4	0	0	0	1	0	10	0	0	0	0	20	3.1
	5	0	5	0	1	0	2	1	0	0	0	8	1.7
	6	0	15	0	0	1	1	1	3	0	1	2	2.4
5	1	0	3	2	0	18	0	0	11	0	2	13	4.9
	2	2	5	2	4	11	1	157	7	12	3	59	26.1
	3	0	18	1	2	1	8	16	6	45	21	25	14.2
	4	0	12	1	15	0	15	12	1	30	38	14	13.8
	5	0	8	1	9	1	18	40	4	26	67	33	20.7
	6	1	0	0	12	0	36	90	36	7	29	211	42.1
6	1	2	11	0	5	1	21	38	86	3	27	54	24.6
	2	19	39	2	6	3	60	52	93	60	68	462	84.5
	3	5	4	15	0	5	62	25	123	56	142	462	89.4
	4	3	1	1	2	3	60	24	127	27	90	96	43.1
	5	3	3	1	18	3	102	6	159	44	46	50	43.2
	6	14	1	16	25	4	179	29	370	47	63	9	74.3
7	1	36	2	15	144	7	140	33	49	71	28	11	50.0
	2	3	5	10	41	3	63	26	86	53	4	14	30.5
	3	17	3	1	11	0	83	34	41	2	4	8	18.7
	4	33	0	2	59	4	57	16	16	7	3	8	17.2
	5	4	0	0	17	5	19	6	4	6	0	16	7.3
	6	13	3	0	10	15	7	8	5	8	1	41	9.8
8	1	7	2	0	10	8	0	1	4	10	0	6	4.1
	2	3	2	0	2	26	0	2	6	4	0	21	6.3
	3	8	12	1	1	11	0	4	2	4	0	14	4.9
	4	52	4	2	8	21	7	6	17	12	0	58	13.5
	5	8	0	0	17	0	7	4	16	8	1	62	11.5
	6	31	8	0	57	38	11	6	74	12	0	37	24.3
9	1	12	12	1	48	54	5	4	11	9	1	166	31.1
	2	10	9	2	5	12	7	2	12	4	0	344	39.7
	3	17	14	5	21	43	9	5	4	1	0	96	19.8
	4	1	21	4	53	60	26	4	6	4	0	11	18.9
	5	12	11	7	10	31	13	6	5	2	0	6	9.1
	6	14	1	0	10	9	12	4	5	2	0	1	4.4
10	1	58	0	4	1	5	5	10	7	1	10	2	4.5
	2	5	4	1	11	10	1	5	11	6	16	0	6.5
	3	1	1	3	5	2	0	8	8	5	6	0	3.8
	4	1	2	0	5	0	2	3	20	4	5	0	4.1
	5	1	1	1	5	1	0	1	25	3	5	0	4.2
	6	0	0	0	1	2	1	1	10	2	0	1	1.8
合計		396	241	100	657	419	1,078	746	1,472	599	682	2,494	848.8

(エ) チャトゲコナジラミ発生状況調査結果

平成28年10月～令和4年10月

調査茶園	調査日	調査葉数	寄生葉数	寄生葉率(%)	寄生頭数	10葉当たり寄生頭数(頭)
錦町1	H28.10.19	100	0	0.0	0	0.0
	H29.2.15	100	4	4.0	12	1.2
	H29.10.19	100	5	5.0	5	0.5
	H30.2.14	100	8	8.0	14	1.4
	H30.10.17	100	17	17.0	34	3.4
	H31.2.7	100	27	27.0	77	7.7
	R1.10.15	100	0	0.0	0	0.0
	R2.2.6	100	12	12.0	26	2.6
	R2.10.19	100	4	4.0	4	0.4
	R3.2.9	100	3	3.0	7	0.7
	R3.10.20	100	2	2.0	2	0.2
	R4.2.9	100	4	4.0	4	0.4
R4.10.19	100	9	9.0	17.0	1.7	
錦町2	H28.10.19	100	0	0.0	0	0.0
	H29.2.15	100	2	2.0	7	0.7
	H29.10.19	100	53	53.0	128	12.8
	H30.2.14	100	62	62.0	151	15.1
	H30.10.17	100	81	81.0	235	23.5
	H31.2.7	100	66	66.0	224	22.4
	R1.10.15	100	38	38.0	72	7.2
	R2.2.6	100	48	48.0	112	11.2
	R2.10.19	100	6	6.0	14	1.4
	R3.2.9	100	11	11.0	15	1.5
	R3.10.20	100	5	5.0	7	0.7
	R4.2.9	100	7	7.0	10	1.0
R4.10.19	100	2	2.0	6.0	0.6	
相良村1	H28.10.19	100	10	10.0	15	1.5
	H29.2.15	100	22	22.0	53	5.3
	H29.10.19	100	29	29.0	75	7.5
	H30.2.14	100	33	33.0	90	9.0
	H30.10.17	100	94	94.0	352	35.2
	H31.2.7	100	65	65.0	288	28.8
	R1.10.15	100	35	35.0	89	8.9
	R2.2.6	100	41	41.0	99	9.9
	R2.10.19	100	4	4.0	8	0.8
	R3.2.9	100	17	17.0	26	2.6
	R3.10.20	100	0	0.0	0	0.0
	R4.2.9	100	0	0.0	0	0.0
R4.10.19	100	12	12.0	22.0	2.2	
相良村2	H28.10.19	100	0	0.0	0	0.0
	H29.2.15	100	6	6.0	17	1.7
	H29.10.19	100	6	6.0	8	0.8
	H30.2.14	100	5	5.0	13	1.3
	H30.10.17	100	63	63.0	243	24.3
	H31.2.7	100	59	59.0	364	36.4
	R1.10.15	100	0	0.0	0	0.0
	R2.2.6	100	5	5.0	11	1.1
	R2.10.19	100	1	1.0	1	0.1
	R3.2.9	100	5	5.0	11	1.1
	R3.10.20	100	1	1.0	1	0.1
	R4.2.9	100	9	9.0	21	2.1
R4.10.19	100	5	5.0	5.0	0.5	

※1ほ場あたり中位の50葉を2か所調査



(ア) 果樹病害虫

1 目的

果樹病害虫の発生予察は、昭和35年から実験事業が開始され、昭和40年から植物防疫法の適用を受けて実施している。果樹病害虫の発生予察情報の作成、予察方法の改善、並びに、新しい予察法作成に必要な資料を得るため調査を行う。

2 方法

所内発生予察ほ場において病害虫の発生推移を調査し、初発日、発病最盛期、発生終期を明らかにし、予察灯およびフェロモントラップにより誘殺消長を把握した。

対象病害虫：カンキツそうか病、カンキツ黒点病、カンキツかいよう病
ミカンハダニ、カメムシ類、ナシヒメシクイ

そうか病および黒点病は所内無防除「興津早生」、かいよう病は所内無防除「川野夏だいたい」を調査した。

3 調査結果

(1) カンキツ病害の初発日

	そうか病		黒点病	かいよう病	
	春葉	果実	果実	春葉	果実
R4	4月18日	5月11日	6月8日	5月1日	6月13日
平年*	4月17日	5月16日	6月4日	5月10日	6月10日

※H24～R3年（10か年）の平均

(2) そうか病

春葉における発生状況の推移

	月 半旬	4						5					
		1	2	3	4	5	6	1	2	3	4	5	6
		無	-	-	-	182	143	168	135	113	79	61	58
少	-	-	-	11	36	53	88	94	114	123	115	114	
多	-	-	-	1	6	4	13	29	45	54	65	66	
調査数	-	-	-	194	185	225	236	236	238	238	238	238	
発病率(%)	-	-	-	6.2	22.7	25.3	42.8	52.1	66.8	74.4	75.6	75.6	
発病度	-	-	-	1.6	7.1	6.5	13.0	20.3	28.5	33.0	37.0	37.3	

	月 半旬	6						7					
		1	2	3	4	5	6	1	2	3	4	5	6
		無	60	60	59	59	57	57	57	57	57	57	57
少	112	112	113	113	113	110	110	109	109	109	109	109	
多	66	66	66	66	68	71	71	72	72	72	72	72	
調査数	238	238	238	238	238	238	238	238	238	238	238	238	
発病率(%)	74.8	74.8	75.2	75.2	76.1	76.1	76.1	76.1	76.1	76.1	76.1	76.1	
発病度	37.1	37.1	37.2	37.2	38.1	39.1	39.1	39.4	39.4	39.4	39.4	39.4	

果実における発生状況の推移

	月 半旬	5						6					
		1	2	3	4	5	6	1	2	3	4	5	6
発病 数	無	-	-	-	37	24	13	10	9	3	3	3	0
	少	-	-	-	10	19	19	20	20	25	23	22	20
	多	-	-	-	3	7	18	20	21	22	24	25	30
調査数	-	-	-	50	50	50	50	50	50	50	50	50	
発病率(%)	-	-	-	26.0	52.0	74.0	80.0	82.0	94.0	94.0	94.0	100.0	
発病度	-	-	-	10.0	21.6	43.6	48.0	50.0	54.0	57.2	58.8	68.0	

	月 半旬	7						8					
		1	2	3	4	5	6	1	2	3	4	5	6
発病 数	無	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	少	19	18	17	17	17	17	17	17	17	17	17	17
	多	31	32	33	33	33	33	33	33	33	33	33	33
調査数	50	50	50	50	50	50	50	50	50	50	50	50	
発病率(%)	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	
発病度	69.6	71.2	72.8	72.8	72.8	72.8	72.8	72.8	72.8	72.8	72.8	72.8	

(3) 黒点病

	月 半旬	5						6					
		1	2	3	4	5	6	1	2	3	4	5	6
発病 数	無	-	-	-	50	50	50	50	46	43	38	29	21
	少	-	-	-	0	0	0	0	4	7	12	21	29
	中	-	-	-	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	多	-	-	-	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	甚	-	-	-	0	0	0	0	0	0	0	0	0
調査数	-	-	-	50	50	50	50	50	50	50	50	50	
発病率(%)	-	-	-	0.0	0.0	0.0	0.0	8.0	14.0	24.0	42.0	58.0	
発病度	-	-	-	0.0	0.0	0.0	0.0	1.1	2.0	3.4	6.0	8.3	

	月 半旬	7						8					
		1	2	3	4	5	6	1	2	3	4	5	6
発病 数	無	11	4	2	1	0	0	0	0	0	0	0	0
	少	39	46	48	48	49	48	47	45	45	44	37	35
	中	0	0	0	1	1	2	3	5	4	5	12	14
	多	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	1	1
	甚	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
調査数	50	50	50	50	50	50	50	50	50	50	50	50	
発病率(%)	78.0	92.0	96.0	98.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	
発病度	11.1	13.1	13.7	14.6	14.9	15.4	16.0	17.1	17.7	18.3	22.3	23.4	

	月 半旬	9					
		1	2	3	4	5	6
発病 数	無	0	0	0	0	0	0
	少	35	33	33	19	18	18
	中	14	16	16	29	30	30
	多	1	1	1	2	2	2
	甚	0	0	0	0	0	0
調査数	50.0	50.0	50.0	50	50	50	
発病率(%)	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	
発病度	23.4	24.6	24.6	33.1	33.7	33.7	

(4) かいよう病

春葉における発生状況の推移

	4						5					
	1	2	3	4	5	6	1	2	3	4	5	6
無	-	-	-	205	234	257	255	252	249	246	243	240
少	-	-	-	0	0	0	1	4	7	8	10	13
発病数 中	-	-	-	0	0	0	0	0	0	2	3	3
多	-	-	-	0	0	0	0	0	0	0	0	0
甚	-	-	-	0	0	0	0	0	0	0	0	0
調査数	-	-	-	205	234	257	256	256	256	256	256	256
発病率(%)	-	-	-	0.0	0.0	0.0	0.4	1.6	2.7	3.9	5.1	6.3
発病度	-	-	-	0.0	0.0	0.0	0.1	0.2	0.4	0.8	1.1	1.2

	6						7					
	1	2	3	4	5	6	1	2	3	4	5	6
無	239	239	236	236	236	236	236	235	234	234	234	233
少	14	13	16	16	16	16	16	16	17	16	16	17
発病数 中	3	3	3	3	3	3	3	4	4	4	4	4
多	0	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
甚	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
調査数	256	256	256	256	256	256	256	256	256	255	255	255
発病率(%)	6.6	6.6	7.8	7.8	7.8	7.8	7.8	8.2	8.6	8.2	8.2	8.6
発病度	1.3	1.5	1.7	1.7	1.7	1.7	1.7	1.8	1.9	1.8	1.8	1.9

	8						9					
	1	2	3	4	5	6	1	2	3	4	5	6
無	233	233	233	233	233	232	232	232	232	232	232	232
少	17	17	17	17	17	18	18	18	18	18	18	18
発病数 中	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4
多	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
甚	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
調査数	255	255	255	255	255	255	255	255	255	255	255	255
発病率(%)	8.6	8.6	8.6	8.6	8.6	9.0	9.0	9.0	9.0	9.0	9.0	9.0
発病度	1.9	1.9	1.9	1.9	1.9	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0

果実における発生状況の推移

	5						6					
	1	2	3	4	5	6	1	2	3	4	5	6
無	-	-	-	50	50	50	50	50	49	48	48	48
少	-	-	-	0	0	0	0	0	1	2	2	2
発病数 中	-	-	-	0	0	0	0	0	0	0	0	0
多	-	-	-	0	0	0	0	0	0	0	0	0
甚	-	-	-	0	0	0	0	0	0	0	0	0
調査数	-	-	-	50	50	50	50	50	50	50	50	50
発病率(%)	-	-	-	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	2.0	4.0	4.0	4.0
発病度	-	-	-	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.3	0.6	0.6	0.6

	7						8					
	1	2	3	4	5	6	1	2	3	4	5	6
無	45	43	39	38	37	37	37	37	37	37	37	36
少	2	4	7	7	7	7	7	7	7	7	7	8
発病数 中	2	1	2	3	4	4	4	4	4	4	4	4
多	0	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
甚	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
調査数	50	50	50	50	50	50	50	50	50	50	50	50
発病率(%)	10.0	14.0	22.0	24.0	26.0	26.0	26.0	26.0	26.0	26.0	26.0	28.0
発病度	4.3	5.4	7.1	8.0	8.9	8.9	8.9	8.9	8.9	8.9	8.9	9.1

	9					
	1	2	3	4	5	6
無	36	36	36	36	36	36
少	7	7	7	7	7	7
発病数 中	5	5	5	5	5	5
多	1	1	1	1	1	1
甚	1	1	1	1	1	1
調査数	50	50	50	50	50	50
発病率(%)	28.0	28.0	28.0	28.0	28.0	28.0
発病度	9.7	9.7	9.7	9.7	9.7	9.7

(5) ミカンハダニ

発生予察ほ場におけるミカンハダニ発生状況

100葉当たり虫数				H23-R3				寄生葉率				H24-R3			
	R4 (甘夏)	R4	R3	平年 (過去10年の平均)		R4 (甘夏)	R4	R3	平年 (過去10年の平均)		R4 (甘夏)	R4	R3	平年 (過去10年の平均)	
4-1	192	21			4-1	59	16								
4-2	226	31			4-2	54	20								
4-3	393	117			4-3	70	49								
4-4	249	109			4-4	71	55								
4-5	294	143	8	21.9	4-5	62	49	6	13.8						
4-6	130	97	11	22.4	4-6	55	40	8	15.6						
5-1	101	62	9	23.5	5-1	42	32	5	14.1						
5-2	155	29	11	23.1	5-2	49	23	7	13.1						
5-3	315	30	12	15.7	5-3	71	18	11	11.5						
5-4	140	0	1	11.8	5-4	55	0	1	8.7						
5-5	688	2	0	7.6	5-5	72	2	0	5.7						
5-6	844	5	0	6.7	5-6	87	2	0	4.9						
6-1	617	0	4	11.1	6-1	77	0	4	8.7						
6-2	1151	9	0	11.2	6-2	86	7	0	8.8						
6-3	1267	3	1	17.4	6-3	90	3	1	11.1						
6-4	848	9	3	16.1	6-4	91	7	3	11.2						
6-5	235	3	3	21.4	6-5	60	2	3	12.1						
6-6	89	1	6	15.9	6-6	32	1	6	8.4						
7-1	65	0	2	14.6	7-1	38	0	2	8.4						
7-2	11	0	8	8.4	7-2	8	0	6	5.5						
7-3	21	1	6	6.3	7-3	15	1	6	5.1						
7-4	1	2	12	15.8	7-4	1	2	10	5.7						
7-5	1	1	1	13.9	7-5	1	1	1	4.9						
7-6	2	3	3	18.5	7-6	2	2	3	6.1						
8-1	3	1	3	47.5	8-1	3	1	3	8.3						
8-2	9	2	4	38.5	8-2	8	2	4	9.2						
8-3	4	13	1	38.4	8-3	4	13	1	8.0						
8-4	5	10	0	40.7	8-4	4	9	0	9.3						
8-5	1	6	0	23.7	8-5	1	6	0	8.3						
8-6	3	14	0	28.0	8-6	3	11	0	8.9						
9-1	6	13	2	31.9	9-1	4	13	2	9.7						
9-2	1	8	2	26.7	9-2	1	6	2	10.0						
9-3	8	6	0	33.3	9-3	5	5	0	12.2						
9-4	0	0	0	16.7	9-4	0	0	0	9.5						
9-5	1	1	2	15.8	9-5	1	1	2	10.1						
9-6	1	2	2	18.1	9-6	1	2	2	11.1						
10-1	0	2	4	14.4	10-1	0	1	4	10.0						
10-2	3	0	2	12.6	10-2	2	0	2	8.1						
10-3	2	0	2	11.8	10-3	2	0	2	7.9						
10-4	11	2	5	7.0	10-4	7	2	5	5.3						
10-5	2	3	7	3.8	10-5	1	1	7	3.0						
10-6	0	0	2	2.9	10-6	0	0	2	2.4						

(6) カメムシ類

予察灯およびフェロモントラップにおけるカメムシ類の誘殺消長

チャバネアオカメムシ (宇城・フェロモントラップ)

月	半旬	トラップの誘殺数											過去 10年
		R4	R3	R2	R1	H30	H29	H28	H27	H26	H25	H24	平年値
4	1	1	3	0		7						0	3
	2	0	6	0		9					0	0	3
	3	16	0	0	0	0	0			0	0	0	0
	4	1	0	1	2	2	48	4		0	0	17	8
	5	2	10	1	11	94	0	3	0	7	1	9	14
	6	84	0	0	12	22	10	15	12	1	0	9	8
5	1	49	0	143	0	8	0	8	9	3	9	2	18
	2	6	7	107	10	6	36	9	59	17	18	2	27
	3	60	6	317	53	49	2	4	93	77	84	2	69
	4	48	25	657	43	360	155	15	196		279	23	195
	5	58	1	634	15	212	34	9	34	36	48	34	106
	6	73	0	262	6	452	28	7	92	71	93	85	110
6	1	1	8	452	21	296	11	0	84	51	39	41	100
	2	1	11	412	29	148	11	3	9	53	34	40	75
	3	1	21	556	41	410	18	10	47	32	30	27	119
	4	0	1	1,316	32	62	18	8	0	19	199	29	168
	5	0	5	417	58	884	55	19	42	25	56	7	157
	6	0	1	1,806	39	407	45	8	111	28	61	9	252
7	1	759	1	392	21	1,094	143	12	24	22	74	14	180
	2	187	0	814	6	856	15	10	68	22	8	16	182
	3	329	2	3,271	0	708	39	4	359		38	6	492
	4	79	1	883	2	935	12	0	167	7	51	3	206
	5	21	1	9,308	0	464	2	0	242	8	35	2	1,006
	6	409	0	8,671	2	394	10	3	178	6	15	7	929
8	1	110	0	14,055	3	40	14	1	228	8	2	5	1,436
	2	219	2	1,529	0	197	3	1	326	9	11	7	209
	3	85	0	1,313	5	160	35	2	249	6	12	13	180
	4	27	0	1,131	3	53	14	1	161	6	3	5	138
	5	11	3	322	1	14	58	2	147	5	21	4	58
	6		2	25	14	4	135	1	32	20	18	4	26
9	1	1	1	28	16	4	3	1	15	15	32	10	13
	2	0	4	7	19	1	23	1	48	35	15	57	21
	3	0	1	14	85	3	70	2	5	0	10	59	25
	4	0	0	6	17	6	16	12	1	6	12	9	9
	5	0	14	2	5	23	20	2	0	6	2	3	8
	6	1	1	1	8	21	34	6	1	3	4	0	8
10	1	5	1	0	137	2	157	38	5	0	28	9	38
	2	1	22	2	76	12	6	13	4	2	2	34	17
	3	1	3	1	228	2	274	10	0	0	0	2	52
	4	0	0	0	15	0	42	6	0	4	1	1	7
	5	0	1	0	13	1	0	2	0	0	0	2	2
	6	0	0	0	1	1	0	15	0		0	2	2
	合計	2,646	165	48,856	1,049	8,423	1,596	267	3,048	610	1,345	610	6,670

ツヤアオカメムシ(宇城・フェロモントラップ)

月	半旬	トラップの誘殺数											過去 10年
		R4	R3	R2	R1	H30	H29	H28	H27	H26	H25	H24	平年値
4	1	0	0	0		3						0	1
	2	0	0	0		35					0	0	7
	3	0	0	1	0	0	0			0	0	0	0
	4	0	0	0	0	6	7	1		0	0	0	2
	5	0	2	3	0	65	0	2	0	1	1	0	7
	6	28	0	1	2	14	2	2	2	0	1	0	2
5	1	94	0	101	0	9	0	0	7	0	6	1	12
	2	11	2	132	10	12	25	9	71	22	5	2	29
	3	49	16	121	44	236	1	12	80	76	45	2	63
	4	49	2	517	37	468	272	15	516		186	11	225
	5	99	0	379	4	142	51	3	134	306	128	22	117
	6	42	0	121	11	352	50	0	205	383	125	33	128
6	1	1	1	209	3	75	48	0	129	197	80	32	77
	2	1	1	139	1	57	11	0	4	96	106	23	44
	3	1	0	17	5	25	2	0	5	26	11	2	9
	4	0	0	11	2	5	6	0	0	14	7	0	5
	5	0	0	1	0	4	0	0	1	1	7	0	1
	6	0	0	12	0	1	0	0	0	4	1	0	2
7	1	3	0	1	0	1	2	0	0	2	0	0	1
	2	0	0	10	0	2	0	0	2	6	0	0	2
	3	0	0	15	0	0	1	0	7		1	0	3
	4	0	0	10	0	7	2	0	2	0	2	0	2
	5	0	0	23	0	2	0	0	0	0	0	0	3
	6	0	0	13	0	3	0	0	0	0	1	0	2
8	1	0	0	30	0	0	0	0	4	0	0	1	4
	2	0	0	15	0	0	0	0	11	0	0	0	3
	3	0	0	14	0	0	0	0	5	0	0	0	2
	4	0	0	10	0	0	0	0	5	0	0	0	2
	5	0	0	3	0	0	0	0	3	0	0	0	1
	6		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
9	1	0	0	1	0	0	0	0	5	0	0	0	1
	2	0	0	1	0	1	3	0	32	2	0	1	4
	3	0	0	6	4	0	9	0	8	0	0	3	3
	4	0	0	1	4	0	18	3	6	1	1	0	3
	5	0	5	2	8	2	17	11	26	17	6	3	10
	6	10	1	0	19	9	22	4	11	1	26	16	11
10	1	18	4	10	105	9	148	26	25	10	0	53	39
	2	4	2	31	167	5	9	21	0	1	0	213	45
	3	3	9	1	296	1	476	23	5	0	0	95	91
	4	6	0	1	169	1	51	554	3	0	10	48	84
	5	0	0	0	79	1	0	123	0	13	2	12	23
	6	0	0	0	38	2	0	72	1		12	45	19
	合計	419	45	1,963	1,008	1,555	1,233	881	1,315	1,179	770	618	1,085

チャバネアオカメムシ(宇城・予察灯)

R2年7月3半旬, 雷で停電し、2日間欠測。 R4. 5月第5, 6半旬, 各一日欠測 (R4. 5/25, 5/26)。

月	半旬	トラップの誘殺数											過去10年
		R4	R3	R2	R1	H30	H29	H28	H27	H26	H25	H24	平年値
4	1	0	0	0		0						0	0
	2	0	0	0		0					0	0	0
	3	2	0	0	0	0	0	1		0	0	0	0
	4	0	0	0	0	2	0	1		0	0	0	0
	5	91	5	0	1	2	0	1	0	0	0	0	1
	6	78	0	1	0	0	0	2	1		0	0	0
5	1	13	1	75	2	0	28	7	4			18	17
	2	26	4	124	6	0	3	2	12			4	19
	3	118	19	58	6	欠測	4	17	66			4	25
	4	10	2	527	44	301	4	3	38		1	3	103
	5	19	4	344	7	52	11	24	10		10	10	52
	6	17	1	109	2	121	3	5	73	3	7	4	33
6	1	11	1	142	12	33	4	4	26	0	43	8	27
	2	15	25	114	10	370	3	2	3	7	10	6	55
	3	15	6	146	0	11	9	8	23	1	20	6	23
	4	74	4	92	15	53	7	2	17	1	25	15	23
	5	49	1	191	12	98	33	9	46	0	124	6	52
	6	149	2	162	7	220	75	8	62	2	34	19	59
7	1	88	8	229	14	253	36	9	16	0	16	22	60
	2	139	3	431	5	134	15	2	337	4	22	1	95
	3	51	3	47	4	106	13	2	237	0	20	8	44
	4	73	2	1,260	13	47	9	3	221	5	16	15	159
	5	125	14	1,214	18	107	8	3	159	6	14	9	155
	6	216	27	2,085	14	197	29	3	429	3	44	17	285
8	1	129	37	964	26	359	36	8	271	31	40	59	183
	2	130	105	781	85	122	181	11	218	21		178	189
	3	117	114	476	207	198	525	21	122	156		325	238
	4	76	662	170	1,940	216	845	85	277	350		947	610
	5	59	824	105	1,530	288	2,689	204	130	547		1,474	866
	6	107	415	148	4,433	197	4,602	156	182	241		929	1,256
9	1	51	306	138	3,864	118	565	848	93	199	22	646	680
	2	29	84	68	2,330	41	1,272	309	69	111	99	857	524
	3	28	98	194	2,263	406	922	203	15	238	55	500	489
	4	3	348	35	628	300	853	47	79	116	17	280	270
	5	81	148	104	1,757	104	1,799	245	160	629	81	355	538
	6	45	152	25	4,468	30	1,822	152	14	425	19	144	725
10	1	17	41	32	2,330	66	533	272	9	166	24	5	348
	2	1	20	10	804	79	2,852	35	9	56	11	5	388
	3	0	25	16	131	1	707	13	8	1	1	1	90
	4	0	0	2	70	0	10	48	5	7	0	1	14
	5	2	0	2	43	0	2	2	0	4	0	0	5
	6	0	0	0	1	0	7	6	0		0	0	2
	合計	2,254	3,511	10,621	27,102	4,632	20,516	2,783	3,441	3,330	775	6,881	8,706

ツヤアオカメムシ(宇城・予察灯)

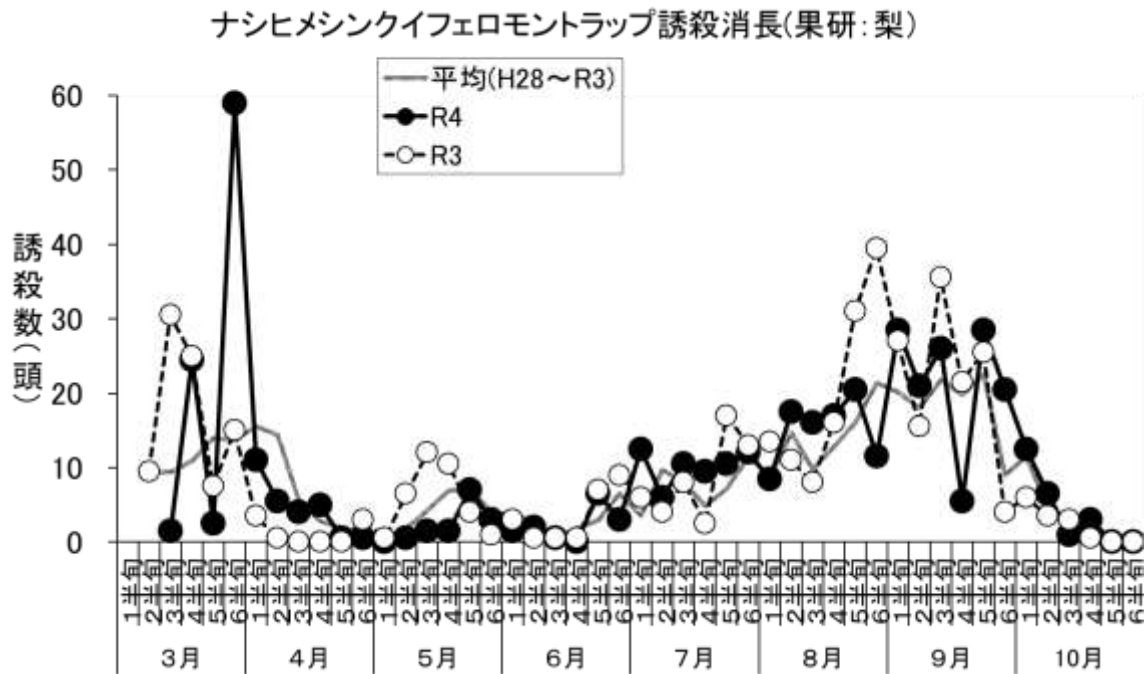
R2年7月3半旬, 雷で停電し、2日間欠測。 R4. 5月第5, 6半旬, 各一日欠測 (R4. 5/25, 5/26)。

月	半旬	トラップの誘殺数											過去 10年
		R4	R3	R2	R1	H30	H29	H28	H27	H26	H25	H24	平年値
4	1	0	0	0		0						0	0
	2	0	0	0		0					0	0	0
	3	1	0	0	0	0	0	1		0	0	0	0
	4	0	0	0	2	0	5	1		0	0	0	1
	5	109	5	1	25	0	5	1	0	1	0	0	4
	6	211	1	0	3	0	1	6	1		0	2	2
5	1	40	0	385	28	0	92	7	5			9	66
	2	81	16	357	33	0	43	51	9			26	67
	3	349	22	278	257	欠測	66	29	192			22	124
	4	61	10	1,851	514	867	15	2	216			19	437
	5	144	0	500	57	185	147	9	104		82	18	122
	6	103	8	219	71	185	44	8	317	47	246	69	121
6	1	131	20	298	283	179	178	3	215	134	297	53	166
	2	217	28	407	61	894	56	22	131	93	123	105	192
	3	58	15	122	40	71	142	31	111	10	345	61	95
	4	206	6	96	39	134	91	2	106	25	153	67	72
	5	48	4	178	5	64	117	4	153	14	299	29	87
	6	134	6	394	48	123	91	6	95	8	62	18	85
7	1	97	3	143	30	169	69	5	46	6	40	33	54
	2	110	4	179	12	56	42	2	444	9	59	8	82
	3	18	4	15	7	42	12	3	477	3	49	13	63
	4	24	2	242	12	58	12	1	475	0	25	9	84
	5	23	11	164	9	59	11	2	141	6	10	9	42
	6	25	42	205	29	68	70	5	345	11	53	36	86
8	1	42	39	42	47	102	58	6	215	48	71	52	68
	2	73	57	133	207	53	200	24	278	25		266	138
	3	33	22	93	169	29	337	19	99	37		322	125
	4	16	24	42	400	31	233	17	175	144		117	131
	5	9	49	22	170	37	319	23	55	145		94	102
	6	11	190	41	263	31	378	10	171	33		110	136
9	1	11	172	15	653	33	126	15	185	34	4	228	147
	2	11	55	9	1,073	18	626	11	191	34	29	844	289
	3	20	80	27	547	342	637	30	136	332	34	444	261
	4	7	75	21	174	166	937	30	263	181	5	128	198
	5	119	46	69	600	53	1,325	248	403	699	46	199	369
	6	125	141	58	2,222	88	2,424	311	88	245	43	247	587
10	1	73	79	56	2,256	114	682	735	57	493	116	69	466
	2	9	88	11	1,074	69	1,728	163	0	150	166	85	353
	3	27	59	21	301	9	600	58	16	2	13	14	109
	4	7	0	1	256	6	291	306	0	34	7	20	92
	5	15	2	1	418	10	54	73	0	34	10	31	63
	6	1	3	1	47	1	79	14	0		2	16	18
	合計	2,799	1,388	6,697	12,442	4,346	12,343	2,294	5,915	3,037	2,389	3,892	5,703

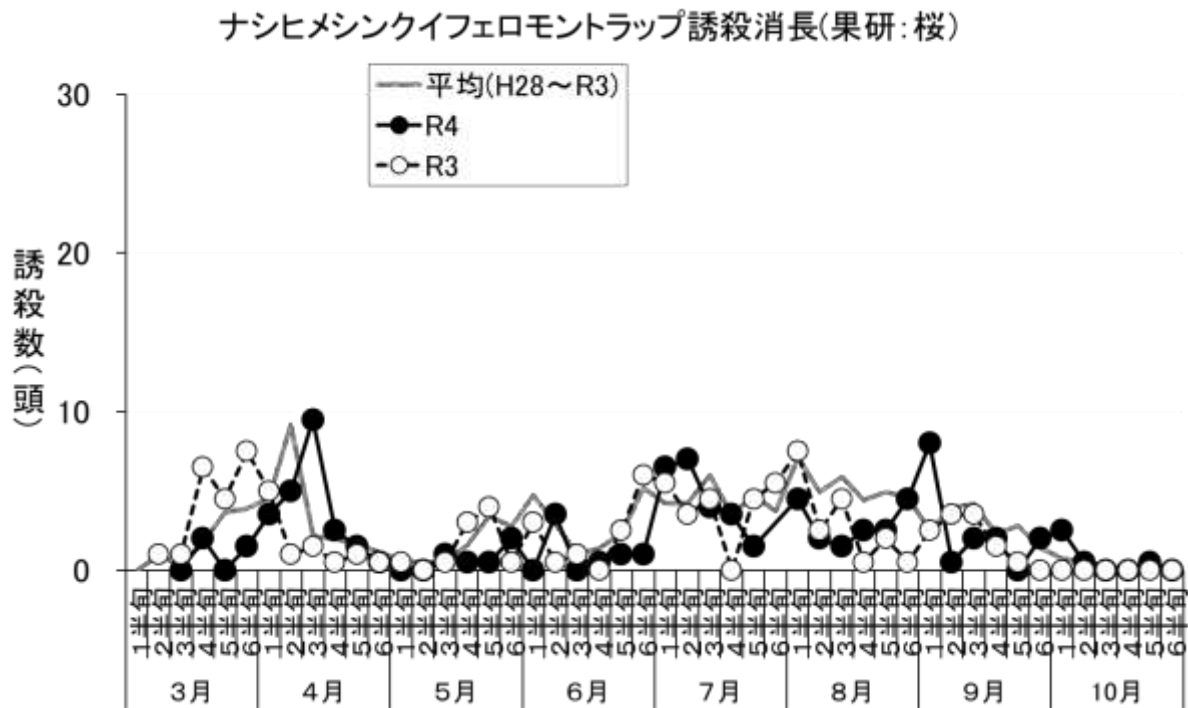
(7) ナシヒメシンクイ

フェロモントラップによるナシヒメシンクイの発生状況

1) 所内ナシ園におけるナシヒメシンクイの季節的消長



2) 所内サクラにおけるナシヒメシンクイの季節的消長



(イ) 茶害虫

茶業研究所

1 目的

植物防疫法の規定に基づき茶病虫害の発生予察情報調査を行い、適切な情報の提供によって適期防除を推進する。

2 試験方法

- ア 調査場所 茶業研究所内ほ場 ‘やぶきた’
- イ 調査期間 3月～11月
- ウ 調査方法 性フェロモントラップ、100葉調査、たたき落とし
- エ 調査対象害虫 チャノコカクモンハマキ、チャハマキ、チャノホソガ、チャノミドリヒメヨコバイ、チャノキイロアザミウマ、カンザワハダニ

3 試験成績

ア チャノコカクモンハマキ

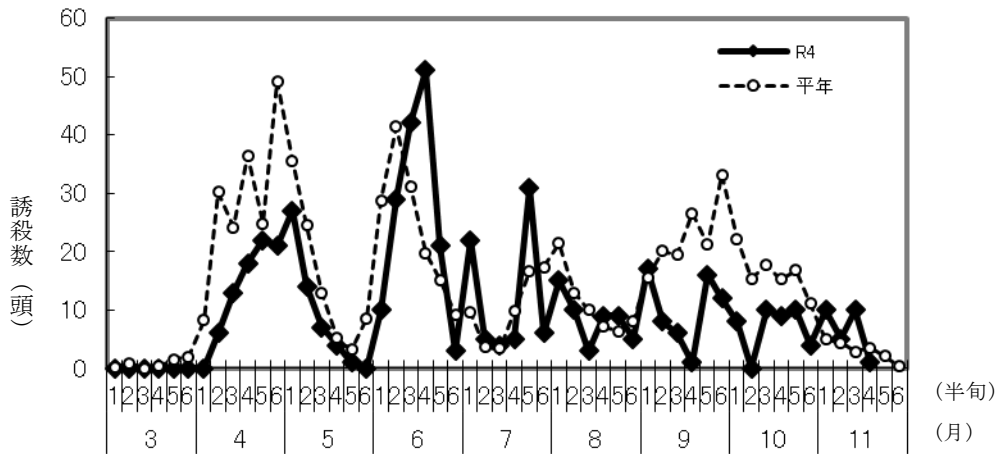


図1 チャノコカクモンハマキ誘殺数 (フェロモントラップ)
注) 平年値は平成24年から令和3年の平均である。以下同様。

イ チャハマキ

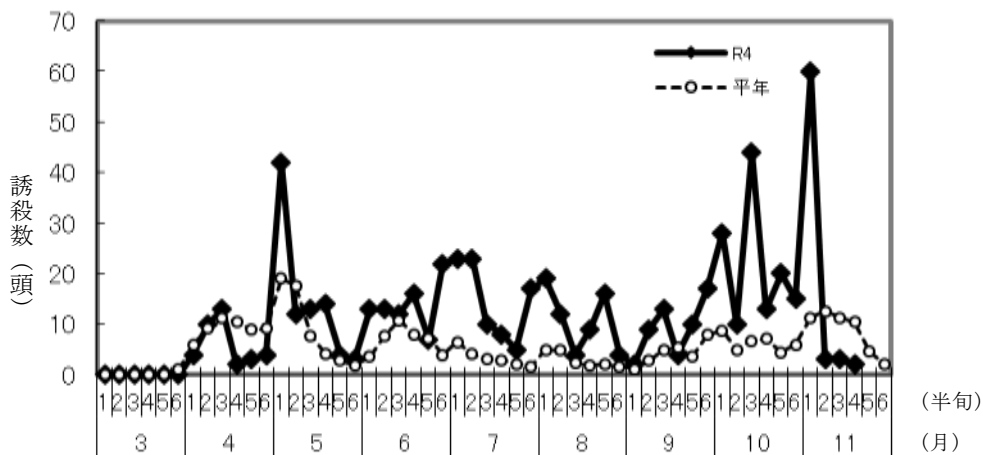


図2 チャハマキ誘殺数 (フェロモントラップ)

ウ チャノホソガ

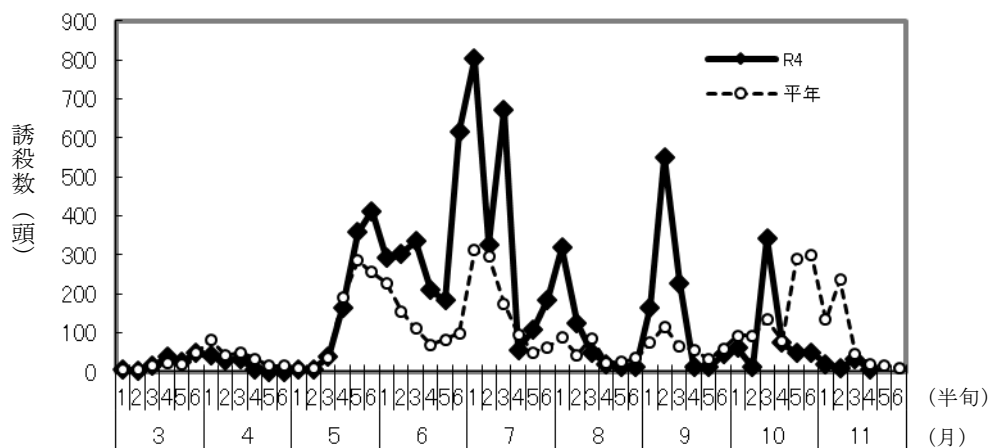


図3 チャノホソガ誘殺数 (フェロモントラップ)

エ チャノミドリヒメヨコバイ

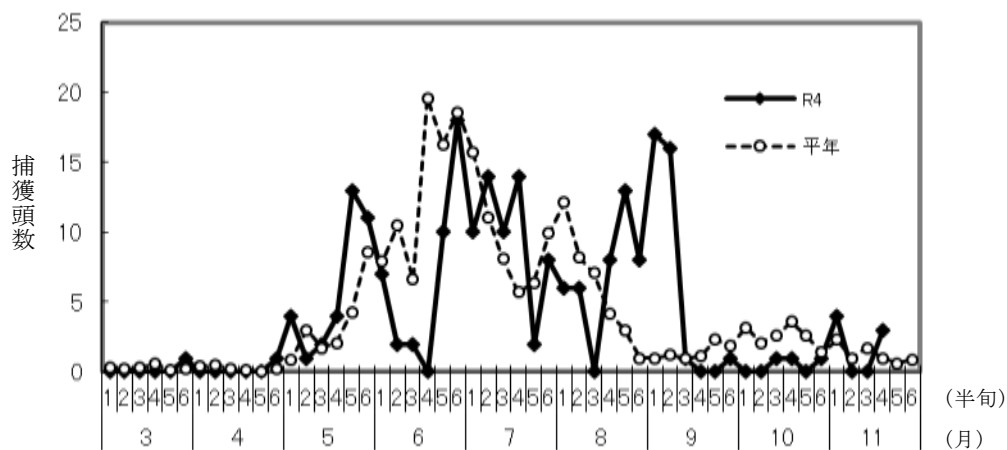


図4 チャノミドリヒメヨコバイ捕獲数 (たたき落とし)

オ チャノキイロアザミウマ

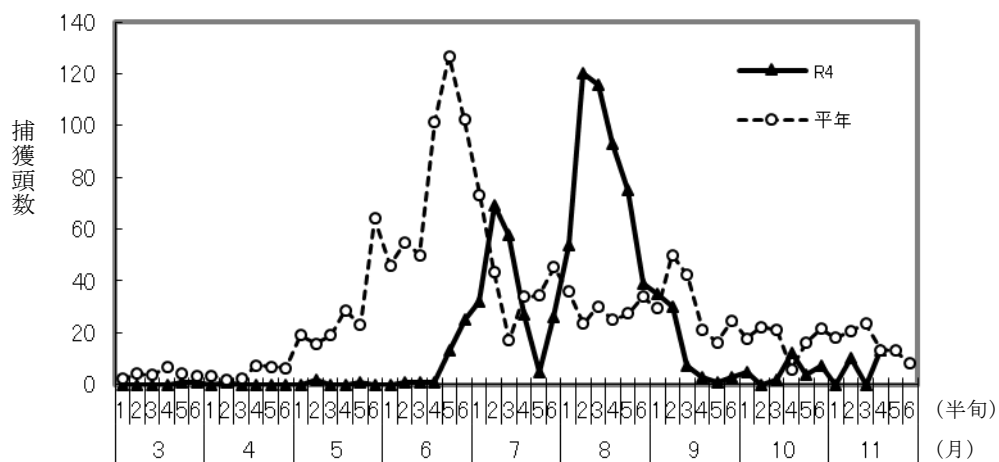


図5 チャノキイロアザミウマ捕獲数 (たたき落とし)

カ カンザワハダニ

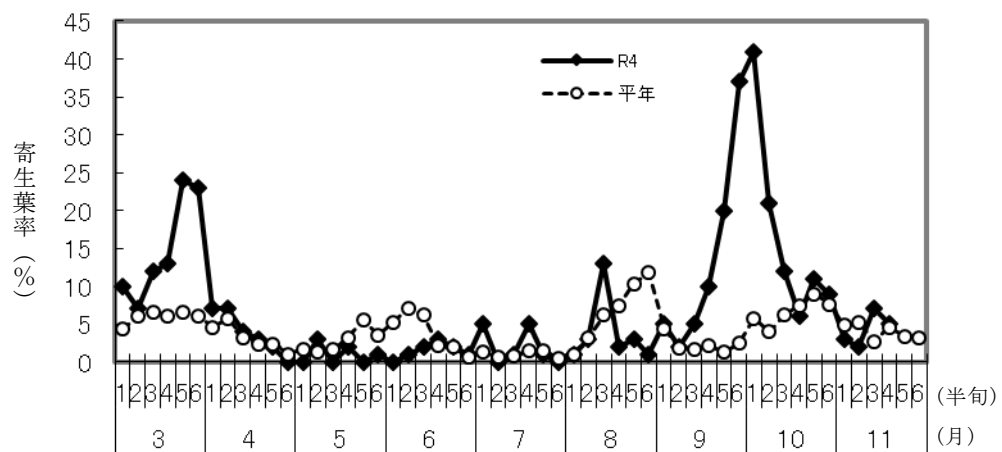


図6 カンザワハダニ寄生葉率 (100 葉)

(5) 野菜・花き病害虫発生予察事業

ア 病害虫防除所における調査

(ア) 巡回調査

作物名「冬春トマト」

調査月	調査対象	疫病		灰色かび病(茎葉)		灰色かび病(果実)		葉かび病	
		発病株率	発病度	発病株率	発病度	発病株率	発病度	発病株率	発病度
4	本年値	0.00	0.00	22.29	5.71	6.57	1.64	0.00	0.00
	平年値	0.29	0.07	11.49	2.94	0.34	0.09	2.17	0.54
9	本年値	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
	平年値	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
10	本年値	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
	平年値	0.06	0.01	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
11	本年値	0.00	0.00	0.57	0.14	0.00	0.00	0.00	0.00
	平年値	0.00	0.00	0.06	0.01	0.00	0.00	0.06	0.01
12	本年値	0.00	0.00	4.29	1.07	0.00	0.00	0.00	0.00
	平年値	0.11	0.03	1.43	0.36	0.00	0.00	0.97	0.24
1	本年値	0.00	0.00	2.57	0.64	0.00	0.00	0.00	0.00
	平年値	0.00	0.00	2.46	0.61	0.11	0.03	2.46	0.61
2	本年値	0.00	0.00	2.00	0.50	0.00	0.00	0.00	0.00
	平年値	0.72	0.18	6.34	1.59	0.14	0.03	3.82	0.95
3	本年値	0.00	0.00	6.86	1.71	0.86	0.21	0.00	0.00
	平年値	0.00	0.00	12.06	3.01	1.54	0.39	4.46	1.31

調査月	調査対象	すすかび病		輪紋病		うどんこ病		アブラムシ類	
		発病株率	発病度	発病株率	発病度	発病株率	発病度	寄生葉率	頭/10葉
4	本年値	0.29	0.07	0.00	0.00	5.71	1.43	0.00	0.00
	平年値	1.71	0.43	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
9	本年値	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
	平年値	0.08	0.02	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
10	本年値	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
	平年値	0.91	0.22	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
11	本年値	0.00	0.00	0.00	0.00	0.29	0.07	0.00	0.00
	平年値	4.35	1.09	0.00	0.00	0.06	0.01	0.00	0.00
12	本年値	0.00	0.00	0.00	0.00	3.14	0.79	0.00	0.00
	平年値	2.63	0.65	0.00	0.00	0.29	0.07	0.00	0.00
1	本年値	0.29	0.07	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
	平年値	1.49	0.37	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
2	本年値	0.00	0.00	0.00	0.00	0.29	0.07	0.00	0.00
	平年値	1.36	0.34	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
3	本年値	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.29	0.03
	平年値	0.23	0.06	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00

(冬春トマト 続き)

調査月	調査対象	コナジラミ類		ハスモンヨトウ (寄生+食害)			オオタバコガ	
		調査項目	寄生葉率	頭/10葉	寄生株率	頭/10葉	被害株率	寄生株率
4	本年値	4.29	0.23	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
	平年値	1.09	0.14	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
9	本年値	2.00	0.20	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
	平年値	2.08	0.22	0.00	0.00	0.10	0.00	0.00
10	本年値	0.71	0.07	0.00	0.00	0.29	0.00	0.00
	平年値	2.23	0.27	0.24	0.04	0.32	0.01	0.00
11	本年値	2.43	0.31	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
	平年値	1.58	0.17	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
12	本年値	2.29	0.27	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
	平年値	0.81	0.09	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
1	本年値	1.86	0.23	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
	平年値	0.17	0.02	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
2	本年値	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
	平年値	0.26	0.03	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
3	本年値	0.71	0.07	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
	平年値	0.34	0.04	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00

調査月	調査対象	ハモグリバエ類		黄化葉巻病
		寄生葉率	頭/10葉	発病株率
4	本年値	0.00	0.00	3.21
	平年値	0.00	0.00	0.84
9	本年値	0.00	0.00	0.00
	平年値	0.00	0.00	0.00
10	本年値	0.00	0.00	0.00
	平年値	0.05	0.01	0.21
11	本年値	0.00	0.00	2.75
	平年値	0.00	0.00	0.83
12	本年値	0.00	0.00	1.50
	平年値	0.00	0.00	1.44
1	本年値	0.00	0.00	2.50
	平年値	0.00	0.00	1.47
2	本年値	0.00	0.00	0.50
	平年値	0.00	0.00	0.68
3	本年値	0.00	0.00	0.50
	平年値	0.00	0.00	0.52

作物名「夏秋トマト」

調査月	調査対象	疫病		灰色かび病(茎葉)		灰色かび病(果実)		葉かび病	
		発病株率	発病度	発病株率	発病度	発病株率	発病度	発病株率	発病度
6	本年値	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	8.33	2.08
	平年値	0.00	0.00	0.67	0.17	0.13	0.03	0.33	0.08
7	本年値	0.00	0.00	4.67	1.17	0.00	0.00	14.33	4.00
	平年値	0.00	0.21	3.61	0.90	4.08	1.02	0.00	0.00
8	本年値	0.00	0.00	6.67	1.67	0.00	0.00	31.00	11.08
	平年値	0.00	0.00	20.92	5.85	0.82	0.20	13.09	3.56
9	本年値	0.00	0.00	0.33	0.08	0.00	0.00	48.33	15.58
	平年値	0.00	0.00	29.57	7.87	0.35	0.09	25.86	11.30

調査月	調査対象	すすかび病		輪紋病		うどんこ病		アブラムシ類	
		発病株率	発病度	発病株率	発病度	発病株率	発病度	寄生葉率	頭/10葉
6	本年値	1.67	0.42	0.00	0.00	6.00	1.50	0.00	0.00
	平年値	0.60	0.15	0.00	0.00	1.40	0.35	0.00	0.00
7	本年値	2.00	0.50	0.00	0.00	10.33	2.58	0.00	0.00
	平年値	3.88	0.97	0.00	0.00	6.39	0.86	0.07	0.01
8	本年値	60.00	16.75	0.67	0.17	29.33	10.42	0.00	0.00
	平年値	43.94	17.84	0.00	0.00	4.27	1.06	0.00	0.07
9	本年値	77.33	25.58	0.00	0.00	21.00	6.50	0.00	0.00
	平年値	67.87	34.73	0.00	0.00	0.34	0.09	0.00	0.00

調査月	調査対象	コナジラミ類		ハスモンヨトウ(寄生+食害)			オオタバコガ	
		寄生葉率	頭/10葉	寄生株率	頭/10葉	被害株率	寄生葉率	頭/10葉
6	本年値	1.17	0.13	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
	平年値	1.20	0.20	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
7	本年値	12.17	1.57	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
	平年値	0.07	0.13	0.01	3.40	0.85	0.00	0.00
8	本年値	12.33	3.03	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
	平年値	10.93	2.05	0.00	0.00	0.00	0.15	0.01
9	本年値	20.00	5.12	1.33	0.53	3.33	0.00	0.00
	平年値	13.50	7.17	0.00	0.00	0.16	0.07	0.01

調査月	調査対象	ハモグリバエ類	
		寄生葉率	頭/10葉
6	本年値	0.00	0.00
	平年値	0.61	0.15
7	本年値	0.33	0.08
	平年値	0.00	0.00
8	本年値	0.67	0.17
	平年値	7.07	2.73
9	本年値	0.00	0.00
	平年値	10.13	4.32

作物名「冬春なす」

調査月	調査対象	うどんこ病		灰色かび病		すすかび病		すす斑病	
		発病株率	発病度	発病株率	発病度	発病株率	発病度	発病株率	発病度
4	本年値	0.80	0.20	1.20	0.30	28.40	7.10	31.20	7.80
	平年値	1.77	0.46	0.61	0.15	49.29	12.90	-	-
10	本年値	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	-	-
	平年値	2.92	0.78	0.60	0.16	51.34	13.32	-	-
11	本年値	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
	平年値	0.08	0.02	0.00	0.00	0.07	0.02	10.40	2.60
12	本年値	0.80	0.20	0.00	0.00	0.00	0.00	22.80	5.70
	平年値	2.07	0.52	0.00	0.00	0.23	0.06	24.40	6.10
1	本年値	0.00	0.00	4.00	1.00	14.80	3.70	32.80	8.30
	平年値	4.40	1.17	0.08	0.02	4.96	1.24	60.40	15.10
2	本年値	0.00	0.00	4.00	1.00	14.80	3.70	32.80	8.30
	平年値	1.53	0.38	0.32	0.08	20.52	5.25	41.20	10.30
3	本年値	0.00	0.00	5.20	1.30	12.40	3.10	37.20	9.30
	平年値	0.39	0.10	0.64	0.16	32.13	9.57	51.20	13.00

調査月	調査対象	ハダニ類		アザミウマ類		コナジラミ類		アブラムシ類	
		寄生葉率	頭/10葉	寄生葉率	頭/10葉	寄生葉率	頭/10葉	寄生葉率	頭/10葉
4	本年値	0.40	0.08	0.00	0.00	4.40	0.60	0.00	0.00
	平年値	0.00	0.00	2.69	0.45	6.76	0.92	0.08	0.01
10	本年値	0.00	0.00	16.80	5.68	42.40	8.80	0.00	0.00
	平年値	0.08	0.01	7.19	1.55	47.81	12.94	0.40	0.05
11	本年値	0.00	0.00	0.80	0.12	22.00	4.88	0.00	0.00
	平年値	0.00	0.00	7.68	2.31	25.53	5.86	0.32	0.05
12	本年値	0.00	0.00	0.00	0.00	10.40	1.76	0.00	0.00
	平年値	0.00	0.00	3.76	0.70	18.40	4.10	0.00	0.00
1	本年値	0.00	0.00	0.00	0.00	10.40	1.76	0.00	0.00
	平年値	0.24	0.04	0.49	0.05	14.41	2.32	0.00	0.00
2	本年値	0.00	0.00	0.00	0.00	5.60	1.28	0.00	0.00
	平年値	0.00	0.00	0.55	0.11	6.36	0.84	0.00	0.00
3	本年値	0.00	0.00	0.00	0.00	8.00	0.96	0.00	0.00
	平年値	0.00	0.00	0.43	0.04	6.17	0.86	0.40	0.09

調査月	調査対象	ハスモンヨトウ		オオタバコガ		ハモグリバエ類	
		寄生株率	頭/10葉	寄生株率	頭/10葉	寄生株率	寄生程度
4	本年値	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
	平年値	0.00	0.00	0.00	0.00	0.80	0.20
10	本年値	0.40	0.04	0.00	0.00	4.80	1.20
	平年値	0.96	0.12	0.00	0.00	0.16	0.06
11	本年値	0.00	0.00	0.00	0.00	7.20	1.80
	平年値	0.16	0.02	0.00	0.00	2.72	0.68
12	本年値	0.00	0.00	0.00	0.00	2.40	0.60
	平年値	0.08	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
1	本年値	0.00	0.00	0.00	0.00	2.40	0.60
	平年値	0.08	0.00	0.00	0.00	0.08	0.02
2	本年値	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
	平年値	0.00	0.00	0.00	0.00	0.59	0.15
3	本年値	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
	平年値	0.00	0.00	0.00	0.00	1.48	0.37

作物名「冬春きゅうり」

調査月	調査対象	うどんこ病		灰色かび病		べと病		斑点細菌病	
		発病葉率	発病度	発病株率	発病度	発病葉率	発病度	発病葉率	発病度
4	本年値	14.67	3.75	1.33	0.33	25.00	6.33	0.00	0.00
	平年値	28.04	7.45	0.74	0.19	23.55	7.12	0.00	0.00
5	本年値	27.60	6.90	6.80	1.70	30.80	7.90	0.00	0.00
	平年値	26.93	7.35	0.60	0.15	17.03	4.36	0.00	0.00
6	本年値	35.00	8.75	8.00	2.00	11.00	2.75	0.00	0.00
	平年値	23.67	6.41	1.00	0.25	11.70	2.95	0.00	0.00
11	本年値	3.50	0.88	0.00	0.00	1.50	0.38	0.00	0.00
	平年値	1.76	0.44	0.20	0.05	5.81	1.45	0.00	0.00
12	本年値	7.20	1.80	10.80	2.70	20.80	7.40	0.00	0.00
	平年値	5.85	1.46	0.10	0.03	7.07	1.77	0.00	0.00
1	本年値	5.33	1.33	3.33	0.83	13.33	3.33	0.00	0.00
	平年値	11.67	3.42	0.20	0.05	3.93	0.98	0.00	0.00
2	本年値	5.33	1.33	4.67	1.17	4.67	1.17	0.00	0.00
	平年値	11.09	2.93	0.27	0.07	4.93	1.28	0.00	0.00
3	本年値	3.33	0.83	4.33	1.08	16.67	4.33	0.00	0.00
	平年値	11.19	2.90	0.45	0.11	7.83	1.97	0.00	0.00

調査月	調査対象	菌核病		炭疽病		褐斑病		アブラムシ類	
		発病株率	発病度	発病葉率	発病度	発病葉率	発病度	寄生葉率	頭/10葉
4	本年値	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	1.00	0.50
	平年値	0.08	0.02	0.00	0.00	0.00	0.00	0.08	0.01
5	本年値	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
	平年値	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.13	0.08
6	本年値	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
	平年値	0.00	0.00	0.00	0.00	0.13	0.03	0.20	0.15
11	本年値	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
	平年値	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
12	本年値	0.00	0.00	0.00	0.00	0.40	0.10	0.00	0.00
	平年値	0.10	0.03	0.00	0.00	0.00	0.00	0.07	0.13
11	本年値	4.67	1.17	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
	平年値	0.27	0.07	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
2	本年値	5.33	1.33	0.33	0.08	0.00	0.00	0.00	0.00
	平年値	0.53	0.13	0.00	0.00	0.00	0.00	0.07	0.01
3	本年値	3.33	0.83	0.00	0.00	0.00	0.00	0.33	0.03
	平年値	0.93	0.23	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00

(冬春きゅうり 続き)

調査月	調査対象	コナジラミ類		アザミウマ類		黄化えそ病	退緑黄化病
		寄生葉率	頭/10葉	寄生葉率	頭/10葉	発病株率	発病株率
4	本年値	0.67	0.07	3.00	0.50	0.33	12.33
	平年値	1.28	0.17	1.92	0.69	0.19	8.00
5	本年値	8.40	1.12	14.00	2.60	0.00	16.00
	平年値	5.10	1.38	0.83	0.11	0.72	13.84
6	本年値	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	15.00
	平年値	8.43	1.61	2.20	0.42	0.20	21.88
11	本年値	5.00	0.50	0.00	0.00	0.00	7.00
	平年値	3.01	0.31	0.58	0.07	0.17	12.90
12	本年値	0.40	0.04	0.00	0.00	0.40	8.20
	平年値	3.79	0.61	0.10	0.01	0.60	12.62
1	本年値	0.33	0.03	0.00	0.00	0.00	9.33
	平年値	2.40	0.37	0.00	0.00	3.00	11.26
2	本年値	0.67	0.07	0.33	0.03	0.33	8.33
	平年値	4.13	0.87	1.13	0.23	3.49	16.43
3	本年値	0.00	0.00	2.00	0.23	0.00	8.17
	平年値	0.69	0.07	1.37	0.26	0.12	8.38

作物名「冬春いちご」

調査月	調査対象	灰色かび病 (葉)	灰色かび病 (果実)	うどんこ病 (葉)	うどんこ病 (果実)	炭疽病
		発病葉率	発病葉率	発病葉率	発病株率	発病葉率
4	本年値	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
	平年値	0.00	0.00	0.07	2.27	0.00
10	本年値	0.00	0.00	-	0.00	-
	平年値	0.00	-	-	0.00	-
11	本年値	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
	平年値	0.07	0.00	0.00	0.00	0.00
12	本年値	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
	平年値	0.00	0.00	0.07	0.00	0.00
1	本年値	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
	平年値	0.00	0.13	0.00	0.00	0.00
2	本年値	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
	平年値	0.00	0.20	0.00	0.00	0.00
3	本年値	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
	平年値	0.00	0.13	0.00	0.13	0.00

(冬春いちご 続き)

調査月	調査対象	ハダニ類		アブラムシ類		アザミウマ類		ハスモンヨトウ	
		寄生葉率	頭/10葉	寄生葉率	頭/10葉	寄生葉率	頭/10葉	寄生葉率	頭/10葉
4	本年値	27.67	83.80	1.00	0.37	35.00	18.50	0.00	0.00
	平年値	22.47	39.13	0.27	0.04	17.53	4.15	0.00	0.00
10	本年値	0.00	0.00	2.33	0.27	1.33	0.23	9.00	1.10
	平年値	5.60	2.01	1.00	0.15	-	-	5.40	0.64
11	本年値	3.33	5.07	4.00	0.77	17.67	4.43	0.33	0.07
	平年値	4.00	1.74	0.67	0.24	3.40	0.40	1.53	0.17
12	本年値	3.33	1.27	1.00	0.17	4.00	0.43	0.67	0.10
	平年値	4.93	2.31	1.33	0.16	12.87	2.46	0.20	0.02
1	本年値	8.33	15.77	4.67	1.73	12.00	1.57	0.67	0.07
	平年値	8.60	8.44	1.40	0.34	11.80	2.17	0.07	0.01
2	本年値	10.00	10.47	3.33	0.47	14.00	1.87	0.00	0.00
	平年値	13.00	15.30	0.73	0.10	10.07	2.03	0.00	0.00
3	本年値	15.33	61.23	0.67	0.13	26.67	5.70	5.70	0.00
	平年値	19.07	27.97	1.20	0.21	17.53	5.96	0.00	0.00

作物名「冬春いちご（親株・育苗床）」

調査月	調査対象	炭疽病	うどんこ病	ハダニ類		アブラムシ類		ハスモンヨトウ	
		発病葉率	発病株率	寄生葉率	頭/10葉	寄生葉率	頭/10葉	寄生葉率	頭/10葉
5	本年値	0.00	0.00	7.33	1.40	7.00	6.63	0.00	0.00
	平年値	0.00	3.13	14.13	7.46	6.13	1.23	0.00	0.00
6	本年値	0.00	0.00	31.67	8.37	1.67	0.30	0.00	0.00
	平年値	0.00	1.87	8.47	1.84	1.13	0.44	0.00	0.00
7	本年値	0.00	1.00	13.67	4.40	3.00	0.70	0.00	0.00
	平年値	0.00	0.27	16.47	5.69	2.47	0.45	0.00	0.00
8	本年値	0.00	0.00	17.33	11.10	17.33	25.70	2.67	0.27
	平年値	0.00	0.13	8.47	2.35	1.80	0.51	0.20	0.02
9	本年値	0.00	0.00	0.00	0.00	1.67	0.23	0.67	2.70
	平年値	0.00	0.00	6.00	4.65	2.33	0.38	0.47	0.05

作物名「冬レタス」

調査月	調査対象	萎黄病	菌核病	軟腐病	灰色かび病	斑点細菌病	腐敗病
	調査項目	発病株率	発病株率	発病株率	発病株率	発病株率	発病株率
11	本年値	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
	平年値	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
12	本年値	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
	平年値	0.00	0.40	0.00	0.13	0.00	0.00
1	本年値	0.00	0.00	0.00	0.67	0.00	1.00
	平年値	0.13	0.53	0.07	0.67	1.20	0.67

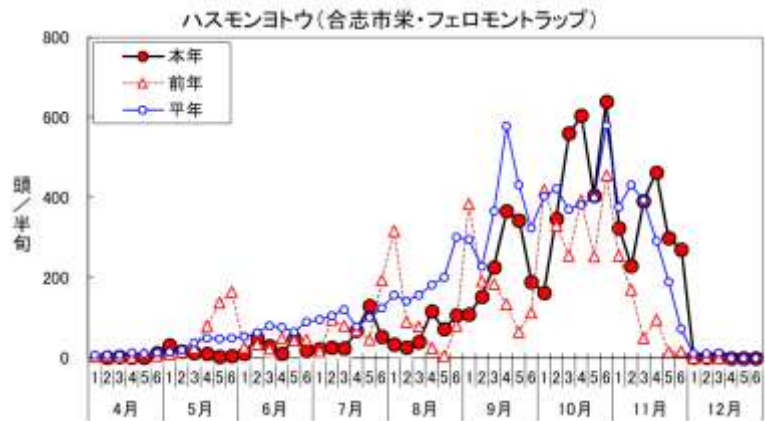
調査月	調査対象	アブラムシ類		ヨトウムシ類		オオタバコガ		ネキリムシ類	
		寄生株率	頭/10株	寄生株率	頭/10株	寄生株率	頭/10株	寄生株率	頭/10株
11	本年値	4.00	0.43	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
	平年値	0.47	0.05	0.53	0.09	0.00	0.00	0.00	0.00
12	本年値	0.67	0.07	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
	平年値	0.07	0.01	0.13	0.01	0.00	0.00	0.00	0.00
1	本年値	0.33	0.03	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
	平年値	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00

(イ) 野菜害虫のフェロモントラップによる誘殺状況

ハスモンヨトウの誘殺消長(フェロモントラップ) 合志市栄

月	半旬	本年	平年	前年	R2	R1	H30	H29	H28	H27	H26	H25	H24
4月	1		8.2	4.0	0.0	0.0	0.0	3.0	6.0	50.0	7.0	9.0	3.0
	2	2.0	7.4	5.0	1.3	3.0	0.0	8.0	11.0	38.0	2.0	3.0	3.0
	3	4.5	8.2	4.0	1.6	1.0	1.0	8.0	18.0	29.0	9.0	5.0	5.0
	4	1.5	13.4	2.0	5.9	6.0	0.0	9.0	5.0	31.0	49.0	15.0	11.0
	5	2.0	11.5	12.0	6.6	13.0	1.0	8.0	30.0	4.0	13.0	5.0	22.0
	6	12.7	12.9	5.8	3.3	14.0	0.0	11.0	13.0	15.0	32.0	11.0	24.0
5月	1	33.3	14.5	9.2	11.5	14.0	0.0	11.0	31.0	16.0	16.0	18.0	18.0
	2	18.0	20.5	15.0	20.3	6.0	18.0	10.0	57.0	20.0	30.0	22.0	7.0
	3	14.0	38.8	25.7	37.3	36.0	74.0	29.0	85.0	8.0	56.0	26.0	11.0
	4	10.7	49.1	81.3	23.6	61.0	81.0	22.0	72.0	37.0	80.0	21.0	12.0
	5	4.3	47.1	139.0	17.1	16.0	85.0	32.0	48.0	46.0	29.0	28.0	31.0
	6	6.0	49.0	166.0	15.0	38.6	48.0	40.0	32.0	38.0	29.0	46.0	37.0
6月	1	11.5	53.9	27.0	8.7	30.3	53.0	38.0	64.0	117.0	92.0	83.0	26.0
	2	50.2	63.1	35.0	37.4	138.0	43.0	31.0	71.0	135.0	51.0	59.0	31.0
	3	29.8	81.0	22.0	149.1	145.0	45.0	51.0	61.0	184.0	62.0	33.0	58.0
	4	10.5	77.5	49.0	93.0	75.0	35.0	49.0	129.0	103.0	60.0	129.0	53.0
	5	49.0	66.1	44.7	116.0	63.0	44.0	45.0	103.0	40.0	65.0	101.0	39.0
	6	20.0	89.8	46.3	228.1	92.0	35.0	20.0	90.0	154.0	108.0	84.0	41.0
7月	1	23.0	96.3	17.0	279.1	72.6	169.0	58.0	38.0	79.0	71.0	143.0	36.0
	2	26.0	105.8	95.3	220.0	26.3	100.0	76.0	140.0	62.0	66.0	194.0	78.0
	3	25.3	120.9	81.0	149.0	31.0	26.0	86.0	302.0	110.0	176.0	116.0	132.0
	4	68.8	78.3	68.9	15.5	10.0	43.0	102.0	89.0	142.0	94.0	141.0	78.0
	5	131.0	102.2	45.8	95.3	51.3	197.0	130.0	93.0	136.0	77.0	137.0	60.0
	6	54.0	124.9	193.7	49.2	42.0	278.0	156.0	75.0	86.0	165.0	163.0	41.0
8月	1	34.3	156.6	316.3	56.0	82.5	157.0	118.0	185.0	145.0	175.0	126.0	205.0
	2	27.2	141.9	90.0	83.2	174.5	80.0	98.0	188.0	215.0	200.0	137.0	153.0
	3	40.5	156.6	79.0	82.4	138.3	122.0	221.0	175.0	271.0	138.0	226.0	113.0
	4	116.7	182.3	25.3	162.7	182.0	389.0	158.0	197.0	126.0	103.0	304.0	176.0
	5	72.8	202.5	5.7	233.1	116.0	54.7	175.0	372.0		239.0	317.0	310.0
	6	107.5	301.8	81.0	264.9	179.7	180.3	414.0	596.0		221.0	436.0	343.0
9月	1	109.0	295.4	385.0	0.0	188.3	366.0	217.0		568.0	186.0	616.0	132.0
	2	154.3	229.2	193.0	328.0	87.5	291.0	83.0	289.0	457.0	226.0	206.0	131.0
	3	227.7	367.0	184.0	458.9	308.8	106.0	187.0	335.0	497.0	203.0	1011.0	379.0
	4	367.0	579.6	134.0	742.0	505.3	393.0	420.0	683.0	347.0	238.0	1454.0	880.0
	5	345.0	432.9	65.3	786.0	395.0	630.0	161.0	453.0	271.0	277.0	461.0	830.0
	6	190.7	325.7	113.7	644.0	199.0	320.0	459.0	319.0	160.0	249.0	485.0	308.0
10月	1	162.3	404.2	419.0	303.0	208.1	545.0	767.0	213.0	430.0	311.0	217.0	629.0
	2	348.0	423.8	331.0	850.0	221.5	161.0	166.0	1231.0	332.0	380.0	326.0	239.0
	3	561.3	371.7	256.5	335.0	337.0	483.0	247.0	629.0	355.0	304.0	397.0	373.0
	4	604.7	382.5	394.5	349.0	209.0	307.0	483.0	463.0	352.0	442.0	353.0	472.0
	5	406.0	400.0	254.0	198.0	412.3	399.0	354.0	744.0	373.0	542.0	482.0	242.0
	6	640.0	581.3	456.0	373.6	1051.7	313.0	266.0	1161.0	520.0	542.0	725.0	405.0
11月	1	324.7	377.4	254.7	119.3	695.0	178.0	254.0	340.0	650.0	262.0	929.0	92.0
	2	230.3	432.5	171.3	178.0	712.0	255.0	163.0	499.0	512.0	454.0	1184.0	197.0
	3	393.0	394.9	50.0	154.0	555.7	345.0	299.0	641.0	1258.0	197.0	323.0	126.0
	4	464.0	292.5	96.0	264.0	219.3	98.0	13.0	711.0	1220.0	33.0	122.0	149.0
	5	300.0	189.5	16.0	66.0	200.0	45.0	0.0	431.0	862.0	149.0	69.0	57.0
	6	271.0	73.4	17.0	0.0	287.0			10.0	85.0	17.0	227.0	12.0
12月	1	1.0	12.0	0.0	0.0					66.0	0.0	1.0	5.0
	2	2.0	11.8	1.0	0.0					68.0	0.0	1.0	1.0
	3	3.0	13.8	0.0	0.0					81.0	1.0	0.0	1.0
	4	0.0	0.4	1.0	0.0						0.0	0.0	1.0
	5	0.0	0.0		0.0						0.0	0.0	0.0
	6	0.0	0.0		0.0						0.0	0.0	0.0

※平年値は過去10か年平均とする。



ハスモンヨトウの誘殺消長(フェロモントラップ) 八代市鏡

月	半旬	本年	平年	前年	R2	R1	H30	H29	H28	H27	H26	H25	H24
4月	1												
	2		56.7							56.7			
	3		45.0							45.0			
	4	3.2	12.1							29.3	6.0	1.0	
	5	3.2	10.1					12.1		17.7	7.4	3.1	
	6	8.8	22.2	30.8	32.8	32.8	27.0	23.1		10.0	7.1	10.6	26.0
5月	1	12.5	40.9	43.8	41.0	41.0	150.3	21.6	45.6	15.0	13.6	6.8	30.0
	2	12.5	55.4	45.3	52.4	52.4	210.4	18.8	80.3	17.5	32.0	12.5	32.3
	3	4.8	64.8	69.4	61.0	61.0	170.0	37.1	96.1	29.5	60.7	25.0	38.1
	4	2.0	83.2	105.0	65.0	65.0	162.4	52.4	122.7	63.0	160.6	15.0	20.8
	5	0.7	55.0	98.6	63.4	63.4	55.0	32.9	62.1	68.1	67.0	18.7	21.3
	6	22.3	58.0	158.9	72.3	72.3	32.0	15.4	38.6	62.1	62.1	31.4	34.8
6月	1	34.4	53.6	102.2	57.5	57.5	38.5	31.4	49.9	81.6	53.7	32.9	31.3
	2	22.1	100.1	34.9	261.5	261.5	34.0	59.3	58.3	138.6	62.9	44.3	45.5
	3	11.3	105.7	47.9	201.9	201.9	47.5	82.7	64.3	209.3	54.3	67.0	80.0
	4	56.4	106.3	22.7	155.4	155.4	69.5	102.1	105.7	130.9	75.6	65.7	180.0
	5	34.1	96.4	23.3	108.0	108.0	53.0	65.0	150.7	130.9	110.7	109.2	105.6
	6	21.9	97.1	33.6	140.0	140.0	50.3	48.6	165.4	110.7	58.6	121.8	102.2
7月	1	32.1	85.7	65.6	98.0	98.0	38.8	37.9	104.3	82.7	80.9	153.5	97.1
	2	29.3	107.2	103.0	69.1	69.1	81.5	77.1	155.1	69.4	76.6	196.3	174.3
	3	40.0	145.5	156.0	65.5	65.5	76.7	128.1	177.0	60.0	313.6	247.1	165.7
	4	57.1	153.4	143.6	109.5	109.5	67.3	181.4	190.7	124.3	166.4	277.4	163.4
	5	149.3	155.7	96.1	122.1	122.1	55.0	258.6	125.7	190.7	129.0	280.5	177.1
	6	108.9	182.4	156.4	124.5	124.5	144.5	183.1	149.3	214.0	220.0	306.0	201.9
8月	1	70.3	185.0	173.4	104.5	104.5	112.5	153.6	160.1	130.0	425.7	344.3	141.6
	2	83.6	180.2	161.4	177.3	177.3	130.3	181.7	152.9	264.3	145.8	289.2	122.1
	3	0.0	226.7	139.3	221.9	221.9	169.0	322.9	240.0	300.3	173.5	252.5	225.5
	4	0.0	236.9	112.7	156.9	156.9	243.0	174.3	264.9	331.4	260.8	442.5	225.5
	5	7.3	232.3	28.3	256.5	256.5	43.0	130.3	314.0		392.1	424.5	245.4
	6	43.7	312.3	101.1	244.2	244.2	163.2	151.0	533.1	401.3	290.6	481.4	512.6
9月	1	158.6	210.2	84.3	147.4	147.4	193.0	155.0		295.0	200.0	363.6	305.7
	2	89.6	176.7	78.3	103.0	103.0	181.5	112.7	213.9	250.3	249.3	179.2	295.4
	3	46.0	217.8	69.3	174.5	174.5	103.5	85.3	209.0	162.9	222.1	650.5	326.2
	4	55.7	212.3	40.0	186.0	186.0	41.2	48.0	205.1	116.6	150.9	768.3	381.3
	5	11.7	251.1	50.3	253.1	253.1	279.5	82.1	130.7	125.0	216.0	595.8	525.0
	6	2.1	240.4	111.0	103.5	103.5	203.5	192.7	145.0	65.0	460.0	498.5	521.1
10月	1	4.3	281.6	326.4	106.3	106.3	281.4	238.9	213.6	217.1	543.4	285.2	497.1
	2	236.4	238.6	241.9	129.0	129.0	30.0	128.6	500.7	237.4	437.1	198.0	354.3
	3	217.1	293.2	296.1	162.0	162.0	409.5	260.0	394.9	252.2	246.4	352.9	395.7
	4	205.1	376.2	409.3	289.0	289.0	358.5	319.4	356.0	254.3	461.4	630.0	394.8
	5	208.6	445.1	310.0	479.0	479.0	338.7	359.3	482.9	233.8	460.1	956.1	351.9
	6	200.3	685.4	367.6	996.0	996.0	474.6	470.6	548.7	329.7	467.4	1526.1	677.0
11月	1	177.4	598.5	304.4	963.0	963.0			448.3	337.3	250.0	923.6	
	2	184.0	681.7	349.0	990.5	990.5			361.6	423.6	424.3	1232.7	
	3	160.0	528.0	192.1	719.6	719.6			25.0	615.6	273.9	1150.6	
	4	176.0	375.9	175.0	488.5	488.5			302.0	525.9	138.9	512.9	
	5	112.5	335.0		286.6	286.6			409.8	638.6	249.3	139.3	
	6	67.5	151.9						69.2	156.7	321.9	60.0	
12月	1		100.0						120.0	79.9			
	2		87.9						84.9	91.0			
	3		94.4						52.3	136.4			
	4		25.4						15.7	35.0			
	5												
	6												

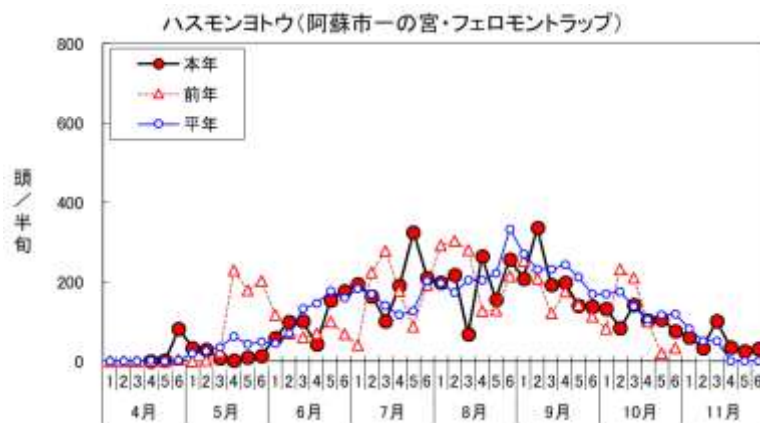
※平年値は過去10か年平均とする。



ハスモンヨトウの誘殺消長(フェロモントラップ)阿蘇市一の宮

月	半旬	本年	平年	前年	R2	R1	H30	H29	H28	H27	H26	H25	H24
4月	1		0.0	0.0									
	2		0.0	0.0	0.0					0.0			
	3		0.0	0.0	0.0					0.0			
	4	0.8	2.5	0.0	0.0			0.0	3.6	12.1	0.0	2.0	
	5	2.0	1.6	1.0	0.0			0.0	9.3	2.4	0.0	0.0	0.0
	6	81.5	2.8	4.0	0.0	2.8		1.4	15.2	1.3	0.0	0.0	0.0
5月	1	34.2	20.6	0.0	2.8	3.5	160.0	1.4	34.8	3.3	0.0	0.0	0.0
	2	29.3	25.3	2.0	4.2	1.4	188.4	3.9	46.9	4.3	1.0	1.0	0.0
	3	8.7	35.8	24.3	34.5	1.7	147.6	13.6	69.3	50.9	12.7	3.0	0.0
	4	2.3	62.2	229.7	49.5	8.5	170.0	14.7	46.1	73.3	29.3	1.0	0.0
	5	10.0	44.0	179.0	6.1	8.9	126.7	14.8	31.4	40.7	25.0	7.0	0.0
	6	15.0	48.3	203.0	17.0	27.2	67.1	20.5	41.1	49.8	24.7	33.0	0.0
6月	1	58.0	44.5	116.3	17.0	50.4	44.5	23.1	85.7	64.3	17.1	25.0	1.8
	2	100.0	70.4	69.7	67.9	134.0	58.1	74.9	100.3	152.4	16.3	17.0	13.3
	3	101.0	133.0	61.0	301.1	171.5	53.9	81.6	113.3	482.1	11.7	26.7	27.0
	4	43.0	146.0	70.7	592.3	116.3	61.3	72.1	126.4	255.1	69.3	51.1	45.5
	5	153.5	177.2	100.3	671.6	93.6	116.5	117.1	258.3	188.5	84.0	91.8	50.5
	6	176.5	159.9	68.0	485.2	150.0	140.2	103.4	281.2	181.9	85.0	55.8	48.7
7月	1	194.0	182.9	42.0	747.0	120.0	198.2	106.9	240.8	164.3	55.3	51.7	103.1
	2	164.7	169.9	223.5	407.0	102.6	261.5	157.1	257.1	91.9	51.6	92.0	54.3
	3	102.3	140.6	277.8	318.0	106.5	133.5	100.6	194.1	48.1	57.1	105.0	65.0
	4	190.0	116.8	176.7	127.2	156.1	97.2	133.3	141.0	66.4	155.0	76.3	39.0
	5	325.0	126.0	88.6	177.6	206.3	78.4	203.6	96.4	112.1	153.3	58.7	85.0
	6	210.3	201.9	191.9	235.4	261.3	120.0	240.0	176.4	217.3	161.2	334.0	81.3
8月	1	198.7	197.4	291.5	214.1	149.0	115.0	169.3	226.4	244.1	101.4	388.0	75.4
	2	218.0	174.1	304.0	121.0	80.5	134.8	155.1	272.5	266.4	95.0	262.0	49.3
	3	68.0	205.4	279.5	305.2	85.4	160.7	173.7	245.6	293.9	76.6	352.0	81.0
	4	264.0	205.3	127.5	378.8	135.9	211.5	265.6	219.4	188.4	89.4	284.5	152.0
	5	156.0	221.1	128.0	235.0	259.5	178.7	343.7	271.8	133.9	190.0	338.5	132.3
	6	257.0	332.0	214.0	311.0	240.6	268.8	401.2	491.3	258.0	186.3	695.0	253.7
9月	1	209.0	271.1	253.0	250.6	136.2	310.5	200.2	416.7	307.0	120.2	627.5	89.0
	2	336.0	231.5	209.0	339.4	132.8	360.0	154.3	416.5	272.0	109.5	243.5	78.0
	3	192.0	230.8	120.5	486.0	212.0	184.0	242.9	381.9	185.0	95.0	262.0	139.0
	4	198.0	242.9	175.5	375.6	189.8	251.2	172.8	330.0	148.9	63.0	418.0	303.8
	5	140.0	213.0	141.6	232.8	167.0	520.0	109.2	398.0	162.3	111.3	100.7	186.8
	6	139.0	168.9	113.4	100.5	135.0	139.5	163.8	409.3	204.1	148.8	182.3	92.2
10月	1	132.0	168.7	83.0	155.1	144.5	223.8	158.0	424.7	156.3	111.4	164.7	65.3
	2	83.5	175.7	231.3	90.0	116.5	280.0	149.4	520.0	104.0	64.8	165.3	36.0
	3	142.5	137.6	210.7	118.0	74.5	150.0	197.2	309.0	58.6	33.8	183.0	41.0
	4	103.0	106.1	99.0	153.0	109.0	111.6	192.5	195.6	42.9	55.8	34.3	67.3
	5	105.0	116.8	20.0	112.9	145.0	87.8	158.3	236.4	63.6	168.3	106.7	68.7
	6	77.0	119.4	33.3	189.7	184.6	67.6	78.9	297.0	38.8	157.3	38.0	108.5
11月	1	61.3	82.0		52.7	63.5			202.0	52.8		39.0	
	2	34.7	51.6						26.3	76.9			
	3	101.3	51.4						51.4				
	4	36.4											
	5	26.3											
	6	32.0											
12月	1												
	2												
	3												
	4												
	5												
	6												

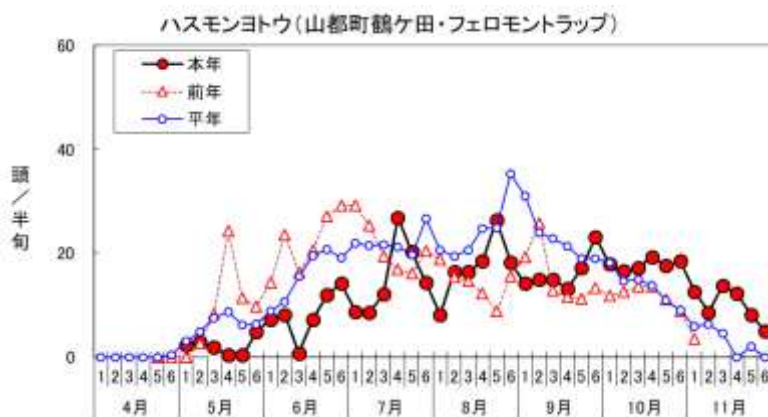
※平年値は過去10か年平均とする。



ハスモンヨトウの誘殺消長(フェロモントラップ) 山都町鶴ヶ田

月	半旬	本年	平年	前年	R2	R1	H30	H29	H28	H27	H26	H25	H24
4月	1												
	2												
	3		0.0								0.0		
	4		0.0			0.0				0.0	0.0		
	5		0.0	0.0	0.0	0.0		0.0		0.0	0.0		0.0
	6		0.4	0.0	0.0	0.0		0.0		0.0	0.0	0.0	2.8
5月	1	2.3	3.1	0.0	1.3		13.2	5.3		0.0	0.0	0.0	4.6
	2	2.9	4.8	2.6	2.1	0.0	19.6	6.7	8.0	2.0	1.7	0.5	4.6
	3	1.9	7.5	8.3	3.7	4.5	27.4	5.6	8.0	4.9	8.6	1.2	2.9
	4	0.4	8.7	24.3	5.0	4.5	9.0	5.4	7.6	7.1	22.3	1.2	1.0
	5	0.4	6.1	11.3	2.0	2.1	9.0	5.0	7.3	4.4	18.3	1.4	0.6
	6	4.8	6.3	9.7	3.0	4.6	10.8	6.0	9.7	7.1	7.6	1.8	2.9
6月	1	7.2	8.9	14.3	5.0	5.4	9.0	13.0	11.9	12.2	2.1	8.3	7.5
	2	8.1	10.6	23.6	6.4	7.0	9.0	12.0	14.1	19.3	4.4	3.5	6.5
	3	0.7	15.5	16.3	8.6	11.8	10.2	7.5	15.6	70.0	6.4	2.3	6.6
	4	7.1	19.5	20.6	29.4	15.0	11.0	12.0	7.5	64.3	8.6	13.5	13.1
	5	12.0	20.7	27.1	26.6	17.5	11.0	13.3	18.2	50.3	10.5	21.0	11.9
	6	14.2	19.2	29.2	15.0	17.0	13.0	14.2	34.3	28.3	10.5	20.8	9.3
7月	1	8.8	21.9	29.2	53.7	14.5	13.0	14.2	34.3	10.5	21.3	20.6	8.1
	2	8.6	21.4	25.3	54.4	4.5	13.9	14.8	46.3	10.5	15.1	21.0	8.1
	3	12.0	21.6	19.4	48.5	4.5	17.5	20.6	54.4	12.0	7.6	16.5	15.2
	4	26.9	21.2	16.8	29.6	9.3	19.5	29.0	21.3	33.1	14.4	16.5	22.4
	5	20.3	19.7	16.2	18.8	12.5	22.5	24.5	24.8	32.4	11.7	25.4	8.6
	6	14.4	26.6	20.4	22.7	16.3	41.4	21.3	36.0	36.0	9.0	46.5	16.4
8月	1	8.1	20.6	18.8	13.3	11.5	27.0	14.1	28.5	24.8	7.5	44.3	16.4
	2	16.4	19.3	15.4	11.7	11.5	20.1	13.2	28.2	31.9	5.0	41.0	15.3
	3	16.4	20.6	14.6	12.7	18.3	12.5	13.2	32.7	32.5	8.1	38.8	22.1
	4	18.4	24.7	12.3	17.0	20.0	12.5	21.7	35.8	32.9	23.1	38.8	32.9
	5	26.4	24.9	8.9	24.3	15.5	12.5	34.3	35.8	29.6	16.5	54.7	17.1
	6	18.1	35.3	15.6	27.7	18.0	24.9	41.1	69.8	19.6	15.7	94.4	26.4
9月	1	14.1	31.0	19.3	16.7	27.5	51.7	31.6	39.1	16.3	15.0	66.5	26.0
	2	15.0	24.0	25.7	12.8	33.0	10.5	30.9	39.1	16.7	7.7	48.3	15.0
	3	15.0	22.8	12.9	9.4	36.9	10.7	21.9	39.1	17.1	7.7	58.3	13.9
	4	13.1	21.3	11.6	7.7	39.5	11.5	15.9	43.6	15.0	13.9	40.6	13.4
	5	17.1	18.9	11.2	6.4	32.5	9.1	15.9	43.6	16.5	15.5	25.6	13.1
	6	23.1	19.0	13.3	10.0	12.5	10.3	21.1	49.2	17.5	13.5	30.7	11.8
10月	1	17.9	18.2	11.9	9.5	7.5	13.0	40.1	45.3	11.4	13.0	20.6	9.9
	2	16.5	14.6	12.6	8.5	7.5	13.0	32.5	23.8	11.4	7.0	20.9	8.6
	3	17.1	14.9	13.6	7.5	17.0	15.4	10.0	23.8	12.9	5.5	30.6	12.9
	4	19.3	13.7	13.6	10.6	11.8	15.4	6.9	18.8	18.6	6.2	25.0	10.0
	5	17.6	11.0	11.0	9.7	4.0	9.0	2.3	15.5	17.7	6.9	27.0	6.7
	6	18.4	9.0	8.8	9.1	4.8	1.8	2.8	7.1	21.0	9.0	22.0	3.8
11月	1	12.6	5.9	3.5	10.0	7.5			1.1				7.5
	2	8.6	6.3			6.3							
	3	13.7	4.5			4.5							
	4	12.3	0.0			0.0							
	5	8.1	2.0			2.0							
	6	5.0											
12月	1												
	2												
	3												
	4												
	5												
	6												

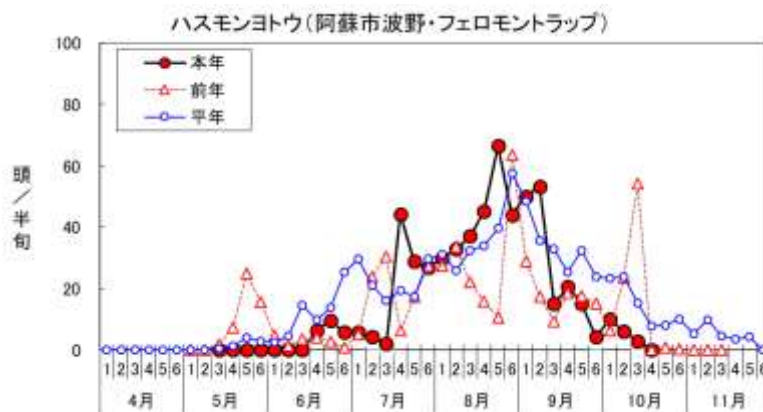
※平年値は過去10か年平均とする。



ハスモンヨトウの誘殺消長(フェロモントラップ)阿蘇市波野

月	半旬	本年	平年	前年	R2	R1	H30	H29	H28	H27	H26	H25	H24	
4月	1													
	2													
	3		0.0							0.0	0.0	0.0		
	4		0.0							0.0	0.0	0.0	0.0	
	5		0.0							0.0	0.0	0.0	0.0	
	6		0.0							0.0	0.0	0.0	0.0	
5月	1		0.0	0.0	0.0					0.0	0.0	0.0	0.0	
	2		0.0	0.0	0.0					0.0	0.0	0.0	0.0	
	3	0.0	0.5	1.7	0.0			1.4		0.0	0.3	0.0	0.0	
	4	0.0	1.3	7.3	0.0			0.3		0.6	1.3	0.0	0.0	
	5	0.0	4.0	25.0	0.0			0.4	0.3		2.9	2.1	1.7	0.0
	6	0.0	2.9	15.7	0.0	1.2	2.4	0.8	3.4	2.7	1.4	1.3	0.3	
6月	1	0.0	2.6	4.7	1.1	2.0	8.0	3.8	0.7	4.7	0.4	0.3	0.7	
	2	0.0	4.5	1.3	5.7	0.5	5.0	5.1	2.9	20.4	0.0	1.4	2.9	
	3	0.0	14.6	3.6	37.1	6.5	3.0	7.1	5.9	76.4	2.1	2.6	1.1	
	4	6.4	9.9	4.1	41.0	9.4	3.0	7.9	12.1	17.0	1.7	2.0	0.3	
	5	9.7	14.0	2.9	35.0	5.0	32.6	13.0	39.0	8.4	1.6	0.7	1.4	
	6	5.7	25.5	0.7	104.3	13.0	45.8	17.3	50.6	17.9	2.1	1.4	2.0	
7月	1	5.7	29.6	5.0	81.6	11.0	54.5	20.7	57.9	40.0	2.1	20.3	3.3	
	2	4.3	21.2	23.9	57.9	5.0	9.5	23.6	31.4	19.4	8.7	27.6	5.0	
	3	2.1	16.1	30.4	23.6	6.5	11.0	27.2	31.0	5.3	18.6	6.4	0.7	
	4	44.3	19.3	6.4	17.9	19.2	15.4	46.0	35.6	4.3	40.9	6.4	0.7	
	5	28.9	17.3	17.3	13.9	25.3	17.0	17.9	24.3	11.6	28.6	16.1	1.0	
	6	26.9	29.8	27.4	19.7	29.4	51.9	27.1		45.9	21.7	42.2	2.6	
8月	1	30.0	31.1	27.3	48.6	2.5	31.7	28.4		63.0	8.6	57.5	12.1	
	2	32.9	25.9	33.6	37.7	2.5	19.8	33.6	27.3	63.6	7.9	26.9	6.7	
	3	37.1	32.5	22.1	31.3	5.4	17.0	68.6	33.6	77.3	21.1	42.4	6.5	
	4	45.3	33.8	15.9	25.7	19.4	19.4	59.6	36.4	52.3	24.0	65.7	20.0	
	5	66.4	39.7	10.7	27.1	25.0	22.8	53.0	55.1	24.6	51.4	107.9	18.9	
	6	44.0	57.5	63.4	52.6	25.2	39.3	60.9	106.1	55.5	23.9	127.1	21.4	
9月	1	50.0	48.4	28.9	59.0	18.4	61.5	34.3	120.0	68.1	7.4	69.3	16.9	
	2	53.3	35.7	17.4	69.3	32.0	44.3	48.0	62.3	47.3	5.3	15.7	15.7	
	3	15.0	32.9	9.3	60.7	32.8	30.6	49.4	49.0	7.9	8.1	56.4	24.9	
	4	20.7	25.5	18.6	44.9	24.4	16.5	18.6	50.7	10.0	5.1	48.7	17.1	
	5	15.0	32.5	17.7	28.0	11.5	133.0	12.9	47.9	22.9	8.6	40.7	2.1	
	6	4.3	23.8	15.0	2.9	10.5	59.5	12.3	61.1	31.1	15.0	29.3	1.4	
10月	1	10.0	23.5	6.4	11.4	15.3	19.4	16.3	83.7	36.0	10.9	32.5	2.7	
	2	6.1	24.0	23.6	8.4	12.6	44.5	41.4	68.6	9.4	4.4	24.2	2.9	
	3	2.9	15.5	54.1	0.7	3.0	10.9	21.4	41.1	3.1	2.0	18.1	0.0	
	4	0.0	7.8		7.9	3.0	3.8	8.1	35.1	1.4	1.4	9.3	0.6	
	5		8.1	0.7	5.7	4.0	9.0	3.3	36.4	2.9	2.6	15.7	1.0	
	6		10.1	0.3	5.4	5.5	15.6	2.8	41.1	3.4	3.9	21.4	1.4	
11月	1		5.3	0.0	5.0	0.0			10.3	10.0	3.6	13.6	0.0	
	2		9.8	0.0		0.6			3.1	20.7	3.6	30.7		
	3		4.5	0.0		0.6			1.4	11.4	0.7	12.7		
	4		3.5			0.0			10.0			0.6		
	5		4.4						4.4					
	6													
12月	1													
	2													
	3													
	4													
	5													
	6													

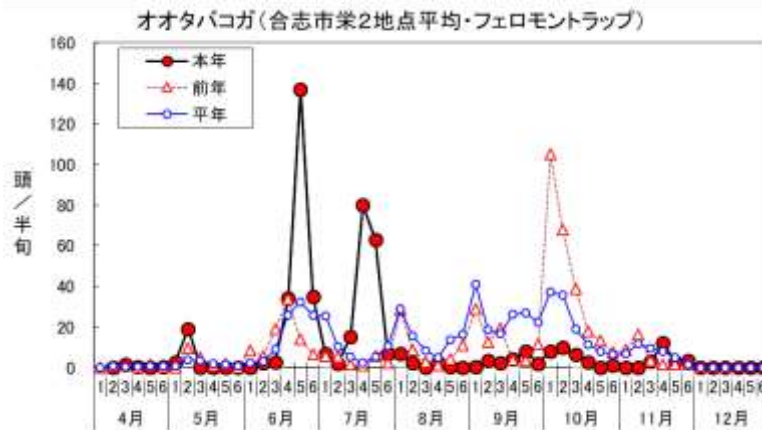
※平年値は過去10か年平均とする。



オオタバコガの誘殺消長(フェロモントラップ) 合志市栄

月	半旬	本年	平年	前年	R2	R1	H30	H29	H28	H27	H26	H25	H24
4月	1		0.2	0.0	0.5	1.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	2	0.0	0.6	0.6	0.2	1.0	0.0	3.0	0.0	0.0	0.0	0.0	1.0
	3	1.5	0.4	1.0	0.8	1.0	0.0	0.0	1.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	4	0.5	0.4	0.0	2.5	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	1.0
	5	0.0	0.6	1.6	1.0	0.0	0.0	0.0	0.0	1.0	1.0	0.0	1.0
	6	0.5	0.9	0.5	2.4	0.0	0.0	0.0	2.0	2.0	1.0	0.0	1.0
5月	1	2.5	0.7	0.0	1.8	0.0	0.0	1.0	0.0	0.0	1.0	0.0	3.0
	2	19.0	3.8	9.5	2.4	11.0	0.0	0.0	6.0	2.0	3.0	1.0	3.0
	3	0.0	3.5	4.9	1.8	7.0	1.0	2.0	3.0	6.0	5.0	2.0	2.0
	4	0.0	1.9	1.2	2.6	2.0	1.0	0.0	0.0	3.0	3.0	0.0	6.0
	5	0.0	1.4	2.0	1.0	3.0	2.0	0.0	2.0	0.0	0.0	0.0	4.0
	6	0.0	0.9	0.0	0.0	2.0	2.0	0.0	1.0	2.0	0.0	1.0	1.0
6月	1	0.0	2.3	8.4	0.9	4.0	0.0	0.0	0.0	2.0	4.0	1.0	3.0
	2	2.3	3.1	5.7	1.2	4.0	11.0	1.0	2.0	3.0	0.0	2.0	1.0
	3	2.7	9.0	18.9	11.5	16.2	16.0	0.0	7.0	9.0	3.0	2.0	6.0
	4	34.0	25.6	33.9	12.8	43.6	42.0	0.0	67.0	18.0	15.0	18.0	6.0
	5	137.0	32.2	14.2	5.8	29.0	46.0	34.0	33.0	33.0	38.0	50.0	39.0
	6	35.0	25.8	6.4	11.6	48.0	3.0	33.0	11.0	57.0	15.0	23.0	50.0
7月	1	7.0	25.5	5.6	7.0	61.3	6.0	23.0	4.0	27.0	34.0	31.0	56.0
	2	2.0	10.3	5.3	4.0	8.7	2.0	13.0	7.0	9.0	34.0	1.0	19.0
	3	15.0	5.5	1.6	2.0	7.0	2.0	4.0	6.0	9.0	8.0	1.0	14.0
	4	80.0	2.2	1.1	0.0	5.0	3.0	0.0	6.0	2.0	2.0	2.0	1.0
	5	63.0	5.4	5.5	2.4	8.8	6.0	3.0	11.0	8.0	1.0	4.0	4.0
	6	7.0	10.7	2.1	2.8	17.0	4.0	11.0	15.0	18.0	7.0	21.0	9.0
8月	1	6.7	28.7	28.3	5.8	12.5	9.0	7.0	13.0	39.0	115.0	33.0	24.0
	2	2.3	15.5	8.6	8.1	2.0	5.0	14.0	3.0	18.0	42.0	13.0	41.0
	3	0.0	8.2	2.5	1.0	2.5	5.0	6.0	4.0	25.0	10.0	17.0	9.0
	4	2.7	4.8	1.0	2.5	0.0	7.0	0.0	2.0	7.0	6.0	18.0	
	5	0.3	13.8	4.0	2.5	6.0	12.7	7.0	4.0		5.0	56.0	27.0
	6	0.0	16.4	11.0	7.0	7.7	16.3	10.0	20.0		21.0	19.0	36.0
9月	1	0.3	41.0	28.9	0.0	2.5	48.0	14.0		70.0	91.0	81.0	34.0
	2	3.3	18.5	12.5	12.0	2.5	18.0	18.0	20.0	20.0	58.0	9.0	15.0
	3	2.3	16.8	19.5	3.1	4.0	42.0	11.0	19.0	28.0	16.0	9.0	
	4	4.0	26.1	3.7	8.0	6.3	83.0	27.0	52.0	17.0	10.0	28.0	
	5	8.0	26.8	3.4	28.2	0.0	122.0	22.0	40.0	6.0	2.0	32.0	12.0
	6	2.0	22.2	11.2	47.8	6.0	22.0	25.0	25.0	5.0	2.0	68.0	10.0
10月	1	8.0	37.2	105.1	26.5	24.7	32.0	31.0	36.0	14.0	3.0	77.0	23.0
	2	10.0	35.8	68.1	45.7	4.3	25.0	25.0	35.0	6.0	4.0	106.0	39.0
	3	6.3	18.8	38.8	27.4	0.0	15.0	21.0	6.0	2.0	0.0	44.0	34.0
	4	2.7	11.5	17.8	7.5	12.0	3.0	9.0	1.0	3.0	6.0	29.0	27.0
	5	0.0	8.0	13.1	0.6	5.0	9.0	1.0	3.0	5.0	11.0	13.0	19.0
	6	1.0	6.6	7.4	3.5	6.0	0.0	2.0	3.0	5.0	8.0	14.0	17.0
11月	1	0.0	6.7	8.7	2.0	4.0	2.0	1.0	7.0	5.0	7.0	29.0	1.0
	2	0.0	11.7	16.4	2.4	7.0	10.0	0.0	5.0	23.0	9.0	36.0	8.0
	3	3.0	9.4	3.4	0.6	2.0	16.0	2.0	4.0	32.0	1.0	30.0	3.0
	4	12.0	8.1	1.5	7.3	1.0	9.0	0.0	25.0	34.0	0.0	3.0	0.0
	5	2.7	5.1	1.6	3.9	3.0	2.0	0.0	8.0	16.0	5.0	8.0	3.0
	6	3.3	1.4	1.6	0.0	1.0		1.0	0.0	0.0	9.0	0.0	0.0
12月	1	0.0	0.2	0.0	0.0					0.0	0.0	1.0	0.0
	2	0.0	0.1	0.5	0.0					0.0	0.0	0.0	0.0
	3	0.0	0.0	0.0	0.0					0.0	0.0	0.0	0.0
	4	0.0	0.1	0.6	0.0						0.0	0.0	0.0
	5	0.0	0.0		0.0						0.0	0.0	0.0
	6	0.0	0.0		0.0						0.0	0.0	0.0

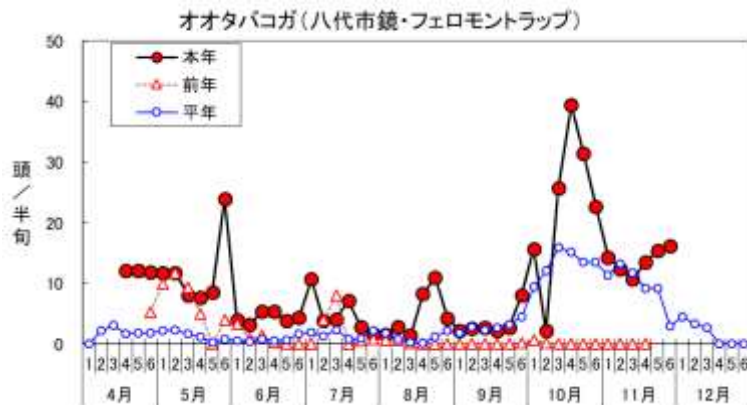
※平年値は過去10か年平均とする。



オオタバコガの誘殺消長(フェロモントラップ) 八代市鏡

月	半旬	本年	平年	前年	R2	R1	H30	H29	H28	H27	H26	H25	H24
4月	1												
	2		2.2							2.2			
	3		3.1							3.1			
	4	12.1	1.7							1.4	2.3	1.5	
	5	12.1	1.8		4.0			0.7		0.6	2.3	1.6	
	6	11.9	1.8	5.3	3.1	1.6	1.8	0.1		0.0	1.4	0.6	2.0
5月	1	11.8	2.2	10.0	0.4	2.0	5.4	0.0	0.0	3.6	0.7	0.3	0.0
	2	11.8	2.3	11.7	0.4	1.7	5.9	0.0	0.8	1.4	1.1	0.0	0.3
	3	8.1	1.7	9.3	1.9	1.5	1.5	0.0	0.2	0.0	1.9	0.0	0.6
	4	7.7	1.2	5.0	2.4	0.3	0.3	0.4	0.0	0.0	3.6	0.0	0.1
	5	8.6	0.3	0.0	0.7	0.0	0.6	0.6	0.0	0.0	0.7	0.9	0.0
	6	24.0	0.8	4.0	0.1	0.0	1.4	0.0	0.0	0.0	0.4	1.7	0.0
6月	1	4.0	0.5	3.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.7	1.4	0.0
	2	3.2	0.5	1.0	0.0	0.0	1.1	0.0	1.1	0.0	0.7	0.7	0.0
	3	5.3	0.8	1.4	0.0	0.4	1.1	0.0	2.9	0.7	0.1	1.1	0.0
	4	5.3	0.6	0.3	0.6	0.3	0.5	0.0	1.4	0.3	1.4	1.1	0.0
	5	3.8	0.7	0.0	0.4	0.0	0.0	0.6	1.0	0.0	3.6	1.7	0.0
	6	4.4	1.7	0.0	0.0	6.5	4.8	0.7	1.0	0.0	2.1	1.5	0.0
7月	1	10.7	1.9	0.0	2.1	2.9	6.4	0.7	2.1	1.1	2.1	1.4	0.0
	2	3.9	1.4	4.0	1.3	0.4	1.5	1.4	1.0	0.9	1.7	1.4	0.0
	3	4.1	2.4	8.0	1.1	0.0	0.7	0.6	0.4	0.0	12.9	0.0	0.0
	4	7.1	0.8	0.0	2.9	0.0	0.3	0.0	0.0	0.0	5.1	0.0	0.0
	5	2.9	0.9	0.6	2.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.9	0.6	5.0	0.0
	6	1.7	2.2	0.9	1.7	0.0	2.0	0.0	0.0	1.1	1.4	15.0	0.0
8月	1	1.6	1.9	0.7	0.6	0.5	0.4	0.0	0.0	0.0	14.3	2.1	0.0
	2	2.9	0.8	0.7	0.0	0.1	0.0	0.0	0.0	1.4	3.5	0.9	1.0
	3	1.4	0.3	0.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.7	0.6	1.3	0.0	0.0
	4	8.3	0.2	0.0	0.3	0.0	1.2	0.0	0.3	0.0	0.0	0.0	0.0
	5	11.0	1.2	0.0	1.7	5.5	0.6	0.0	0.3		1.4	1.0	0.3
	6	4.3	2.2	0.0	0.9	3.8	2.6	0.0	1.7	3.6	6.3	1.6	1.7
9月	1	2.1	1.8	0.0	0.1	1.8	3.5	0.0		3.1	6.0	1.4	0.0
	2	2.6	2.8	0.0	0.3	1.5	1.5	0.0	10.0	3.3	4.3	7.5	0.0
	3	2.7	2.4	0.0	0.7	0.0	0.6	0.0	9.7	5.0	0.0	7.7	0.2
	4	2.1	2.7	0.0	5.0	0.3	0.1	0.0	5.7	2.0	5.6	7.8	0.7
	5	2.7	3.2	0.0	5.3	1.0	0.5	5.7	4.0	1.0	8.0	5.8	0.7
	6	8.0	4.5	0.1	5.2	3.0	9.7	10.0	7.6	0.0	2.9	5.8	0.7
10月	1	15.7	9.5	0.7	2.9	5.0	21.8	11.7	13.6	5.0	9.1	24.2	0.7
	2	2.1	12.1	0.1	14.9	4.7	3.7	7.1	27.9	8.0	9.9	44.6	0.0
	3	25.7	15.9	0.0	15.0	3.5	17.0	7.1	16.7	8.9	8.6	77.1	5.5
	4	39.4	15.2	0.0	10.7	4.5	8.9	6.9	8.3	7.1	18.6	81.1	6.0
	5	31.4	13.5	0.0	20.7	6.3	5.7	6.4	4.3	3.8	13.4	72.7	1.3
	6	22.7	13.5	0.0	12.3	9.8	17.4	3.4	3.0	4.8	13.4	67.3	3.6
11月	1	14.3	11.4	0.0	4.0	6.5			4.7	7.6	13.6	43.6	
	2	12.4	13.3	0.0		2.0			6.6	20.7	13.6	36.7	
	3	10.7	11.8	0.0		2.9			7.1	27.0	8.4	25.3	
	4	13.5	9.2	0.0					11.2	20.1	4.0	10.7	
	5	15.4	9.2						14.0	15.0	6.4	1.4	
	6	16.3	2.9						5.0	0.8	5.3	0.6	
12月	1		4.5						7.1	1.9			
	2		3.4						3.7	3.0			
	3		2.7						1.1	4.3			
	4		0.0						0.0	0.0			
	5												
	6												

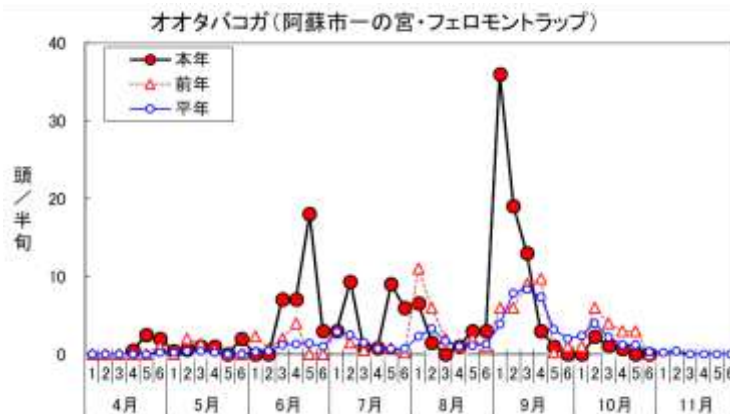
※平年値は過去10か年平均とする。



オオタバコガの誘殺消長(フェロモントラップ) 阿蘇市一の宮

月	半旬	本年	平年	前年	R2	R1	H30	H29	H28	H27	H26	H25	H24
4月	1		0.0	0.0									
	2		0.0	0.0	0.0						0.0		
	3		0.0	0.0	0.0						0.0		
	4	0.5	0.0	0.0	0.0				0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	5	2.5	0.0	0.0	0.0				0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	6	2.0	0.2	1.0	0.0	0.0	0.5		0.0	0.0	0.2	0.0	0.0
5月	1	0.4	0.2	0.0	0.0	0.5	0.4	0.0	0.8	0.6	0.0	0.0	0.0
	2	0.6	0.4	2.0	0.0	0.2	0.4	0.1	1.3	0.2	0.0	0.0	0.0
	3	1.0	0.4	1.3	0.5	0.0	0.0	0.7	0.0	0.0	0.3	1.0	0.0
	4	1.0	0.2	0.7	0.5	0.0	0.0	0.1	0.0	0.0	0.7	0.0	0.0
	5	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	6	2.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
6月	1	0.0	0.3	2.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.4	0.0	0.3
	2	0.0	0.4	0.7	0.0	0.0	1.9	0.0	0.0	0.0	0.6	0.0	0.8
	3	7.0	1.2	2.0	0.0	0.0	2.7	0.0	0.1	0.0	0.8	0.0	6.0
	4	7.0	1.3	4.0	2.7	0.0	4.0	0.0	0.7	0.0	0.7	0.0	0.5
	5	18.0	1.4	0.0	1.4	0.3	4.0	3.6	2.1	0.0	0.5	0.0	2.5
	6	3.0	1.0	0.0	0.0	1.5	3.1	2.7	2.0	0.0	0.0	0.0	0.7
7月	1	3.0	2.9	3.0	2.0	4.5	2.9	1.7	0.0	0.0	10.9	0.0	4.3
	2	9.3	2.5	1.5	1.0	3.9	3.5	0.0	1.4	0.0	10.7	1.5	1.3
	3	0.9	1.5	0.5	3.0	0.0	0.5	0.0	0.6	0.3	6.4	3.0	0.8
	4	0.8	0.7	1.0	0.0	1.6	1.4	0.9	0.0	1.4	0.6	0.5	0.0
	5	9.0	0.7	0.8	0.0	1.1	1.6	2.1	0.0	0.9	0.4	0.0	0.3
	6	6.0	0.7	0.2	1.0	0.8	0.0	1.7	0.0	1.3	1.4	0.0	0.7
8月	1	6.5	2.3	11.0	0.0	1.5	1.5	1.6	0.8	1.4	3.6	0.0	1.3
	2	1.5	3.3	6.0	1.0	0.5	0.9	2.0	1.3	1.4	17.1	0.0	2.7
	3	0.0	1.7	2.0	0.0	1.0	1.3	1.7	0.0	2.6	7.7	0.0	1.0
	4	1.0	1.0	1.0	0.0	2.4	4.5	0.0	0.0	1.1	1.3	0.0	0.0
	5	3.0	1.1	2.0	0.9	0.0	3.3	1.7	0.5	0.0	0.7	0.0	2.3
	6	3.0	1.3	1.0	0.3	0.0	3.9	2.3	1.5	0.0	1.0	0.0	2.7
9月	1	36.0	3.9	6.0	12.0	0.3	10.9	0.4	3.3	4.6	0.7	0.0	0.3
	2	19.0	7.8	6.0	16.0	0.5	22.0	2.1	23.0	6.0	1.8	0.0	0.7
	3	13.0	8.3	9.0	30.0	0.5	8.0	1.4	19.2	6.4	6.4	0.0	2.0
	4	3.0	7.3	9.8	26.0	0.2	8.4	8.0	6.3	2.8	4.0	0.0	7.8
	5	1.0	3.2	0.3	4.2	0.2	10.0	5.0	3.0	2.6	3.2	0.0	3.8
	6	0.0	2.0	1.0	3.0	1.0	5.5	1.9	1.3	1.7	3.1	0.0	1.5
10月	1	0.0	2.4	1.0	0.0	0.0	9.4	1.9	2.6	0.6	3.6	0.0	5.0
	2	2.3	4.0	6.0	0.0	1.2	12.0	1.9	13.1	0.8	4.1	0.0	0.7
	3	1.1	2.2	4.0	1.0	3.0	1.0	1.7	5.3	0.5	4.4	0.0	1.3
	4	0.7	1.2	3.0	0.0	0.5	0.2	6.2	0.3	0.0	0.8	0.0	1.0
	5	0.0	1.2	3.0	0.0	0.7	0.0	7.4	0.7	0.0	0.2	0.0	0.0
	6	0.0	0.3	0.0	0.0	0.8	0.0	0.0	0.6	0.7	0.0	0.0	1.0
11月	1		0.2			0.0				0.6	0.3		0.0
	2		0.4							0.8	0.0		
	3		0.0							0.0			
	4												
	5												
	6												
12月	1												
	2												
	3												
	4												
	5												
	6												

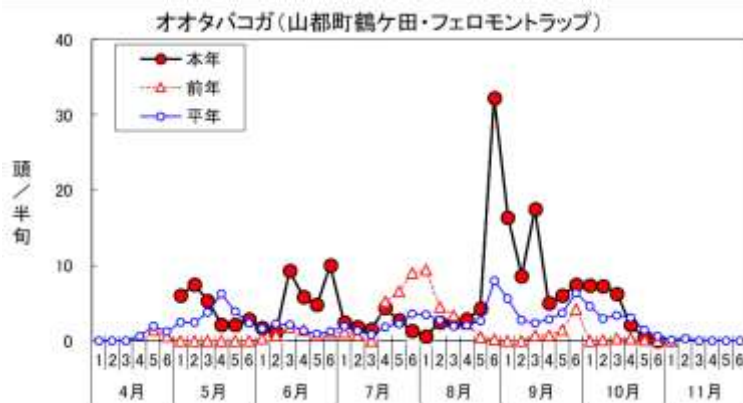
※平年値は過去10か年平均とする。



オオタバコガの誘殺消長(フェロモントラップ) 山都町鶴ケ田

月	半旬	本年	平年	前年	R2	R1	H30	H29	H28	H27	H26	H25	H24	
4月	1													
	2													
	3		0.0								0.0			
	4		0.7			0.0				0.0	2.0			
	5		1.9	1.4	0.0	0.0		1.0			4.0	5.0		0.0
	6		1.2	0.6	0.0	0.0		2.5			5.2	0.0	0.0	0.0
5月	1	6.0	2.5	0.0	7.5		1.7	0.9		5.6	4.3	0.0	0.0	
	2	7.5	2.4	0.0	5.5	0.0	1.4	1.1	1.7	5.7	6.0	2.9	0.0	
	3	5.4	3.8	0.0	4.9	12.5	1.6	0.6	1.7	5.2	1.4	7.3	2.7	
	4	2.1	6.3	0.0	14.3	12.5	4.0	0.6	2.1	4.3	12.3	7.3	5.6	
	5	2.1	3.9	0.0	4.4	3.7	4.0	0.8	2.3	4.4	11.0	2.1	6.1	
	6	2.9	2.4	0.0	1.7	1.0	4.5	0.9	2.4	4.6	5.3	0.9	2.1	
6月	1	1.8	1.6	0.3	0.5	0.7	2.5	1.9	0.6	4.0	1.4	2.5	1.9	
	2	1.3	2.2	0.7	1.7	1.5	2.5	2.0	0.6	5.0	5.4	0.5	2.5	
	3	9.3	2.2	1.9	3.6	1.8	1.6	1.9	0.6	3.1	4.4	0.0	2.8	
	4	5.9	1.3	1.4	1.1	2.0	1.0	1.4	1.3	2.5	1.4	0.6	0.6	
	5	4.9	0.9	0.7	0.9	1.0	1.0	1.3	1.0	1.3	0.5	1.0	0.3	
	6	10.0	1.2	1.2	0.0	1.4	4.5	1.7	0.7	0.0	0.5	1.5	0.4	
7月	1	2.5	2.0	1.2	0.7	5.7	4.5	1.7	0.7	1.5	1.3	1.9	0.6	
	2	1.8	1.3	0.7	0.3	0.5	3.9	3.8	1.4	1.5	0.8	0.0	0.6	
	3	1.5	0.8	0.0	0.0	0.5	1.5	2.8	1.9	0.0	0.2	0.0	1.4	
	4	4.4	1.8	5.2	0.0	0.8	6.5	0.5	1.3	0.6	1.1	0.0	2.4	
	5	2.8	2.3	6.5	0.0	1.0	6.9	0.7	3.0	0.9	0.7	0.8	2.1	
	6	1.4	3.6	9.0	0.1	1.2	10.2	1.3	6.7	2.0	0.0	2.3	3.2	
8月	1	0.6	3.5	9.4	0.7	5.0	10.6	1.4	2.2	2.5	0.0	0.0	3.2	
	2	2.5	2.8	4.5	1.6	5.0	10.5	1.5	1.4	0.6	0.5	0.0	2.4	
	3	2.5	1.9	3.3	2.2	2.2	4.5	1.5	2.2	0.8	0.6	0.6	1.6	
	4	2.9	2.0	2.2	3.3	1.5	4.5	2.9	2.7	0.8	0.6	0.9	0.7	
	5	4.3	2.7	0.6	3.6	1.8	4.5	5.0	2.7	1.1	0.3	6.2	1.4	
	6	32.3	8.0	0.2	3.4	3.3	9.3	6.0	34.5	2.8	0.3	16.9	3.3	
9月	1	16.4	5.7	0.0	1.7	6.5	19.8	3.2	7.5	2.3	0.7	11.6	3.3	
	2	8.6	2.8	0.0	1.1	1.5	3.0	2.7	7.5	2.0	0.9	7.8	1.4	
	3	17.5	2.4	0.7	1.9	0.9	2.8	2.3	7.5	1.4	0.9	4.3	0.9	
	4	5.0	2.9	0.7	1.6	0.5	2.0	2.1	8.2	1.4	8.6	2.1	1.9	
	5	6.0	3.7	1.4	0.7	0.0	0.8	2.1	8.2	3.9	10.5	5.6	3.8	
	6	7.5	6.3	4.2	2.1	0.4	1.5	2.8	18.6	5.6	3.7	19.3	4.8	
10月	1	7.3	4.6	0.0	0.9	0.5	3.0	6.0	17.8	1.4	2.0	10.4	4.3	
	2	7.3	3.0	0.1	0.0	0.5	3.0	5.8	4.2	1.4	1.2	10.7	2.8	
	3	6.3	3.4	0.4	0.0	2.5	2.1	0.6	4.2	1.1	1.0	20.9	0.7	
	4	2.1	3.0	0.4	1.7	1.5	1.4	0.4	3.5	0.0	0.2	20.7	0.7	
	5	0.4	1.4	0.1	1.6	0.0	1.0	0.0	3.0	1.0	0.0	7.1	0.4	
	6	0.0	0.6	0.0	0.7	0.0	0.0	0.0	1.2	1.5	0.0	3.0	0.0	
11月	1		0.1	0.0	0.0	0.5			0.0				0.0	
	2		0.3			0.3								
	3		0.0			0.0								
	4		0.0			0.0								
	5		0.0			0.0								
	6													
12月	1													
	2													
	3													
	4													
	5													
	6													

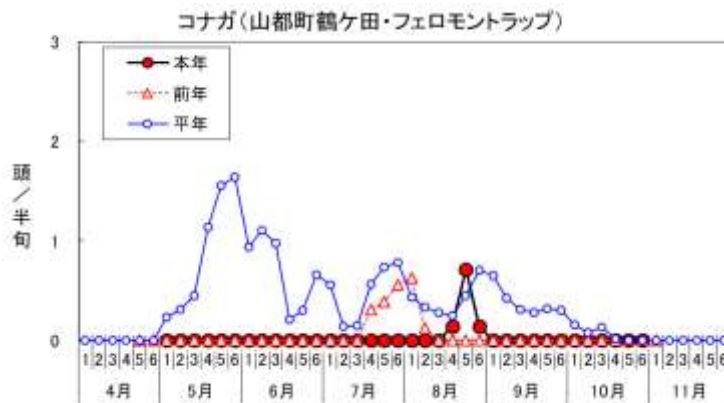
※平年値は過去10か年平均とする。



コナガの誘殺消長(フェロモントラップ)山都町鶴ケ田

月	半旬	本年	平年	前年	R2	R1	H30	H29	H28	H27	H26	H25	H24
4月	1												
	2												
	3		0.0								0.0		
	4		0.0			0.0				0.0	0.0		
	5		0.0	0.0	0.0	0.0		0.0		0.0			0.0
	6		0.0	0.0	0.0	0.0		0.0		0.0	0.0	0.0	0.0
5月	1	0.0	0.2	0.0	1.9		0.0	0.0		0.0	0.0	0.0	0.0
	2	0.0	0.3	0.0	1.5	0.0	0.0	0.0	0.0	1.0	0.0	0.6	0.0
	3	0.0	0.4	0.0	1.1	0.0	0.0	0.0	0.0	1.9	0.0	1.5	0.0
	4	0.0	1.1	0.0	2.1	0.0	0.0	0.0	0.0	2.1	0.0	1.5	5.6
	5	0.0	1.6	0.0	0.4	2.0	0.0	0.0	0.0	1.3	0.0	2.2	9.7
	6	0.0	1.6	0.0	0.0	1.0	0.0	0.0	0.0	1.3	0.0	2.8	11.4
6月	1	0.0	0.9	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	1.1	0.0	3.3	5.0
	2	0.0	1.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.3	0.0	1.4	0.6	2.8	6.0
	3	0.0	1.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.6	0.0	0.0	0.4	2.7	6.0
	4	0.0	0.2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.1	0.0	0.0	0.0	2.0	0.0
	5	0.0	0.3	0.0	0.0	0.0	0.0	1.0	0.0	0.0	0.5	1.5	0.0
	6	0.0	0.7	0.0	0.0	0.4	0.0	4.1	0.0	0.0	0.5	1.4	0.2
7月	1	0.0	0.6	0.0	0.0	0.4	0.0	3.0	0.0	0.0	0.6	1.3	0.3
	2	0.0	0.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.7	0.0	0.0	0.4	0.0	0.3
	3	0.0	0.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.1	0.0	0.0	0.1	0.4	0.9
	4	0.0	0.6	0.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.6	1.9	0.6	0.4	1.9
	5	0.0	0.7	0.4	0.0	0.0	0.0	0.0	0.7	1.4	0.3	1.7	2.9
	6	0.0	0.8	0.6	0.0	0.0	0.0	0.0	0.7	0.7	0.0	4.5	1.4
8月	1	0.0	0.4	0.6	0.0	0.0	0.0	0.0	0.1	0.1	0.0	2.1	1.4
	2	0.0	0.3	0.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.6	0.5	1.2	0.8
	3	0.0	0.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.7	0.3	0.5	0.6	0.7
	4	0.1	0.2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	1.2	0.0	0.0	0.6	0.7
	5	0.7	0.5	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	1.2	0.1	0.0	1.1	2.1
	6	0.1	0.7	0.0	0.0	0.2	0.4	0.0	2.1	0.8	0.0	2.2	1.4
9月	1	0.0	0.7	0.0	0.0	1.0	1.6	0.0	0.3	0.7	0.0	1.5	1.4
	2	0.0	0.4	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.3	0.7	0.0	1.1	2.1
	3	0.0	0.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.3	0.7	0.0	1.6	0.4
	4	0.0	0.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.9	0.0	0.4	1.2	0.3
	5	0.0	0.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.9	0.0	0.5	0.9	0.6
	6	0.0	0.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.7	0.0	0.5	1.4	0.1
10月	1	0.0	0.2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.6	0.0	0.5	0.3	0.0
	2	0.0	0.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.4	0.0	0.1	0.2	0.0
	3	0.0	0.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.4	0.0	0.0	0.8	0.0
	4	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.2	0.0	0.0	0.0	0.0
	5	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	6	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
11月	1		0.0	0.0	0.0	0.0			0.0				0.0
	2		0.0			0.0							
	3		0.0			0.0							
	4		0.0			0.0							
	5		0.0			0.0							
	6												
12月	1												
	2												
	3												
	4												
	5												
	6												

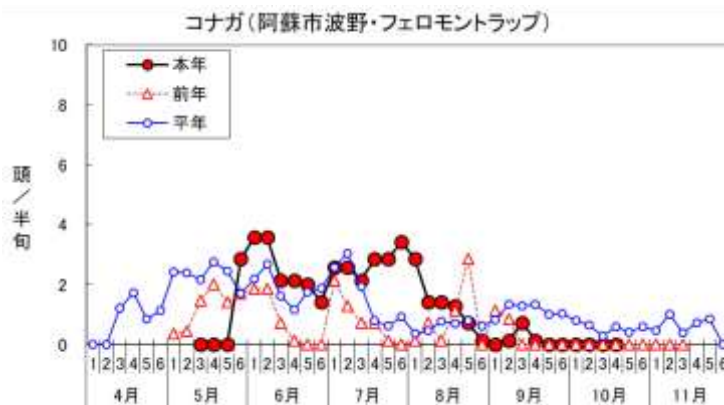
※平年値は過去10か年平均とする。



コナガの誘殺消長(フェロモントラップ)阿蘇市波野

月	半旬	本年	平年	前年	R2	R1	H30	H29	H28	H27	H26	H25	H24	
4月	1													
	2													
	3		1.2							1.1	2.5	0.0		
	4		1.7							5.7	1.2	0.0	0.0	
	5		0.9							2.3	1.2	0.0	0.0	
	6		1.1							3.1	1.4	0.0	0.0	
5月	1		2.4	0.4	0.0					5.7	1.7	0.0	6.9	
	2		2.4	0.5	0.0					2.1	3.2	0.0	8.6	
	3	0.0	2.2	1.5	0.0			0.0		2.1	3.1	0.0	8.6	
	4	0.0	2.8	2.0	0.0			1.7		2.0	1.4	0.0	12.1	
	5	0.0	2.4	1.4	0.0			0.1	1.3		1.4	3.6	0.0	11.7
	6	2.9	1.7	1.7	0.0	1.5	0.5	0.5	0.0	0.0	1.4	2.4	0.0	9.4
6月	1	3.6	2.2	1.9	4.7	1.5	1.5	1.9	0.0	1.9	2.1	0.0	6.4	
	2	3.6	2.7	1.9	3.6	3.0	3.6	1.7	0.9	2.1	2.1	0.0	7.9	
	3	2.1	1.6	0.7	1.3	2.1	4.4	1.4	1.1	2.1	0.0	0.0	3.1	
	4	2.1	1.2	0.1	1.6	1.8	2.0	2.1	0.0	1.0	2.1	0.0	0.7	
	5	2.0	1.8	0.0	2.9	3.0	2.0	2.1	0.0	0.7	3.3	0.0	3.6	
	6	1.4	1.9	0.0	2.1	2.2	3.2	2.1	0.0	0.7	2.1	2.1	4.1	
7月	1	2.6	2.6	2.1	1.7	2.6	5.0	2.1	0.0	0.7	1.0	3.9	6.6	
	2	2.6	3.0	1.3	1.4	3.5	3.5	4.9	0.0	1.1	0.4	4.1	10.0	
	3	2.1	1.9	0.7	1.4	2.0	1.4	4.7	0.0	1.1	0.0	0.7	7.1	
	4	2.9	0.8	0.7	0.9	1.7	0.1	0.8	0.0	0.0	0.0	0.1	3.7	
	5	2.9	0.6	0.1	0.7	1.6	0.5	1.4	0.0	0.0	0.0	0.6	1.3	
	6	3.4	0.9	0.0	0.7	2.4	3.1	0.6	0.0	0.0	0.3	1.4	0.7	
8月	1	2.9	0.4	0.1	0.0	0.5	2.4	0.0	0.0	0.0	0.7	0.0	0.0	
	2	1.4	0.5	0.7	0.6	0.5	2.0	0.0	0.1	0.0	0.7	0.0	0.0	
	3	1.4	0.8	0.1	0.7	0.5	2.0	0.7	0.7	1.7	0.7	0.6	0.0	
	4	1.3	0.7	1.1	0.7	0.5	0.4	0.3	0.7	1.3	0.6	1.4	0.0	
	5	0.7	0.8	2.9	2.1	0.5	0.0	0.0	0.4	0.0	0.0	2.1	0.0	
	6	0.1	0.6	0.0	3.7	1.5	0.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.9	0.0	
9月	1	0.0	0.8	1.1	3.6	2.0	0.5	0.0	0.0	0.0	0.5	0.6	0.0	
	2	0.1	1.3	0.9	3.6	2.0	1.7	0.0	2.9	0.3	0.8	1.4	0.0	
	3	0.7	1.3	0.0	1.4	4.0	1.8	0.0	4.4	0.7	0.6	0.0	0.0	
	4	0.1	1.3	0.0	1.9	3.5	1.5	0.0	5.7	0.0	0.1	0.4	0.3	
	5	0.0	1.0	0.0	1.9	2.0	2.0	0.0	2.1	0.0	0.3	1.1	0.7	
	6	0.0	1.0	0.0	0.7	1.7	1.7	0.0	2.6	0.0	0.7	2.9	0.0	
10月	1	0.0	0.8	0.0	0.7	1.8	1.3	0.0	2.7	0.0	0.1	1.2	0.0	
	2	0.0	0.7	0.0	0.4	1.6	0.5	0.0	2.1	1.1	0.4	0.3	0.0	
	3	0.0	0.3	0.0	0.0	0.0	0.1	0.0	1.3	0.9	0.6	0.0	0.0	
	4	0.0	0.6	0.0	0.0	1.2	0.0	0.0	1.1	0.0	1.4	2.1	0.0	
	5		0.4	0.0	0.0	0.9	0.0	0.0	0.7	0.0	0.9	1.7	0.0	
	6		0.6	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	3.4	0.0	0.4	2.0	0.0	
11月	1		0.5	0.0	0.0	0.0			1.0	0.6	0.0	2.1	0.0	
	2		1.0	0.0		0.0			1.0	2.9	0.0	2.1		
	3		0.4	0.0		0.0			1.4	0.0	0.0	0.9		
	4		0.7			0.0			2.1			0.0		
	5		0.9						0.9					
	6													
12月	1													
	2													
	3													
	4													
	5													
	6													

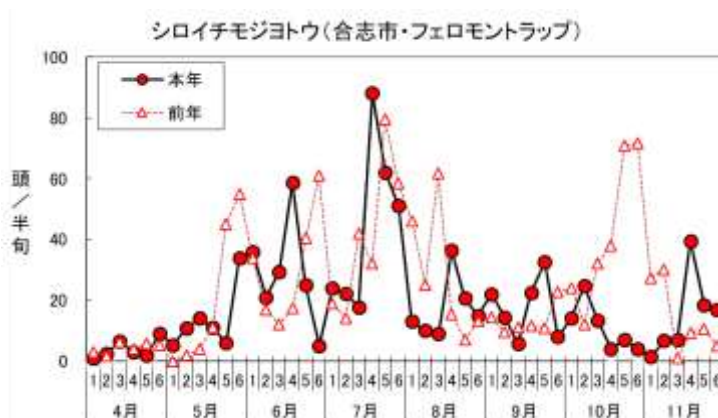
※平年値は過去10か年平均とする。



シロイチモジヨトウの誘殺消長 合志市栄

月	半旬	本年	平年	前年	R2	R1	H30	H29	H28	H27	H26	H25	H24
4月	1	1.0	2.2	3.0	1.4								
	2	2.5	1.5	1.7	1.4								
	3	6.5	5.4	6.3	4.4								
	4	3.0	2.0	4.0	0.0								
	5	2.0	2.8	5.7	0.0								
	6	9.0	2.7	5.3	0.0								
5月	1	5.3	2.4	0.0	4.8								
	2	10.8	4.9	2.0	7.8								
	3	14.0	13.4	4.0	22.7								
	4	11.0	8.5	11.0	6.0								
	5	6.0	24.0	45.0	3.0								
	6	34.0	33.5	55.0	12.0								
6月	1	36.0	23.5	34.0	13.0								
	2	21.0	20.5	17.0	24.0								
	3	29.3	45.0	12.0	77.9								
	4	58.7	39.1	17.4	60.7								
	5	25.0	38.5	40.6	36.4								
	6	5.0	52.0	61.0	43.0								
7月	1	24.0	27.3	19.0	35.6								
	2	22.3	19.3	14.0	24.6								
	3	17.7	33.5	42.0	24.9								
	4	88.0	22.6	32.0	13.1								
	5	62.0	47.0	79.6	14.4								
	6	51.0	38.1	58.4	17.8								
8月	1	13.0	24.6	46.0	3.1								
	2	10.0	22.5	25.0	20.0								
	3	9.0	41.0	61.7	20.3								
	4	36.3	15.0	15.3	14.6								
	5	20.7	6.0	7.0	4.9								
	6	15.0	20.5	13.0	28.0								
9月	1	22.0	10.7	14.3	7.0								
	2	14.3	36.8	9.7	64.0								
	3	5.7	34.5	11.0	57.9								
	4	22.5	25.2	11.5	38.8								
	5	32.5	28.5	10.8	46.2								
	6	8.0	24.8	22.7	26.9								
10月	1	14.0	19.5	24.0	15.0								
	2	24.8	15.7	12.0	19.3								
	3	13.3	20.3	32.0	8.6								
	4	4.0	19.5	38.0	1.0								
	5	7.0	41.8	71.0	12.6								
	6	4.0	41.7	71.7	11.7								
11月	1	1.3	24.4	27.3	21.4								
	2	6.7	24.1	30.0	18.1								
	3	7.0	31.5	1.0	61.9								
	4	39.5	28.8	9.3	48.3								
	5	18.5	16.3	10.7	22.0								
	6	17.0	4.0	5.0	3.0								
12月	1	0.0											
	2												
	3												
	4												
	5												
	6												

※平年値はR2とR3の平均値



ツマジロクサヨウの誘殺消長 合志市栄(3地点平均)

月	半旬	本年	平年	前年	R2	R1	H30	H29	H28	H27	H26	H25	H24
4月	1	0.0	0.0	0.0	0.0								
	2	0.0	0.0	0.0	0.0								
	3	0.0	0.0	0.0	0.0								
	4	0.0	0.2	0.0	0.3								
	5	0.0	0.0	0.0	0.0								
	6	0.0	0.0	0.0	0.0								
5月	1	1.5	0.0	0.0	0.0								
	2	2.5	0.3	0.7	0.0								
	3	0.6	0.8	1.6	0.0								
	4	0.1	1.1	1.8	0.3								
	5	0.0	0.7	0.7	0.7								
	6	0.0	1.7	3.0	0.3								
6月	1	0.0	1.5	2.7	0.3								
	2	0.0	0.8	1.0	0.7								
	3	0.0	0.0	0.0	0.0								
	4	0.0	0.3	0.0	0.7								
	5	0.0	0.7	0.0	1.3								
	6	0.0	0.5	0.0	1.0								
7月	1	3.0	1.8	1.0	2.7								
	2	0.2	3.1	0.2	6.0								
	3	0.1	1.7	0.1	3.3								
	4	0.0	0.2	0.0	0.3								
	5	0.7	0.0	0.0	0.0								
	6	12.9	0.5	0.0	1.0								
8月	1	2.8	1.3	0.3	2.3								
	2	0.0	0.7	0.7	0.7								
	3	0.3	3.6	1.9	5.3								
	4	0.0	5.9	0.4	11.3								
	5	0.3	5.2	0.3	10.0								
	6	2.7	6.3	3.0	9.7								
9月	1	11.0	21.6	7.9	35.3								
	2	17.6	56.7	3.4	110.0								
	3	1.8	54.3	4.0	104.7								
	4	11.7	22.3	4.2	40.3								
	5	25.3	42.9	2.4	83.3								
	6	29.7	27.6	21.1	34.0								
10月	1	30.1	44.8	26.7	63.0								
	2	42.8	169.1	51.9	286.3								
	3	55.2	155.7	27.3	284.0								
	4	17.3	76.4	7.5	145.3								
	5	10.0	79.8	5.3	154.3								
	6	33.0	23.9	19.2	28.7								
11月	1	77.6	17.7	19.4	16.0								
	2	6.4	18.0	15.0	21.0								
	3	39.3	9.8	0.3	19.3								
	4	26.0	42.7	2.0	83.3								
	5	52.0	9.7	0.7	18.7								
	6	51.7	2.2	0.0	4.3								
12月	1	0.0	0.0	0.0									
	2	0.0	0.0	0.0									
	3		0.0	0.0									
	4		0.0	0.0									
	5												
	6												

※平年値はR2とR3の平均値

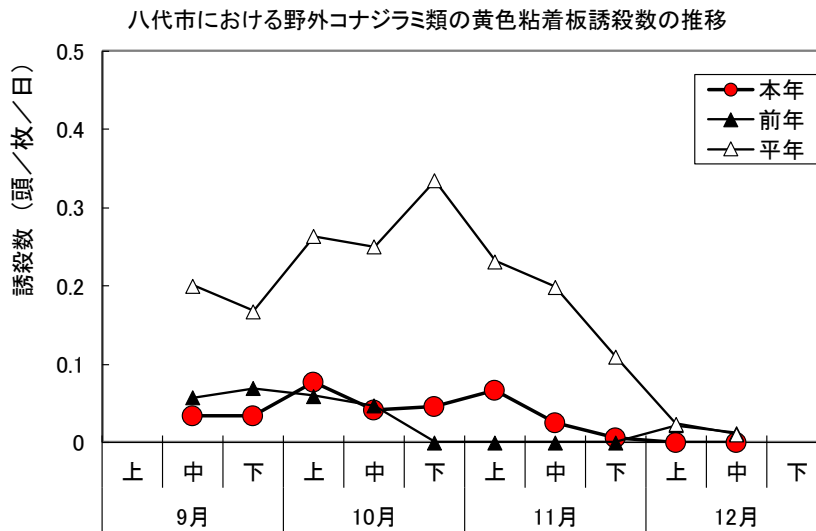


(ウ) 野外におけるコナジラミ類の捕獲状況

○八代市における野外コナジラミ黄色粘着板捕獲数(頭/日/トラップ)

	9月			10月			11月			12月		
	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下
本年		0.03	0.03	0.08	0.04	0.05	0.07	0.03	0.01	0.00	0.00	
前年		0.06	0.07	0.06	0.05	0.00	0.00	0.00	0.00	0.02	0.01	
平年		0.20	0.17	0.26	0.25	0.33	0.23	0.20	0.11	0.02	0.01	

※黄色粘着板(10×10cm)は、1地点当たり約5m間隔で3枚設置し、約2週間間隔で調査
 ※平年値は、H29～R03の5カ年の平均



(エ) トマト黄化葉巻ウイルス保毒状況調査

表1 屋外コナジラミ類の捕獲頭数

地域	設置場所	誘殺数（頭／日／枚）						
		本年	2021年	2020年	2019年	2018年	2017年	平年値
熊本市	学料公民館	0.2	0.1	0.2	0.3	3.0	0.5	0.8
玉名市	J Aたまな横島倉庫	2.5	0.4	3.3	1.6	2.4	0.8	1.7
八代市	J Aやつしろ中央営農センター	0.1	0.0	0.7	0.4	0.3	0.1	0.3
平均値		0.9	0.2	1.4	0.8	1.9	0.4	0.9

- ※1 黄色粘着板(10cm×10cm)による誘殺数調査。設置期間は9月2日～10日。過去5か年も同様に設置期間は9月上旬。
 ※2 黄色粘着板を1地点あたり3枚設置。
 ※3 平年値は、2017年から2021年の5か年平均とする。
 ※4 玉名市の設置場所は2021年からJ Aたまな横島倉庫に変更。
 (設置場所：2014～2018年 旧しあわせ農協、2019年～2020年 J Aたまな横島イチゴ集荷所)

表2 野外で採集したタバココナジラミのトマト黄化葉巻ウイルス保毒状況

地域	設置場所	保毒虫率（％）						
		本年	2021年	2020年	2019年	2018年	2017年	平年値
熊本市	学料公民館	1.7 (60)	1.7 (60)	3.3 (60)	6.7 (60)	5.0 (60)	15.0 (60)	6.3
玉名市	J Aたまな横島倉庫	6.7 (60)	6.7 (60)	0.0 (60)	1.7 (60)	6.7 (60)	3.3 (60)	3.7
八代市	J Aやつしろ中央営農センター	7.7 (26)	8.3 (60)	5.0 (60)	6.7 (45)	3.3 (60)	1.8 (56)	5.0
平均値		5.3	5.6	2.8	5.0	5.0	6.7	5.0

- ※1 採集期間は熊本市9月1～26日、玉名市9月1～12日、八代市9月1～30日。過去5か年の採集期間は9月上～中旬。
 (本年は9月前半の誘殺数が非常に少なかったため、調査期間を平年よりも延長した。)
 ※2 ()内の数値は検定数。
 ※3 平年値は2017年から2021年の5か年平均とする。
 ※4 玉名市の設置場所は2021年からJ Aたまな横島倉庫に変更。
 (設置場所：2014～2018年 旧しあわせ農協、2019年～2020年 J Aたまな横島イチゴ集荷所)

表3 野外保毒虫数の試算

地域	設置場所	保毒虫数（頭／日／枚）						
		本年	2021年	2020年	2019年	2018年	2017年	平年値
熊本市	学料公民館	0.00	0.00	0.01	0.02	0.15	0.07	0.05
玉名市	J Aたまな横島倉庫	0.16	0.03	0.00	0.03	0.16	0.03	0.05
八代市	J Aやつしろ中央営農センター	0.01	0.00	0.04	0.03	0.01	0.00	0.02
平均値		0.06	0.01	0.01	0.03	0.11	0.03	0.04

- ※1 保毒虫数＝誘殺数×保毒虫率（誘殺数：表1のとおり、保毒虫率：表2のとおり）
 ※2 平年値は2017年から2021年の5か年平均とする。
 ※3 玉名市の設置場所は2021年からJ Aたまな横島倉庫に変更。
 (設置場所：2014～2018年 旧しあわせ農協、2019年～2020年 J Aたまな横島イチゴ集荷所)

(ア) 野菜害虫

1 目的

農業生産の安定を図るために、植物防疫法の規定に基づき、病虫害の発生予察調査を行い、迅速適切な情報の提供によって適期防除を推進する。

2 方法

(1) 調査場所：県予察ほ場（生産環境研究所ほ場）

(2) トラップの種類と対象害虫

フェロモントラップ：ハスモンヨトウ（乾式、地上 130cm 設置）

オオタバコガ（粘着式SEトラップ（白色）、地上 120cm 設置）

タバコガ（粘着式SEトラップ（白色）、地上 120cm 設置）

(3) 調査方法：4月1日から翌年の3月31日まで、1～5日毎に誘殺数を調査した。なお、フェロモントラップのフェロモンおよび粘着板は、約1ヶ月毎に交換した。

3 結果および考察

(1) ハスモンヨトウ

フェロモントラップにおける誘殺数は、10月6半旬、11月4半旬に平年より高いピークが認められたものの、全期間で平年よりもやや少なく推移した。

(2) オオタバコガ

フェロモントラップにおける誘殺数は、6月5半旬、7月4半旬に平年より高いピークが認められたものの、全期間では平年よりも少なく推移した。

(3) タバコガ

フェロモントラップにおける誘殺数は、5月6半旬、7月3半旬、8月3半旬、9月2半旬、10月3半旬に平年よりも高いピークが認められたものの、全期間では平年とほぼ同等に推移した。

試験成績

第1表 ハスモンヨトウの誘殺消長

月	半 旬	R4 年度	平年*)	月	半 旬	R4 年度	平年*)
4	1	1	8.9	10	1	162	404.8
	2	1	7.3		2	348	452.9
	3	6	8.2		3	562	371.7
	4	1	13.5		4	604	391.4
	5	2	11.4		5	406	391.1
	6	4	13.1		6	640	581.3
5	1	41	14.5	11	1	325	374.9
	2	18	21.1		2	230	450.6
	3	14	38.5		3	393	379.2
	4	10	49.8		4	464	291.2
	5	5	47.7		5	300	201.0
	6	8	46.8		6	271	85.4
6	1	4	54.7	12	1	0	26.4
	2	53	62.3		2	3	10.0
	3	34	82.8		3	3	10.2
	4	11	79.6		4	0	1.5
	5	40	67.1		5	0	0.8
	6	29	90.0		6	0	1.2
7	1	23	95.7	1	1	0	0.1
	2	26	105.9		2	0	0.4
	3	26	124.1		3	0	0.0
	4	68	90.6		4	0	0.0
	5	131	91.6		5	0	0.2
	6	54	125.4		6	0	0.2
8	1	35	160.2	2	1	0	0.3
	2	27	147.9		2	0	0.0
	3	40	154.0		3	0	0.2
	4	117	182.3		4	0	0.3
	5	47	224.8		5	0	0.2
	6	107	301.7		6	0	0.0
9	1	78	325.1	3	1	0	0.5
	2	185	244.9		2	1	0.9
	3	227	381.3		3	1	0.9
	4	367	572.0		4	1	1.5
	5	345	437.2		5	4	1.4
	6	191	340.2		6	0	3.5

*)平年値は平成24年～令和3年の平均値

第2表 オオタバコガの誘殺消長

月	半 旬	R4 年度	平年*)	月	半 旬	R4 年度	平年*)
4	1	1	0.3	10	1	8	45.4
	2	0	0.6		2	10	47.0
	3	1	0.5		3	7	25.6
	4	1	0.8		4	2	13.6
	5	0	1.3		5	0	8.4
	6	0	1.7		6	1	7.8
5	1	3	1.6	11	1	0	6.9
	2	19	4.2		2	0	13.4
	3	0	3.2		3	3	11.5
	4	0	2.4		4	12	10.5
	5	0	1.4		5	3	7.2
	6	0	0.8		6	3	2.3
6	1	0	2.4	12	1	0	2.7
	2	3	3.1		2	0	0.3
	3	2	8.1		3	0	0.1
	4	34	18.9		4	0	0.2
	5	123	26.0		5	0	0.3
	6	49	21.7		6	0	0.1
7	1	7	23.0	1	1	0	0.0
	2	2	9.0		2	0	0.0
	3	15	5.1		3	0	0.0
	4	80	1.7		4	0	0.1
	5	63	4.0		5	0	0.0
	6	7	10.3		6	0	0.0
8	1	7	30.2	2	1	0	0.1
	2	2	15.7		2	0	0.0
	3	0	7.7		3	0	0.0
	4	4	4.4		4	0	0.0
	5	0	14.1		5	0	0.1
	6	0	16.7		6	0	0.1
9	1	0	44.6	3	1	0	0.0
	2	4	23.4		2	0	0.0
	3	2	17.5		3	0	0.0
	4	4	25.6		4	0	0.0
	5	8	32.0		5	1	0.2
	6	2	28.1		6	0	0.2

*)平年値は平成24年～令和3年の平均値

第3表 タバコガの誘殺消長

月	半	R 4	平年*)	月	半	R 4	平年*)
	旬	年度			旬	年度	
4	1	0	0.0	10	1	30	23.0
	2	0	0.0		2	10	24.0
	3	0	0.0		3	45	14.6
	4	0	0.0		4	16	16.2
	5	0	0.4		5	27	13.0
	6	0	0.7		6	2	10.1
5	1	2	0.7	11	1	11	6.1
	2	4	1.9		2	6	7.4
	3	4	2.1		3	6	6.2
	4	13	3.7		4	5	5.5
	5	6	5.0		5	4	2.4
	6	20	5.6		6	6	0.3
6	1	11	8.7	12	1	欠測	0.2
	2	7	6.7		2	欠測	0.0
	3	3	9.6		3	欠測	0.0
	4	1	6.2		4	欠測	0.0
	5	2	6.3		5	欠測	0.0
	6	5	6.9		6	欠測	0.0
7	1	5	12.0	1	1	欠測	0.0
	2	13	16.1		2	欠測	0.0
	3	28	11.0		3	欠測	0.0
	4	22	9.7		4	欠測	0.0
	5	20	8.9		5	欠測	0.0
	6	10	12.5		6	欠測	0.0
8	1	25	31.0	2	1	欠測	0.0
	2	17	29.4		2	欠測	0.0
	3	30	22.3		3	欠測	0.0
	4	13	18.8		4	欠測	0.0
	5	13	21.9		5	欠測	0.0
	6	12	18.9		6	欠測	0.0
9	1	11	28.4	3	1	欠測	0.0
	2	31	21.3		2	欠測	0.0
	3	13	25.7		3	欠測	0.0
	4	2	20.1		4	欠測	0.0
	5	15	22.7		5	欠測	0.0
	6	14	20.9		6	欠測	0.0

*) 平年値は平成24年～令和3年の平均値

2 発生予察情報の提供

(1) 警報、注意報、特殊報、技術情報

ア 警報

発表なし

イ 注意報

第1号 令和4年6月2日 [チャノミドリヒメヨコバイ \(茶\)](#)

第2号 令和4年6月17日 [いもち病 \(葉いもち、穂いもち\) \(早期水稻\)](#)

ウ 特殊報

第1号 令和4年12月13日 [モモヒメヨコバイ \(モモ、スモモ、ウメ\)](#)

第2号 令和4年12月13日 [ゴボウ軟腐病 \(仮称\) \(ゴボウ\)](#)

第3号 令和5年1月23日 [ネギハモグリバエB系統 \(ネギ\)](#)

エ 技術情報

第1号 令和4年4月28日 [ナシマルカイガラムシの第一世代発生予測について](#)

第2号 令和4年5月20日 [麦類赤かび病の発生状況について](#)

第3号 令和4年7月8日 [水稻海外飛来性害虫の飛来状況について](#)

第4号 令和4年7月25日 [トビイロウンカの新たな飛来について](#)

第5号 令和4年7月28日 [オオタバコガの発生状況と防除対策について](#)

第6号 令和4年8月2日 [果樹カメムシ類の果樹園への飛来開始時期について](#)

第7号 令和4年8月2日 [早植え水稻のいもち病発生状況について](#)

第8号 令和4年8月17日 [ツマジロクサヨトウの発生状況について](#)

第9号 令和4年8月17日 [トビイロウンカの発生状況について](#)

第10号 令和4年9月1日 [夏秋トマトにおける地上病害の発生状況と防除対策について](#)

第11号 令和4年9月12日 [タバココナジラミのウリ類退緑黄化ウイルス保毒状況と防除対策について](#)

第12号 令和4年10月13日 [タバココナジラミのトマト黄化葉巻ウイルス保毒状況と防除対策について](#)

第13号 令和5年2月27日 [冬春ナス、冬春キュウリにおける灰色かび病の発生状況と防除対策について](#)

第14号 令和5年3月2日 [チャバネアオカメムシの越冬量及び本年7月頃までの発生量について](#)

第15号 令和5年3月27日 [イグサシンムシガの越冬調査結果について](#)

各関係機関長 様

熊本県病虫害防除所長

病虫害発生予察注意報について（送付）

このことについて、令和4年度（2022年度）病虫害発生予察注意報第1号を
発表しましたので、送付します。

注 意 報

令和4年度（2022年度）病虫害発生予察注意報第1号

農作物名 茶
病虫害名 チャノミドリヒメヨコバイ

- 1 発生地域 県内全域
- 2 発生時期 5月下旬以降
- 3 発生程度 平年比 多

4 注意報発表の根拠

- (1) 本年5月中旬に実施した巡回調査では、被害芽数7.6個/m²（平年1.4個/m²、前年0.6個/m²）と平年比多の発生であった（図1）。
- (2) 茶業研究所（御船町）のたたき落とし調査では、5月第5半旬の捕獲頭数が13頭/10か所（平年4頭/10か所、前年6頭/10か所）と平年比多の発生であった。
- (3) 福岡管区气象台が5月26日に発表した九州北部地方1か月予報によると、向こう1か月の気温は平年並か平年より高い予想であり、今後も本害虫の増殖に好適な条件が続くことが予想される。

5 防除対策

本害虫は成虫、幼虫とも新芽や新梢を吸汁加害する。萌芽期から開葉期に被害を受けると葉の褐変や萎縮が発生し、落葉を引き起こす。更新園や幼木園等、常に新梢がある場合は被害が大きくなりやすく、また増殖場所にもなりやすいため、特に発生に注意し、以下の防除対策を行う。

- (1) 萌芽期から1葉開葉期に薬剤散布による防除を実施する。発生が多い場合、摘採を行う茶園では早めに摘採を行い、不摘採の茶園および幼木園では1回目の防除の約2週間後に異なる系統の薬剤で、新たなふ化幼虫を対象とした追加防除を実施する。
- (2) 薬剤散布の際には、すそ部を含め、新芽や新梢にもムラなく薬剤が行き渡るように十分な量を散布する。また、薬剤抵抗性の発達を防ぐため、系統の異なる薬剤のローテーション使用を行う。
- (3) 農薬を使用する際はラベルをよく確認し、使用基準（収穫前使用日数や希釈倍数等）を遵守する。
- (4) 天敵への影響を最小限に抑えるため、選択性の高い農薬の使用を心掛ける。近隣のほ場へのドリフト及びミツバチや魚介類等、周辺動植物や環境に影響が無いよう、飛

散防止を徹底し、危害防止に努める。
 (5) 二番茶摘採後は、剪枝等耕種的防除により、次世代の発生密度の低減に努める。

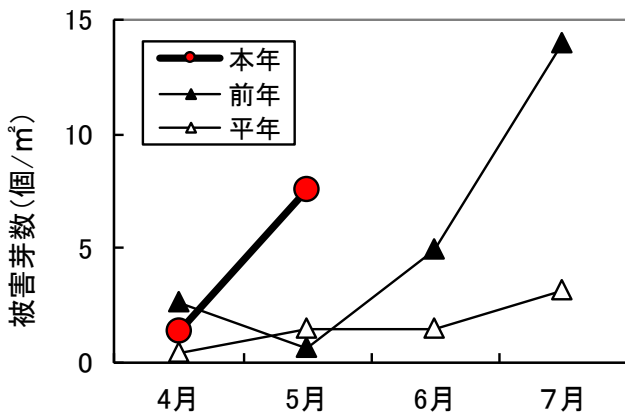


図1 チャノミドリヒメヨコバイ被害芽数の推移
 ※平年値は過去10か年平均



写真1 チャノミドリヒメヨコバイ成虫
 (体長約3mm)



写真2 チャノミドリヒメヨコバイ
 老齢幼虫 (体長約2mm)



写真3 二番茶の被害 (新葉の褐変・落葉)

熊本県病害虫防除所
 (農業研究センター生産環境研究所内)
 担当：岡島、福岡 TEL：096-248-6490

各関係機関長 様

熊本県病害虫防除所長

病害虫発生予察注意報について（送付）

このことについて、令和4年度（2022年度）病害虫発生予察注意報第2号を公表しましたので、送付します。

注 意 報

令和4年度（2022年度）病害虫発生予察注意報第2号

農作物名 早期水稻
病害虫名 いもち病（葉いもち、穂いもち）

- 1 発生地域 早期水稻栽培地域
- 2 発生時期 穂ばらみ期以降
- 3 発生程度 多
- 4 注意報発表の根拠

- （1）気象データ（AMEDAS）を用いた「いもち病感染好適条件判定（BLASTAM）」では5月3半旬と6月3半旬に感染好適条件となった日が多かった（別表1）。
- （2）6月中旬に実施した早期水稻の巡回調査によると、葉いもちの発病株率は29.3%（平年2.2%）、発病度は9.5（平年0.6）と平年比多の発生であった（図1）。
- （3）多発ほ場の一部では症状の重い「ずり込み症状」も見られている（図2）。
- （4）福岡管区気象台の発表では6月11日に梅雨入りし、前線や湿った空気の影響で曇りや雨の日が多くなる見込みであり、いもち病の発生に好適な条件となる。

5 防除対策

- （1）穂いもちは発生後の防除が困難であるため、出穂前に予防防除を徹底する。
- （2）ほ場をよく観察し、上位3葉に葉いもちの病斑が見られる場合は速やかに防除を行う。
- （3）出穂期を迎える水稻で粉剤や水和剤を使用する場合は、穂ばらみ期～穂揃い期に散布する。

なお、粒剤を使用する場合は出穂前に散布するが、薬剤により散布時期が異なるので、ラベルを確認して使用する。

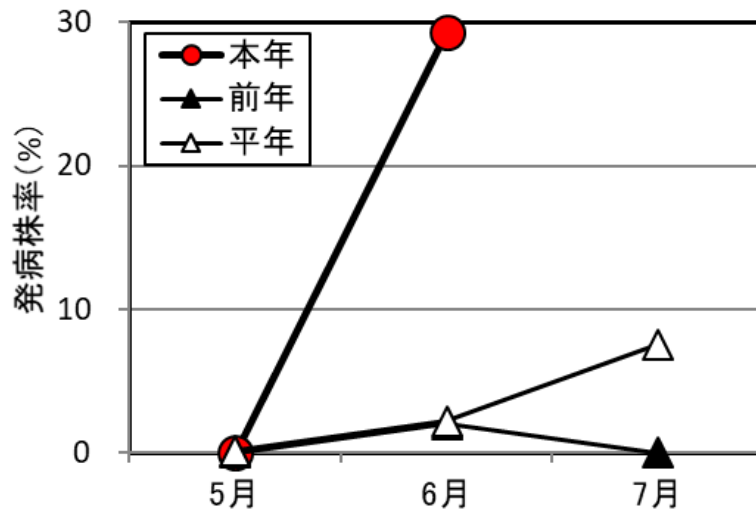


図1 早期水稻葉いもち発病株率の推移



図2 いもち病が多発したほ場（調査地点）の状況（令和4年6月13日撮影）

熊本県病害虫防除所
 (熊本県農業研究センター生産環境研究所内)
 担当：清永 TEL 096-248-6490

各関係機関長 様

熊本県病虫害防除所長

病虫害発生予察特殊報について（送付）
このことについて、発生予察特殊報第1号を発表しましたので送付します。

特 殊 報

令和4年度（2022年度）発生予察特殊報第1号

令和4年（2022年）12月13日

熊本県病虫害防除所長

- 1 病虫害名 モモヒメヨコバイ
- 2 学 名 *Singapora shinshana* (Matsumura)
- 3 発生作物 モモ、スモモ、ウメ

- 4 発生確認の経過
令和4年（2022年）8月、県内の庭木のモモの葉で白化症状がみられ、被害葉には多数のヨコバイ類の寄生が確認された。その後、9月に同様の症状が他地域の庭木のスモモおよびウメにおいても確認された。これらから寄生しているヨコバイ類を採集し、果樹研究所で確認したところ、県内での発生が未確認であったモモヒメヨコバイであることが疑われたため、農林水産省門司植物防疫所に同定を依頼した。その結果、モモヒメヨコバイであることが判明した。

- 5 国内外の発生状況
国外では中国、台湾、韓国、北朝鮮での分布が確認されている。
国内では、沖縄県での分布が知られていたが、令和元年に和歌山県で確認されて以降、本州、四国、九州の計20都府県で発生が報告されている。

- 6 形態及び生態等の特徴
 - (1) 形態
成虫の体色は概ね黄緑色で、体長は3.0~3.5mm（図1）。若齢幼虫の体色は薄い黄色で、終齢幼虫になるにつれて成虫と同じ黄緑色になる。複眼は黒色で頭頂部に黒点を有する（図2）。
 - (2) 生態
国内での詳細な生態は明らかになっていないが、モモ、スモモ、ウメ、アンズ、オウトウ等バラ科果樹を加害することが確認されている。また、海外ではサンザシ、ポポー、ポプラ等への加害も報告されている。

(3) 被害

成虫、幼虫ともに葉を吸汁加害する。吸汁された部分は小さな点の形で脱色し、葉全体を吸汁されると白化症状となる(図3)。また、激しく加害されると早期落葉を引き起こす。被害葉の葉裏には多くの脱皮殻が付着している場合がある。

7 防除対策

- (1) 本種の発生及び被害の早期発見に努める。被害葉が認められた場合は速やかに除去し、適切に処分する。
- (2) 小粒核果類(スモモ、ウメ、アンズ)においてはモモヒメヨコバイの登録がある農薬を用いて防除を行う。



図1 モモの葉に寄生するモモヒメヨコバイ成虫



図2 モモヒメヨコバイ成虫の頭頂部の黒点



図3 ウメにおけるモモヒメヨコバイの吸汁加害による葉の白化症状

熊本県病虫害防除所
(農業研究センター 生産環境研究所内)
担当：岡島、福岡
TEL 096-248-6490 FAX 096-248-6493

各関係機関長 様

熊本県病害虫防除所長

病害虫発生予察特殊報について（送付）
このことについて、発生予察特殊報第2号を発表しましたので送付します。

特 殊 報

令和4年度（2022年度）発生予察特殊報第2号

令和4年（2022年）12月13日

熊本県病害虫防除所長

- 1 病害虫名 ゴボウ軟腐病（仮称）
- 2 学 名 *Pectobacterium carotovorum*
- 3 発生作物 ゴボウ（キク科）
- 4 発生確認の経過
令和2年（2020年）5月、県内で収穫、洗浄したゴボウにおいて、出荷先で腐敗しているものが確認された。ゴボウは根部切り口部や表面が黒く変色し、軟化腐敗していた（図1）。腐敗部分からは細菌が分離され、ゴボウ根部および葉柄において病原性を確認した。分離した細菌は熊本県農業研究センター生産環境研究所において、*Pectobacterium carotovorum* と同定された。
- 5 国内の発生状況
本病原菌はハクサイやバレイショなど、多数の野菜類において軟腐病を引き起こす病原菌として知られているが、本病原菌によるゴボウの病害の発生は日本国内ではまだ報告されていない。
- 6 病徴
本病害は、出荷後に根部切り口部や表面が黒色の水浸状に軟化腐敗し、悪臭を放つ。栽培ほ場での発病は確認されていないが、葉柄に接種すると、接種部位が黒色の水浸状になり、その後病斑が拡大し、葉柄は萎れて枯死する。
- 7 防除対策
本病害に対する登録農薬は無いため、他の品目における軟腐病の対策と同様に排水対策等の耕種的防除が有効と考えられる。収穫後はできるだけ傷つけないように丁寧に扱い、衛生管理に努める。

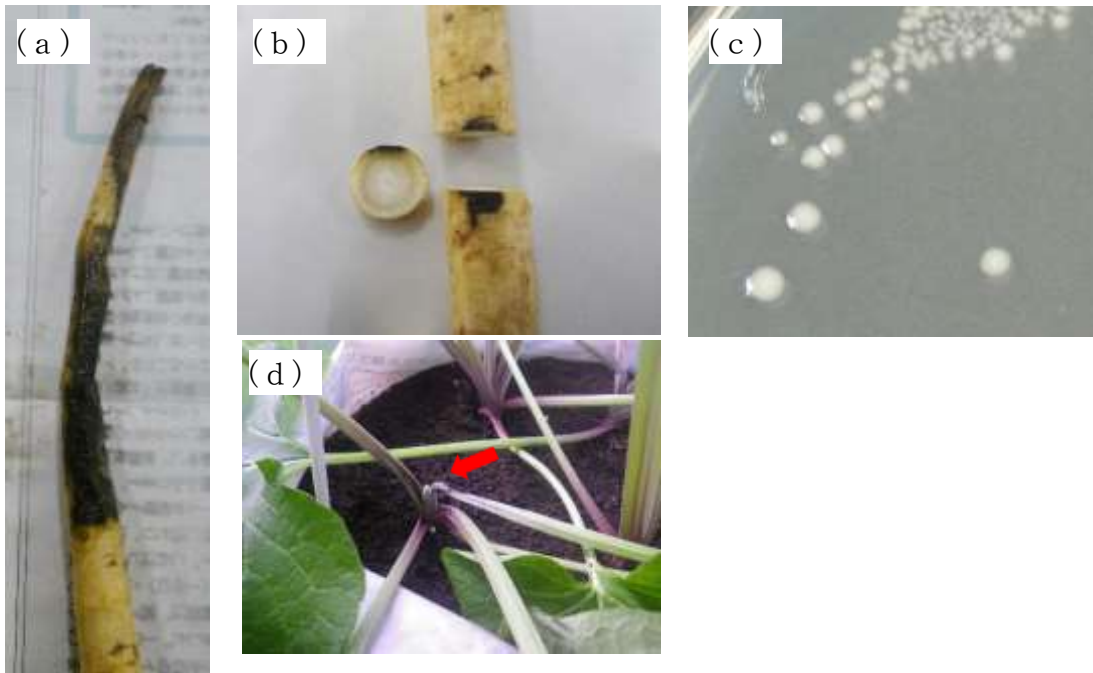


図1 ゴボウの腐敗症状と分離菌ならびに葉柄接種の病徴

- a. 根部切り口部の腐敗 b. 根部表面の腐敗とその断面 c. NA培地上の分離菌のコロニー
 d. 葉柄接種2日後の病徴 (矢印は接種部位)

熊本県病害虫防除所
 (熊本県農業研究センター 生産環境研究所内)
 担当：中井、福岡
 TEL 096-248-6490 FAX 096-248-6493

各関係機関長 様

熊本県病害虫防除所長

病害虫発生予察特殊報について（送付）
このことについて、発生予察特殊報第3号を発表しましたので送付します。

特 殊 報

令和4年度（2022年度）発生予察特殊報第3号
令和5年（2023年）1月23日
熊本県病害虫防除所長

- | | |
|--------|---------------------------------|
| 1 病害虫名 | ネギハモグリバエB系統 |
| 2 学 名 | <i>Liriomyza chinensis</i> Kato |
| 3 発生作物 | ネギ |

4 発生確認の経過

令和4年（2022年）10月、県内のネギ栽培圃場で、ハモグリバエ類の寄生と、激しい食害による葉の白化症状が確認された。被害様相が従来のネギハモグリバエ（以下、A系統）のものと異なっており、他都府県で発生が認められているネギハモグリバエB系統が疑われた。そのため、国立研究開発法人農業・食品産業技術総合研究機構野菜花き研究部門に遺伝子解析による同定を依頼した結果、ネギハモグリバエB系統であることが判明した。

注) 系統とは、分類上は同一種に属しているが、種の範囲内で生物的な性質が異なる集団。

5 国内外の発生状況

国外での発生状況の詳細は不明であるが、同じ遺伝子配列のネギハモグリバエが中国から報告されている。

国内では、平成28年に京都府で初めて確認され、これまでに36都府県から特殊報が発表されている。九州では、福岡県、佐賀県、長崎県、大分県及び鹿児島県で確認されている。

6 形態及び生態等の特徴

(1) 形態

成虫の体長は2～3mmで、胸部と腹部は黒く、その他の部分は淡黄色である。幼虫はうじ虫状で、成長すると体長3～4mmに達する。蛹は体長約3mmで褐色、俵状である（図1）。形態によるA系統とB系統の識別は困難である。

(2) 生態

成虫が葉の組織内に産卵し、ふ化した幼虫は葉の内部に潜り込んで葉肉を食害する。幼虫は成長すると葉から脱出し、地表面または土中で蛹になる。

(3) 被害

B系統は、A系統と同様に幼虫が葉に潜り込んで葉肉を食害し、不規則な白線状の食害痕を形成する。A系統に比べて1葉当たりの寄生虫数が多く、集中的に加害するため、食害が進展すると食害痕同士が合わさり、葉が白化症状を呈するなど、A系統より激しい被害となる（図2）。

7 防除対策

(1) 両系統は、形態での識別は困難であるため、ハモグリバエ類の被害を認めたら、ネギハモグリバエまたはハモグリバエ類に登録のある薬剤による発生初期の防除を徹底する。なお、薬剤抵抗性発達防止のため、同一系統薬剤は連用しない。

(2) 被害葉及び収穫残さは本虫の発生源となるので、圃場から持ち出し適切に処分する。



図1 ネギハモグリバエの形態



図2 ネギハモグリバエB系統によるネギ葉の食害

熊本県病害虫防除所
(熊本県農業研究センター 生産環境研究所内)
担当：福岡、中井
TEL 096-248-6490 FAX 096-248-6493

各関係機関長 様

熊本県病害虫防除所長

ナシマルカイガラムシの第一世代発生予測（技術情報第1号）について（送付）
このことについて、下記のとおり取りまとめましたので、業務の参考に御活用ください。

記

本年度のナシマルカイガラムシ第一世代歩行幼虫の発生時期は、平年に比べて1週間程度早いと予想されます。今後の気温上昇に伴って発生時期が更に早まることも懸念されるため、本情報の予測時期を参考にし、防除を徹底しましょう。

1 ナシマルカイガラムシの発生時期について

- (1) 有効積算温度を用いてナシマルカイガラムシ第一世代歩行幼虫の発生時期を予測した結果、第一世代の発生初期及び発生ピーク時期はどちらも平年より1週間程度早い予測となった（表）。
- (2) 福岡管区气象台が4月21日に発表した気象予報によると、向こう1ヶ月の気温は平年より高い予想のため、ナシマルカイガラムシの発生時期が早まることが懸念される。

表 ナシマルカイガラムシ歩行幼虫の有効積算温度による発生予測（4月24日時点）

地点名	第一世代発生初期		第一世代発生ピーク時期	
	本年	平年	本年	平年
岱明	5月7日 ~ 5月11日	5月15日 ~ 5月19日	5月17日 ~ 5月22日	5月24日 ~ 5月28日
熊本	5月3日 ~ 5月7日	5月11日 ~ 5月15日	5月13日 ~ 5月17日	5月20日 ~ 5月24日
三角	5月7日 ~ 5月11日	5月13日 ~ 5月17日	5月17日 ~ 5月21日	5月22日 ~ 5月26日
甲佐	5月7日 ~ 5月12日	5月15日 ~ 5月19日	5月18日 ~ 5月22日	5月24日 ~ 5月28日
本渡	5月10日 ~ 5月15日	5月16日 ~ 5月20日	5月21日 ~ 5月25日	5月26日 ~ 5月30日
水俣	5月8日 ~ 5月12日	5月14日 ~ 5月18日	5月18日 ~ 5月23日	5月24日 ~ 5月28日

2 防除対策について

- (1) ナシマルカイガラムシの第一世代は発生時期が揃いやすく、防除効果が高い。また、有効積算温度から歩行幼虫の発生時期を高い精度で予測することが可能であるため、上記の表（ナシマルカイガラムシ歩行幼虫の有効積算温度による発生予測）を参考に防除を実施する。
- (2) 防除薬剤については、若齢幼虫（歩行幼虫～1齢幼虫まで）に対して防除効果が高く残効の長い薬剤は、歩行幼虫の発生初期が防除適期である。また、残効の短い薬剤は、歩行幼虫の発生ピーク時か、その少し後が防除適期である。
- (3) ナシマルカイガラムシは樹幹や枝に寄生することが多いため、薬剤を散布する際はこれらの部分にも十分に薬剤がかかるようにムラなく丁寧に行う（写真1）。
- (4) 農薬を使用する際はラベルをよく確認し、農薬登録内容を遵守して使用する。

※アメダス実測値を用いたナシマルカイガラムシの発生時期予測に関する情報は病害虫防除所のホームページ（<https://www.pref.kumamoto.jp/soshiki/75/125504.html>）に掲載し、随時更新します。



写真1 ナシマルカイガラムシが寄生した枝

熊本県病害虫防除所
(熊本県農業研究センター 生産環境研究所
予察指導室)
担当：岡島、福岡 TEL 096-248-6490

各関係機関長 様

熊本県病害虫防除所長

麦類赤かび病の発生状況（技術情報第2号）について（送付）
このことについて、下記のとおり取りまとめましたので、業務の参考に御活用ください。

麦類の赤かび病は平年と比較してやや多の発生である。
一部のほ場では発病程度が高い穂も散見されるため、収穫以降の対策を徹底する。

記

1 麦類赤かび病の発生状況の調査概要（別紙）

- (1) 5月6日、11日及び12日に、県内の麦類赤かび病の発生状況調査を、小麦26ほ場、大麦12ほ場で行った。
- (2) 小麦では、発病穂率3.3%（平年1.4%）、発生ほ場率84.6%（平年38.0%）、発病度0.60（平年0.27）で、平年比やや多の発生であった。また発病が確認されたほ場では、発病程度が高い穂が散見された。
- (3) 大麦では、発病穂率2.0%（平年0.8%）、発生ほ場率41.7%（平年22.2%）、発病度0.33（平年0.13）で、平年比やや多の発生であった。しかし、発病した穂の被害粒は1～2粒程度と発病程度は軽かった。

2 今後の留意点

赤かび病の発病程度は軽いが、発生は平年比やや多であるので、多発したほ場では下記の対策を徹底する。

- (1) 刈り遅れると、赤かび病菌が産生するかび毒（DON）の含有濃度が高くなる傾向があるため、適期に収穫する。
- (2) 収穫時にほ場を確認し、赤かび病の発生ほ場で倒伏がみられた場合は、かび毒汚染の可能性が高くなるため、可能な限り他の麦とは分けて収穫する。
- (3) 共同乾燥施設においては、荷受時に赤かび病被害粒のチェックを行い、被害粒がみられた場合は、必要に応じてその他の麦とは別に乾燥するなどの仕分けを行う。
- (4) 赤かび病被害粒は粒厚が薄く、また比重が軽い傾向があるため、粒厚選別や比重選別により被害粒除去に努める。

（参考）

- 1) 麦類の病気の一つである赤かび病は、フザリウムというかびが原因であり、かび毒であるデオキシニバレノール（Deoxynivalenol: DON）を作ります。

2) 平成15年産麦（大麦を含む）からは、農産物検査規格のうち食用麦の赤かび病被害粒の混入率が、これまでの1.0%から0.0%に引き下げられました。また、食品衛生法に基づき、小麦についてデオキシニバレノール（DON）を1.0mg/kgを超えて含有するものであってはならない旨の成分規格が新たに設定され、令和4年4月1日から適用されました。

熊本県病害虫防除所
（熊本県農業研究センター生産環境研究所
予察指導室）
担当：清永 TEL 096-248-6490

令和4年(2022年) 麦類赤かび病の調査結果

調査日: 令和4年5月6,11,12日

小 麦(生育ステージ:乳熟期)

ほ場	地点名	発病穂率 (%)	発病程度別の穂数				発病度
			0(無)	①(軽)	②(中)	③(甚)	
1	熊本市富合町新1	1	99	1	0	0	0.17
2	" " 新2	1	99	1	0	0	0.17
3	熊本市城南町碓1	1	99	1	0	0	0.17
4	" " 碓2	2	98	2	0	0	0.33
5	玉名市北牟田1	2	98	2	0	0	0.33
6	" 北牟田2	4	96	4	0	0	0.67
7	玉名市高道1	6	94	6	0	0	1.00
8	" 高道2	4	96	4	0	0	0.67
9	山鹿市南島1	3	97	3	0	0	0.50
10	" 南島2	5	95	5	0	0	0.83
11	山鹿市鹿本町小嶋1	1	99	1	0	0	0.17
12	" 小嶋2	4	96	4	0	0	0.67
13	菊池市七城町高島1	2	98	2	0	0	0.33
14	" 高島2	4	96	3	1	0	1.00
15	菊池市今1	4	96	4	0	0	0.67
16	" 今2	2	98	2	0	0	0.33
17	大津町新1	0	100	0	0	0	0.00
18	" 新2	1	99	1	0	0	0.17
19	御船町小坂1	9	91	9	0	0	1.50
20	" 小坂2	11	89	11	0	0	1.83
21	甲佐町糸田1	7	93	5	2	0	1.83
22	" 糸田2	9	91	9	0	0	1.50
23	嘉島町上六嘉1	4	96	4	0	0	0.67
24	" 上六嘉2	0	100	0	0	0	0.00
25	氷川町若洲1	0	100	0	0	0	0.00
26	" 若洲2	0	100	0	0	0	0.00
	平均値	3.3	発生ほ場率 84.6%				0.60
	平年値(過去10年)	1.4	" 38.0%				0.27

大 麦(生育ステージ:黄熟期)

ほ場	地点名	発病穂率 (%)	発病程度別の穂数				発病度
			0(無)	①(軽)	②(中)	③(甚)	
1	山鹿市南島1	12	88	12	0	0	2.00
2	" 南島2	9	91	9	0	0	1.50
3	菊池市七城町砂田1	1	99	1	0	0	0.17
4	" 砂田2	0	100	0	0	0	0.00
5	菊池市今1	0	100	0	0	0	0.00
6	" 今2	1	99	1	0	0	0.17
7	大津町新1	1	99	1	0	0	0.17
8	" 新2	0	100	0	0	0	0.00
9	あさぎり町免田1	0	100	0	0	0	0.00
10	" 免田2	0	100	0	0	0	0.00
11	多良木町多良木1	0	100	0	0	0	0.00
12	" 多良木2	0	100	0	0	0	0.00
	平均値	2.0	発生ほ場率 41.7%				0.33
	平年値(過去10年)	0.8	" 22.2%				0.13

※1 1ほ場において100穂調査

※2 発病程度 0:発病無し ①:穂の1/3以下が発病 ②:穂の1/3~2/3が発病 ③:穂の2/3以上が発病

※3 発病度 = $[6③+3②+①] / (6 \times \text{調査穂数}) \times 100$

参考

過去の麦類赤かび病の調査結果

小麦

調査年	発病穂率	発病度	発生圃場率(%)	備考
H16年	2.2	0.36	74.1	5/7調査
H17年	1.5	0.25	68.0	5/10・11調査
H18年	2.8	0.41	66.7	5/11調査
H19年	1.6	0.28	58.3	5/7・8調査
H20年	0.6	0.15	28.0	5/7・8調査
H21年	0.0	0.01	3.3	5/7・8調査
H22年	1.0	0.19	26.7	5/6・7調査
H23年	0.4	0.07	23.1	5/10・16調査
H24年	2.6	0.45	61.5	5/16・18調査
H25年	0.1	0.01	7.7	5/8・14調査
H26年	0.2	0.04	19.2	5/14・16調査
H28年	3.0	0.51	65.4	5/11・18調査
H30年	2.8	0.47	61.5	5/10・18調査
R1年	1.1	0.19	50.0	5/8・9調査
R2年	1.0	0.44	30.8	5/7・8・14調査
R3年	0.1	0.01	7.7	5/10・11調査
平年値(10年間)	1.4	0.27	38.0	H24～R3(H27・29は除外)
R4年	3.3	0.60	84.6	5/6・11・12日調査

大麦

調査年	発病穂率	発病度	発生圃場率(%)	備考
H16年	1.1	0.18	28.6	5/7調査
H17年	0.6	0.11	36.4	5/10・11調査
H18年	1.3	0.21	50.0	5/11調査
H19年	0.4	0.07	35.7	5/7・8調査
H20年	0.1	0.01	7.1	5/7・8調査
H21年	0.0	0.00	0.0	5/7・8調査
H22年	0.0	0.00	0.0	5/6・7調査
H23年	0.2	0.04	14.3	5/10・16調査
H24年	0.9	0.14	28.6	5/16・18調査
H25年	0.1	0.01	7.1	5/16・18調査
H26年	0.0	0.00	0.0	5/14・16調査
H28年	1.3	0.21	50.0	5/11・18調査
H30年	2.6	0.43	50.0	5/10・18調査
R1年	1.0	0.17	33.3	5/8・9調査
R2年	0.5	0.08	8.3	5/7・8調査
R3年	0.0	0.00	0.0	5/10・11調査
平年値(10年間)	0.8	0.13	22.2	H24～R3(H27・29は除外)
R4年	2.0	0.33	41.7	5/6・11・12日調査

各関係機関長様

熊本県病害虫防除所長

水稻海外飛来性害虫の飛来状況（技術情報第3号）について（送付）

このことについて、水稻飛来性害虫（ウンカ類、コブノメイガ）の飛来状況を下記のとおりまとめましたので、業務の参考に御活用ください。

記

トビイロウンカの初誘殺は6月26日、セジロウンカは6月22日、コブノメイガは6月29日でした。

現在までのトビイロウンカの飛来量は平年よりやや多く、梅雨明け後の高温により本種の増殖が速まる恐れがあるので、ほ場での発生状況に注意してください。

1 飛来状況

- (1) 合志市に設置した予察灯で6月22日にセジロウンカ、6月26日にトビイロウンカの初誘殺を確認し、フェロモントラップで6月29日にコブノメイガの初誘殺を確認した（表1）。
- (2) トラップ調査（表1）や気象解析の結果等から、セジロウンカとトビイロウンカの飛来の中心は双方とも6月25日頃であったと考えられる。
- (3) 6月の予察灯累積誘殺数はトビイロウンカが8頭（平年3.3頭）で平年比やや多、セジロウンカは45頭（平年51.5頭）で平年並、コブノメイガのフェロモントラップ累積誘殺数は3頭（平年64.3頭）で平年比少であった。

2 防除対策

- (1) トビイロウンカに対しては若齢幼虫期（1～2齢）の防除が最も効果が高いため、生育ステージを確認して防除を行う（表2）。
- (2) セジロウンカに対しては、飛来がトビイロウンカと同時であると考えられるため、防除の時期はトビイロウンカに合わせる。
- (3) トビイロウンカの飛来量及び増殖量は地域やほ場、使用した箱施薬剤の種類で異なる。ほ場を観察し、要防除水準（表3）を超える場合は防除を行う。
- (4) コブノメイガの防除適期を飛来状況から算出した（表4）。コブノメイガの防除適期は粒剤が発蛾最盛期、粉剤、液剤は若齢幼虫期（発蛾最盛期の1週間後）である。水田における発生状況を確認し、要防除水準（第1世代幼虫による被害株率が20%以上）を超える場合は防除を行う。
- (5) 今後の発生状況や防除適期について最新の情報は、防除所のホームページ（<http://www.pref.kumamoto.jp/soshiki/75/125504.html>）で確認し、適期防除に努める。

熊本県病害虫防除所

（熊本県農業研究センター 生産環境研究所内）

担当：清永 TEL 096-248-6490

表1 ネットトラップ・予察灯、フェロモントラップにおける水稻海外飛来性害虫の誘殺状況

※ 数日間まとめて調査した場合は、調査日にデータを記入した

調査日	予察灯(60W 白熱灯)		ネットトラップ		コイントラップ (フェロモン)
	合志市		合志市		合志市
	セジロウンカ	トビイロウンカ	セジロウンカ	トビイロウンカ	コブノメイガ
6/11	0	0	-	-	-
6/12	0	0	-	-	-
6/13	0	0	0	0	0
6/14	0	0	-	-	-
6/15	0	0	-	-	-
6/16	0	0	0	0	0
6/17	0	0	0	0	0
6/18	0	0	-	-	-
6/19	0	0	-	-	-
6/20	0	0	0	0	0
6/21	0	0	-	-	-
6/22	3	0	1	0	0
6/23	10	0	0	0	0
6/24	0	0	-	-	-
6/25	1	0	-	-	-
6/26	5	6	-	-	-
6/27	21	1	1	0	0
6/28	3	1	-	-	-
6/29	1	0	0	0	3
6/30	1	0	0	0	0
月計	45	8	2	0	3
7/1	2	0	0	0	1
7/2	2	0	-	-	-
7/3	0	0	-	-	-
7/4	0	0	1	0	3
7/5					
7/6					
7/7					
7/8					
7/9					
7/10					

各関係機関長様

熊本県病害虫防除所長

トビイロウンカの新たな飛来（技術情報第4号）について（送付）

このことについて、梅雨明け後にもトビイロウンカの新たな飛来が見られたことから、下記のとおり現在までの飛来状況及び防除対策をまとめましたので、業務の参考に御活用ください。

記

トビイロウンカは6月26日以降断続的に誘殺されています。
8月期の防除に重点を置く主飛来は7月20日頃と思われます。
現在までのトビイロウンカの飛来量は過去10年で3番目に多かった令和元年と同等です。
今後の発生は地域やこれまでの防除履歴によって異なるため、ほ場での発生状況に注意し、適期防除に努めてください。

1 飛来状況

- (1) トビイロウンカは、合志市に設置した予察灯で初誘殺が確認された6月26日以降も断続的に飛来している。7月20日には本年度最多数の誘殺が認められた（表1）。
- (2) トビイロウンカの7月5半旬までの予察灯累積誘殺数は92頭で、過去10年で3番目に多かった令和元年（96頭）と同等であった（表2）。

2 防除対策

- (1) トビイロウンカに対しては若齢幼虫期（1～2齢）の防除が最も効果が高いため、表3を参考に生育ステージを確認して防除を行う。防除は、可能な限り6月25日飛来の第2世代幼虫期と7月20日飛来の第1世代幼虫期が重なる時期に実施する。
- (2) セジロウンカに対しては、飛来がトビイロウンカと同時であると考えられるため、防除の時期はトビイロウンカに合わせる。
- (3) トビイロウンカの飛来量は地域やほ場、増殖量は品種や使用した箱施薬剤の種類で異なる。ほ場を観察し、要防除水準（表4）を超える場合は（1）によらず至急防除を行う。
- (4) 今後の発生状況や防除適期について最新の情報は、病害虫防除所のホームページ（<https://www.pref.kumamoto.jp/soshiki/75/125504.html>）で確認し、適期防除に努める。

熊本県病害虫防除所
（熊本県農業研究センター 生産環境研究所内）
担当：清永 TEL 096-248-6490

表1 予察灯・ネットトラップにおけるウンカ類の誘殺数

※ 数日間まとめて調査した場合は、調査日にデータを記入した

調査日	予察灯(60W 白熱灯)		ネットトラップ	
	合志市		合志市	
	セジロウンカ	トビイロウンカ	セジロウンカ	トビイロウンカ
6/26	5	6	-	-
6/27	21	1	1	0
6/28	3	1	-	-
6/29	1	0	0	0
6/30	1	0	0	0
月計	31	8	1	0
7/1	2	0	0	0
7/2	2	0	-	-
7/3	0	0	-	-
7/4	0	0	1	0
7/5	1	0	-	-
7/6	12	0	0	0
7/7	18	2	-	-
7/8	1	3	0	0
7/9	6	1	-	-
7/10	17	1	-	-
7/11	10	0	0	0
7/12	109	2	-	-
7/13	20	0	0	0
7/14	8	0	1	0
7/15	15	0	0	0
7/16	40	0	-	-
7/17	31	0	-	-
7/18	16	0	-	-
7/19	1	0	7	0
7/20	188	73	0	0
7/21	8	1	3	0
7/22	5	1	5	0
7/23	1	0	-	-
7/24	14	0	-	-
7/25	58	0	1	1
7/26				
7/27				
7/28				
7/29				
7/30				
7/31				
月計	583	84	18	1

表2 トビイロウンカの予察灯誘殺数

1. 調査地点:合志市

調査機関:熊本県病害虫防除所(熊本県農業研究センター生産環境研究所)

(予察灯・60W白熱灯)

月	半旬	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	平年値 (H24~R3)	R4
4	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0	0
	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0	0
	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0	0
	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0	0
	5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0	0
	6	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0	0
5	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0.1	0
	2	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0.1	0
	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0	0
	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0	0
	5	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0.1	0
	6	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0	0
6	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0	0
	2	0	0	0	0	0	0	0	0	7	0	0.7	0
	3	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0.1	0
	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0	0
	5	1	3	0	0	0	1	5	0	0	0	1.0	0
	6	1	9	1	0	1	0	0	1	2	0	1.5	8
7	1	0	0	10	0	0	0	0	27	226	0	26.3	0
	2	1	5	0	0	0	4	0	2	402	2	41.6	7
	3	167	0	14	0	34	7	0	49	119	0	39.0	2
	4	4	2	2	0	4	0	0	12	2	0	2.6	73
	5	0	0	1	1	3	0	0	4	7	0	1.6	2
	6	0	0	0	1	0	0	1	2	17	0	2.1	
8	1	0	38	1	3	0	0	0	6	28	0	7.6	
	2	4	5	0	1	0	1	0	9	80	0	10.0	
	3	11	9	11	0	2	6	0	3	13	8	6.3	
	4	2	7	2	0	1	6	0	1	22	2	4.3	
	5	0	13	1	0	0	0	0	7	20	0	4.1	
	6	23	166	6	0	0	1	0	16	30	0	24.2	
9	1	239	83	81	0	0	1	0	116	1781	1	230.2	
	2	116	276	60	4	13	13	4	370	323	1	118.0	
	3	36	168	52	1	82	26	2	77	611	0	105.5	
	4	0	13	10	0	46	3	7	43	53	0	17.5	
	5	2	72	15	0	12	4	9	66	18	12	21.0	
	6	0	38	4	0	14	13	0	3353	6	2	343.0	
10	1	0	81	4	0	25	32	0	1584	72	0	179.8	
	2	1	692	0	0	15	144	3	371	6	0	123.2	
	3	0	27	0	0	8	162	0	38	28	6	26.9	
	4	45	5	38	0	473	3	0	170	0	0	73.4	
	5	9	32	150	0	43	1	0	90	7	0	33.2	
	6	8	4	40	0	27	2	0	2	1	0	8.4	
合計		670	1748	503	12	803	430	31	6420	3883	34	1453.4	92

表3 予想されるトビイロウンカの防除適期

★JPPネットによる有効積算温度計算シミュレーションver2を使用

★6月25日飛来の場合（熊本県農業研究センター設置の予察灯初誘殺日から推定）

地点名	熊本	三角	岱明	鹿北	菊池	阿蘇乙姫	甲佐	八代	水俣	人吉	本渡
第2世代 幼虫 (1齢～5齢)	8月9日 ～ 8月19日	8月10日 ～ 8月21日	8月9日 ～ 8月20日	8月13日 ～ 8月25日	8月10日 ～ 8月21日	8月20日 ～ 9月3日	8月11日 ～ 8月22日	8月10日 ～ 8月21日	8月11日 ～ 8月22日	8月12日 ～ 8月23日	8月11日 ～ 8月22日

★7月20日飛来の場合（熊本県農業研究センター設置の予察灯最多誘殺日から推定）

地点名	熊本	三角	岱明	鹿北	菊池	阿蘇乙姫	甲佐	八代	水俣	人吉	本渡
第1世代 幼虫 (1齢～5齢)	8月5日 ～ 8月15日	8月6日 ～ 8月17日	8月5日 ～ 8月15日	8月7日 ～ 8月19日	8月6日 ～ 8月17日	8月10日 ～ 8月17日	8月6日 ～ 8月17日	8月6日 ～ 8月17日	8月6日 ～ 8月17日	8月7日 ～ 8月18日	8月6日 ～ 8月17日
第2世代 幼虫 (1齢～5齢)	9月2日 ～ 9月14日	9月4日 ～ 9月16日	9月2日 ～ 9月14日	9月8日 ～ 9月22日	9月4日 ～ 9月17日	9月17日 ～ 10月6日	9月4日 ～ 9月17日	9月4日 ～ 9月16日	9月4日 ～ 9月17日	9月6日 ～ 9月19日	9月4日 ～ 9月17日

注1)各地点のアメダスデータ平均気温(本年値及び平年値)をもとに、有効積算温度により生育ステージを予測した。

本年の平均気温は7月24日までは2022年実測値、7月25日以降は平年の平均気温を使用した。

注2)防除を行う場合は、薬剤の効果が高い若齢幼虫期(1～2齢)を狙って防除する。

ステージ	有効積算温度(日度)	発育0点(°C)	備考
成虫	125	12	産卵までの期間
卵	135	11.4	孵化までの期間
幼虫	250	6.5	1齢～5齢幼虫の期間

表4 トビイロウンカの発生時期別要防除水準

発生時期	要防除水準(成幼虫)
7月中旬～8月上旬	20頭/100株
8月中旬～8月下旬	100頭/100株

各関係機関長 様

熊本県病害虫防除所長

オオタバコガの発生状況と防除対策（技術情報第5号）について（送付）

このことについて、下記のとおり取りまとめましたので、業務の参考に御活用ください。

記

オオタバコガのフェロモントラップでの誘殺数が多い状況です。これまでの発生状況や今後の気象予報等を考慮すると、今後発生量が増加し、各作物に被害を与える可能性があるため、本虫の発生に十分注意して、捕殺や薬剤防除等による防除対策を行いましょう。

1 現在の発生状況

- (1) 合志市、八代市、阿蘇市に設置したフェロモントラップによるオオタバコガの7月第1半旬～第5半旬の誘殺数は平年比多であった（表、図1～4）。
- (2) 防除員の報告では、夏秋トマト、夏秋ナスで平年比やや多、夏秋キャベツで平年比やや多～少、露地キクで平年並の発生であった。

2 今後の発生予想

福岡管区气象台が7月28日に発表した九州北部地方1か月予報によると、気温は平年より高く、降雨量は平年より少ない予想のため、すでには場内で発生している幼虫の発育が進み、野菜類や花き類、ダイズ等に被害が拡大することが懸念される。

3 被害が懸念される作物

トマト、ミニトマト、ナス、ピーマン、イチゴ、オクラ、アスパラガス、キャベツ、露地キク、宿根カスミソウ、ダイズ等

4 防除対策等

- (1) ほ場を見回り、葉や果実、花蕾における新しい食害痕や虫糞の早期発見に努め、幼虫を見つけ次第捕殺する。
- (2) 中老齢幼虫になると果実の中に食入するほか、薬剤の効果も劣るため、若齢幼虫を対象に薬剤防除する。
- (3) 摘心、摘花した脇芽や花蕾などは卵や若齢幼虫が寄生している可能性が高いため、ほ場外に持ち出す。
- (4) 施設栽培では目合い4mm以下の防虫ネットを展張し、成虫の侵入を抑制する。
- (5) 薬剤抵抗性の発達を防ぐため、系統の異なる薬剤のローテーション使用を行う。また、薬剤の使用時にはラベルに書いてある登録内容を確認して使用する。
- (6) 熊本県病害虫防除所のホームページに掲載しているフェロモントラップの誘殺状況（<https://www.pref.kumamoto.jp/soshiki/75/131937.html>）を確認し、防除の参考にする。

表 各地域のオオタバコガの誘殺状況（7月第1半旬～第5半旬）

市町村名（地域名）	本年	平年値	平年比（%）
合志市（栄）	167.0	48.8	342.1
八代市（鏡）	28.7	7.4	388.5
阿蘇市（一の宮）	23.0	8.4	274.6
山都町（鶴ケ田）	13.0	8.2	157.6

単位：頭、 平年比（%）：（本年誘殺数／平年値）×100

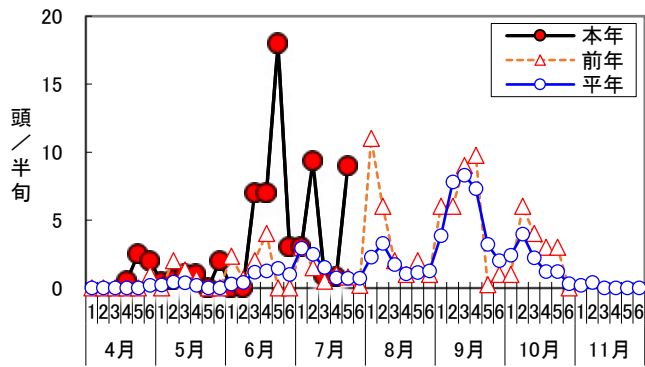


図1 阿蘇市一の宮・フェロモントラップ誘殺消長

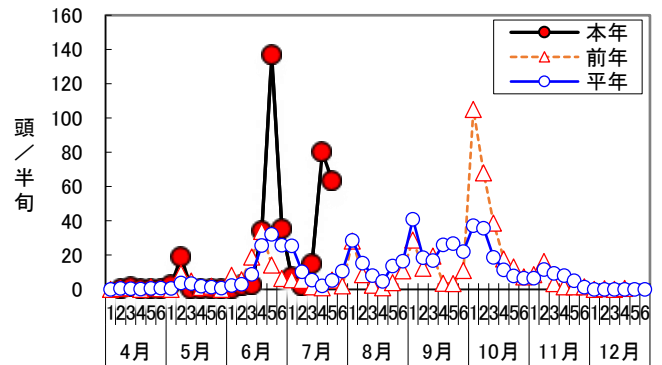


図2 合志市栄2地点平均・フェロモントラップ誘殺消長

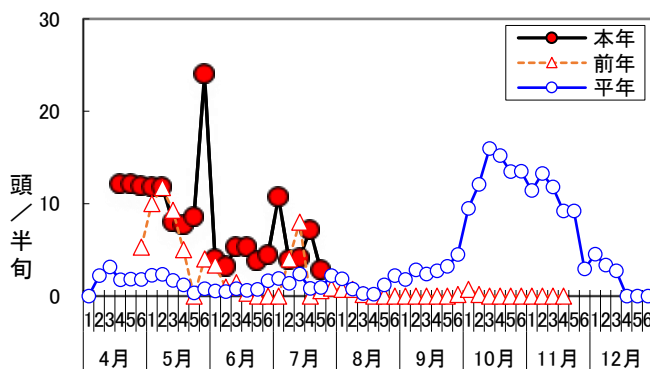


図3 八代市鏡・フェロモントラップ誘殺消長

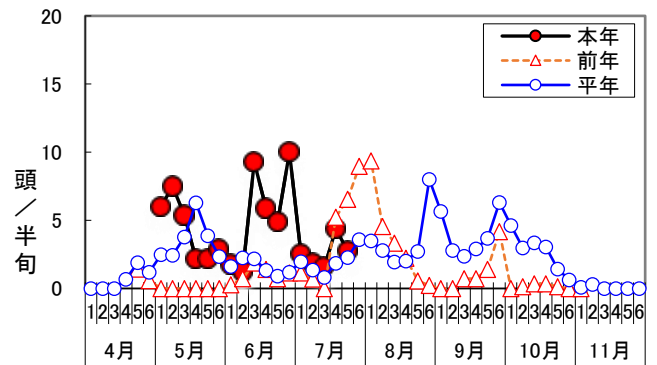


図4 山都町鶴ケ田・フェロモントラップ誘殺消長

熊本県病害虫防除所

（熊本県農業研究センター 生産環境研究所内）

担当：中井、福岡

TEL 096-248-6490 FAX 096-248-6493

各関係機関長 様

熊本県病害虫防除所長

果樹カメムシ類の果樹園への飛来開始時期（技術情報第6号）について（送付）
このことについて、下記のとおり取りまとめましたので、防除指導に御活用ください。

記

果樹カメムシ類がヒノキ球果から離脱し果樹園に飛来する時期は、天草市有明町及び天草市本渡町が7月下旬、宇城市松橋町及び宇城市三角町が8月下旬、合志市が9月上旬、熊本市河内町が9月中旬と前年より早まることが予想されます。特に、本年は越冬量が多いことから、地域によっては予想日より早く離脱し、果樹園へ飛来する可能性があるため、早期発見と初期防除を徹底しましょう。

1 飛来開始時期

果樹カメムシ類は、主に山林のヒノキ・スギ球果を餌として増殖する。本年は越冬量が多く、餌となるヒノキの球果着生量は平年よりやや多いため、8月以降の当年世代の発生量は多くなると予想される。

(1) 7月21日及び7月22日におけるヒノキ球果の果樹カメムシ類の口針鞘数は、県内6地点の平均が1果あたり8.1本（平年4.2本）で平年比多であった（表1）。

※ヒノキ球果の1果当たりの口針鞘数が25本に達する時期が、果樹カメムシ類がヒノキから離脱し、果樹園に飛来する時期の目安となる。

(2) 各地点のヒノキからの離脱予測日から、果樹園への飛来開始時期は天草市有明町及び天草市本渡町で7月下旬（有明町前年7月下旬、本渡町前年9月中旬）、宇城市松橋町及び宇城市三角町で8月下旬（松橋町及び三角町前年9月上旬）、合志市で9月上旬（前年9月上旬）、熊本市河内町で9月中旬（前年9月上旬）と前年より早いと予想される。

2 防除対策

(1) 果樹カメムシ類は、球果の状態が悪くなると球果から離脱し果樹園に飛来するので、予測飛来開始時期（表1）を参考に早期発見に努める。特に天草地域については口針鞘数の急激な増加がみられ、7月下旬からの離脱が予想されるため、果樹園への飛来に十分注意し、早期発見及び初期防除に努める。

(2) 飛来時期や量は地域や園地による差が大きく、同一園内でも局在するため、園内全体を観察する。また、山間部や山沿いの園では、発生が多くなる場合もあるので、注意する。

(3) 果樹カメムシ類は日没直後に園外から侵入し、翌朝飛び去るため、夕方や早朝の防除が有効である。

(4) 薬剤の使用回数、濃度、使用量、使用時期を遵守するとともに、周辺作物への農薬飛散（ドリフト）に注意する。

(5) 今後の発生状況や予測離脱日については、病害虫防除所のホームページ（<https://www.pref.kumamoto.jp/soshiki/75/125504.html>）を参照する。

表1 7月下旬におけるヒノキ球果の1果当たり口針鞘数および飛来予測時期

地点	1果当たり口針鞘数(本) X	離脱までの日数 Y	調査日	予測式で算出された離脱予想日	果樹園への飛来予測時期
合志市 栄	2.3	46	7月21日	9月4日	9月上旬
熊本市河内町	0.6	52	7月21日	9月11日	9月中旬
宇城市松橋町	5.7	33	7月21日	8月23日	8月下旬
宇城市三角町	4.7	37	7月21日	8月26日	8月下旬
天草市有明町	14.1	5	7月22日	7月26日	7月下旬
天草市本渡町	21.3	0	7月22日	7月22日	7月下旬
平均	8.1	29	-	8月19日	8月中旬
昨年	3.8	40	-	-	-
平年	4.2	39	-	-	-

※1 1地点30球果を調査。

※2 予測離脱日は、福岡県農業総合試験場が開発した予測式により算出した。

予測式： $Y = 54.17 - 3.776X + 0.01937X^2$

(Y：調査日から離脱日までの日数、X：7月下旬のヒノキ球果1果当たり口針鞘数)

※3 Xは小数点第二位を四捨五入、Yは小数点以下切り捨て

※4 予測式による計算値がマイナスになった場合は離脱日までの日数を0とした。

熊本県病虫害防除所
 (熊本県農業研究センター 生産環境研究所内)
 担当：岡島、福岡 TEL：096-248-6490

参考

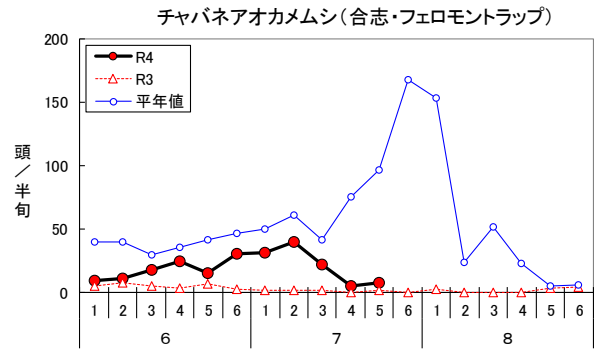
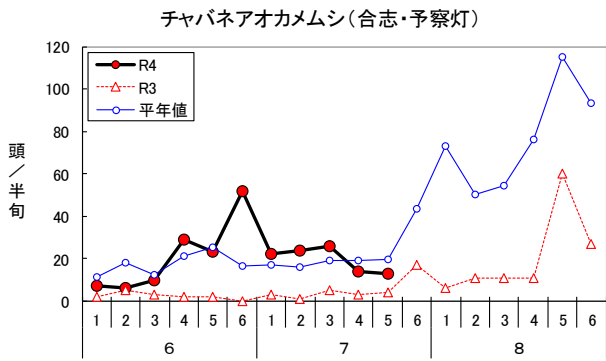


図1 合志市におけるチャバネアオカメムシ誘殺数の推移 (設置場所: 農業研究センター)

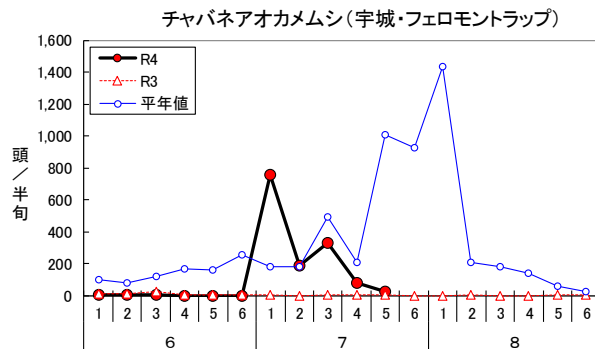
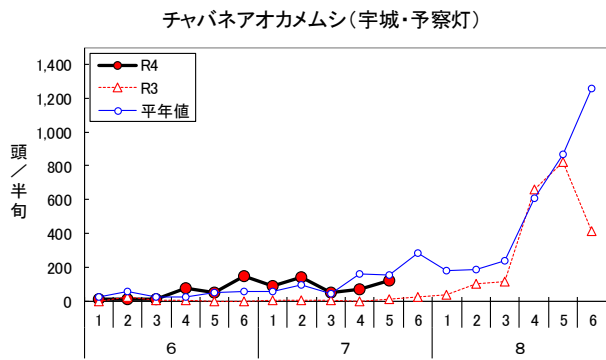


図2 宇城市におけるチャバネアオカメムシ誘殺数の推移 (設置場所: 果樹研究所)

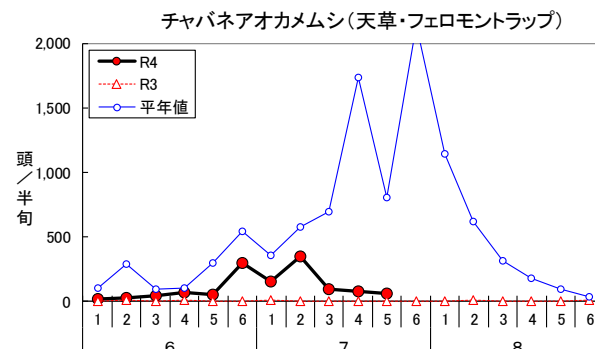
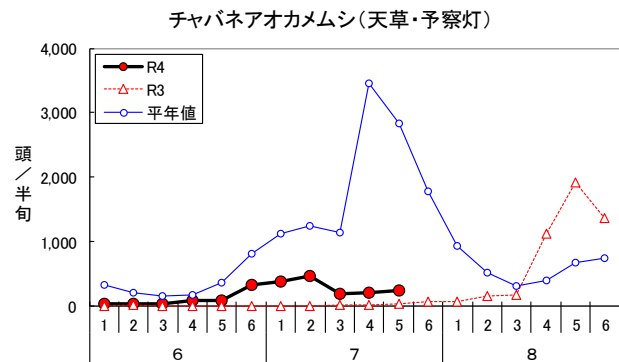


図3 天草市におけるチャバネアオカメムシ誘殺数の推移 (設置場所: 天草農業研究所)

各関係機関長様

熊本県病虫害防除所長

早植え水稻のいもち病発生状況（技術情報第7号）について（送付）

このことについて、県内の発生状況を下記のとおりまとめましたので、業務の参考に御活用ください。

記

早植え水稻において、穂いもちの伝染源となる葉いもちの発生が平年より多い状況です。今後の天候に注意して、薬剤の適期散布による予防に努めてください。

1 発生状況

- （1）早植え水稻において、葉いもちの発生が6月から7月にかけて急激に増加している。7月中旬の巡回調査（定点10ほ場）では、葉いもちの平均発病株率は58.4%（平年11.3%）と平年より多く、過去10年と比較して最も高い値となっている（図1、図2）。
- （2）調査地点の発生ほ場のうち、約半数で上位葉の発病が認められる。一部では、孢子形成量が多い進展型の病斑も確認されている（図3）。

2 防除対策

福岡管区气象台が7月28日に発表した1か月予報によると、向こう1か月の天候は、晴れの日が多く、降水量は平年より少ない見込みであり、本病の発生には適さない。しかし、穂いもち（減収）につながる伝染源量は平年より多いと考えられるため、下記に留意して適期防除に努める。

- （1）同じ地域内でもほ場によって葉いもちの発生状況は異なっているため、発生状況を確認する。上位葉に進展型病斑が見られるほ場では、速やかに薬剤散布を実施する。
- （2）穂いもちは発生後の防除が困難であるため、発生が少ないほ場でも出穂期前後の生育に合わせた防除を計画的に行う。
- （3）薬剤の散布に当たっては、周辺の作物やミツバチ・魚介類等の環境に影響がないよう飛散防止対策に努める。
- （4）今後の発生状況や防除について最新の情報は、病虫害防除所のホームページ（<https://www.pref.kumamoto.jp/soshiki/75/125504.html>）で確認する。

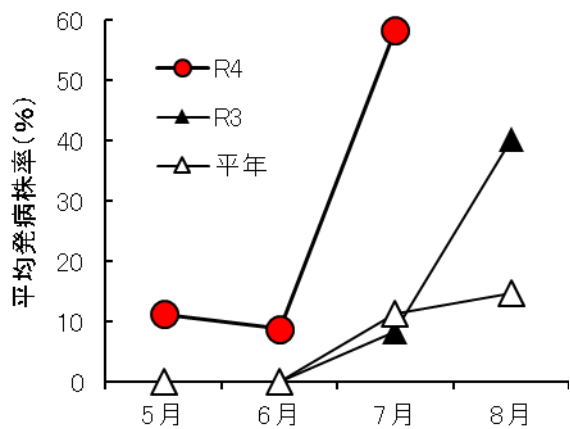


図1 早植え水稻の葉いもち発生推移
定点調査の平均値

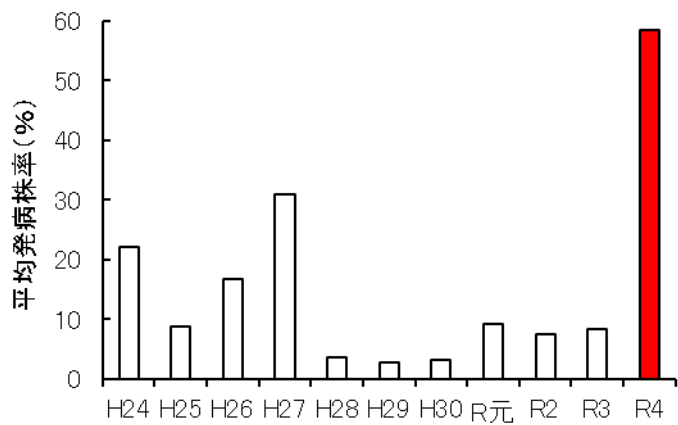


図2 早植え水稻における葉いもち発生の
年次間差(7月)



図3 葉いもちの進展型病斑
7月30日撮影(左右は別のほ場)

熊本県病害虫防除所
 (熊本県農業研究センター 生産環境研究所内)
 担当：清永、江口 TEL 096-248-6490

各関係機関長 様

熊本県病害虫防除所長

ツマジロクサヨトウの発生状況（技術情報第8号）について（送付）
このことについて、下記のとおり取りまとめましたので、業務の参考に御活用ください。

記

ツマジロクサヨトウの本年のフェロモントラップ誘殺数は前年並ですが、発生的高峰は早い傾向です。過去2年の傾向から8月以降に発生量が急増する可能性があります。今後スイートコーンや飼料用トウモロコシ等の生育初期に被害が増加することが懸念されます。生産ほ場を定期的に見回り、早期発見、早期防除に努めましょう。

1 現在の発生状況

合志市における本年のフェロモントラップの誘殺数は概ね前年並であったが、前年に比べて誘殺のピークの時期がやや早い傾向にあり、ピーク時の誘殺数も多くなっている（図1）。

2 今後の発生予想

- (1) 令和2年及び令和3年のフェロモントラップの誘殺数は、7月までは低く推移したものの、8月以降から増加傾向となり、10月に急増した（図2）。本年も同様に今後の発生量が増加することが懸念される。
- (2) 今後、飼料用トウモロコシやスイートコーン等において、特に生育初期の被害が増加することが懸念される。

3 防除対策等

- (1) 本害虫は主に飼料用トウモロコシ、スイートコーン等を食害する（図3、図4）。特に生育初期に食害されると、被害が大きくなり減収につながるため、定期的な見回りによる早期発見に努め、発生が確認された場合には速やかに農薬等を用いて防除を行う。なお、ツマジロクサヨトウと判断することが難しい場合には、病害虫防除所に相談する。
- (2) 現在、本害虫に登録がある農薬は別紙2のとおり。ただし、飼料用トウモロコシ等で使用できる農薬が少ないことから、本県では、植物防疫法第29条第1項に基づく措置として、当面の間、別紙1に記載された農薬による防除が可能である。
注) ツマジロクサヨトウへの農薬登録の状況等により、今後、本県における同法第29条第1項に基づく措置を終了する可能性がある。
- (3) 農薬の散布に当たっては、新葉の葉鞘基部に潜り込んでいる幼虫に届くように株の上部までしっかりと散布する。
- (4) 農林水産省のホームページにツマジロクサヨトウの防除対策等に関する情報が掲載されているので、防除の参考にする。

https://www.maff.go.jp/j/syouan/syokubo/keneki/k_kokunai/tumajiro.html

(5) 農薬を使用する際は、必ずラベルなどで注意事項等を確認し、ミツバチや魚介類など周辺動植物及び環境へ影響がないよう、飛散防止を徹底する。

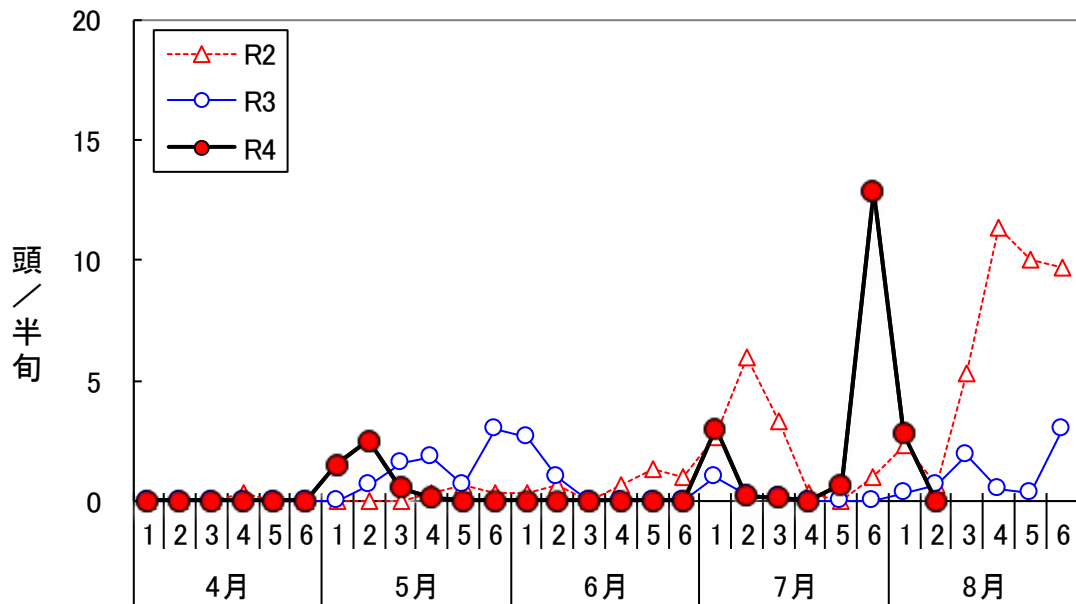


図1 ツマジロクサヨトウのフェロモンラップ誘殺数の推移
(合志市3地点平均 期間4月-8月)

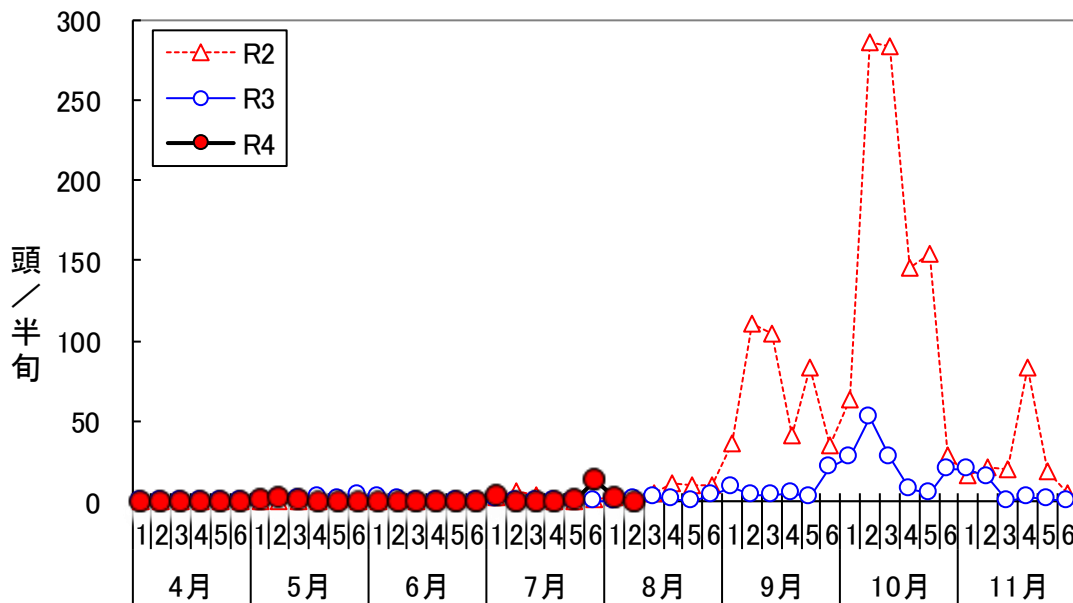


図2 ツマジロクサヨトウのフェロモンラップ誘殺数の推移
(合志市3地点平均 期間4月-11月)



図3 飼料用トウモロコシの被害株



図4 ツマジロクサヨトウ幼虫

熊本県病虫害防除所
(熊本県農業研究センター 生産環境研究所内)
担当：岡島、中井
TEL 096-248-6490 FAX 096-248-6493

熊本県において植物防疫法第29条第1項の防除を行うために引き続き使用できる農薬一覧

○飼料用とうもろこし

農薬の種類	使用方法	使用時期	散布液量	希釈倍数使用量	本剤の使用回数
BT水和剤(14459, 21694, 21695)	散布	発生初期 但し収穫前日まで	100～300L/10a	1000倍	—
BT水和剤(19885, 20653, 21944)	散布	発生初期但し、収穫前日まで	100～300L/10a	2000倍	—
アセタミプリド水溶剤	散布	収穫90日前まで	100～300L/10a	6000倍	3回以内
MEP乳剤	散布	収穫30日前まで	100～300L/10a	2000倍	2回以内

○未成熟とうもろこし

農薬の種類	使用方法	使用時期	散布液量	希釈倍数使用量	本剤の使用回数
BT水和剤(19616, 19618, 23884)	散布	発生初期但し、収穫前日まで	100～300L/10a	1000倍	—
NAC粒剤	散布	雄穂抽出期～雌穂抽出期 但し収穫21日前まで		4～6kg/10a	2回以内
PAP乳剤	散布	収穫14日前まで	100～300L/10a	1000倍	4回以内
エトフェンプロックス粉剤	散布	収穫7日前まで		4kg/10a	4回以内
カルタップ粒剤	株の上から均一に散粒する	収穫7日前まで		6kg/10a	2回以内
クロマフェンジド水和剤	散布	収穫前日まで	100～300L/10a	2000倍	3回以内
クロルフェナピル水和剤	散布	収穫前日まで	100～300L/10a	2000倍	2回以内
シペルメトリン水和剤	散布	収穫7日前まで	100～300L/10a	3000倍	3回以内
シペルメトリン乳剤	散布	収穫7日前まで	100～300L/10a	1000倍	3回以内
シペルメトリン乳剤	散布	収穫7日前まで	100～300L/10a	1000～2000倍	3回以内
ピリダリル水和剤	散布	収穫前日まで	100～300L/10a	1000倍	2回以内
フィプロニル水和剤	散布	収穫14日前まで	100～300L/10a	2000倍	2回以内
ペルメトリン乳剤	散布	収穫14日前まで	100～300L/10a	2000倍	4回以内
レピメクチン乳剤	散布	収穫前日まで	100～300L/10a	1000倍	3回以内

○とうもろこし(子実)

農薬の種類	使用方法	使用時期	散布液量	希釈倍数使用量	本剤の使用回数
BT水和剤(19616, 19618)	散布	発生初期但し、収穫前日まで	100～300L/10a	1000倍	—
BT水和剤(19885)	散布	発生初期但し、収穫前日まで	100～300L/10a	2000倍	—
PAP乳剤	散布	収穫14日前まで	100～300L/10a	1000倍	4回以内
イソキサチオン乳剤	散布	収穫30日前まで	100～300L/10a	1000倍	2回以内
エトフェンプロックス粉剤	散布	収穫7日前まで		4kg/10a	4回以内
エマメクチン安息香酸塩乳剤	散布	収穫30日前まで	100～300L/10a	1000～2000倍	2回以内
カルタップ水溶剤	散布	収穫21日前まで	100～300L/10a	700倍	2回以内
カルタップ粒剤	株の上から均一に散粒する	収穫7日前まで		6kg/10a	2回以内
クロルフェナピル水和剤	散布	収穫前日まで	100～300L/10a	2000倍	2回以内
シペルメトリン水和剤	散布	収穫7日前まで	100～300L/10a	3000倍	3回以内
シペルメトリン乳剤	散布	収穫7日前まで	100～300L/10a	1000～2000倍	3回以内
シペルメトリン乳剤	散布	収穫7日前まで	100～300L/10a	1000倍	3回以内
ペルメトリン乳剤	散布	収穫14日前まで	100～300L/10a	2000倍	4回以内

○さとうきび

農薬の種類	使用方法	使用時期	散布液量	希釈倍数使用量	本剤の使用回数
BPMC・MEP乳剤	散布	収穫45日前まで	100～300L/10a	1000倍	4回以内
BPMC・MEP粉剤	散布	収穫45日前まで		3～4kg/10a	4回以内
BPMC乳剤	散布	収穫30日前まで	100～300L/10a	1000倍	4回以内
MEPマイクロカプセル剤	散布	収穫90日前まで	—	500～1000倍	4回以内
MEP乳剤	散布	収穫45日前まで	100～300L/10a	1000倍	4回以内
MEP粉剤	散布	収穫45日前まで		3～4kg/10a	4回以内
カルボスルファン粒剤	株元処理土壌混和	培土時		6～9kg/10a	1回
カルボスルファン粒剤	植溝処理土壌混和	植付時		6～9kg/10a	1回
クロチアニジン水和剤	散布	収穫30日前まで	100～300L/10a	2500倍	3回以内
クロチアニジン粒剤	植溝処理土壌混和	植付時		6～9kg/10a	1回
クロラントラニプロール粒剤	株元散布	生育期但し、最終培土まで		4～6kg/10a	1回
クロラントラニプロール粒剤	植溝土壌混和	植付時		4～6kg/10a	1回
フィプロニル粒剤	株元処理土壌混和	培土時		6kg/10a	1回
フィプロニル粒剤	植溝処理土壌混和	植付時		4～6kg/10a	1回
プロチオオホス粉粒剤	株元処理土壌混和	生育期但し、収穫90日前まで		15kg/10a	2回以内
ベンフラカルブ粒剤	株元散布又は株元土壌混和	培土時		4～6kg/10a	1回
ベンフラカルブ粒剤	植溝土壌混和	植付時		6～9kg/10a	1回

○水稲

農薬の種類	使用方法	使用時期	散布液量	希釈倍数使用量	本剤の使用回数
BT水和剤 (20479, 23943)	散布	発生初期但し、収穫前日まで	60～150L/10a	2000～4000倍	-
BT水和剤 (20479, 23943)	無人航空機による散布	発生初期但し、収穫前日まで	0.8L/10a	16倍	-
MEP乳剤	散布	収穫21日前まで	60～150L/10a	1000倍	2回以内
エトフェプロックス粉剤	散布	収穫7日前まで		3～4kg/10a	3回以内
エトフェプロックス乳剤	散布	収穫14日前まで	60～150L/10a	1000倍	3回以内

○稲(箱育苗)

農薬の種類	使用方法	使用時期	希釈倍数使用量	本剤の使用回数
クロラントラニプロール粒剤	育苗箱の上から均一に散布する	は種時(覆土前)～移植当日	育苗箱(30×60×3cm、使用土壌約5L)1箱当り50g	1回
スピノサド粒剤	育苗箱の上から均一に散布する	移植2日前～移植当日	育苗箱(30×60×3cm、使用土壌約5L)1箱当り50g	1回
フィプロニル粒剤	育苗箱の上から均一に散布する	は種時(覆土前)～移植当日	育苗箱(30×60×3cm、使用土壌約5L)1箱当り50g	1回

○さつまいも

農薬の種類	使用方法	使用時期	散布液量	希釈倍数使用量	本剤の使用回数
BT水和剤 (21694, 21695)	散布	発生初期収穫前日まで	100～300L/10a	500倍	-
BT水和剤 (21694, 21695)	散布	発生初期収穫前日まで	100～300L/10a	500～750倍	-
BT水和剤 (19616, 19618, 19899, 20653, 21694, 21695, 21944, 23884)	散布	発生初期但し、収穫前日まで	100～300L/10a	1000倍	-
BT水和剤 (20479, 23943)	散布	発生初期但し、収穫前日まで	100～300L/10a	2000倍	-
BT水和剤 (20479, 23943)	散布	発生初期但し、収穫前日まで	100～300L/10a	2000～3000倍	-
PAP乳剤	散布	収穫7日前まで	100～300L/10a	1000倍	4回以内
PAP粉剤	散布	収穫7日前まで		3kg/10a	4回以内
アラニカルブ水和剤	散布	収穫前日まで	100～300L/10a	1000倍	5回以内
インドキサカルブ水和剤	散布	収穫7日前まで	100～300L/10a	2000倍	2回以内
エトフェプロックス乳剤	散布	収穫7日前まで	100～300L/10a	1000倍	3回以内
エトフェプロックス粉剤	散布	収穫7日前まで		4kg/10a	3回以内
エマメクチン安息香酸塩・クロラントラニプロール水和剤	散布	収穫7日前まで	100～300L/10a	2000倍	3回以内
エマメクチン安息香酸塩乳剤	散布	収穫7日前まで	100～300L/10a	1000～2000倍	3回以内
クロマフェノジド水和剤	散布	収穫7日前まで	100～300L/10a	2000倍	3回以内
クロラントラニプロール水和剤	散布	収穫前日まで	100～300L/10a	2000～4000倍	3回以内
クロルフェナビル水和剤	散布	収穫前日まで	100～300L/10a	2000倍	2回以内
クロルフルアズロン乳剤	散布	収穫7日前まで	100～300L/10a	2000倍	5回以内
シアントラニプロール水和剤	散布	収穫7日前まで	100～300L/10a	4000倍	3回以内
シペルメトリン水和剤	散布	収穫7日前まで	100～300L/10a	1000倍	2回以内
シペルメトリン水和剤	散布	収穫7日前まで	100～300L/10a	1000～2000倍	2回以内
シペルメトリン水和剤	散布	収穫7日前まで	100～300L/10a	1000倍	5回以内
シペルメトリン水和剤	散布	収穫7日前まで	100～300L/10a	1000～2000倍	5回以内
スタイナーネマ カーポカプサエ剤	土壌灌注	老幼幼虫発生期	500～2000L/10a	2億5000万頭(約100g)/10a	-
スピネトラム水和剤	散布	収穫前日まで	100～300L/10a	2500～5000倍	2回以内
ダイアジノン・メソミル粒剤	散布	収穫30日前まで		4～6kg/10a	2回以内
テブフェノジド水和剤	散布	収穫7日前まで	100～300L/10a	2000～3000倍	3回以内
テブフェノジド粉剤	散布	収穫7日前まで		4kg/10a	3回以内
テフルベンズロン乳剤	散布	収穫7日前まで	100～300L/10a	1000～2000倍	2回以内
ノバルロン水和剤	散布	収穫7日前まで	100～300L/10a	3000倍	2回以内
ピリダリル水和剤	散布	収穫7日前まで	100～300L/10a	1000～2000倍	2回以内
フェンバレレート・マラソン水和剤	散布	収穫7日前まで	100～300L/10a	1000倍	5回以内
フルフェノクスロン乳剤	散布	収穫7日前まで	100～300L/10a	4000倍	2回以内
フルベンジアミド水和剤	散布	収穫前日まで	100～300L/10a	2000～6000倍	2回以内
プロチオホス乳剤	散布	収穫21日前まで	100～300L/10a	1000倍	3回以内
プロフェノホス乳剤	散布	収穫7日前まで		1500倍	3回以内
メソミル水和剤	散布	収穫7日前まで	100～300L/10a	1000～2000倍	5回以内
メソミル粉粒剤	散布	収穫7日前まで		3～5kg/10a	5回以内
メタフルミゾン水和剤	散布	収穫前日まで	100～300L/10a	1000～2000倍	3回以内
メキシフェノジド水和剤	散布	収穫3日前まで	100～300L/10a	4000倍	3回以内
ルフエスロン乳剤	散布	収穫14日前まで	100～300L/10a	2000～3000倍	2回以内
レピメクチン乳剤	散布	収穫前日まで	100～300L/10a	2000～3000倍	3回以内

○ソルガム(飼料用)

農薬の種類	使用方法	使用時期	散布液量	希釈倍数使用量	本剤の使用回数
アセタミプリド水溶剤	散布	収穫45日前まで	100～300L/10a	6000倍	3回以内

○きび

農薬の種類	使用方法	使用時期	散布液量	希釈倍数使用量	本剤の使用回数
エトフェプロックス乳剤	散布	収穫14日前まで	100～300L/10a	1000倍	3回以内
BT水和剤(19885,21944,20653)	散布	発生初期但し、収穫前日まで	100～300L/10a	2000倍	-
BT水和剤(14459)	散布	発生初期但し、収穫前日まで	60～150L/10a	1000倍	-
BT水和剤(21694,21695)	散布	発生初期但し、収穫前日まで	100～300L/10a	1000倍	-

○イネ科牧草

農薬の種類	使用方法	使用時期	散布液量	希釈倍数使用量	本剤の使用回数
MEP乳剤	散布	収穫14日前まで	100～300L/10a	1000倍	2回以内
アセタミプリド水溶剤	散布	収穫30日前まで	100～300L/10a	6000倍	3回以内
ジノテフラン水溶剤	散布	収穫7日前まで	100～300L/10a	2000倍	3回以内
ジノテフラン液剤	散布	収穫7日前まで	100～300L/10a	1000倍	3回以内

○しょうが

農薬の種類	使用方法	使用時期	散布液量	希釈倍数使用量	本剤の使用回数
BT水和剤(19885)	散布	発生初期但し、収穫前日まで	100～300L/10a	2000倍	-
アセフェート水和剤	散布	収穫45日前まで	100～300L/10a	1000倍	2回以内
インドキサカルブ水和剤	散布	収穫7日前まで	100～300L/10a	2000倍	3回以内
エトフェプロックス乳剤	散布	収穫7日前まで	100～300L/10a	1000倍	3回以内
カルタップ水溶剤	散布	収穫7日前まで	100～300L/10a	1500倍	5回以内
クロマフェノジド水和剤	散布	収穫前日まで	100～300L/10a	1000～2000倍	3回以内
クロラントラニリプロール水和剤	散布	収穫前日まで	100～300L/10a	2000倍	3回以内
クオルフェナピル水和剤	散布	収穫前日まで	100～300L/10a	2000倍	2回以内
ジフルベンズロン水和剤	散布	収穫前日まで	100～300L/10a	1000倍	3回以内
テブフェノジド水和剤	散布	収穫前日まで	100～300L/10a	2000倍	3回以内
テフルベンズロン乳剤	散布	収穫7日前まで	100～300L/10a	2000倍	2回以内

○はとむぎ

農薬の種類	使用方法	使用時期	散布液量	希釈倍数使用量	本剤の使用回数
カルタップ粒剤	散布	収穫14日前まで		4kg/10a	2回以内
カルタップ水溶剤	散布	収穫14日前まで	60～150L/10a	1500倍	2回以内
BT水和剤(14459)	散布	発生初期 但し収穫前日まで	60～150L/10a	1000倍	-
BT水和剤(21694, 21695)	散布	発生初期 但し収穫前日まで	100～300L/10a	1000倍	-
BT水和剤(19885, 20653, 21944)	散布	発生初期 但し収穫前日まで	100～300L/10a	2000倍	-

(注)BT水和剤に記載している()内数字は登録番号。

ツマジロクサヨトウ登録農薬一覧

○飼料用とうもろこし

農薬の種類	使用方法	使用時期	散布液量	希釈倍数使用量	本剤の使用回数
BT水和剤(19899, 22653, 22654, 23884)	散布	発生初期 但し収穫前日まで	100～300L/10a	500倍	—
カルタップ水溶剤	散布	収穫21日前まで	100～300L/10a	1000～1500倍	2回以内

○とうもろこし【とうもろこし(子実)、未成熟とうもろこし】

農薬の種類	使用方法	使用時期	散布液量	希釈倍数使用量	本剤の使用回数
BT水和剤(19899, 22653, 22654, 23884)	散布	発生初期但し、収穫前日まで	100～300L/10a	500倍	—
MEP乳剤	散布	収穫7日前まで	100～300L/10a	1000倍	4回以内
カルタップ水溶剤	散布	収穫21日前まで	100～300L/10a	1000～1500倍	2回以内
エトフェンブロックス乳剤	散布	収穫7日前まで	100～300L/10a	1000倍	4回以内
クロラントラニプロール水和剤	散布	収穫前日まで	100～300L/10a	2000倍	3回以内
フェンバレレート・MEP水和剤	散布	収穫7日前まで	100～300L/10a	1000～2000倍	4回以内
フルベンジアミド水和剤	散布	収穫前日まで	100～300L/10a	2000～4000倍	2回以内
メタフルミゾン水和剤	散布	収穫前日まで	100～300L/10a	1000倍	3回以内

○未成熟とうもろこし

農薬の種類	使用方法	使用時期	散布液量	希釈倍数使用量	本剤の使用回数
テトラニプロール水和剤	散布	収穫前日まで	100～300L/10a	5000倍	3回以内
シアントラニプロール水和剤	散布	収穫前日まで	100～300L/10a	4000倍	3回以内
クロチアニジン水溶剤	散布	収穫3日前まで	100～300L/10a	2000～4000倍	3回以内
エマメクテン安息香酸塩乳剤	散布	収穫3日前まで	100～300L/10a	1000～2000倍	2回以内
フルフェノクスロン乳剤	散布	収穫7日前まで	100～300L/10a	2000倍	2回以内

○ヤングコーン

農薬の種類	使用方法	使用時期	散布液量	希釈倍数使用量	本剤の使用回数
フルベンジアミド水和剤	散布	収穫前日まで	100～300L/10a	2000～4000倍	2回以内

○さとうきび

農薬の種類	使用方法	使用時期	散布液量	希釈倍数使用量	本剤の使用回数
クロラントラニプロール水和剤	散布	収穫30日前まで	100～300L/10a	5000倍	3回以内
	無人航空機による散布	収穫30日前まで	2.4L/10a	50倍	3回以内
クロラントラニプロール・ジノテフラン水和剤	散布	収穫45日前まで	100～300L/10a	2000倍	3回以内

○ソルガム(飼料用)

農薬の種類	使用方法	使用時期	散布液量	希釈倍数使用量	本剤の使用回数
アセフェート水和剤	散布	収穫30日前まで	100～300L/10a	1000倍	3回以内

各関係機関長 様

熊本県病虫害防除所長

トビイロウンカの発生状況（技術情報第9号）について（送付）

このことについて、早植え・普通期水稻におけるトビイロウンカの発生状況及び防除対策を下記のとおりまとめましたので、業務の参考に御活用ください。

記

8月上旬時点での発生は平年より少ない状況です。

ただし、早植え水稻の一部において要防除水準を超過していることから、移植時期やこれまでの防除履歴によっては、今後多発する可能性があります。引き続き、各ほ場での発生状況に注意し、適期防除に努めてください。

1 発生状況

(1) 早植え水稻（5～6月上旬移植）

8月8～9日に実施した払い落とし調査の結果、24ほ場の平均寄生密度（成幼虫合計）は1.4頭/10株と平年（15.7頭/10株）より少なく、発生ほ場率も25.0%と平年（57.5%）より低かった。ただし、16.7%のほ場で8月上旬の要防除水準（2頭/10株）を超過しており、一部で増殖能力の高い短翅型雌成虫も確認された（表1、図1、図2）。

合志市に設置した無防除田（5月13日移植）では、8月4日に主飛来（7月20日頃）の次世代幼虫とみられる21.7頭/10株の寄生を確認した（図3）。

(2) 普通期水稻（6月中～下旬移植）

8月8～9日に実施した払い落とし調査の結果、24ほ場の平均寄生密度（成幼虫合計）は0.0頭/10株と平年（1.1頭/10株）より少なく、ほ場への定着を示す幼虫の発生は認められなかった。防除が必要な水準に達したほ場は認められず、発生ほ場率も8.3%と平年（27.2%）より低かった（表2）。

2 防除対策

(1) 1の発生状況及び今後の気象条件がトビイロウンカの増殖に好適であることが予想されていることから、本虫に効果のある育苗箱施用剤が使用されていないか、その効果が薄れている移植時期の栽培では、今後急速に増加する可能性がある。引き続き発生状況に注意し、要防除水準（8月中～下旬：10頭/10株）を超えたほ場では直ちに防除を行う。最新の発生状況については、病虫害防除所のホームページ（<https://www.pref.kumamoto.jp/soshiki/75/125504.html>）に掲載している調査データを参考にする。

(2) 要防除水準に達していないほ場においては、表3を参考に主飛来（7月20日頃）の後世代幼虫を対象とした適期防除に努める。

(3) 農薬散布に当たっては、必ずラベル等で使用方法を確認し、使用基準を遵守する。また、周辺の作物やミツバチ・魚介類等の環境に影響がないよう飛散防止対策に努める。

表1 早植え水稻におけるトビイロウンカの寄生密度 (頭/10株)

地点名	成虫				幼虫			計
	長翅♂	長翅♀	短翅♂	短翅♀	老齢	中齢	若齢	
山鹿市鹿北1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
山鹿市鹿北2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
山鹿市菊鹿1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	2.0	0.0	2.0
山鹿市菊鹿2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.3	0.0	0.3
阿蘇市狩尾1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
阿蘇市狩尾2	0.0	0.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.3
阿蘇市的石1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.3	0.0	13.7	14.0
阿蘇市的石2	0.0	0.0	0.0	0.7	1.0	2.0	10.7	14.3
南小国町赤馬場1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
南小国町赤馬場2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
南阿蘇村久木野1	0.0	0.0	0.0	0.3	0.0	0.3	2.0	2.7
南阿蘇村久木野2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
山都町南田1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
山都町南田2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
甲佐町寒野1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
甲佐町寒野2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
八代市二見町1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
八代市二見町2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
芦北町大野1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
芦北町大野2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
あさぎり町上1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
あさぎり町上2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
錦町1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
錦町2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
24ほ場の合計頭数	0.0	0.3	0.0	1.0	1.3	4.7	26.3	33.7
	1.3				32.3			
24ほ場の平均	1.4 頭(平年				15.7 頭、昨年 0.0 頭)			
発生ほ場率	25.0 %(平年				57.5 %、昨年 0.0 %)			

8月8～9日 30株の払い落とし調査

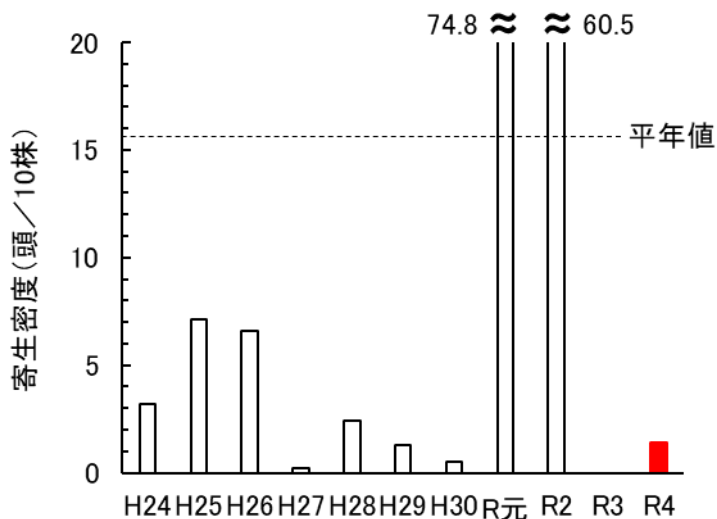


図1 早植え水稻における8月上旬のトビイロウンカ寄生密度の年次比較



図2 短翅型雌成虫

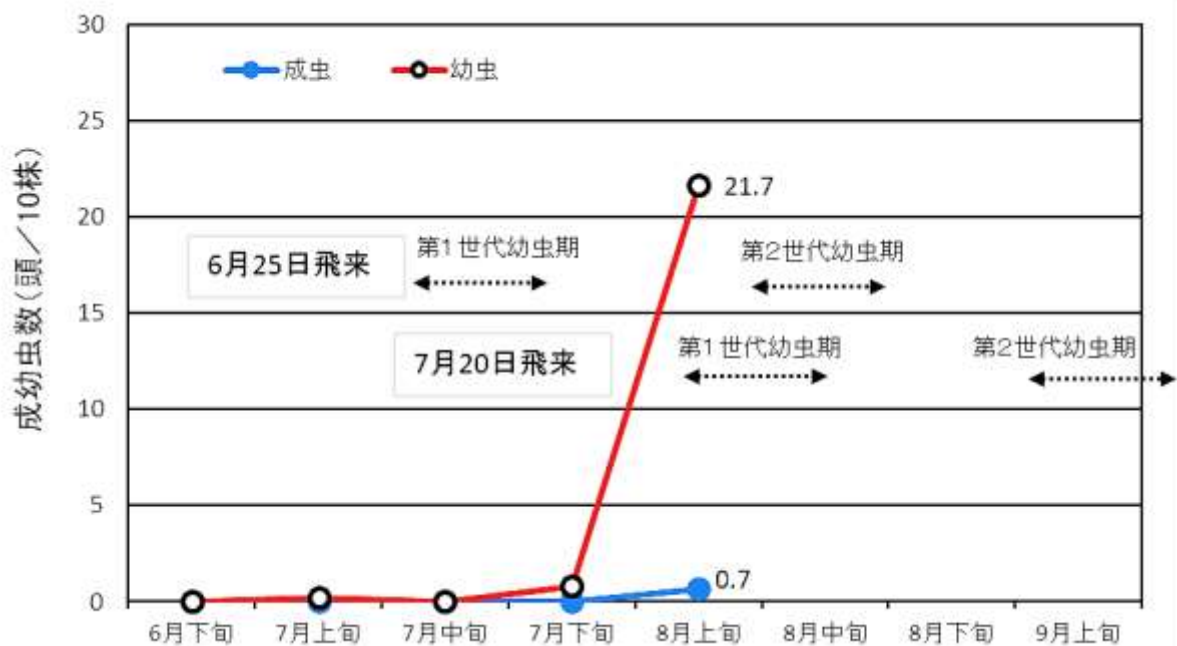


図3 無防除早植え水稻（合志市）におけるトビイロウンカの発生推移

表2 普通期水稻におけるトビイロウンカの寄生密度（頭/10株）

地点名	成虫				幼虫			計
	長翅♂	長翅♀	短翅♂	短翅♀	老齢	中齢	若齢	
熊本市画図1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
熊本市画図2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
熊本市中無田1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
熊本市中無田2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
熊本市富合町木原	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
熊本市富合町平原	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
玉名市両迫間1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
玉名市両迫間2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
玉名市横島1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
玉名市横島2	0.0	0.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.3
山鹿市鹿央町1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
山鹿市鹿央町2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
菊池市赤星1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
菊池市赤星2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
大津町陣内1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
大津町陣内2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
益城町福原1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
益城町福原2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
八代市鏡町1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
八代市鏡町2	0.3	0.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.7
氷川町網道1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
氷川町網道2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
芦北町花岡1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
芦北町花岡2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
24ほ場の合計頭数	0.3	0.7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	1.0
24ほ場の平均	1.0				0.0			1.0
発生ほ場率	0.0 頭(平年				1.1 頭、昨年 0.0 頭)			
	8.3 % (平年				27.2 %、昨年 0.0 %)			

表3 県内各地のトビイロウンカ防除適期（主飛来対象）

★JPPネットによる有効積算温度計算シミュレーションver2を使用

★7月20日飛来の場合（熊本県農業研究センター設置の予察灯最多誘殺日から推定）

地点名	熊本	三角	岱明	鹿北	菊池	阿蘇乙姫
第2世代 幼虫 (1齢～5齢)	9月2日	9月3日	9月2日	9月6日	9月4日	9月17日
	～ 9月14日	～ 9月15日	～ 9月14日	～ 9月20日	～ 9月17日	～ 10月6日

地点名	甲佐	八代	水俣	人吉	本渡
第2世代 幼虫 (1齢～5齢)	9月4日	9月4日	9月4日	9月5日	9月4日
	～ 9月17日	～ 9月16日	～ 9月17日	～ 9月18日	～ 9月17日

注1)各地点のアメダスデータ平均気温(本年値及び平年値)をもとに、有効積算温度により生育ステージを予測した。

本年の平均気温は8月11日までは2022年実測値、8月12日以降は平年の平均気温を使用した。

注2)防除を行う場合は、薬剤の効果が高い若齢幼虫期(1～2齢)を狙って防除する。

ステージ	有効積算温度(日度)	発育0点(°C)	備考
成虫	125	12	産卵までの期間
卵	135	11.4	孵化までの期間
幼虫	250	6.5	1齢～5齢幼虫の期間

＜参考＞ トビイロウンカの発生時期別要防除水準

発生時期	要防除水準(成幼虫)
7月中旬～8月上旬	2頭/10株
8月中旬～8月下旬	10頭/10株

熊本県病虫害防除所
 (熊本県農業研究センター 生産環境研究所内)
 担当：清永、江口 TEL 096-248-6490

各関係機関長 様

熊本県病害虫防除所長

夏秋トマトにおける地上病害の発生状況と防除対策（技術情報第10号）について
（送付）

このことについて、下記のとおり取りまとめましたので、業務の参考に御活用ください。

記

夏秋トマトにおいて、すすかび病の発生が多い状況です。うどんこ病や葉かび病も一部のほ場で多発生が確認されています。これらの病害は今後もさらに増加することが懸念されるため、積極的な防除対策によりまん延防止に努めましょう。

1 現在の発生状況

- (1) 8月の巡回調査における夏秋トマトの病害は、すすかび病は発病株率60.0%（平年43.9%）、うどんこ病は発病株率29.3%（平年4.3%）、葉かび病は発病株率31.0%（平年13.1%）といずれも平年比多の発生であった（図1～3）。灰色かび病（茎葉）は発病株率6.7%（平年20.9%）と平年比やや少の発生であった（図4）。
- (2) 病害虫防除員の報告では、8月中旬時点でうどんこ病は平年比やや多、すすかび病と葉かび病は平年並、灰色かび病は平年比やや少の発生であった。

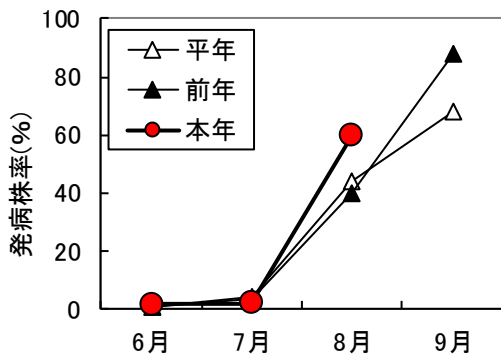


図1 すすかび病の発病株率の推移

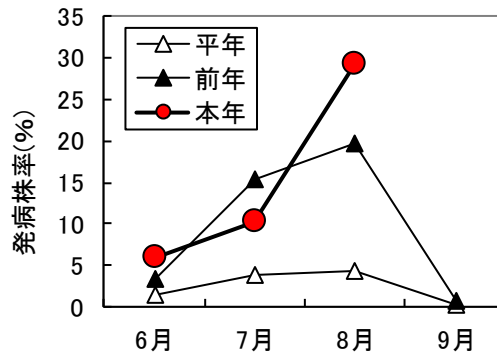


図2 うどんこ病の発病株率の推移

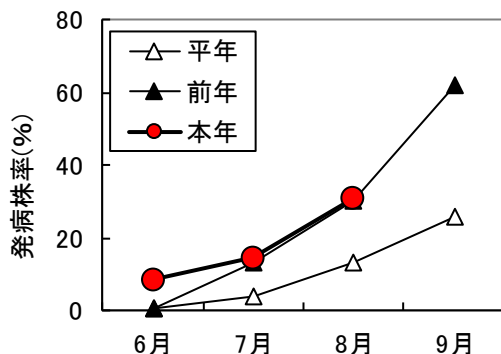


図3 葉かび病の発病株率の推移

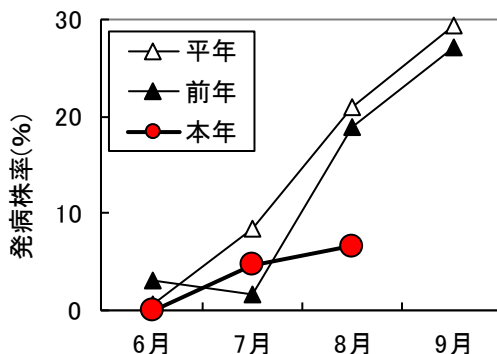


図4 灰色かび病の発病株率の推移

2 今後の発生予想

福岡管区気象台が8月25日に発表した九州北部地方1か月予報によると、気温は平年より高く、降雨量も平年並から多い予想のため、病害にとって好適な湿度条件になることが予想される。

3 防除対策等

- (1) 複数の病害が併発しているほ場では適用範囲の広い薬剤を選択する。感染から発病までの潜伏期間はすすかび病が25℃付近で3週間程度、葉かび病は2週間以上と比較的長く、病害が多発してからの防除は困難となるため、予防防除を重点に行う。
- (2) 密植や過繁茂を避け、通風採光を良くする。ハウス栽培では換気を図り、多湿を避ける。
- (3) 発病葉等や被害残さは伝染源となるので、ほ場外に持ち出し処分する。
- (4) 病害によっては肥料切れや樹勢低下により発生が助長されるため、適正な肥培管理を行う。
- (5) 薬剤抵抗性の発達を防ぐため、系統の異なる薬剤のローテーション使用を行う。

熊本県病害虫防除所

(熊本県農業研究センター 生産環境研究所内)

担当：中井、福岡

TEL 096-248-6490 FAX 096-248-6493

各関係機関長 様

熊本県病害虫防除所長

タバココナジラミのウリ類退緑黄化ウイルス保毒状況と防除対策（技術情報第11号）
について（送付）

タバココナジラミのウリ類退緑黄化ウイルス（以下、CCYVとする）保毒状況とウリ科野菜の退緑黄化病に対する防除対策について取りまとめましたので、業務に御活用下さい。

記

野外におけるタバココナジラミの誘殺数は平年に比べてやや少ないですが、CCYV保毒虫率は平年並です。生育初期にCCYVに感染すると、収量・品質への影響が大きくなるため、ほ場にタバココナジラミを「入れない」対策とともに初期防除を徹底しましょう。

ウリ科野菜栽培主要3地域（熊本、鹿本、菊池）で、夏秋期から栽培を開始するウリ科野菜の退緑黄化病の発生リスクを判断するため、それぞれの地域の野外に黄色粘着板を設置し、タバココナジラミの誘殺数およびCCYVの保毒虫率を調査した。

1 調査結果

- (1) 8月上旬～下旬にかけて黄色粘着板(10×10cm)に誘殺されたタバココナジラミは、1.2頭/日/枚で、平年2.3頭/日/枚（過去5年の平均値、以下同様）と比較するとやや少なかった（表1）。
- (2) 8月上旬～下旬にかけて黄色粘着板に誘殺されたタバココナジラミのCCYV保毒虫率は29.4%（平年30.5%、8月上旬～9月上旬）で、平年並であった（表1）。ただし、調査を開始した平成25年からの推移を見ると、平成28年以降は高止まり傾向が継続している（図1）。
- (3) 退緑黄化病の発生リスクの指標となる保毒虫数は0.5頭/日/枚（平年0.8頭/日/枚）で、平年比やや少であった（表1）。
- (4) 福岡管区气象台が9月8日に発表した九州北部地方1か月予報によると、気温は平年より高く推移すると予想されており、タバココナジラミの活動に好適な条件が続くと考えられる。

2 防除対策

退緑黄化病の発生リスクの指標となる保毒虫数は平年比やや少である。しかし、生育初期にCCYVに感染すると、品質の低下や収量の減少等の被害が大きくなるため、ほ場にタバココナジラミを「入れない」対策とともに初期防除の徹底が重要である。

また、今後タバココナジラミの活動に好適な気象条件が続いた場合、野外のタバココナジラミが増殖し、ハウス内へのタバココナジラミの飛び込み頻度が高まることが想定される。

以上の点に留意して、以下のような防除対策を行う。

栽培前のほ場

- (1) これから定植するほ場では、タバココナジラミを栽培ほ場に「入れない」対策を徹底する。施設のサイド開口部に目合い0.4mm防虫ネット、谷換気部に目合い1mm以下の防虫ネットを被覆する。すでに被覆しているハウスについては、被覆ビニルや防虫ネットに破損や隙間が無いか点検し、必要に応じて補修する。
- (2) 育苗期後半に使用できる薬剤を定植2～3日前に処理する。また、定植前に処理した薬剤の効果が低下する定植20～30日後に、成虫に対して効果の高い薬剤を散布する。
- (3) 育苗ハウスから苗を運ぶ際には、移動中にタバココナジラミが寄生しないよう、運搬車等の荷台を防虫ネットや幌等で覆う。

栽培中のほ場

- (1) タバココナジラミを施設内で「増やさない」対策を徹底する。現在栽培中のほ場では、栽培終了まで、タバココナジラミの防除を継続して行う。
- (2) タバココナジラミを施設外に「出さない」対策を徹底する。栽培終了後は直ちに密閉処理を行い、ほ場内のタバココナジラミを死滅させる。露地栽培などの密閉できないほ場では、成虫に効果の高い薬剤で防除したうえで植物残さを早急に片付ける。

共通

- (1) 施設内の発病株や周辺の野良生えは、重要な伝染源となるので除去する。
- (2) ウリ科野菜の周年栽培地帯におけるメロン退緑黄化病発生リスクは、5月から12月まで高い水準で推移する（[農業研究成果情報 No. 597\(平成 25 年 5 月\)ウリ類周年栽培地帯でのメロン退緑黄化病発生リスクの季節変動](#)）ので、今後も防除を徹底する。
- (3) 薬剤は効果があるものをローテーションで使用する（[令和3年3月10日付技術情報第17号「タバココナジラミバイオタイプQ成虫の薬剤感受性検定の結果」](#)を参照）。なお、アセチル化グリセリド乳剤（商品名：ベミデタッチ）は、登録変更により「メロン」の適用がなくなったので使用しない。

表1 各調査年におけるタバココナジラミの誘殺数、保毒虫率、保毒虫数

調査年	R4	R3	R2	R1	H30	H29	平年
誘殺数(頭/日/枚)	1.2	2.2	1.5	1.0	3.9	3.0	2.3
保毒虫率(%)	29.4	24.7	41.3	30.3	30.7	25.3	30.5
保毒虫数(頭/日/枚)	0.5	0.5	0.7	0.3	1.6	0.8	0.8

※1 表中の数値は3地域（熊本、鹿本、菊池）の平均値。

※2 平年値は過去5か年の平均

※3 誘殺数は、黄色粘着板を1地域あたり5枚、7～28日間設置して、1枚あたり1日の誘殺数を算出。

※4 保毒虫率は、黄色粘着板に誘殺されたコナジラミをRT-PCRにより検査し、保毒虫数/検定数により算出。検定数は1地域あたり原則50頭（ただし誘殺数が少ない場合は50頭を下回ることもある）。

※5 保毒虫数は、誘殺数×保毒虫率により算出。

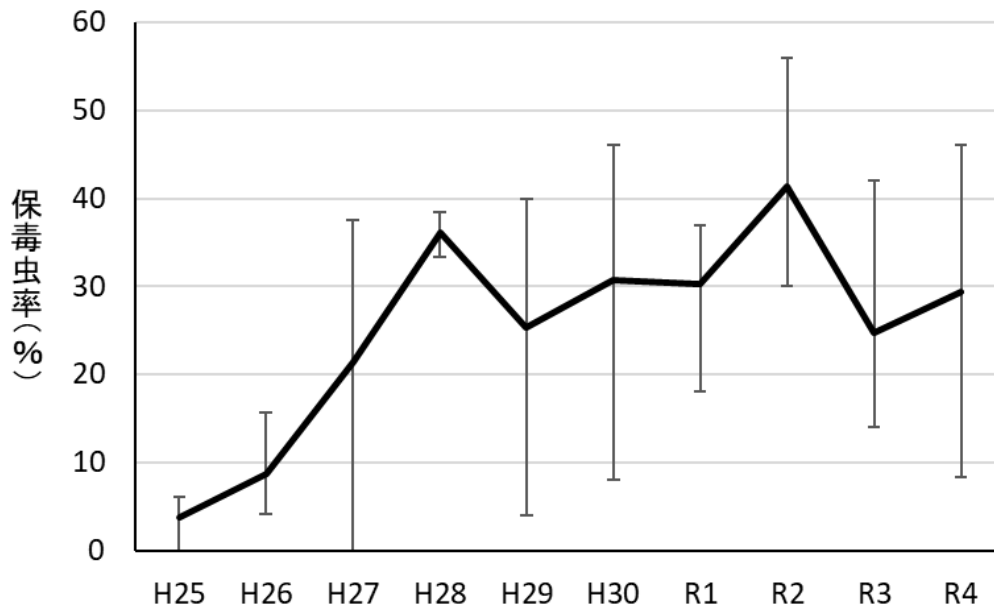


図1 黄色粘着板に誘殺されたタバココナジラミ成虫のC C Y V保毒虫率の推移
 3地域（熊本、鹿本、菊池）の平均値。
 エラーバーは各年の地域別値の最大値、最小値を示す。

熊本県病害虫防除所
 （熊本県農業研究センター 生産環境研究所内）
 担当：福岡、中井 TEL：096-248-6490

令和4年(2022年)10月13日

各関係機関長 様

熊本県病害虫防除所長

タバココナジラミのトマト黄化葉巻ウイルス保毒状況と防除対策(技術情報第12号)について(送付)

このことについて、下記のとおり取りまとめましたので、業務の参考としてご活用ください。

記

9月上旬の野外のコナジラミ類の発生量は一部の地域で平年よりやや多く、9月上～下旬のタバココナジラミのトマト黄化葉巻ウイルスの保毒虫率も、一部の地域で平年に比べてやや高い状況です。タバココナジラミの発生量が増加するとトマト黄化葉巻病の被害が拡大することが懸念されるため、従来どおりトマト黄化葉巻病の防除対策を徹底しましょう。

冬春トマト栽培の主要3地域(熊本、玉名、八代)において、9～10月におけるトマト黄化葉巻病の発生リスクを評価するため、それぞれの地域の野外に黄色粘着板を設置し、タバココナジラミの発生量及びトマト黄化葉巻ウイルス(以下、TYLCVとする)の保毒虫率を調査した。

1 調査結果

- (1) 9月上旬におけるタバココナジラミの黄色粘着板の誘殺数は、熊本市で0.2頭/日/枚(平年0.8頭/日/枚)と平年に比べて少なく、玉名市で2.5頭/日/枚(平年1.7頭/日/枚)と平年に比べてやや多く、八代市で0.1頭/日/枚(平年0.3頭/日/枚)と平年に比べて少なかった(表1)。
- (2) 9月上～下旬に黄色粘着板に誘殺されたタバココナジラミのTYLCV保毒虫率は、熊本市で1.7%(平年6.3%)と平年に比べて低く、玉名市で6.7%(平年3.7%)と平年に比べてやや高く、八代市で7.7%(平年5.0%)と平年に比べてやや高かった(表2)。
- (3) 感染リスクの指標である保毒虫数は、熊本市で0.00(平年0.05)で平年並、玉名市で0.16(平年0.05)で平年に比べてやや多く、八代市で0.01(平年0.02)で平年並であった(表3)。
- (4) 福岡管区气象台が10月6日に発表した九州北部地方1か月予報によると、向こう1か月の気温は平年より高い予想であり、平年に比べてタバココナジラミの活動に好適な条件が継続することから、野外のタバココナジラミが施設内に飛び込む機会が多くなることが懸念される。

2 防除対策

- (1) ハウスの開口部(サイド、谷部など)には目合い0.4mm以下の防虫ネットを設置する。すでに設置しているハウスについては、被覆ビニルや防虫ネットに破損や隙間が無い点検し、必要に応じて補修する。
- (2) ハウス内に黄色粘着板を設置し、タバココナジラミの早期発見に努める。
- (3) 野外から飛び込んだタバココナジラミを施設内で定着させないため、11月頃までは成虫を対象とした薬剤防除を行う。農薬の使用にあたっては、使用方法、使用時期、総使用回数等を厳守する。

- (4) ハウス内の発病株は感染源となる。見つけ次第直ちに抜き取り、施設外に持ち出し適正に処分する。
- (5) 抵抗性品種であっても感染源と成り得るため、感受性品種と同様に防除を行う。
- (6) ハウス周辺及び内部の雑草は、タバココナジラミの生息・増殖場所となる。栽培期間中は定期的に除草する。
- (7) 野良生えトマトは重要な伝染源となるので、抜き取り土中に埋める等適切に処分する。

表1 野外のタバココナジラミ成虫の誘殺数

地域	誘殺数 (頭/日/枚)						平年値
	本年	2021年	2020年	2019年	2018年	2017年	
熊本市	0.2	0.1	0.2	0.3	3.0	0.5	0.8
玉名市	2.5	0.4	3.3	1.6	2.4	0.8	1.7
八代市	0.1	0.0	0.7	0.4	0.3	0.1	0.3
平均値	0.9	0.2	1.4	0.8	1.9	0.4	0.9

- ※1 黄色粘着板 (10cm×10cm) は1地点あたり3枚設置した。
- ※2 設置期間は9月1～12日。過去5か年の設置期間も同様に9月上旬。
- ※3 平年値は2017年から2021年の5か年平均とする。
- ※4 玉名市の設置場所は本年からJAたまな横島倉庫に変更。
(設置場所: 2014～2018年 旧しあわせ農協、2019年～2021年 JAたまな横島イチゴ集荷所)

表2 野外で採集したタバココナジラミ成虫のトマト黄化葉巻ウイルス保毒状況

地域	保毒虫率 (%)						平年値
	本年	2021年	2020年	2019年	2018年	2017年	
熊本市	1.7 (60)	1.7 (60)	3.3 (60)	6.7 (60)	5.0 (60)	15.0 (60)	6.3
玉名市	6.7 (60)	6.7 (60)	0.0 (60)	1.7 (60)	6.7 (60)	3.3 (60)	3.7
八代市	7.7 (26)	8.3 (60)	5.0 (60)	6.7 (45)	3.3 (60)	1.8 (56)	5.0
平均値	5.3	5.6	2.8	5.0	5.0	6.7	5.0

- ※1 黄色粘着板 (20cm×10cm) を1地点あたり5～10枚設置し採集した。
- ※2 採集期間は熊本市9月1～26日、玉名市9月1～12日、八代市9月1～30日 (本年は9月前半の誘殺数が非常に少なかったため、採集期間を平年より延長した。) 過去5か年の採集期間は9月上～中旬。
- ※3 () 内の数値は検定数。
- ※4 平年値は2017年から2021年の5か年平均とする。
- ※5 玉名市の設置場所は本年からJAたまな横島倉庫に変更。
(設置場所: 2014～2018年 旧しあわせ農協、2019年～2021年 JAたまな横島イチゴ集荷所)

表3 野外のタバコナジラミ成虫の保毒虫数

地域	保毒虫数 (頭/日/枚)						平年値
	本年	2021年	2020年	2019年	2018年	2017年	
熊本市	0.00	0.00	0.01	0.02	0.15	0.07	0.05
玉名市	0.16	0.03	0.00	0.03	0.16	0.03	0.05
八代市	0.01	0.00	0.04	0.03	0.01	0.00	0.02
平均値	0.06	0.01	0.01	0.03	0.11	0.03	0.04

※1 保毒虫数＝誘殺数×保毒虫率

誘殺数：表1のとおり

保毒虫率：表2のとおり

※2 平年値は2016年から2020年の5か年平均とする。

熊本県病害虫防除所
 (熊本県農業研究センター 生産環境研究所内)
 担当：中井、福岡 TEL：096-248-6490

各関係機関長 様

熊本県病害虫防除所長

冬春ナス、冬春キュウリにおける灰色かび病の発生状況と防除対策（技術情報第13号）
について（送付）

このことについて、下記のとおり取りまとめましたので業務の参考としてご活用ください。

記

2月の巡回調査において、冬春ナス、冬春キュウリで灰色かび病の発生が平年より増加しています。今後春先にかけて、降雨や寒暖差によりハウス内が多湿条件になると、病害の発生がさらに増加することが懸念されるため、ほ場内の発生に注意し、防除対策を徹底しましょう。

1 発生状況

- (1) 2月の巡回調査における灰色かび病の発病株率は冬春ナスで5.2%（平年0.6%）と平年比多、冬春キュウリで4.7%（平年0.3%）と平年比多の発生であった（図1、2）。
- (2) 病害虫防除員からの報告によると、冬春ナス、冬春キュウリともに2月の灰色かび病の発生状況は平年比やや多の発生であった。

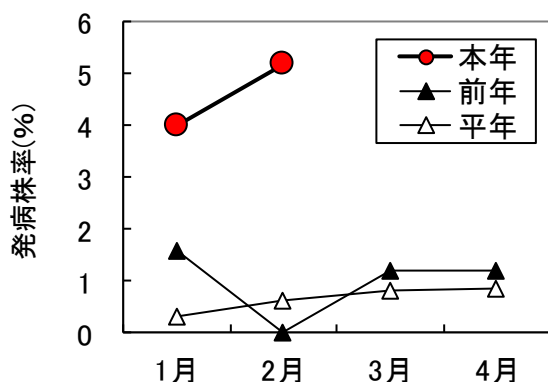


図1 灰色かび病の発病株率の推移
(冬春ナス)

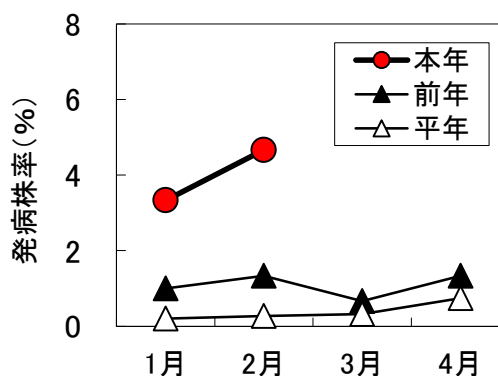


図2 灰色かび病の発病株率の推移
(冬春キュウリ)

2 今後の発生予想

福岡管区気象台が2月23日に発表した九州北部地方1か月予報によると、気温は平年より高く、降雨量は平年より少ない予想ですが、本病が発生したほ場では伝染源が多い状態であるため、降雨後に多発する可能性があります。

3 防除対策等

本病は糸状菌による病害で、花卉から発生しやすく、果実、葉、茎などにも発生します。感染した部分は腐敗し、表面に灰色のかびと胞子が密生します。そこから胞子が周囲に飛散し、次々と伝染してほ場内に発生が広がっていきます。本病の適温は20℃前後であり、特に高湿度条件で発生しやすいため、以下の対策を行いましょう。

- (1) 暖房機や循環扇で空気を循環させ、特に夜間や早朝のハウス内の温度むら、湿度むらをなくす。
- (2) 地面をマルチフィルムで全面被覆したり、うね間（通路）やうね上に敷わらを行う。
- (3) 外張（天井）等の結露は、植物体にかからないように、谷下等へ排水する。
- (4) 過繁茂を避け、通風採光を良くする。日中は換気を図り、多湿を避ける。
- (5) 発病葉、発病果や被害残さは伝染源となるので、早期に除去し、ほ場外に持ち出し処分する。また、薬害や生理障害により枯死した葉も本病の伝染源となる恐れがあるため適正に処分する。
- (6) 病害が多発してからの防除は困難となるため、天気予報に留意し予防防除を重点に行う。
- (7) 薬剤抵抗性の発達を防ぐため、系統の異なる薬剤のローテーション使用を行う（表1、2）。

表1. ナスの灰色かび病で熊本県防除指針に採用のある農薬（参考）※1

薬剤名	成分(総使用回数)	FRAC コード	使用方法	同時防除が可能な主な病害※2			
				すすかび病	うどんこ病	菌核病	黒枯病
アフェットフロアブル	ベンチオピラド(3回以内)	7	散布	●	○	○	-
カンタスドライフロアブル	ボスカリド(3回以内)	7	散布	●	-	○	-
ゲッター水和剤	ジエトフェンカルブ(5回以内)	10	散布	-	-	○	○
	チオファネートメチル(は種後は5回以内)	1					
ジャストミート顆粒水和剤	フェンヘキサミド(3回以内)	17	散布	-	-	-	-
	フルジオキシニル(3回以内)	12					
スミブレンド水和剤	ジエトフェンカルブ(5回以内)	10	散布	-	-	○	-
	プロシミドン(6回以内)	2					
スミレックスくん煙顆粒	プロシミドン(6回以内)	2	くん煙	-	-	-	-
スミレックス水和剤	プロシミドン(6回以内)	2	散布	-	-	●	-
セイビアーフロアブル20	フルジオキシニル(3回以内)	12	散布	-	-	-	-
ニマイバー水和剤	ジエトフェンカルブ(5回以内)	10	散布	○	○	○	●
	ベノミル(は種後は3回以内)	1					
ピクシオDF	フェンピラザミン(4回以内)	17	散布	-	-	○	-
ファンタジスタ顆粒水和剤	ピリベンカルブ(3回以内)	11	散布	○	○	○	○
フルピカフロアブル	メバニピリム(4回以内)	9	散布	-	○	-	-
ベルコート水和剤	イミノクタジナルベシル酸塩(3回以内)	M7	散布	●	○	-	-
ポリベリン水和剤	イミノクタジン酢酸塩(3回以内)	M7	散布	-	○	-	-
	ポリオキシシン複合体(3回以内)	19					
ロブラールくん煙剤	イブロジオン(は種後は4回以内)	2	くん煙	-	-	●	-
ロブラール水和剤	イブロジオン(は種後は4回以内)	2	散布	○	-	○	○

※1 農薬使用時はラベルを確認し、記載された登録内容に基づいて使用してください

※2 ●:適用あり(熊本県病害虫防除指針採用)

○:適用あり

表2. キュウリの灰色かび病で熊本県防除指針に採用のある農薬（参考）※1

薬剤名	成分(総使用回数)	FRAC コード	使用方法	同時防除が可能な主な病害※2			
				褐斑病	うどんこ病	べと病	菌核病
アミスター20フロアブル	アゾキシストロピン(4回以内)	11	散布	●	○	●	●
カンタスドライフロアブル	ボスカリド(3回以内)	7	散布	●	-	-	○
ゲッター水和剤	ジエトフェンカルブ(5回以内) チオファネートメチル(は種後は5回以内)	10 1	散布	○	-	-	●
ケンジャフロアブル	イソフェタミド(4回以内)	7	散布	○	○	-	○
スミブレンド水和剤	ジエトフェンカルブ(5回以内) プロシモン(6回以内(常温煙霧は2回以内))	10 2	散布	●	-	-	●
スミレックスくん煙顆粒	プロシモン(6回以内(常温煙霧は2回以内))	2	くん煙	-	-	-	●
スミレックス水和剤	プロシモン(6回以内)	2	散布	-	-	-	●
スミレックス水和剤	プロシモン(常温煙霧は2回以内)	2	常温煙霧	-	-	-	-
セイビアーフロアブル20	フルジオキシニル(3回以内)	12	散布	●	-	-	○
ジャストミート顆粒水和剤	フェンヘキサミド(3回以内) フルジオキシニル(3回以内)	17 12	散布	-	-	-	○
ファンタジスタ顆粒水和剤	ピリベンカルブ(3回以内)	11	散布	-	-	-	●
フルピカくん煙剤	メパニピリム(4回以内)	9	くん煙(通常 10~15時間)	-	○	-	-
フルピカフロアブル	メパニピリム(4回以内)	9	散布	●	●	-	-
ベルコート水和剤	イミノクタジンアルベシル酸塩(7回以内)	M7	散布	○	○	-	-
ポリペリン水和剤	イミノクタジン酢酸塩(7回以内) ポリオキシシン複合体(2回以内)	M7 19	散布	○	○	-	-
ロブラール500アクア	イプロジオン(は種後は4回以内)	2	散布	-	-	-	●
ロブラールくん煙剤	イプロジオン(は種後は4回以内)	2	くん煙	-	-	-	●
ロブラール水和剤	イプロジオン(は種後は4回以内)	2	散布	-	-	-	●

※1 農薬使用時はラベルを確認し、記載された登録内容に基づいて使用してください

※2 ●:適用あり(熊本県病害虫防除指針採用)

○:適用あり

熊本県病害虫防除所
(農業研究センター 生産環境研究所内)
担当:中井、福岡
TEL : 096-248-6490

各関係機関長 様

熊本県病虫害防除所長

チャバネアオカメムシの越冬量及び本年7月頃までの発生量（技術情報第14号）
について（送付）

このことについて、下記のとおりとりまとめましたので、業務の参考に御活用ください。

記

本年のチャバネアオカメムシの越冬量は平年並であり、本年7月頃までの発生量は平年並で、前年よりやや少ないと予想される。

1 目的

チャバネアオカメムシの越冬量は、その年の7月頃までの発生量の指標となる4～7月の予察灯誘殺数と正の相関が認められる（図1）。そこで、県内各地のチャバネアオカメムシの越冬量から本年7月頃までの発生量を予想し、防除対策の参考資料とする。

2 調査方法

- (1) 調査時期 令和5年（2023年）1月
- (2) 調査地点 県内16か所の定点（表1）
- (3) 調査方法 各地点3m²（1m²×3カ所）分の落葉を採取し、落葉中のチャバネアオカメムシの越冬虫数を計数した。

3 結果

チャバネアオカメムシの越冬虫数について、県内16地点の合計は8頭（前年16頭、平年8.9頭）と平年並、前年比やや少であった。また、捕獲地点数は、16地点中6地点（前年7地点、平年5地点）あり、平年比・前年比共に並であった（表1）。

4 今後の発生量予想等

- (1) 本年のチャバネアオカメムシの越冬虫数及び捕獲地点数は平年並であることから、本年7月までのチャバネアオカメムシの発生量は平年並で、前年よりやや少ないと予想される。
- (2) 果樹カメムシ類は、局地的に飛来し、被害をもたらすことがあるので、定期的に園を見回り、早期発見と薬剤による初期防除を徹底する。
- (3) ここで示したデータには、ツヤアオカメムシの越冬量は含まれていないが、チャバネアオカメムシと同様の対策を行う。

(4) 果樹カメムシ類の予察灯及びフェロモントラップの誘殺数データを病虫害防除所のホームページ (<https://www.pref.kumamoto.jp/soshiki/75/125504.html>) に4月以降随時掲載する。これらの情報を参考に防除要否や防除適期を判断する。

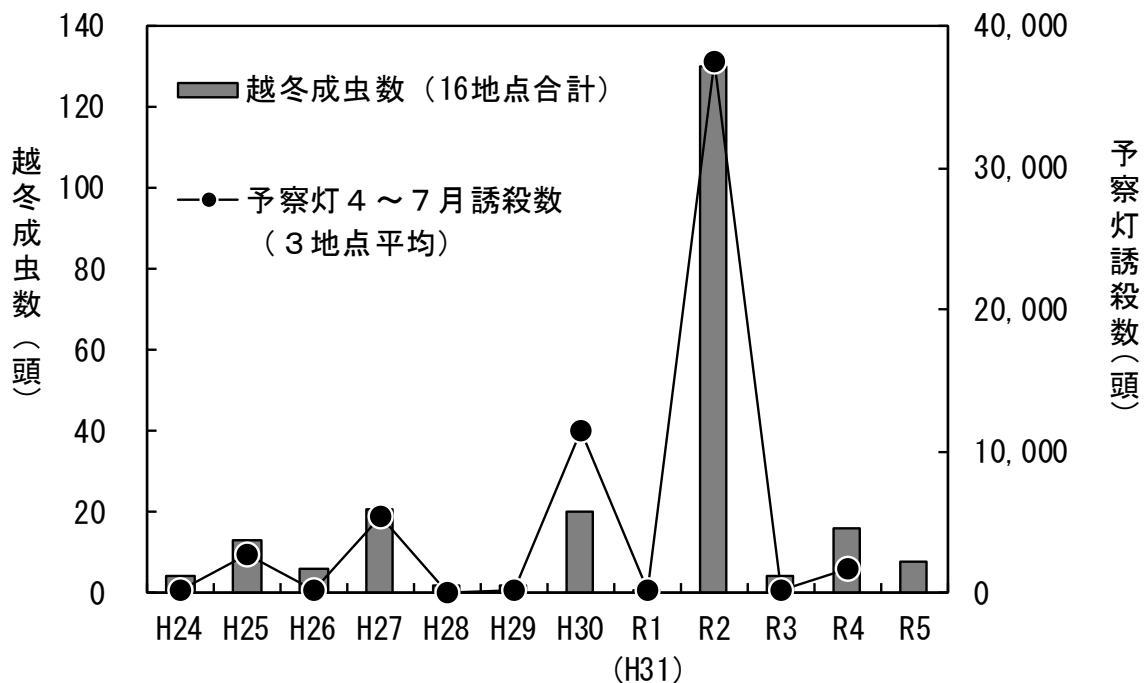


図1 チャバネアオカメムシの越冬虫数と予察灯4~7月誘殺数の推移

- 1 「越冬虫数」は、各3m²調査した16地点の合計頭数を示す(左縦軸)。
- 2 「予察灯4月~7月誘殺数」は、合志市栄、宇城市松橋、天草市本渡に設置した3台の予察灯の4月から7月までの誘殺数累計の平均値を示す(右縦軸)。

表1 チャバネアオカメムシの越冬量調査結果（越冬成虫数（頭/3㎡）及び捕獲地点数）

調査年 調査地点	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1 (H31)	R2	R3	R4	R5	平年※
熊本市河内町①	0	1	1	0	0	0	0	0	9	2	0	1	
熊本市河内町②	0	0	0	0	0	0	0	0	8	0	2	0	
熊本市植木町	1	3	1	2	0	0	0	0	18	1	1	3	
宇城市三角町①	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	4	1	
宇城市三角町②	0	0	1	0	0	1	0	0	0	0	0	0	
宇城市不知火町	0	0	0	2	0	0	0	0	2	0	0	0	
宇城市松橋町	0	2	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
宇城市豊野町	0	1	1	1	0	0	3	0	1	0	0	0	
玉名市天水町	1	1	0	0	0	0	2	0	9	0	5	0	
山鹿市蒲生	0	2	1	5	1	1	3	1	22	0	1	1	
菊池市玉祥寺	0	2	0	2	0	0	2	0	1	1	0	0	
甲佐町西寒野	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	
氷川町大野	0	0	0	2	1	0	0	0	7	0	1	1	
芦北町田浦	1	0	0	1	0	0	2	0	9	0	0	0	
天草市本渡町	1	1	0	5	0	0	4	0	17	0	2	0	
苓北町内田	0	0	0	0	0	0	3	0	27	0	0	1	
越冬虫数合計	4	13	6	21	2	2	20	1	130	4	16	8	8.9
捕獲地点数	4	8	6	9	2	2	8	1	12	3	7	6	5.0

1 調査時期 令和5年（2023年）1月

2 調査地点 上記県内16か所の定点

3 調査方法 1地点3㎡（1㎡を3か所）分の落葉を採取し、落葉中の越冬成虫数を計数した。

※平年値はH24～R4までの10年平均（R2の越冬量は平年に比べて非常に多く、平年値を算出するデータとして適さないため除外した）。

熊本県病害虫防除所
 （農業研究センター 生産環境研究所内）
 担当：岡島、福岡 TEL：096-248-6490

各関係機関長 様

熊本県病害虫防除所長

イグサシンムシガの越冬調査結果(技術情報第15号)について(送付)
八代地域で3月24日に実施したイグサシンムシガ越冬調査の結果及び防除対策を下記のとおり取りまとめましたので、業務の参考にご活用ください。

記

発蛾最盛日は3月26日と予測される(平年より19日早い)。
越冬世代(幼虫+蛹)の発生密度は平年並であった。

1 調査結果の概要

- (1) 3月24日現在、越冬世代の蛹化率は同時期の平年より高く、越冬世代成虫の発蛾最盛日は、平年(4月14日)に比べ19日早い3月26日と予測された(表1)。
- (2) 幼虫及び蛹の密度は3.5頭/10㎡(平年3.3頭/10㎡)と平年並であった(表2、図1)。

2 防除対策

- (1) 「長イ」を加害する第2世代幼虫の発生密度を抑えるため、4月に発生する第1世代幼虫に対する防除を徹底する。
- (2) 防除適期は粒剤が発蛾最盛日、液剤及び粉剤は発蛾最盛日7日後を目安にする。なお、気温の変動によっては羽化がばらつくので、発蛾最盛日から7日間隔で2~3回の防除を行う。
- (3) 本年は発蛾最盛日が平年よりかなり早いため、防除のタイミングを逃さないよう気を付ける。
- (4) 予測される発蛾最盛日は、ほ場によって差が生じるので、ほ場内の発生状況をよく観察し、防除時期を判断する。

※今後のイグサシンムシガに関する情報(発蛾最盛日予測、予察灯データ)については、病害虫防除所ホームページ(<https://www.pref.kumamoto.jp/soshiki/75/125504.html>)に随時掲載する。

表1 越冬世代の蛹化率および発蛾最盛日

年次	調査日	蛹化率(%)	発蛾最盛予測日(実測日)
本年	3月24日	83.3	3月26日
前年	3月25日	29.4	4月12日(13日)
平年	3月26日	30.4	4月14日(14日)

注) 蛹化率: 調査区と調査区外の幼虫、蛹数も含めて算出

予測式: 調査日の蛹化率と過去10年間の「調査日の蛹化率係数(傾き)」と「調査日から発蛾最盛日までの日数係数(切片)」を用いた予測式

発蛾最盛日=調査日の蛹化率(%)×(-0.3028)+(27.31)+調査日

実測日: 乾式予察灯(地点: 八代市千丁、鏡)で4月に誘殺のピークが見られた日

表2 イグサシムシガ越冬調査結果（調査日：令和5年3月24日）

No.	市町村名	地点名	調査株数	被害茎数	幼虫数	蛹数	合計	頭数/10m ² (幼虫+蛹)	茎数/株
1	氷川町	中島	100	0	0	0	0	0.0	82.6
2		鹿野	100	2	0	0	0	0.0	81.0
3		網道	100	4	1	1	2	5.6	53.8
4		両出	100	11	1	2	3	8.4	115.2
5		鏡村	100	4	0	0	0	0.0	88.2
6		北新地	100	9	0	1	1	2.8	97.8
7	八代市	古閑出	100	0	0	0	0	0.0	54.2
8		太牟田	100	2	0	0	0	0.0	65.2
9		吉玉丸	100	0	0	0	0	0.0	60.4
10		松高	100	26	1	8	9	25.2	32.2
11		金剛	100	0	0	0	0	0.0	84.4
12		日奈久	100	5	0	0	0	0.0	54.0
計			1,200	63	3	12	15	3.5	72.4
平年			1,790	51	15	7	22	3.3	

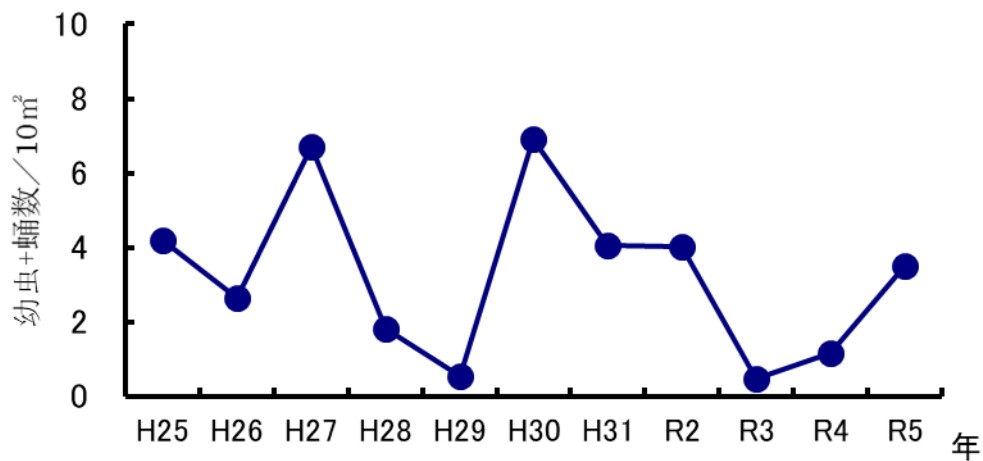


図1 イグサシムシガの越冬世代幼虫・蛹密度の年次推移（八代地域）

問い合わせ先
 熊本県病害虫防除所
 （農業研究センター生産環境研究所内）
 担当：清永
 TEL：096-248-6490

(2) 発生予報

・4月予報

病防第137号

令和4年(2022年)3月31日

各関係機関長 様

熊本県病害虫防除所長

病害虫発生予察情報について(送付)

令和4年度(2022年度)発生予報第1号を下記のとおり発表しましたので送付します。

令和4年度(2022年度)病害虫発生予報第1号(4月予報)

I 気象予報:令和4年(2022年)3月24日福岡管区气象台発表

◎向こう1ヶ月の気象予報(単位:%)

予報対象地域	要素	低い (少ない)	平年並	高い (多い)
九州北部全域 (含、山口県)	気温	20	30	50
	降水量	30	30	40
	日照時間	30	40	30

II 【今後、注意すべき病害虫】

1 発生の概要

作物	病害虫名	発生予想		予想の根拠			備考
		平年比	前年比	巡回調査	防除員報告	気象要因	
麦	赤かび病	並	並	—	並(±)	気温高(+) 降水高(+)	
チャ	カンザワハダニ	多	やや多	多(+)	並(±)	気温高(+) 降水多(-)	茶業研究所 平年比やや多 (+)
カンキツ	ミカンハダニ	並	少	並(±)	やや多~並 (±)	気温高(+) 降水多(-)	
ナシ	黒星病	並	並	—	—	降水多(+)	巡回調査(R3) 平年並(±)

作物	病害虫名	発生予想		予 想 の 根 拠			備 考
		平年比	前年比	巡回調査	防除員報告	気象要因	
冬春 トマト	灰色かび病	やや少	やや多	やや少(-)	並~やや少 (±)	降水多(+)	
	葉かび病	やや少	並	やや少(-)	並(±)	降水多(+)	
	すすかび病	やや少	並	やや少(-)	並(±)	降水多(+)	
	黄化葉巻病	多	多	黄化葉巻病 多(+) コナジラミ 並(±)	多~並(+)	(コナジラミ) 気温高(+)	
冬春 ナス	うどんこ病	やや少	並	やや少(-)	並(±)	降水多(+)	
	すすかび病	並	やや多	並(±)	並~やや少 (±)	降水多(+)	
冬春キ ュウリ	べと病	並	並	並(±)	やや多(+)	降水多(+)	
ウリ科 野菜	キュウリ・ メロン 退緑黄化病 スイカ 退緑えそ病	並	並	退緑黄化病 並(±) コナジラミ 並(±)	キュウリ 多 メロン 並 スイカ やや多~並 (+)	(コナジラミ) 気温高(+)	
イチゴ	うどんこ病	やや少	やや少	並(±)	やや多~並 (±)	降水多(+)	
	ハダニ類	やや多	多	やや多(+)	やや多~並 (±)	気温高(+)	

作物	病害虫名	発生予想		予想の根拠			備考
		平年比	前年比	巡回調査	防除員報告	気象要因	
イチゴ	アザミウマ類	多	やや多	多(+)	多～並(+)	気温高(+)	
冬春 果菜類	灰色かび病 (トマト除く)	並	並	ナス やや多 キュウリ 並 イチゴ 並 (±)	ナス 並～やや少 キュウリ 並 イチゴ 並～やや少 (±)	降水多(+)	
	タバココナジ ラミ	並	並	トマト 並 ナス 並 キュウリ 並 (±)	トマト並 ナス やや多 ～やや少 キュウリ 並 メロン やや多～並 スイカ やや 多～やや少 (±)	気温高(+)	
	アザミウマ類 (イチゴ除く)	並	並	ナス 並 キュウリ やや多 (±)	ナス やや多 ～やや少 キュウリ 並 スイカ 並～ やや少 (±)	気温高(+)	
野菜 全般	アブラムシ類	並	並	トマト 並 ナス 並 キュウリ 並 イチゴ 並 (±)	トマト 並 ナス やや多～並 キュウリ 並 メロン 並 スイカ 並 イチゴ やや多～並 (±)	気温高(+)	

※予想の根拠末尾の括弧書きは、(+)は発生を助長する要因、(-)は発生を抑制する要因、(±)は影響が少ない要因であることを示す。

Ⅲ 【その他の病害虫】

作物	病害虫名	発生予想 (平年比)	発生概況及び注意すべき事項等
カンキツ	そうか病	並	巡回調査では一部ほ場で発生がみられ平年比やや多(+) 防除員報告では平年並～少(-) 防除効果が高い幼芽期(新芽が5mm以内)に防除する。
	かいよう病	並	巡回調査では一部ほ場で発生がみられ平年比やや多(+) 防除員報告では平年並～やや少(±) 果実への感染を防止するため、春葉の防除を行う。
ナシ	赤星病	並	前年の巡回調査では、6月に一部ほ場で多発生がみられたが、調査期間を通して概ね平年並(±) 黒星病との同時防除を行う。
キュウリ	うどんこ病	並	巡回調査は、平年並(±) 防除員報告は、やや多(+) 多発後は防除が困難なので、発生初期の防除を徹底する。
メロン	べと病	並	防除員報告は、平年並(±) 肥料切れで多発するので、適正な肥培管理を行う。
	つる枯病	並	防除員報告は、平年並(±) 灌水は直接株元に行わず、株元周辺を出来るだけ乾燥状態に保つ。
スイカ	つる枯病	並	防除員報告は、平年並(±) 灌水は直接株元に行わず、株元周辺を出来るだけ乾燥状態に保つ。
【野菜病害虫の共通対策事項】 <ul style="list-style-type: none"> ・換気や排水を良くし、過湿の防止に努める(病害)。 ・多発後は防除が困難になるので、早期発見と初期防除に努める。 ・薬剤抵抗性の発達を防ぐため、系統の異なる薬剤のローテーション使用を行う。 			

各関係機関長 様

熊本県病害虫防除所長

病害虫発生予察情報について（送付）

令和 4 年度（2022 年度）発生予報第 2 号を下記のとおり発表しましたので送付します。

令和 4 年度（2022 年度）病害虫発生予報第 2 号（5 月予報）

I 気象予報：令和 4 年（2022 年）4 月 21 日福岡管区气象台発表

◎向こう 1 ヶ月の気象予報（単位：％）

予報対象地域	要素	低い (少ない)	平年並	高い (多い)
九州北部全域 (含、山口県)	気 温	10	30	60
	降 水 量	20	30	50
	日照時間	50	30	20

II 【今後、注意すべき病害虫】

1 発生の概要

作物	病害虫名	発生予想		予 想 の 根 拠			備 考
		平年比	前年比	巡回調査	防除員報告	気象要因	
早期 水稻	葉いもち	並	並	並(±)	並～やや少 (-)	降水多(+)	
	イネミズ ゾウムシ	並	並	並(±)	並～やや少 (-)	気温高(+)	
麦	赤かび病	やや多	多	少(-)	並(±)	気温高(+) 降水多(+)	多発条件日 多(+)
イグサ	イグサシン ムシガ	やや少	並	—	並～やや少 (-)	気温高(+)	越冬調査 やや少(-) 八代予察灯 やや少(-)
チャ	カンザワ ハダニ	多	並	多(+)	やや多(+)	気温高(+) 降水多(-)	ほ場調査 御船町 平年比多(+)

作物	病害虫名	発生予想		予 想 の 根 拠			備 考
		平年比	前年比	巡回調査	防除員報告	気象要因	
チャ	クワシロ カイガラムシ	多	多	多(+)	並(±)	気温高(+) 降水多(-)	
	チャノコカ クモンハマキ	やや多	やや多	やや多(+)	並(±)	気温高(+) 降水多(-)	フェロントラップ [°] 合志市 平年比多(+) 御船町 平年比少 (-)
	チャノホソ ガ	並	並	やや多(+)	並(±)	気温高(+) 降水多(-)	フェロントラップ [°] 合志市 平年比少(-) 御船町 平年比やや少 (-)
カン キツ	灰色かび病	やや多	やや多	—	—	降水多(+)	
	ミカンハダ ニ	やや多	やや少	やや少(-)	並(±)	気温高(+) 降水多(-)	ほ場調査 宇城市 多(+)
ナシ	黒星病	並	並	並(±)	やや少(-)	降水多(+)	
冬春 ナス	すすかび病	並	並	少(-)	やや多~並 (±)	降水多(+)	
イチゴ (親株)	ハダニ類	やや多	多	やや多(+)	並(±)	気温高(+)	
冬春 キュウリ	うどんこ病	やや少	やや多	やや少(-)	やや多(+)	降水多(+)	
	べと病	並	並	並(±)	やや多(+)	降水多(+)	

作物	病害虫名	発生予想		予 想 の 根 拠			備 考
		平年比	前年比	巡回調査	防除員報告	気象要因	
冬春 果菜類	灰色かび病	やや多	やや多	トマト 多 ナス やや多 キュウリ 並 イチゴ 並 (+)	トマト 並 ナス 並 キュウリ 並 イチゴ 並 (±)	降水多(+)	
	タバコ コナジラミ	やや多	やや多	トマト 多 ナス やや少 キュウリ 並 イチゴ 並 (±)	トマト 並~やや少 ナス やや多~並 スイカ やや多~並 メロン 並 キュウリ 並 (±)	気温高(+)	
	アザミウマ 類 (イチゴ除く)	並	並	ナス やや少 キュウリ やや多 (±)	ナス 並 スイカ 並 キュウリ やや少 (±)	気温高(+)	

※予想の根拠末尾の括弧書きは、(+)は発生を助長する要因、(-)は発生を抑制する要因、(±)は影響が少ない要因であることを示す。

Ⅲ 【その他の病害虫】

作物	病害虫名	発生予想 (平年比)	発生概況及び注意すべき事項等
チャ	チャハマキ	並	巡回調査では平年並(±)。 防除員報告では平年並(±)。 発蛾最盛期から7~10日後の若齢幼虫期に防除を行う。
カンキツ	そうか病	並	巡回調査は平年並(±)。 果樹研究所の県予察ほでは、初発日は平年並、発生量は平年より多い(+)
	かいよう病	並	防除員報告は平年比やや多~並(±)。 春葉の感染が多いと、果実への感染も多くなるため、春葉の防除を徹底する。
	アブラムシ類	並	巡回調査は平年並(±)。 発生量や発生時期は年や場所によって差がみられる。新葉の展開に伴い増加することがあるため、発生状況に注意する。
ナシ	赤星病	並	巡回調査は平年並(±)。 黒星病と同時防除を行う。

作物	病虫害名	発生予想 (平年比)	発生概況及び注意すべき事項等
ナシ	アブラムシ類	並	巡回調査は平年並(±)。 発生量や発生時期は年や場所によって差がみられる。新葉の展開に伴い増加することがあるため、発生状況に注意する。
冬春 トマト	うどんこ病	やや多	巡回調査では、平年比やや多(+)。 防除員報告では平年並(±)。 多発後は防除が困難なので初期防除を徹底する。
	葉かび病	少	巡回調査では、平年比少(-)。 草勢が低下すると多発しやすいため、適切な肥培管理を行う。
	すすかび病	やや少	巡回調査では、平年比やや少(-)。 多発後は防除が困難なので、発生初期の防除を徹底する。
イチゴ (親株)	うどんこ病	少	巡回調査では、平年比少(-)。 防除については、3防除のポイント等の「イチゴにおけるハダニ類、うどんこ病の防除対策」を参照する。
メロン	べと病	並	防除員報告では平年並(±)。 肥料切れで多発するので、適正な肥培管理を行う。
	つる枯病	並	防除員報告では平年並(±)。 灌水は直接株元に行わず、株元周辺を出来るだけ乾燥状態に保つ。
スイカ	菌核病	やや多	防除員報告では平年比やや多(+) 発生ほ場では、菌核を残さないよう処分する。
	つる枯病	並	防除員報告では平年並(±)。 灌水は直接株元に行わず、株元周辺を出来るだけ乾燥状態に保つ。
	ハダニ類	並	防除員報告では平年並(±)。 灌水は直接株元に行わず、株元周辺を出来るだけ乾燥状態に保つ。
野菜全般	アブラムシ類	並	巡回調査ではイチゴ・トマト・ナス・キュウリで平年並(±)。 発生を確認したら、直ちに薬剤防除を行う。

【野菜病虫害の共通対策事項】

- ・換気や排水を良くし、過湿の防止に努める(病害)。
- ・多発後は防除が困難になるので、早期発見と初期防除に努める。
- ・薬剤抵抗性の発達を防ぐため、系統の異なる薬剤のローテーション使用を行う。

各関係機関長 様

熊本県病虫害防除所長

病虫害発生予察情報について（送付）

令和 4 年度（2022 年度）発生予報第 3 号を下記のとおり発表しましたので送付します。

令和 4 年度（2022 年度）病虫害発生予報第 3 号（6 月予報）

I 気象予報：令和 4 年（2022 年）5 月 26 日福岡管区气象台発表

◎向こう 1 ヶ月の気象予報（単位：％）

予報対象地域	要素	低い (少ない)	平年並	高い (多い)
九州北部全域 (含、山口県)	気温	20	40	40
	降水量	20	40	40
	日照時間	40	40	20

II 【今後、注意すべき病虫害】

1 発生の概要

作物	病虫害名	発生予想		予想の根拠			備考
		平年比	前年比	巡回調査	防除員報告	気象要因	
早期・ 早植え 水稻	葉いもち	やや多	やや多	やや多(+)	並～少(±)	降水多～並 (+)	
	イネミズヅ ウムシ	やや多	やや多	やや多(+)	並(±)	気温高～並 (+)	
イグサ	イグサシン ムシガ	やや多	やや多	—	並～やや少 (-)	気温高～並 (+)	予察灯調査 八代市 多(+)
チャ	炭疽病	やや少	やや少	少(-)	並～少(-)	降水多～並 (+)	

作物	病害虫名	発生予想		予 想 の 根 拠			備 考
		平年比	前年比	巡回調査	防除員報告	気象要因	
チャ	カンザワハダニ	並	並	やや多(+)	並～やや少(±)	気温高～並(+) 降水多～並(-)	ほ場調査 御船町 並(±)
	チャノコカクモンハマキ	やや多	やや多	やや多(+)	やや多～やや少(±)	気温高～並(+) 降水多～並(-)	フェロモントラップ 合志市 やや多(+) 御船町 少(-)
	チャノミドリヒメヨコバイ	多	やや多	多(+)	並(±)	気温高～並(+) 降水多～並(-)	たたき落とし 調査 御船町 多(+)
	クワシロカイガラムシ	多	多	多(+)	並～やや少(±)	気温高～並(+) 降水多～並(-)	
カンキツ	黒点病	並	並	—	並～やや少(±)	降水多～並(+)	
	そうか病	並	並	並(±)	並～やや少(±)	降水多～並(+)	ほ場調査 宇城市 多(+)
	かいよう病	並	並	並(±)	並(±)	降水多～並(+)	ほ場調査 宇城市 少(-)
	ミカンハダニ	やや少	並	並(±)	並～やや少(±)	気温高～並(+) 降水多～並(-)	ほ場調査 宇城市 やや多(+)
	チャノキイロアザミウマ	並	並	—	並～やや少(±)	気温高～並(+) 降水多～並(-)	粘着トラップ 調査 熊本市 並(±)
ナシ	黒星病	並	並	並(±)	並～やや少(±)	降水多～並(+)	

作物	病害虫名	発生予想		予 想 の 根 拠			備 考
		平年比	前年比	巡回調査	防除員報告	気象要因	
果樹全般	果樹カメムシ類	やや多	多	—	やや多～やや少(±)	気温高～並(+) 降水多～並(-)	予察灯・フェロントラップ調査 合志市 やや少(-) 宇城市 やや多(+) 天草市 少(-)
イチゴ育苗ほ	炭疽病	並	並	並(±)	並(±)	気温高～並(+)	
	うどんこ病	やや少	並	やや少(-)	並(±)	気温高～並(+) 降水多～並(+)	
	ハダニ類	やや少	やや少	やや少(-)	並(±)	気温高(+)	
果菜類	タバココナジラミ	やや多	やや多	キュウリ やや多(+)	ナス キュウリ やや多～並 スイカ やや多(+)	気温高～並(+) 降水多～並(-)	
	アザミウマ類	やや多	やや多	キュウリ 多(+)	ナス スイカ やや多～並 キュウリ 並(±)	気温高～並(+) 降水多～並(-)	
野菜類全般	オオタバコガ	多	やや多	—	ナス 並 キャベツ 並～少(±)	気温高～並(+) 降水多～並(-)	フェロントラップ調査 合志市：多 八代市：多 阿蘇市一の宮：多 山都町：並(+)

※予想の根拠末尾の括弧書きは、(+)は発生を助長する要因、(-)は発生を抑制する要因、(±)は影響が少ない要因であることを示す。

Ⅲ 【その他の病害虫】

作物	病害虫名	発生予想 (平年比)	発生概況及び注意すべき事項等
チャ	チャノキイロ アザミウマ	やや少	巡回調査は、平年比やや少（－）。 粘着トラップ調査 合志市：平年比やや少（－）。 新芽が加害されるため、萌芽～1葉期に防除する。
	チャノホソガ	やや少	巡回調査は平年並（±）。 フェロモントラップ調査 合志市：平年比やや少（－） 御船町：平年比やや少（－） ほ場を見回り発蛾最盛期から7～10日後の若齢幼虫を対象に防除を行う。
	ツマグロアオ カスミカメ	並	巡回調査は、並（±）。 防除員報告では、平年比やや多～並（±）。 常多発茶園では、萌芽期を重点に防除する。
カキ	炭疽病	並	防除員報告は平年並（±）。 降水量は平年比多～並（＋）。 梅雨期は発生が多く、蔓延しやすい時期であり、予防防除に努める。
ブドウ	べと病	並	防除員報告では平年並（±）。 降水量は平年比多～並（＋）。 梅雨期は発病の好適条件であるため、昨年発生が多かった園では保護殺菌剤を定期的に散布し、初期感染を防ぐ。
夏秋 キュウリ (高冷地)	べと病	並	防除員報告は平年並（±）。 適正な肥培管理を行う。
	うどんこ病	並	防除員報告は平年並（±）。 初期発生を認めたら直ちに薬剤防除を行う。
野菜類 全般	ハスモン ヨトウ	並	フェロモントラップの5月第1～5半旬の誘殺数は、合志市及び阿蘇市一の宮、阿蘇市波野、山都町、八代市で平年比少（－）。 早期発見、早期防除に努め、施設栽培では、防虫ネットで侵入を防ぐ。
	アブラムシ類	やや多	巡回調査は、キュウリで平年並、イチゴでやや多（＋）。 防除員報告は、ナス・スイカで平年比やや多、キュウリ・イチゴ・キャベツで平年並（＋）。 早期発見、早期防除に努め、施設栽培では、防虫ネットで侵入を防ぐ。

【野菜病害虫の共通対策事項】

- ・換気や排水を良くし、過湿の防止に努める(病害)。
- ・多発後は防除が困難になるので、早期発見と初期防除に努める。
- ・薬剤抵抗性の発達を防ぐため、系統の異なる薬剤のローテーション使用を行う。

各関係機関長 様

熊本県病害虫防除所長

病害虫発生予察情報について（送付）
令和 4 年度（2022 年度）発生予報第 4 号を下記のとおり発表しましたので送付します。

令和 4 年度（2022 年度）病害虫発生予報第 4 号（7 月予報）

I 気象予報：令和 4 年（2022 年）6 月 23 日福岡管区気象台発表

◎向こう 1 ヶ月の気象予報（単位：％）

予報対象地域	要素	低い (少ない)	平年並	高い (多い)
九州北部全域 (含、山口県)	気 温	10	20	70
	降 水 量	40	40	20
	日照時間	20	30	50

II 【今後、注意すべき病害虫】

1 発生の概要

作物	病害虫名	発生予想		予 想 の 根 拠			備 考
		平年比	前年比	巡回調査	防除員報告	気象要因	
早期 水稻	穂いもち	多	多	多(+)	やや多(+)	気温高(-) 降水並~少 (-)	巡回調査、 防除員報告 (葉いもち)
早植え 水稻	葉いもち	やや多	やや多	多(+)	やや多~並 (+)	気温高(-) 降水並~少 (-)	防除員報告 (葉いもち)
	トビイロウンカ	並	並	並(±)	—	気温高(+) 早い梅雨明 け(-)	予察灯調査 やや多(+)
普通期 水稻	葉いもち	やや多	やや多	やや多(+)	やや多~並 (+)	気温高(-) 降水並~少 (-)	防除員報告 (苗いもち)
普通期 水稻	トビイロウンカ	並	並	—	—	気温高(+) 早い梅雨明 け(-)	予察灯調査 やや多(+)
チャ	炭疽病	並	やや多	多(+)	並(±)	降水並~少 (-)	

作物	病害虫名	発生予想		予 想 の 根 拠			備 考
		平年比	前年比	巡回調査	防除員報告	気象要因	
チャ	カンザワハダニ	並	並	やや少 (-)	やや多～並 (±)	気温高(+) 降水並～少 (+)	ほ場調査 御船町 並(±)
	チャノミドリヒメ ヨコバイ	並	並	並(±)	やや多～並 (+)	気温高(+) 降水並～少 (+)	ほ場調査 御船町 少(-)
	チャノコカクモン ハマキ	やや多	やや多	やや多 (+)	やや多～並 (±)	気温高(+) 降水並～少 (+)	フェロモントラップ ^o 調査 御船町やや多 (+) 合志市やや多 (+)
	ツマグロアオカス ミカメ	やや多	やや多	やや多 (+)	並(±)	気温高(+) 降水並～少 (+)	
	クワシロカイガラ ムシ	やや多	多	多(+)	やや多～並 (±)	気温高(+) 降水並～少 (+)	
カンキツ	黒点病	並	並	並(±)	並(±)	降水並～少 (-)	宇城市 平年比やや少 (-)
	かいよう病	並	並	やや多(+)	並(±)	降水並～少 (-)	
	ミカンハダニ	やや多	やや多	並(±)	やや多～並 (±)	気温高(+) 降水並～少 (+)	宇城市 平年並(±)
カンキツ	チャノキイロアザ ミウマ	並	並	並(±)	並～やや少 (±)	気温高(+) 降水並～少 (+)	河内定点調査 粘着板 平年並 (±)
ナシ	黒星病	並	並	やや少(-)	やや多～や やや少(+)	降水並～少 (-)	
果樹全般	果樹カメムシ類	やや多	多	-	カンキツ やや多～並 (±) ナシ 並～やや少 (±)	気温高(+) 降水並～少 (+)	予察灯・ フェロモントラップ 調査 合志市 並～やや少 宇城市並～少 天草市並～少 (±) 越冬量 多(+)

作物	病害虫名	発生予想		予 想 の 根 拠			備 考
		平年比	前年比	巡回調査	防除員報告	気象要因	
夏秋 トマト	灰色かび病	やや少	並	並(±)	やや少(-)	降水並～少(±)	
	葉かび病	やや多	並	多(+)	並(±)	気温高(-) 降水並～少(-)	
	すすかび病	並	並	やや多(+)	並(±)	気温高(+) 降水並～少(-)	
	うどんこ病	多	並	多(+)	やや多～並(+)	気温高(-) 降水並～少(+)	
イチゴ 育苗ほ	炭疽病	並	並	並(±)	並(±)	気温高(+) 降水並～少(±)	
	うどんこ病	並	並	やや少(-)	やや多(+)	降水並～少(±)	
イチゴ 育苗ほ	ハダニ類	やや多	多	多(+)	並(±)	気温高(+)	
夏秋 キュウリ (高冷地)	べと病	並	並	—	並(±)	降水並～少(±)	
ウリ科 野菜 (平坦地)	退緑黄化病	並	並	冬春キュウリ やや少(-) コナジラミ 少(-)	—	気温高(+)	
夏秋 果菜類 (高冷地)	コナジラミ類	並	並	夏秋トマト 並(±)	夏秋トマト やや多～並(+) 夏秋キュウリ 並(±)	気温高(+)	
夏秋 果菜類 (平坦)	コナジラミ類	並	並	冬春キュウリ 少(-)	夏秋ナス 並～やや少(-)	気温高(+)	
	アザミウマ類	並	並	冬春キュウリ 少(-)	夏秋ナス やや多～並(+)	気温高(+)	

作物	病害虫名	発生予想		予 想 の 根 拠			備 考
		平年比	前年比	巡回調査	防除員報告	気象要因	
野菜類 全般	オオタバコガ	多	多	夏秋トマト 並(±)	夏秋トマト 並(±) 夏秋ナス やや多~並 (+) 露地キク 並(±)	気温高(+)	フェロモン トラップ調査 合志市 並 八代市 多 阿蘇市 多 山都町 多 (+)

※予想の根拠末尾の括弧書きは、(+)は発生を助長する要因、(-)は発生を抑制する要因、(±)は影響が少ない要因であることを示す。

Ⅲ 【その他の病害虫】

作物	病害虫名	発生予想 (平年比)	発生概況及び注意すべき事項等
早植え・ 普通期 水稻	ツマグロヨコバイ	並	巡回調査は、平年並(±)。 合志市に設置した予察灯及びネットトラップによる6月1半旬~6月5半旬までの誘殺数は、平年並(±)。
	ヒメトビウンカ	並	巡回調査は、平年並(±)。 合志市に設置した予察灯及びネットトラップによる6月1半旬~6月5半旬までの誘殺数は、平年並(±)。
	セジロウンカ	並	巡回調査は、平年並(±)。 合志市に設置した予察灯及びネットトラップによる6月1半旬~6月5半旬までの誘殺数は、平年比やや少(-)。
	コブノメイガ	並	巡回調査は、平年並(±)。 合志市に設置したフェロモントラップによる6月1半旬~6月5半旬までの誘殺は確認されず、平年比やや少(-)。 コブノメイガに効果のある箱施薬剤を使用していない場合は、発生に注意する。
早期・ 早植え 水稻	紋枯病	並	巡回調査は、平年並(±)。 穂ばらみ期から出穂期にかけて薬剤防除を行う。 (要防除水準：穂ばらみ期の発病株率20%)
水稻 全般	縞葉枯病	並	巡回調査は、早期・早植え及び普通期とも平年並(±)。
チャ	チャノホソガ	並	巡回調査は、平年並(±)。 フェロモントラップ調査 合志市：並(±)、御船町：多(+) 防除員報告では、平年並(±) 防除効果が高い幼芽期(新芽が5mm以内)に防除を行う。
	チャノキイロ アザミウマ	やや少	巡回調査は、平年比やや少(-)。 粘着トラップ調査 合志市：少(-) たたき落とし 御船町：少(-) 新芽を加害するため、萌芽~1葉期に防除する。

作物	病虫害名	発生予想 (平年比)	発生概況及び注意すべき事項等
カンキツ	そうか病	並	巡回調査では平年並(±)。 防除員報告では平年並～やや少(±)。 り病葉はできるだけ剪除する。園内の通風・採光を良くし、 雨や露などが早く乾くようにする。
カキ	炭疽病	並	防除員報告は平年並(±)。 降水量は平年並～少(-)。 雨媒伝染性で降雨が多いと蔓延しやすいため、予防防除に 努める。
ブドウ	べと病	やや少	防除員報告では平年比やや少(-)。 降水量は平年並～少(-)。 園内の通風採光を図る。昨年発生が多かった園では保護殺 菌剤を定期的に散布し、初期感染を防ぐ。
夏秋 トマト	ハモグリバエ 類	並	巡回調査では平年並(±)。 食害痕が小さいうちに薬剤散布を行う。
夏秋ナス (平坦地)	すすかび病	並	防除員報告では平年並～やや少(±)。 葉裏にも十分かかるよう薬剤散布を行う。
夏秋 キュウリ (高冷地)	うどんこ病	並	防除員報告では、平年並(±)。 発生を認めたら直ちに薬剤散布を行う。
夏秋 キャベツ	細菌性病害 (黒腐病、黒斑 細菌病、軟腐 病)	並	防除員報告では平年並(±)。 ほ場の排水を良くし、風水害の対策を講じる。 また、激しい風雨が予想される場合には事前に薬剤散布を 行うとともに、降雨後も薬剤散布を行う。
	コナガ	並	防除員報告は平年比並(±)。 フェロモントラップの6月第1～4半旬の誘殺数は、阿蘇 市で平年比やや多(+)、山都町で平年比少(-)。 ジアミド系殺虫剤を使用したほ場で発生が認められた場 合は、他系統の薬剤で防除する。
野菜類 全般	ハスモン ヨトウ	やや少	フェロモントラップの6月第1～4半旬の誘殺数は、阿蘇 市一の宮で平年並、合志市及び八代市、山都町、阿蘇市波 野で平年比少(-)。 早期発見、早期防除に努め、施設栽培では、防虫ネットで 侵入を防ぐ。

【野菜病虫害の共通対策事項】

- ・換気や排水を良くし、過湿の防止に努める(病害)。
- ・多発後は防除が困難になるので、早期発見と初期防除に努める。
- ・薬剤抵抗性の発達を防ぐため、系統の異なる薬剤のローテーション使用を行う。

各関係機関長 様

熊本県病虫害防除所長

病虫害発生予察情報について（送付）
令和 4 年度（2022 年度）発生予報第 5 号を下記のとおり発表しましたので送付します。

令和 4 年度（2022 年度）病虫害発生予報第 5 号（8 月予報）

I 気象予報：令和 4 年（2022 年）7 月 28 日福岡管区气象台発表

◎向こう 1 ヶ月の気象予報（単位：％）

予報対象地域	要素	低い (少ない)	平年並	高い (多い)
九州北部全域 (含、山口県)	気温	20	30	50
	降水量	40	30	30
	日照時間	30	30	40

II 【今後、注意すべき病虫害】

1 発生の概要

作物	病虫害名	発生予想		予想の根拠			備考
		平年比	前年比	巡回調査	防除員報告	気象要因	
早植え 水稻	穂いもち	やや多	やや多	多(+)	やや多～並 (+)	気温高(-) 降水少(-)	巡回調査、 防除員報告 (葉いもち)
	紋枯病	やや多	やや多	並(±)	並(±)	気温高(+)	
	トビイロ ウンカ	やや多	やや多	やや少 (-)	並～やや少 (-)	気温高(+) 降水少(+)	予察灯 合志市 やや多(+)
	コブノメイガ	並	並	やや少 (-)	並(±)	気温高(+) 降水少(+)	フェロモントラップ [®] 調査 合志市 やや少(-)

作物	病害虫名	発生予想		予 想 の 根 拠			備 考
		平年比	前年比	巡回調査	防除員報告	気象要因	
普通期 水稻	葉いもち	並	少	並(±)	多～並(+)	気温高(-) 降水少(-)	
	紋枯病	やや多	やや多	並(±)	並(±)	気温高(+)	
	トビイロ ウンカ	やや多	やや多	並(±)	やや多～ やや少(±)	気温高(+) 降水少(+)	予察灯 合志市 やや多(+)
	コブノメイガ	並	並	やや少 (-)	並～やや少 (-)	気温高(+) 降水少(+)	フェロモントラップ 調査 合志市 やや少(-)
大豆	ハスモン ヨトウ	並	並	—	—	気温高(+) 降水少(+)	フェロモントラップ 調査 合志市栄 少 八代市鏡 少 阿蘇市一の宮 並 阿蘇市波野 やや少 山都町鶴ケ田 やや少 (-)
チャ	炭疽病	やや少	やや少	やや少 (-)	並(±)	降水少(-)	
	カンザワ ハダニ	並	やや少	並(±)	やや多～並 (±)	気温高(±) 降水少(+)	ほ場調査 御船町 並(±)
	チャノキイロ アザミウマ	やや少	やや少	やや少 (-)	並(±)	気温高(+)	黄色粘着板調査 合志市 やや少(-) たたき落とし調査 御船町 並(±)
	チャノミドリ ヒメヨコバイ	並	並	並(±)	やや多～並 (±)	気温高(+)	たたき落とし調査 御船町 並(±)

作物	病害虫名	発生予想		予 想 の 根 拠			備 考
		平年比	前年比	巡回調査	防除員報告	気象要因	
チャ	チャノホソガ	並	やや少	並(±)	並(±)	気温高(+)	フェロモントラップ [®] 調査 合志市 やや少(-) 御船町 多(+)
	チャノコカク モンハマキ	並	並	並(±)	並(±)	気温高(+)	フェロモントラップ [®] 調査 合志市 多(+) 御船町 並(±)
カンキツ	黒点病	並	並	並(±)	並~やや少 (±)	降水少(-)	宇城市 並(±)
	かいよう病	並	並	やや多 (+)	やや多~並 (±)	降水少(-)	宇城市 並(±)
	ミカンハダニ	やや多	やや多	並(±)	やや多~並 (+)	気温高(±) 降水少(+)	宇城市 やや少(-)
	チャノキイロ アザミウマ	並	並	並(±)	並~少(±)	気温高(+)	黄色粘着板調査 熊本市(河内町) 並(±)
ナシ	ハダニ類	やや多	やや多	多(+)	やや多~並 (±)	気温高(±) 降水少(+)	
果樹 全般	果樹カメムシ 類	やや多	多	—	カンキツ 並~やや少 ナシ やや多~や や少(±)	気温高(+) 降水少(+)	各予察灯・ フェロモントラップ [®] 調査 合志市、宇城市 天草市 並~少(-) ヒノキ球果口針 鞘数・ビーティ ング調査 やや多(+)
夏秋 トマト	灰色かび病	並	並	並(±)	少(-)	降水少(-)	
夏秋 トマト	葉かび病	やや多	並	多(+)	並~少(-)	気温高(-) 降水少(-)	

作物	病害虫名	発生予想		予 想 の 根 拠			備 考
		平年比	前年比	巡回調査	防除員報告	気象要因	
夏秋 トマト	すすかび病	並	並	並(±)	並～少(-)	気温高(+) 降水少(+)	
	うどんこ病	多	並	多(+)	やや多～並 (+)	気温高(+) 降水少(+)	
イチゴ 育苗ほ	炭疽病	並	並	並(±)	並(±)	気温高(+) 降水少(-)	
	ハダニ類	並	やや多	並(±)	並(±)	気温高(±) 降水少(+)	
	アブラムシ類	並	並	並(±)	並(±)	気温高(+) 降水少(+)	
夏秋 果菜類 (高冷地)	コナジラミ類	やや多	多	トマト 多(+)	キュウリ 並 トマト やや多～並 (+)	気温高(+) 降水少(+)	
夏秋 果菜類 (平坦地)	コナジラミ類	やや多	やや多	—	ナス やや多～並 (+)	気温高(+) 降水少(+)	
	アザミウマ類	やや多	やや多	—	ナス やや多(+)	気温高(+) 降水少(+)	
野菜類 全般	オオタバコガ	多	多	トマト 並(±)	トマト 並 ナス やや多 キャベツ 並 露地キク 並 (±)	気温高(+) 降水少(+)	フェロモントラップ [®] 調査 合志市 多 八代市 多 阿蘇市一の宮 多 山都町 多 (+)

※予想の根拠末尾の括弧書きは、(+)は発生を助長する要因、(-)は発生を抑制する要因、(±)は影響が少ない要因であることを示す。

Ⅲ 【その他の病害虫】

作物	病害虫名	発生予想 (平年比)	発生概況及び注意すべき事項等
早植え 水稻	斑点米 カメムシ類	並	合志市に設置した予察灯調査では平年並(±)。

作物	病虫害名	発生予想 (平年比)	発生概況及び注意すべき事項等
夏秋ナス (平坦地)	灰色かび病	並	防除員報告は、平年並～少(-)。 発生が見られたほ場では8月の防除を徹底する。
	すすかび病	並	防除員報告は、平年比並(±)。 葉裏にも十分かかるよう薬剤散布を行う。
イチゴ 育苗ほ	うどんこ病	やや多	巡回調査は、平年比やや多(+) 初期発生を認めたら直ちに薬剤防除を行う。
夏秋 キュウリ (高冷地)	べと病	やや多	防除員報告は、平年比やや多(+) 適正な肥培管理を行う。
	うどんこ病	並	防除員報告は、平年並(±)。 初期発生を認めたら直ちに薬剤防除を行う。
夏秋 キャベツ	細菌性病害 (黒腐病、黒斑 細菌病、軟腐 病)	並	防除員報告は、黒腐病は平年並(±)、黒斑細菌病は平年比少(-)、軟腐病は平年比多～並(+) 発生後の防除は困難なため、激しい風雨が予想される場合には事前に薬剤散布を行う。
野菜類 全般	ハスモンヨトウ	並	フェロモントラップの7月第1～4半旬の誘殺数は、阿蘇市一の宮で平年並、山都町、阿蘇市波野で平年比やや少、合志市及び八代市で平年比少(-)。 防除員報告は、夏秋ナスで平年比やや多、夏秋トマトと露地キクで平年並、イチゴ育苗ほで平年比やや少(±)。 早期発見、早期防除に努め、施設栽培では、防虫ネットで侵入を防ぐ。

【野菜病虫害の共通対策事項】

- ・換気や排水を良くし、過湿の防止に努める(病害)。
- ・多発後は防除が困難になるので、早期発見と初期防除に努める。
- ・薬剤抵抗性の発達を防ぐため、系統の異なる薬剤のローテーション使用を行う。

各関係機関長 様

熊本県病害虫防除所長

病害虫発生予察情報について（送付）
令和 4 年度（2022 年度）発生予報第 6 号を下記のとおり発表しましたので送付します。

令和 4 年度（2022 年度）病害虫発生予報第 6 号（9 月予報）

I 気象予報：令和 4 年（2022 年）8 月 25 日福岡管区気象台発表

◎向こう 1 ヶ月の気象予報（単位：％）

予報対象地域	要素	低い (少ない)	平年並	高い (多い)
九州北部全域 (含、山口県)	気温	20	30	50
	降水量	20	40	40
	日照時間	40	40	20

II 【今後、注意すべき病害虫】

1 発生の概要

作物	病害虫名	発生予想		予想の根拠			備考
		平年比	前年比	巡回調査	防除員報告	気象要因	
普通期 水稻	穂いもち	並	やや少	やや少 (-)	やや多～並 (+)	降水多～並 (+) 気温高(-)	巡回調査 防除員報告 (葉いもち)
	紋枯病	やや多	やや多	やや多 (+)	やや多～並 (+)	降水多～並 (+) 気温高(+)	
	トビイロ ウンカ	並	やや多	やや少 (-)	並～少 (-)	気温高(+)	
大豆	ハスモン ヨトウ	やや多	やや多	やや多 (+)	並(±)	降水多～並 (-)	フェロントラップ調査 合志市 少 八代市 少 阿蘇市一の宮 並 山都町 並 阿蘇市波野 やや多 (-)
	カメムシ類	やや多	やや多	やや多 (+)	並(±)	気温高(+)	予察灯調査 シリアカメムシ 並 アオカメムシ 少 (-)

作物	病害虫名	発生予想		予 想 の 根 拠			備 考
		平年比	前年比	巡回調査	防除員報告	気象要因	
チャ	炭疽病	並	やや少	やや少 (-)	並(±)	降水多～並 (+)	
	カンザワハダニ	並	並	並(±)	並(±)	気温高(+) 降水多～並 (-)	御船町 並(±)
	チャノキイロ アザミウマ	並	並	並(±)	並(±)	気温高(+) 降水多～並 (-)	たたき落とし調査 御船町 多(+)
	チャノミドリ ヒメヨコバイ	並	並	並(±)	並(±)	気温高(+) 降水多～並 (-)	たたき落とし調査 御船町 並(±)
	クワシロ カイガラムシ	並	並	やや多 (+)	並(±)	気温高(+) 降水多～並 (-)	
カンキツ	黒点病	並	並	並(±)	並～やや少 (±)	降水多～並 (+)	宇城市 平年並(±)
	かいよう病	やや多	やや多	やや多 (+)	やや多～や や少(±)	降水多～並 (+)	宇城市 平年比やや少(-)
	ミカンハダニ	並	やや少	並(±)	やや多～並 (±)	気温高(+) 降水多～並 (-)	宇城市 平年並(±)
	チャノキイロ アザミウマ	やや多	並	やや多 (+)	並～やや少 (±)	気温高(+) 降水多～並 (-)	黄色粘着板調査 熊本市河内町 平年並(±)
ナシ	黒星病	並	並	並(±)	並～少(-)	降水多～並 (+)	
	ハダニ類	並	並	やや少 (-)	やや多(+)	気温高(+) 降水多～並 (-)	

作物	病害虫名	発生予想		予 想 の 根 拠			備 考
		平年比	前年比	巡回調査	防除員報告	気象要因	
果樹 全般	果樹 カメムシ類	やや多	多	—	カンキツ やや多～ やや少(±) ナシ やや多～ やや少(±) カキ 並(±)	気温高(+)	予察灯・ フェロモントラップ調査 合志市 少 宇城市 少 天草市 多～少 (±) 口針鞘数・ ビートイング調査 (+)
夏秋 トマト	灰色かび病	やや少	やや少	やや少 (-)	やや少～少 (-)	気温高(-) 降水多～並 (+)	
	葉かび病	多	並	多(+)	並～やや少 (-)	気温高(-) 降水多～並 (+)	
	うどんこ病	多	多	多(+)	やや多～並 (+)	気温高(-) 降水多～並 (±)	
	すすかび病	多	並	多(+)	並～やや少 (±)	気温高(+) 降水多～並 (+)	
イチゴ	炭疽病	並	並	並(±)	並～やや少 (±)	気温高(+) 降水多～並 (+)	
	ハダニ類	やや多	やや多	やや多 (+)	やや多～並 (+)	気温高(+)	
イチゴ	アブラムシ類	やや多	やや多	多(+)	並(±)	気温高(+)	
夏秋 キュウリ (高冷地)	べと病	並	並	—	並(±)	気温高(-) 降水多～並 (+)	
夏秋 果菜類 (平坦地)	コナジラミ類	並	並	—	ナス、メロン やや多～並 (±)	気温高(+)	黄色粘着板 トラップ調査 熊本市 並 山鹿市 やや少 菊池市 少 (-)

作物	病害虫名	発生予想		予 想 の 根 拠			備 考
		平年比	前年比	巡回調査	防除員報告	気象要因	
夏秋 果菜類 (平坦地)	アザミウマ類	並	並	—	ナス やや多 メロン 並 (+)	気温高(+) 降水多~並 (-)	
	ハスモンヨトウ	並	並	イチゴ 多 トマト 並 (+)	ナス やや多 イチゴ 並 トマト 並 (±)	気温高(+)	フェロモントラップ 調査 合志市 少 八代市 少 山都町 並 阿蘇市 一の宮 並 波野 やや多 (-)
	オオタバコガ	多	多	トマト 並 (±)	ナス やや多 トマト 並 露地キク 並 キャベツ 並 (±)	気温高(+)	フェロモントラップ 調査 合志市 少 八代市 多 阿蘇市 やや多 山都町 並 (±)

※予想の根拠末尾の括弧書きは、(+)は発生を助長する要因、(-)は発生を抑制する要因、(±)は影響が少ない要因であることを示す。

Ⅲ 【その他の病害虫】

作物	病害虫名	発生予想 (平年比)	発生概況及び注意すべき事項等
普通期 水稻	斑点米 カメムシ類	並	病害虫防除所（合志市）の予察灯調査での8月第1半旬から第5半旬の誘殺数は平年並（±）。 常発地帯では2回目の防除を穂揃い期の7~10日後に行う。
	白葉枯病	並	巡回調査は、平年並（±） 防除員報告は、平年並~やや少（-） 台風接近に伴う風雨により感染が拡大する恐れがある。 発生すると有効な防除薬剤が無いため、むやみにほ場に入り感染を拡大しないようにする。
大豆	べと病	並	巡回調査は、平年比やや少（-）。 防除員報告は、平年並~やや少（-）。 湿度が高いと発生が助長されるため、降雨後、発病が拡大しないうちに防除を行う。
	葉焼病	並	巡回調査は、平年並（±） 防除員報告は、平年並~やや少（-） 台風接近に伴う風雨により感染が拡大する恐れがある。 防除が遅れると効果が低下するので、発生が確認されたら直ちに防除を行う。

作物	病虫害名	発生予想 (平年比)	発生概況及び注意すべき事項等
チャ	チャノホソガ	並	巡回調査は、平年並(±)。 フェロモントラップ調査 合志市：平年並(±) 御船町：平年並(±) 新葉が加害されるので、開葉期と2～3葉期に防除する。
	チャノコカク モンハマキ	並	巡回調査は、平年並(±)。 フェロモントラップ調査 合志市：平年比やや多(+) 御船町：平年並(±) 発蛾最盛期の7日～10日後に防除する。
カキ	炭疽病	並	防除員報告は平年並(±)。 降水量は平年比多～並(+) 発病枝は園外で処分し、病原菌の密度を下げる。 発病後の防除は効果が低いので、予防散布を徹底する。
イチゴ	うどんこ病	並	巡回調査では平年並(±)。 防除については、3 防除のポイント等の「 イチゴ定植前のうどんこ病、炭疽病及びハダニ類の防除対策 」を参照する。
夏秋 果菜類 (高冷地)	コナジラミ類	並	巡回調査ではトマトで平年並(±) 現在発生しているほ場では、早期に防除する。
夏秋ナス (平坦地)	すすかび病	並	防除員報告では平年比やや少(-)。 葉裏にも十分かかるよう薬剤散布を行う。
夏秋 キュウリ (高冷地)	うどんこ病	並	防除員報告は平年並(±)。 初期発生を認めたら直ちに薬剤防除を行う。
夏秋 キャベツ	軟腐病	やや多	防除員報告では平年比やや多～並(+) ほ場の排水をよくし、現在発生しているほ場では、早期に防除する。
露地キク	白さび病	並	防除員報告は、平年並(±)。 罹病葉が伝染源となって感染が拡大するので、罹病葉は早めに除去し、適切に処分する。
【野菜病虫害の共通対策事項】 <ul style="list-style-type: none"> ・換気や排水を良くし、過湿の防止に努める(病害)。 ・多発後は防除が困難になるので、早期発見と初期防除に努める。 ・薬剤抵抗性の発達を防ぐため、系統の異なる薬剤のローテーション使用を行う。 			

各関係機関長 様

熊本県病害虫防除所長

病害虫発生予察情報について（送付）
令和4年度（2022年度）発生予報第7号を下記のとおり発表しましたので送付します。

令和4年度（2022年度）病害虫発生予報第7号（10月予報）

I 気象予報：令和4年（2022年）9月29日福岡管区气象台発表

◎向こう1ヶ月の気象予報（単位：％）

予報対象地域	要素	低い (少ない)	平年並	高い (多い)
九州北部全域 (含、山口県)	気温	20	30	50
	降水量	20	40	40
	日照時間	40	40	20

II 【今後、注意すべき病害虫】

1 発生の概要

作物	病害虫名	発生予想		予想の根拠			備考
		平年比	前年比	巡回調査	防除員報告	気象要因	
大豆	ハスモン ヨトウ	やや多	並	やや多(+)	やや多～ やや少(±)	気温高(+) 降水多～並 (-)	フェロモントラップ [®] 調査 合志市栄 やや少 阿蘇市一の宮 並 (-)
	カメムシ類	やや多	やや多	多(+)	並～やや少 (-)	気温高(+) 降水多～並 (-)	予察灯調査 合志市 シミアカムシ やや多 アオカカムシ やや少 (+)
チャ	カンザワ ハダニ	並	並	やや少(-)	並(±)	気温高(+) 降水多～並 (-)	御船町 やや多(+)
カンキツ	ミカン ハダニ	やや少	少	少(-)	並(±)	気温高(+) 降水多～並 (-)	果樹研予察ほ 宇城市 少 (-)

作物	病害虫名	発生予想		予 想 の 根 拠			備 考
		平年比	前年比	巡回調査	防除員報告	気象要因	
果樹全般	果樹 カメムシ類	並	並	—	カンキツ やや多～やや少 ナシ 並～やや少 カキ 並 (±)	気温高(+)	予察灯・ フェロモントラップ調査 合志市 やや少～少 宇城市 少 天草市 多～並 (—)
夏秋 トマト	葉かび病	多	やや少	多(+)	並(±)	降水多～並 (+)	
	すすかび病	やや多	やや少	やや多(+)	やや多～並 (+)	降水多～並 (+)	
	灰色かび病	やや少	やや少	少(—)	並(±)	降水多～並 (+)	
冬春 トマト	黄化葉巻病	並	やや少	黄化葉巻病 並(±) コナジラミ 並(±)	やや少～並 (±)	(コナジラミ) 気温高(+)	
イチゴ	炭疽病	並	並	並(±)	並(±)	気温高(+) 降水多～並 (+)	
	ハダニ類	並	並	やや少 (—)	やや多～並 (+)	気温高(+)	
ウリ科 野菜	退緑黄化病	並	並	—	キュウリ 少 メロン やや多～並 (±)	(コナジラミ) 気温高(+)	保毒虫率調査 並(±)
冬春 果菜類	コナジラミ類	並	やや少	冬春トマト 並(±)	ナス やや多～並 トマト 並～やや少 キュウリ 並～少 メロン 並 (±)	気温高(+)	

作物	病害虫名	発生予想		予 想 の 根 拠			備 考
		平年比	前年比	巡回調査	防除員報告	気象要因	
冬春 果菜類	アザミウマ類	並	並	—	ナス 多～並 キュウリ 並 (±)	気温高(+)	
野菜類 全般	ハスモン ヨトウ	並	並	夏秋トマト やや多 冬春トマト、 イチゴ 並 (±)	夏秋ナス 多～やや多 トマト、イチゴ 露地キク 並 (+)	気温高(+) 降水多～並 (-)	フェロモン トラップ調査 合志市 やや少 八代市 少 山都町 やや少 阿蘇市 一の宮 並 波野 並 (-)
	オオタバコガ	並	並	トマト 並(±)	夏秋ナス 多～やや多 トマト、イチゴ 露地キク 並 (+)	気温高(+) 降水多～並 (-)	フェロモン トラップ調査 合志市 少 八代市 並 阿蘇市 多 山都町 多 (+)

※予想の根拠末尾の括弧書きは、(+)は発生を助長する要因、(-)は発生を抑制する要因、(±)は影響が少ない要因であることを示す。

Ⅲ 【その他の病害虫】

作物	病害虫名	発生予想 (平年比)	発生概況及び注意すべき事項等
イチゴ	うどんこ病	並	巡回調査は平年並(±)。 防除については、3 防除のポイント等の「イチゴにおける定植後の炭疽病及びうどんこ病の防除対策」を参照する。
秋メロン	べと病	並	防除員報告は平年並(±)。 初期発生を認めたら直ちに薬剤散布を行い、薬液が葉裏によく付着するよう丁寧に行う。
野菜全般	アブラムシ類	並	巡回調査はイチゴで平年並、冬春トマトで平年並(±)。 ウイルスを媒介するので、防虫ネット等では場内への侵入を防ぐ。
露地キク	白さび病	並	防除員報告は平年並(±)。 罹病葉が伝染源となって感染が拡大するので、罹病葉は早めに除去し、適切に処分する。

【野菜病害虫の共通対策事項】

- ・換気や排水を良くし、過湿の防止に努める(病害)。
- ・多発後は防除が困難になるので、早期発見と初期防除に努める。
- ・薬剤抵抗性の発達を防ぐため、系統の異なる薬剤のローテーション使用を行う。

各関係機関長 様

熊本県病虫害防除所長

病虫害発生予察情報について（送付）
令和 4 年度（2 0 2 2 年度）発生予報第 8 号を下記のとおり発表しましたので送付します。

令和 4 年度（2 0 2 2 年度）病虫害発生予報第 8 号（1 1 月予報）

I 気象予報：令和 4 年（2 0 2 2 年）1 0 月 2 7 日福岡管区气象台発表

◎向こう 1 ヶ月の気象予報（単位：％）

予報対象地域	要素	低い (少ない)	平年並	高い (多い)
九州北部全域 (含、山口県)	気 温	3 0	3 0	4 0
	降 水 量	4 0	3 0	3 0
	日照時間	3 0	3 0	4 0

II 【今後、注意すべき病虫害】

1 発生の概要

作物	病虫害名	発生予想		予 想 の 根 拠			備 考
		平年比	前年比	巡回調査	防除員報告	気象要因	
チャ	カンザワ ハダニ	やや少	少	少(-)	並(±)	気温高(+) 降水少(+)	茶研予察ほ 御船町 並(±)
カンキツ	ミカンハダニ	やや少	少	少(-)	やや多~並 (+)	気温高(+) 降水少(+)	果樹研予察ほ 宇城市 少(-)
冬春 トマト	黄化葉巻病	並	やや少	黄化葉巻病 やや少(-) コナジラミ やや少(-)	並~やや少 (-)	(コナジラミ) 気温高(+)	タバココナジラミ TYLCV保毒虫率 並(±)
	すすかび病	やや少	並	並(±)	並~少(-)	気温高(+) 降水少(-)	

作物	病害虫名	発生予想		予想の根拠			備考
		平年比	前年比	巡回調査	防除員報告	気象要因	
冬春ナス	すすかび病	並	並	並(±)	並～やや少(±)	気温高(+) 降水少(-)	
ウリ科野菜	退緑黄化病	やや多	やや多	—	キュウリ並 メロン やや多～やや少(±)	(コナジラミ) 気温高(+)	メロン発病株率調査 多(+)
イチゴ	うどんこ病	並	並	並(±)	並(±)	降水少(-)	
	ハダニ類	並	並	やや少(-)	やや多～並(±)	気温高(+)	
冬春果菜類	コナジラミ類	並	やや少	トマト やや少(-) ナス 並(±)	ナス やや多 トマト 並～やや少 キュウリ、メロン 並(±)	気温高(+)	
	アザミウマ類	並	やや多	ナス やや多(+)	ナス、キュウリ、メロン 並(±)	気温高(+)	
野菜類全般	ハスモンヨトウ	並	並	イチゴ やや多(+) ナス、トマト 並(±)	イチゴ、ナス やや多～並 トマト 並～やや少(±)	気温高(+) 降水少(+)	フェロモン トラップ調査 合志市 並 八代市 やや少 山都町 並 阿蘇市 一の宮 並 波野 少(-)

※予想の根拠末尾の括弧書きは、(+)は発生を助長する要因、(-)は発生を抑制する要因、(±)は影響が少ない要因であることを示す。

Ⅲ 【その他の病害虫】

作物	病害虫名	発生予想 (平年比)	発生概況及び注意すべき事項等
冬春トマト	葉かび病	並	巡回調査では平年並(±)。 防除員報告は平年並～やや少(±)。 除去した病葉は、直ちにほ場の外へ持ち出す。
冬春トマト 冬春ナス	灰色かび病	並	巡回調査ではトマト、ナスで平年並(±)。 防除員報告はトマトで平年並、ナスで平年並～やや少(±)。 除去した病葉や果実は、直ちにほ場の外へ持ち出す。
秋メロン	べと病	並	防除員報告は平年並(±)。 除去した病葉は、直ちにほ場の外へ持ち出す。
野菜全般	アブラムシ類	並	巡回調査ではイチゴ、トマトで平年並(±)。 防除員報告は、トマト、ナスで平年並～やや少、 イチゴ、メロンで平年並(±)。 発生を確認したら、直ちに薬剤防除を行う
【野菜病害虫の共通対策事項】 <ul style="list-style-type: none"> ・換気や排水を良くし、過湿の防止に努める(病害)。 ・多発後は防除が困難になるので、早期発見と初期防除に努める。 ・薬剤抵抗性の発達を防ぐため、系統の異なる薬剤のローテーション使用を行う。 			

・ 12月予報

病防第50号
令和4年（2022年）11月28日

各関係機関長 様

熊本県病害虫防除所長

病害虫発生予察情報について（送付）

令和4年度（2022年度）発生予報第9号を下記のとおり発表しましたので送付します。

令和4年度（2022年度）病害虫発生予報第9号（12月予報）

I 気象予報：令和4年（2022年）11月24日福岡管区气象台発表

◎向こう1ヶ月の気象予報（単位：％）

予報対象地域	要素	低い (少ない)	平年並	高い (多い)
九州北部全域 (含、山口県)	気温	20	40	40
	降水量	30	40	30
	日照時間	30	40	30

II 【今後、注意すべき病害虫】

1 発生の概要

作物	病害虫名	発生予想		予想の根拠			備考
		平年比	前年比	巡回調査	防除員報告	気象要因	
カンキツ	ミカンハダニ	並	やや少	—	並(±)	気温高～並 降水並 (±)	
冬春 トマト	黄化葉巻病	並	少	黄化葉巻病 並(±) コナジラミ やや多(+)	やや多～ やや少(±)	(コナジラミ) 気温高～並 (±)	
	灰色かび病	並	やや多	並(±)	並(±)	降水並(±)	
	葉かび病	並	並	並(±)	並～やや少 (±)	降水並(±)	

作物	病害虫名	発生予想		予 想 の 根 拠			備 考
		平年比	前年比	巡回調査	防除員報告	気象要因	
冬春 トマト	すすかび病	少	並	少(-)	並～少(-)	降水並(±)	
冬春 ナス	灰色かび病	並	並	並(±)	並～やや少(-)	降水並(±)	
	すすかび病	並	並	並(±)	並(±)	降水並(±)	
冬春 キュウリ	うどんこ病	並	やや少	並(±)	やや多(+)	降水並(±)	
	退緑黄化病	並	やや少	やや少(-)	並(±)	(コナジラミ) 気温高～並(±)	
イチゴ	うどんこ病	並	並	並(±)	並～やや少(-)	降水並(±)	
	ハダニ類	並	やや多	並(±)	やや多～ やや少(±)	気温高～並(±)	
	アザミウマ類	やや多	並	やや多(+)	並(±)	気温高～並(±)	
	アブラムシ類	やや多	やや多	やや多(+)	やや多～並(+)	気温高～並(±)	
レタス	菌核病	並	並	並(±)	並(±)	降水並(±)	

作物	病害虫名	発生予想		予 想 の 根 拠			備 考
		平年比	前年比	巡回調査	防除員報告	気象要因	
冬春 果菜類	コナジラミ類	並	並	トマト やや多 ナス 並 キュウリ 並 (±)	トマト やや多～ やや少 ナス やや多～並 キュウリ 並 (±)	気温高～並 (±)	黄色粘着板 トラップ調査 八代市 やや少(-)
	アザミウマ類 (イチゴ除く)	並	並	ナス 少 キュウリ並 (±)	ナス 並～やや少 キュウリ やや少 (±)	気温高～並 (±)	

※予想の根拠末尾の括弧書きは、(+)は発生を助長する要因、(-)は発生を抑制する要因、(±)は影響が少ない要因であることを示す。

Ⅲ 【その他の病害虫】

作物	病害虫名	発生予想 (平年比)	発生概況及び注意すべき事項等
冬春 トマト	疫病	並	巡回調査では、発病株は確認されず平年並(±)。発病果、発病葉は伝染源となるので早期に除去し、処分する。
冬春ナス	うどんこ病	並	巡回調査では、発病株率0.8% (平年2.1%) で平年比やや少(-)。防除員報告では並～やや少(±)。発病葉は伝染源となるので早期に除去し、処分する。
レタス	細菌性病害 (斑点細菌病、 軟腐病、腐敗病)	並	巡回調査では、斑点細菌病、軟腐病、腐敗病はいずれも発生を認めず(発病株率平年0.0%)、平年並(±)。予防が基本となるため、被覆前に薬剤散布を行う。

【野菜病害虫の共通対策事項】

- ・換気や排水を良くし、過湿の防止に努める(病害)。
- ・多発後は防除が困難になるので、早期発見と初期防除に努める。
- ・薬剤抵抗性の発達を防ぐため、系統の異なる薬剤のローテーション使用を行う。

各関係機関長 様

熊本県病虫害防除所長

病虫害発生予察情報について（送付）
令和 4 年度（2022 年度）発生予報第 10 号を下記のとおり発表しましたので送付します。

令和 4 年度（2022 年度）病虫害発生予報第 10 号（1 月予報）

I 気象予報：令和 4 年（2022 年）12 月 22 日福岡管区气象台発表

◎向こう 1 ヶ月の気象予報（単位：％）

予報対象地域	要素	低い (少ない)	平年並	高い (多い)
九州北部全域 (含、山口県)	気温	60	30	10
	降水量	40	40	20
	日照時間	20	40	40

II 【今後、注意すべき病虫害】

1 発生の概要

作物	病虫害名	発生予想		予想の根拠			備考
		平年比	前年比	巡回調査	防除員報告	気象要因	
冬春 トマト	黄化葉巻病	並	少	黄化葉巻病 並(±) コナジラミ やや多(+)	やや多～ やや少 (±)	(コナジラミ) 気温低(-)	
	灰色かび病	やや多	多	多(+)	並～少 (±)	降水並～少 (-)	
冬春 ナス	すすかび病	やや少	やや少	少(-)	並(±)	降水並～少 (-)	
冬春 キュウリ	うどんこ病	並	やや少	並(±)	並(±)	降水並～少 (±)	

作物	病害虫名	発生予想		予 想 の 根 拠			備 考
		平年比	前年比	巡回調査	防除員報告	気象要因	
冬春 キュウリ	退緑黄化病	並	並	やや少(-)	やや多(+)	(コナジラミ) 気温低(-)	
イチゴ	うどんこ病	並	並	並(±)	並~やや少 (-)	降水並~少 (±)	
	ハダニ類	並	並	並(±)	やや多~並 (±)	気温低(-)	
	アザミウマ類	並	やや少	やや少(-)	並(±)	気温低(-)	
冬春 果菜類	灰色かび病 (トマト除く)	並	並	ナス、イチゴ 並 キュウリ 多 (±)	ナス、イチゴ 並(±)	降水並~少 (-)	
	コナジラミ類	並	並	トマト やや多 ナス キュウリ 少 (±)	トマト、ナス キュウリ 並 (±)	気温低(-)	
	アザミウマ類 (イチゴ除く)	やや少	やや少	ナス 少 キュウリ 並 (-)	ナス 並 キュウリ やや少 (±)	気温低(-)	

※予想の根拠末尾の括弧書きは、(+)は発生を助長する要因、(-)は発生を抑制する要因、(±)は影響が少ない要因であることを示す。

Ⅲ 【その他の病害虫】

作物	病害虫名	発生予想 (平年比)	発生概況及び注意すべき事項等
冬春 トマト	葉かび病	並	巡回調査では発病株が確認されず(発病株率平年1.0%) 平年並(±)。 防除員報告は平年並(±)。 発病葉は伝染源となるので早期に除去し、処分する。

作物	病虫害名	発生予想 (平年比)	発生概況及び注意すべき事項等
冬春 トマト	すすかび病	やや少	巡回調査では発病株が確認されず(発病株率平年2.6%) 平年比やや少(-)。 防除員報告は平年並~少(±)。 発病葉は伝染源となるので早期に除去し、処分する。
冬春 トマト	うどんこ病	やや多	巡回調査では発病株率3.1%(平年0.3%)と平年比やや 多(+) 防除員報告は平年並~やや少(±)。 多発後は防除が困難なので、発生初期の防除を徹底す る。
冬春ナス	うどんこ病	やや少	巡回調査では発病株が確認されず(発病株率平年4.4%)と 平年比やや少(-)。 防除員報告は平年並(±)。 発病葉は伝染源となるので早期に除去し、処分する。
冬春 キュウリ	べと病	やや多	巡回調査では発病葉率20.8%(平年7.1%)と平年比多(+) 防除員報告は平年比やや多(+) 肥料切れで多発するので、適正な肥培管理を行う。
レタス	菌核病	並	巡回調査では発病株は確認されず(発病株率平年0.4%) 平年並(±)。 防除員報告は平年比やや多(+) 発病株は伝染源となるので、早期に除去し、処分する。
	細菌性病害 (斑点細菌病、 軟腐病、腐敗 病)	並	巡回調査では、斑点細菌病、軟腐病、腐敗病いずれも発病 株は確認されず平年並(±)。 防除員報告は平年並(±)。 発病株は伝染源となるので、早期に除去し、処分する。
	灰色かび病	並	巡回調査では発病株が確認されず(発病株率平年0.1%) 平年並(±)。 防除員報告は平年比やや多(+) 発病株は伝染源となるので、早期に除去し、処分する。

【野菜病虫害の共通対策事項】

- ・換気や排水を良くし、過湿の防止に努める(病害)。
- ・多発後は防除が困難になるので、早期発見と初期防除に努める。
- ・薬剤抵抗性の発達を防ぐため、系統の異なる薬剤のローテーション使用を行う。

各関係機関長 様

熊本県病虫害防除所長

病虫害発生予察情報について（送付）

令和4年度（2022年度）発生予報第11号を下記のとおり発表しましたので送付します。

令和4年度（2022年度）病虫害発生予報第11号（2月予報）

I 気象予報：令和5年（2023年）1月26日福岡管区气象台発表

◎向こう1ヶ月の気象予報（単位：％）

予報対象地域	要素	低い (少ない)	平年並	高い (多い)
九州北部全域 (含、山口県)	気温	40	30	30
	降水量	40	40	20
	日照時間	30	30	40

II 【今後、注意すべき病虫害】

1 発生の概要

作物	病虫害名	発生予想		予想の根拠			備考
		平年比	前年比	巡回調査	防除員報告	気象要因	
冬春 トマト	疫病	並	並	並(±)	やや多～少 (±)	降水並～少 (±)	
	葉かび病	少	並	やや少(-)	並(±)	降水並～少 (±)	
	黄化葉巻病	並	少	並(±)	並(±)	(コナジラミ) 気温低(-)	
冬春ナス	すすかび病	並	やや少	並(±)	やや少～並 (±)	降水並～少 (±)	

作物	病害虫名	発生予想		予 想 の 根 拠			備 考
		平年比	前年比	巡回調査	防除員報告	気象要因	
冬春 キュウリ	うどんこ病	並	やや少	やや少(-)	並(±)	降水並～少 (±)	
	べと病	やや多	並	多(+)	やや多(+)	降水並～少 (±)	
	退緑黄化病	やや多	並	やや多(+)	やや多(+)	(コナジラミ) 気温低(-)	
イチゴ	ハダニ類	並	並	並(±)	並(±)	気温低(-)	
	アザミウマ類	並	やや少	並(±)	やや多～並 (±)	気温低(-)	
冬春 果菜類	灰色かび病	やや多	やや多	ナス、キュウリ やや多 トマト、イチゴ 並 (+)	トマト、キュウリ 並 ナス やや少～並 イチゴ 並～やや多 (±)	降水並～少 (±)	
	コナジラミ類	並	並	トマト やや多 ナス、キュウリ やや少 (±)	トマト 並～やや多 ナス、キュウリ 並 (±)	気温低(-)	
	アザミウマ類 (イチゴ除く)	並	並	ナス、キュウリ 並 (±)	ナス 並 キュウリ やや少 (±)	気温低(-)	

※予想の根拠末尾の括弧書きは、(+)は発生を助長する要因、(-)は発生を抑制する要因、(±)は影響が少ない要因であることを示す。

Ⅲ 【その他の病害虫】

作物	病害虫名	発生予想 (平年比)	発生概況及び注意すべき事項等
冬春 トマト	すすかび病	並	巡回調査は寄生葉率0.3%(平年1.5%)で平年比やや少(-)。 防除員報告は平年並(±)。
メロン	べと病	並	防除員報告は平年並(±)。 肥料切れで多発するので、適正な肥培管理を行う。
	つる枯病	並	防除員報告は平年並(±)。 株元付近に発生が多いので、出来るだけ乾燥状態に保つ。
スイカ	つる枯病	並	防除員報告は平年並(±)。 株元付近に発生が多いので、出来るだけ乾燥状態に保つ。
	菌核病	並	防除員報告は平年並(±)。 過度の灌水を避け、施設内の過湿防止に努める。 開花期から予防防除に努める。
レタス	菌核病	並	巡回調査では、発病株は確認されず(発病株率平年0.5%)、 平年並(±)。 防除員報告は平年比やや多~並(+)
	灰色かび病	並	巡回調査では、発病株率0.7%(平年0.7%)で平年並(±)。 防除員報告は平年並(±)。
	細菌性病害 (腐敗病、斑点細菌病、軟腐病)	並	巡回調査では、腐敗病の発病株率1.0%(平年0.7%)、 斑点細菌病、軟腐病の発病株は確認されず平年並(±)。
野菜全般	アブラムシ類	並	巡回調査では、トマト・ナス・キュウリで寄生株は確認されず平年並、イチゴで寄生株率4.7%(平年1.4%)と平年比やや多(±)。

【野菜病害虫の共通対策事項】

- ・発病部位は伝染源となるので、早期に除去し処分する(病害)。
- ・換気や排水を良くし、過湿の防止に努める(病害)。
- ・多発後は防除が困難になるので、早期発見と初期防除に努める。
- ・薬剤抵抗性の発達を防ぐため、系統の異なる薬剤のローテーション使用を行う。

・ 3 月予報

病防第 6 1 号
令和 5 年（2023 年）3 月 1 日

各関係機関長 様

熊本県病害虫防除所長

病害虫発生予察情報について（送付）

令和 4 年度（2022 年度）発生予報第 1 2 号を下記のとおり発表しましたので送付します。

令和 4 年度（2022 年度）病害虫発生予報第 1 2 号（3 月予報）

I 気象予報：令和 5 年（2023 年）2 月 24 日福岡管区气象台発表

◎向こう 1 ヶ月の気象予報（単位：％）

予報対象地域	要素	低い (少ない)	平年並	高い (多い)
九州北部全域 (含、山口県)	気温	20	30	50
	降水量	50	30	20
	日照時間	20	30	50

II 【今後、注意すべき病害虫】

1 発生の概要

作物	病害虫名	発生予想		予想の根拠			備考
		平年比	前年比	巡回調査	防除員報告	気象要因	
茶	カンザワハダニ	やや多	やや少	並(±)	—	気温高(+) 降水少(+)	
カンキツ	かいよう病	並	並	やや多(+)	やや多～ やや少(±)	降水少(-)	
	ミカンハダニ	やや多	やや多	並(±)	並～少(±)	気温高(+) 降水少(+)	
冬春 トマト	葉かび病	少	並	少(-)	並(±)	降水少(-)	

作物	病害虫名	発生予想		予 想 の 根 拠			備 考
		平年比	前年比	巡回調査	防除員報告	気象要因	
冬春 トマト	すすかび病	並	並	やや少(-)	並~やや少 (±)	降水少(-)	
	黄化葉巻病	並	少	黄化葉巻病 並(±) コナジラミ 並(±)	黄化葉巻病 並(±) コナジラミ 並(±)	(コナジラミ) 気温高(+)	
冬春 ナス	すすかび病	やや少	やや少	少(-)	並~やや少 (±)	降水少 (-)	
冬春 キュウリ	うどんこ病	並	並	やや少(-)	並(±)	降水少(+)	
	べと病	並	並	並(±)	並(±)	降水少(-)	
ウリ科 野菜	キュウリ・メロン 退緑黄化病 スイカ退緑えそ 病	並	並	キュウリ 退緑黄化病 やや少(-) コナジラミ やや少(-)	キュウリ、 メロン、スイカ 並 (±)	(コナジラミ) 気温高(+)	
イチゴ	ハダニ類	やや多	並	並(±)	多~並(+)	気温高(+)	
	アザミウマ類	やや多	やや少	並(±)	やや多~並 (±)	気温高(+)	
冬春 果菜類	灰色かび病	やや多	やや多	トマトやや少 ナス多 イチゴ並 キュウリ多 (+)	トマト 並 イチゴ 並~やや少 ナス やや多~並 キュウリ やや多 (+)	降水少(-)	

作物	病害虫名	発生予想		予想の根拠			備考
		平年比	前年比	巡回調査	防除員報告	気象要因	
冬春 果菜類	コナジラミ類	並	並	トマト、ナス 並 キュウリ やや少 (±)	トマト、ナス、 メロン、キュウ リ、スイカ 並 (±)	気温高(+)	
	アザミウマ類 (イチゴ除く)	並	並	ナス、キュウ リ並 (±)	ナス 並～やや少 キュウリ やや多 (±)	気温高(+)	
	アブラムシ類	やや多	やや多	トマト、ナス キュウリ 並 イチゴ やや多 (±)	トマト、ナス メロン並 キュウリ やや多 スイカ、イチゴ やや多～並 (±)	気温高(+)	

※予想の根拠末尾の括弧書きは、(+)は発生を助長する要因、(-)は発生を抑制する要因、(±)は影響が少ない要因であることを示す。

Ⅲ 【その他の病害虫】

作物	病害虫名	発生予想 (平年比)	発生概況及び注意すべき事項等
冬春 トマト	疫病	並	巡回調査では、発病株は確認されず平年並(±)。 防除員報告は、平年比やや多～少(±)。 発病後は防除が困難なので、予防に重点をおく。 前年に発生が多かったほ場では、定期的に薬剤散布を行う。
ウリ科 野菜	つる枯病	並	防除員報告は、メロン、スイカで平年並(±)。 株元周辺をできるだけ乾燥状態に保つ。 窒素質肥料の多用を避け、適正な肥培管理を行う。

【野菜病害虫の共通対策事項】

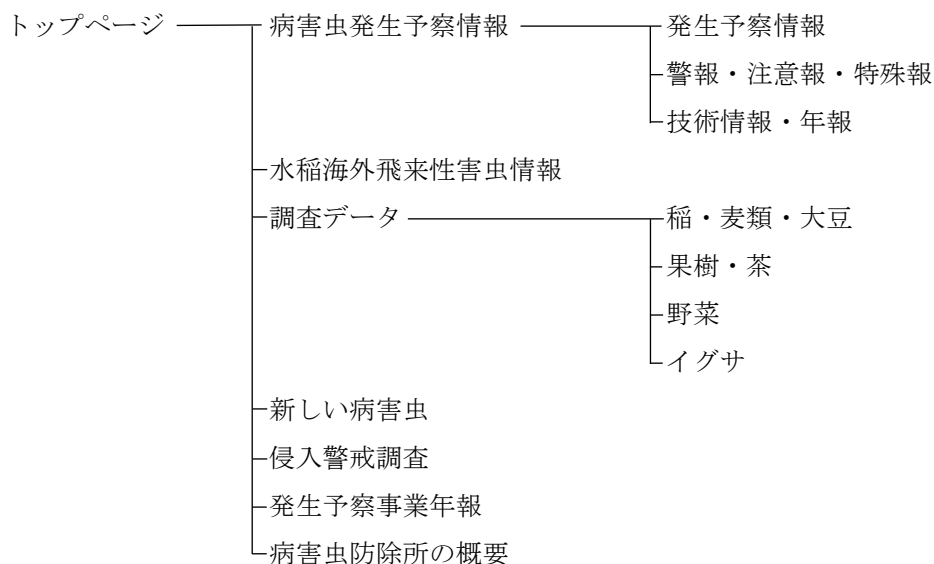
- ・換気や排水を良くし、過湿の防止に努める(病害)。
- ・多発後は防除が困難になるので、早期発見と初期防除に努める。
- ・薬剤抵抗性の発達を防ぐため、系統の異なる薬剤のローテーション使用を行う。

(3) ホームページ掲載内容

ホームページアドレス： <https://www.pref.kumamoto.jp/soshiki/75/125504.html>

Eメールアドレス： byougaityuboujyo@pref.kumamoto.lg.jp

・掲載内容



調査データ掲載内容

掲載期間	掲載内容
6月～10月	セジロウカ・トビイロウカ・ヒメトビウカ・ツマグロヨコバイの誘殺状況（予察灯、ネットラップ）、コブノメカ誘殺状況（フェロモントラップ）
4月～10月	チャハネアカカミシ・ツヤアカカミシ誘殺状況（予察灯、フェロモントラップ）、チャノコカクモンハマキ・チャハマキ・チャノホリカ誘殺状況（フェロモントラップ）、チャノキイロアザミウマ（黄色粘着板）
4月～10月	ハスモンヨトウ・コナカ・オオタバコガの誘殺状況（フェロモントラップ）、アブラムシ類の誘殺状況（黄色水盤ラップ）
4月～10月	イグサシロシカの誘殺状況（予察灯）
4月～6月	イグサシロシカ越冬調査、イグサシロシカ発蛾最盛期予測
4月～5月	麦類赤かび病多発条件出現日予測
4月～10月	イネいもち病発生予測（BLASTAM）
6月～9月	クモリカミシ発生予測、ヒノキ球果口針鞘数調査
7月～9月	チャノキイロアザミウマの発生ピーク予測、クシロカカラムシふ化予測

3 植物検疫事業

(1) ミバエ類等特殊病害虫侵入警戒調査

①対象害虫名：ミカンコミバエ

市町村名	No.	誘殺数(頭)								
		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	合計
熊本市	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	5	0	0	0	0	0	0	0	0	0
宇城市	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0
玉名市	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0
山鹿市	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0
菊池市	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合志市	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0
阿蘇市	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0
御船町	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0
八代市	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0
芦北町	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	5	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	(増設分)	0	0	0	0	0	0	0	0	0
津奈木町	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0
人吉市	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0
あさぎり町	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0
天草市	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	5	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	6	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	7	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	8	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	(増設分)	0	0	0	0	0	0	0	0	0
上天草市	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0
苓北町	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合計 36 地点+増設分		0	0	0	0	0	0	0	0	0

②対象害虫名：ウリミバエ

市町村名	No.	誘殺数(頭)								
		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	合計
熊本市	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0
宇城市	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合志市	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0
八代市	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0
芦北町	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0
あさぎり町	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0
天草市	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	5	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合計 19 地点		0	0	0	0	0	0	0	0	0

③対象害虫：チチュウカイミバエ

市町村名	No.	誘殺数(頭)								
		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	合計
熊本市	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0
宇城市	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合志市	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0
八代市	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0
芦北町	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0
あさぎり町	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0
天草市	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	5	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合計 19 地点		0	0	0	0	0	0	0	0	0

(2) アリモドキゾウムシ侵入警戒調査
合成性フェロモンによる誘殺結果

市町村名	誘 殺 数								計
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	
大津町1	0	0	0	0	0	0	0	0	0
大津町2	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合志市	0	0	0	0	0	0	0	0	0
菊陽町	0	0	0	0	0	0	0	0	0
西原村	0	0	0	0	0	0	0	0	0
天草市	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合計	0	0	0	0	0	0	0	0	0

(3) イモゾウムシ侵入警戒調査

- 1) 調査日：令和4年11月30日
- 2) 調査地：大津町（3箇所）、合志市、菊陽町、西原村（各1箇所）
- 3) 調査方法：収穫終了ほ場でのサツマイモ残渣の見取り調査
- 4) 調査結果：いずれの調査地においてもイモゾウムシは確認されなかった。

(4) スイカ果実汚斑細菌病侵入警戒調査

[定期調査]

- 1) 調査日：令和5年2月3日
- 2) 調査地：益城町および山鹿市のスイカ育苗ほ場
- 3) 調査方法：育苗ほ場における苗の発病状況の見取り調査
- 4) 調査結果

育苗床におけるスイカ果実汚斑細菌病の発生状況

市町村名	調査ほ場数	生育状況	発生の有無
益城町	5	1～5葉期（台木及び穂木）	無
山鹿市	5	1～5葉期（台木及び穂木）	無

(5) 火傷病侵入警戒調査（特殊病害虫侵入警戒調査事業）

バラ科植物の重要病害である火傷病は、国内では未発生であるものの、一度発生すると防除が難しく、甚大な被害が発生すると懸念されている。このため、本県のナシ産地においても侵入警戒調査を実施し、早期発見及び早期防除に資する。

- 1) 調査地点：荒尾市（2箇所）、氷川町（2箇所）、錦町（2箇所）
- 2) 調査方法：発生予察事業の定点巡回調査に併せ現地の栽培で発病の有無を調査する。
- 3) 調査時期：4月～8月
- 4) 調査結果：いずれの地点でも火傷病は発見されなかった。

(6) カンキツグリーンング病侵入警戒調査（特殊病害虫侵入警戒調査事業）

カンキツグリーンング病はカンキツ類に甚大な被害を及ぼす重要病害であり、我が国では昭和63年に沖縄県西表島で初めて発生が確認され、その後、奄美群島に拡大した。現在

は、発生地から未発生地域への寄主植物の移動制限が行われている。しかし、今後も侵入が危惧されることから、侵入警戒調査を実施し、早期発見及び早期防除に資する。

- 1) 調査地点：熊本市（4箇所）、宇城市（8箇所）、玉名市（4箇所）、芦北町（6箇所）
- 2) 調査方法：発生予察事業の定点巡回調査に併せ現地の栽培で発病の有無及び媒介虫ミカンキジラミの寄生の有無を調査する。
- 3) 調査時期：4～10月、2月～3月
- 4) 調査結果：いずれの地点でもミカンキジラミ及びカンキツグリーンング病は発見されなかった。

(7) ジャガイモシストセンチュウ侵入警戒調査

平成23年4月に天草市五和町（通詞島）において本線虫が県内で初めて確認された。このため、県内産地への拡大を防止するため、対岸地域での発生の有無を調査した。

- 1) 調査日：令和4年5月24日
- 2) 調査地及びほ場数：天草市五和町二江（16ほ場）、天草市五和町鬼池（10ほ場）、天草市五和町御領（2ほ場）及び荅北町（2ほ場）計30ほ場
- 3) 調査方法：土壌検診（フェンウィック法）
- 4) 調査結果：通詞島対岸のほ場からシストセンチュウは確認されなかった。

(8) ツマジロクサヨトウ発生調査

- 1) 調査時期：令和4年4月～11月（No.2のみ令和5年3月も実施）
- 2) 調査地：合志市（3箇所）
- 3) 調査方法：フェロモントラップ調査
- 4) 調査結果：いずれのトラップにおいても誘殺が確認された。

市町村名	No.	誘殺数(頭)										合計
		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	3月		
合志市	1	0	8	0	23	11	182	218	119	-	561	
	2	0	6	0	16	5	89	275	446	0	837	
	3	0	0	0	12	2	20	72	194	-	300	

(9) トマトキバガ発生調査

- 1) 調査時期：令和4年4月～令和5年3月
(阿蘇市は7月19日、八代市は6月15日から調査開始)
- 2) 調査地：熊本市、宇城市、玉名市、合志市、阿蘇市、八代市
- 3) 調査方法：フェロモントラップ調査
- 4) 調査結果：いずれの調査地においても断続的に誘殺が確認された。

市町村名	誘殺数													合計
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月		
熊本市	1	0	1	3	0	0	5	1	0	0	0	0	11	
宇城市	1	0	1	0	0	0	1	2	2	0	0	1	8	
玉名市	1	8	11	18	1	0	4	7	6	0	0	1	57	
合志市	0	0	0	1	0	1	2	2	1	1	0	0	8	
阿蘇市	-	-	-	0	5	15	16	6	9	6	0	17	74	
八代市	-	-	0	0	0	0	3	1	0	0	0	0	4	

第3 その他

1 病害虫診断

2 気象概要

3 試験成績書

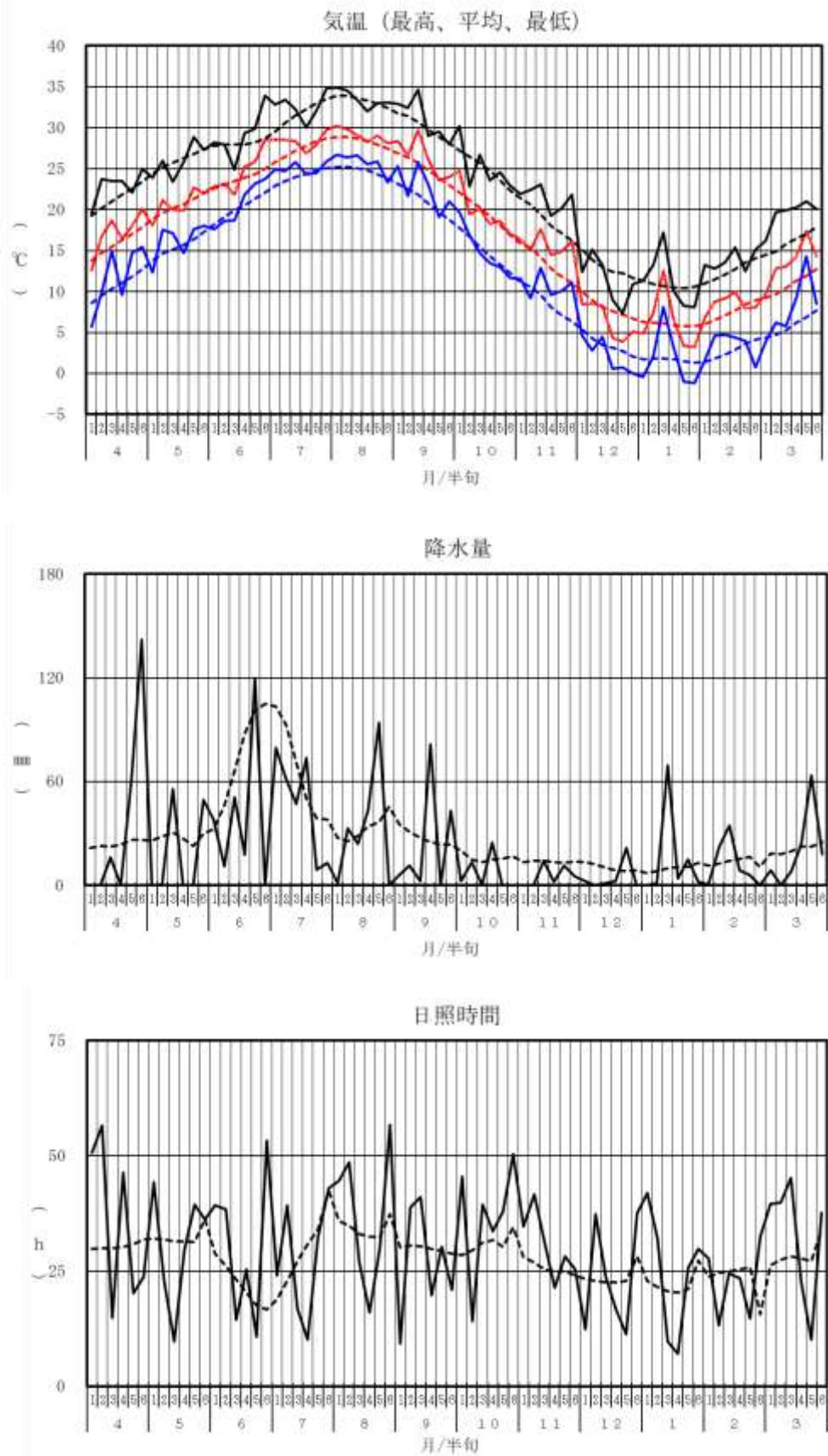
1 病害虫診断

No.	受付 月日	作物名	症状	診断方法等	診断結果
1	4/6	ミニトマト	下葉の黄化	RT-RCR	ToCV による黄化病
2	4/13	スイカ	萎凋	検鏡、分離	フザリウムによる病害
3	4/18	トマト	株元の変色、萎凋、枯死	検鏡	フザリウムによる病害
4	4/20	ブドウ	不発芽、黒変	検鏡	病害の可能性は低い (乾燥による生理障害?)
5	4/21	ピーマン	株元の変色、萎凋	分離、仏ノストリップ	疫病
6	4/22	カンショ	根茎の腐敗	LAMP	基腐病
7	4/28	トマト	下葉の黄化	RT-PCR	ToCV ではない
8	5/11	ゴボウ	根茎のあざ、腐敗	検鏡、分離、接種	病害の可能性は低い
9	4/25	ブドウ	新葉萎縮、根の衰弱	検鏡、温室観察	紋羽病の可能性は低い
10	5/16	スイカ	退緑、えそ、果実の条斑	RT-PCR	ウイルス病ではない
11	5/16	メロン	ヤニの噴出、株の萎れ	仏ノストリップ、菌分離	疫病
12	5/16	メロン	退緑、黄色い円形小斑点	ELISA	CMV によるモザイク病
13	5/19	イネ	ばか苗様症状	検鏡ほか	ばか苗病ではない
14	5/30	スイカ	萎凋	検鏡、分離	不明
15	6/2	トマト	果実のえそ、生長点の萎縮	RT-PCR	ウイルス病ではない
16	6/9	トマト	下葉の黄化	RT-PCR	ToCV による黄化病
17	6/9	ブドウ	果実の食害	現地確認	トリバ類
18	6/13	トマト	萎凋枯死	仏ノストリップ	かいよう病
19	6/14	トマト	葉の黄化、葉巻症状	PCR	TYLCV による黄化葉巻病
20	6/14	スイカ	葉の白化、萎縮	RT-PCR、仏ノストリップ	ウイルス病ではない
21	6/14	スイカ	葉の白化、萎縮	RT-PCR、仏ノストリップ	ウイルス病ではない
22	6/21	イチゴ	葉の奇形	現地診断	萎黄病
23	6/23	キク	茎のえそ、茎割れ	RT-PCR	ウイルス病ではない
24	7/20	イグサ	茎の褐色病斑	分離	Rhizoctonia による病害
25	7/26	イグサ	茎の褐色病斑	分離	Rhizoctonia による病害
26	7/28	カンショ	茎の黒変	LAMP、分離	つる割病
27	8/15	イチゴ	株の萎れ、クラウン褐変	分離、簡易検定	疫病の可能性
28	9/1	キュウリ	葉の奇形、萎縮	RT-PCR、ELISA	ウイルス病ではない
29	5/26	カキ	葉の退緑黄化、褐変、 内側への巻き込み	観察	不明
30	9/5	イチゴ	株元の菌糸・菌核	分離	白絹病
31	9/6	トマト	台木の黒色症状	分離	不明
32	9/12	カンショ	塊根の黒色陥没病斑	分離	不明
33	9/27	トマト	上位葉～全身の萎れ	分離	不明
34	9/27	ミニトマト	茎葉や葉柄に小斑点	分離、仏ノストリップ	細菌病
35	9/14	果樹類	葉に白化症状	門司植物防疫所による 同定	モモヒメヨコバイ (特殊報)
36	10/5	トマト	根腐れ、地上部の萎れ	分離	株腐病および植物寄生性センチュウ
37	10/11	トマト	生長点の萎縮	RT-PCR	不明

No.	受付 月日	作物名	症状	診断方法等	診断結果
38	10/14	カンショ	茎の黒変、イモの腐敗	LAMP	基腐病
39	10/6	カンキツ	枝枯れ	検鏡	Botryosphaeria 属菌による 枝枯れ症状
40	10/20	パプリカ	茎葉のえそ、ねじれ	RT-PCR	ウイルス病ではない
41	10/21	カンショ	葉枯れ、なり首の変色	LAMP	基腐病
42	10/24	カンショ	地際部の褐変	LAMP	基腐病
43	10/25	カンショ	塊根の腐敗、地際の黒変	LAMP	基腐病およびつる割病
44	10/26	ネギ	ネギハモグリバエ食害	農研機構による 遺伝子解析	ネギハモグリバエ B 系統 (特殊報)
45	10/28	ゴボウ	萎れ、導管の褐変		萎凋病
46	11/2	ショウガ	根茎の水浸腐敗、赤・黒変	門司植物防疫所による 同定	紅色根茎腐敗病 (特殊報)
47	11/4	ショウガ	根茎の水浸腐敗	分離	根茎腐敗病
48	11/4	カンショ	株元の黒変	LAMP	基腐病
49	11/7	カンショ	株元の黒変、塊根の腐敗	LAMP	基腐病
50	11/8	カンショ	株元の黒変、塊根の腐敗	LAMP	基腐病
51	11/10	カンショ	株元の黒変、塊根の腐敗	LAMP	基腐病
52	11/14	カンショ	株元の黒変、枯死	PCR、 農研機構による解析	乾腐病 (特殊報)
53	11/18	カンショ	株の枯死	LAMP	基腐病
54	11/21	ミニトマト	萎れ、導管の褐変	仏/ストリップ	青枯病
55	12/5	イチゴ	果実の黒斑	分離	不明 (炭疽病ではない)
56	12/6	ミシマサイコ	根の褐変	※	※診断中
57	12/13	トマト	生育遅延	PCR	TYLCV による黄化葉巻病
58	12/26	ナス	萎れ	分離	半身萎凋病
60	1/23	ナス	新葉の黄化、壞疽	RT-PCR	ウイルス病ではない
61	2/3	カンショ	塊根の黒変、腐敗	LAMP	基腐病ではない
62	2/16	ハウレンソウ	黄化、萎縮、枯死	仏/ストリップ、RT-PCR	CMV によるモザイク病
63	3/6	イチゴ	新葉の矮化、萎縮、根腐れ	観察、菌分離	不明 (生理障害の可能性)
64	3/13	チューリップ	葉先枯れ	観察、菌分離	不明 (糸状菌、細菌は病斑から 検出されず)
65	3/16	トマト	下位～中位葉の黄化	RT-PCR	黄化病
66	3/15	スイカ	葉の退色、若い葉の萎縮、 果実の変形	RT-PCR	ウイルス病ではない
67	3/20	ハイビスカス	根腐、萎凋	菌分離	不明
68	3/20	ブッドレア	葉の黄化、矮化	菌分離、PCR、仏/スト リップ、粗汁液接種	不明
69	3/28	バレイショ	葉巻、黄化、矮化	RT-PCR、PCR	不明 (4 ウイルス属は陰性)

2 気象概要

熊本市の気温、降水量、日照時間の推移 (実線：本年、点線：平年値)



3 試験成績

令和4年度病害虫の効率的防除体制の再編委託事業 試験成績書

熊本県農業研究センター生産環境研究所

1. 試験目的

水稻の最重要害虫であるトビイロウンカについては、白熱電球を使用した予察灯への誘殺数の推移及びほ場内での払い落とし調査による発生状況の把握を基に、移植後の薬剤による防除の必要性判断と最適な時期を予察することによって、費用対効果の最大化と環境への負荷軽減が図られている。

しかし、これらの調査法は類似のウンカ類との識別に熟練を要する。また、既存の予察灯は電源を必要とする固定機材であるため、更新・移設の必要に際してモニタリングに適した場所の選定や維持管理上の制限条件が多い。現在使用している白熱電球は、大手メーカーの生産中止により、今後入手困難となることが確実視される。

そこで、飛来性害虫等を対象に、独立電源（太陽光パネル）を備え、LEDを光源とし、かつ自動識別機能を有する害虫モニタリングシステム（以下、LEDシステム）と現行の予察灯等（以下、現行予察灯）と比較し、捕獲精度等の検証を行う。

2. LEDシステムの設置場所

設置台数：1台

場 所：熊本県合志市栄（熊本県農業研究センター内水田ほ場）

3. 調査期間

2022年9月20日（設置日）から2023年2月28日（調査1は2022年10月31日）まで



図1 試験機材と調査ほ場の配置

4. 調査内容

<調査1 現行の予察灯等との比較>

1) 調査の目的

ウンカ類並びに調査可能な種について、現行の予察灯における発生消長との比較を行う。

2) 調査方法

(1) 調査地点：図1

(2) 調査機材

- ・LEDシステム (RYNAN Co., Ltd.) 光源：LED 3色 (青、緑、UV)
- ・現行予察灯 ((株)池田理化 MT-7N) 光源：60W 白熱電球

(3) 調査対象

- ・ウンカ類 (トビイロウンカ、セジロウンカ)
- ・その他現行予察灯で調査実績のある発生予察対象種 (ツマグロヨコバイ等)

(4) 調査機材における誘殺消長調査

両機材とも毎日 18:00 から翌 6:00 まで点灯し、2022 年 9 月 21 日から 10 月 31 日までの日別誘殺数と総誘殺数を調査した。LED システムは機材の仕様上、同日の 0:00 から 6:00 までと 18:00 から 24:00 との総数 (後夜半+前夜半) を当日分の誘殺数として計数した。現行予察灯は前日の 18:00 から翌 6:00 まで (1 夜分) を当日分として計数した。

LED システムの光源は、4 色点灯が可能だが、本試験では、白を除く 3 色 (青、緑、UV) 点灯の自動モードで調査を行った。

(5) 近隣ほ場の害虫密度調査

近隣の無防除水稻について、払落し (50 株) により、ウンカ類 (トビイロウンカ、セジロウンカ、ヒメトビウンカ) とツマグロヨコバイの寄生密度を成・幼虫別に計数した。

- ・調査日 9 月 16 日 (地点 A)、9 月 26 日 (地点 A)、9 月 30 日 (地点 B)、10 月 12 日 (地点 B)
- ・地点 A 移植日：5 月 13 日、品種：ヒノヒカリ、無防除
- ・地点 B 移植日：6 月 17 日、品種：ヒノヒカリ、30 a ほ場の無防除区画

3) 調査結果

(1) 調査可能な種の発生消長

LED システムで識別可能とされている学習済みの 39 種 (バージョン 1.0.1-JAPAN) のうち、22 種が調査期間中に計数された。総誘殺数、誘殺日数ともトビイロウンカが最も多かった (表 1)。LED システムで計数され、現行予察灯での調査実績のある種と重複した 6 種のうち、LED システムで総誘殺数が 40 頭以上 (平均 1 頭以上/日) の 4 種の誘殺消長を図 2～図 5 に示す。

LED システムにおけるトビイロウンカの誘殺ピークは、9 月は現行予察灯と一致しなかったが、10 月はほぼ一致した。9 月から 10 月上旬までの誘殺数は LED システムの方が多く、10 月中旬のピーク時は現行予察灯の方が明らかに多かった (図 2)。

セジロウンカの誘殺消長はトビイロウンカと同様の傾向が認められ、9 月第 6 半月以降の誘殺ピークは現行予察灯とほぼ一致した。一方、9 月第 5 半月のピークは一致しなかった。トビイロウンカと同じく 9 月から 10 月上旬までの誘殺数は LED システムの方が多く、10 月中旬のピーク時は現行予察灯の方が多かった (図 3)。

ツマグロヨコバイの誘殺消長は、両機材ともほぼ同様であった。ピーク時の誘殺数はLEDシステムより現行予察灯の方が多傾向であった（図4）。

ミナミアオカメムシは、現行予察灯の誘殺が5頭以下/日で推移し、増減が不明瞭であったのに対し、LEDシステムでは9月下旬に明瞭なピークが認められた（図5）。両機材における調査期間中の誘殺日数は同数であったが、LEDシステムの総誘殺数は現行予察灯より約2.5倍多かった（表1）。

(2) 近隣ほ場の害虫密度（表2）

無防除ほ場のトビイロウンカは、調査開始時には要防除水準（収穫30日前；30頭/10株）を大きく超えて発生していた。調査開始後は、9月下旬に長翅型成虫の発生密度が高まり、9月末から10月中旬にかけて次世代の幼虫が増加した。

セジロウンカは、調査開始前からほ場での発生が認められなかった。

ヒメトビウンカは、調査開始時には30頭/10株以上の寄生が認められていたが、その後、徐々に減少した。

ツマグロヨコバイは、調査開始時には発生していたが、9月末以降は発生が認められなかった。

表1 各機材で計数された昆虫の種類別誘殺実績(2022年9月21日～10月31日)

LEDシステムで識別可能な昆虫の種類	LEDシステム		現行予察灯	
	誘殺数	誘殺日数	誘殺数	誘殺日数
トビイロウンカ	377	24	239	18
シロオビノメイガ	353	18	-	-
コブノメイガ / イネツトムシ	118	15	-	-
セジロウンカ	99	16	40	11
ミナミアオカメムシ	86	19	35	19
ツマグロヨコバイ	49	9	76	11
イナズマヨコバイ	48	11	-	-
イネヨトウ	26	12	-	-
ハスモンヨトウ	21	14	-	-
チャバネアオカメムシ	18	7	2	2
台湾クチヘリカメムシ / ミナミアオカメムシ / ホソヘリカメムシ	15	9	-	-
コカクモンハマキ	15	8	-	-
コオロギ	6	4	-	-
イネツトムシ	3	3	-	-
チャノコカクモンハマキ	3	2	-	-
リンゴコカクモンハマキ	2	2	-	-
シロミズメイガ	1	1	-	-
エビガラスズメ	1	1	-	-
モモノゴマダラノメイガ	1	1	-	-
クサギカメムシ	1	1	0	0
モモシンクイガ	1	1	-	-
アオドウガネ	1	1	-	-

注1) LEDシステム、現行予察灯ともに調査期間中に誘殺がなかった種を除く

注2) LEDシステム：同日の0:00～6:00と18:00～24:00(1夜後半と1夜前半)の誘殺を1日分として計数

現行予察灯：前日18:00～当日6:00の誘殺(1夜)を当日分として計数

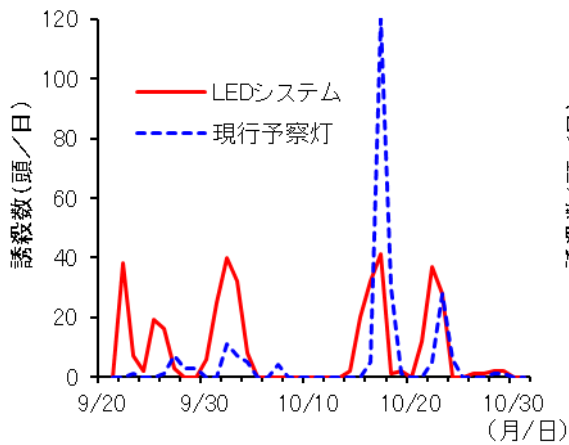


図2 トビイロウンカの誘殺消長

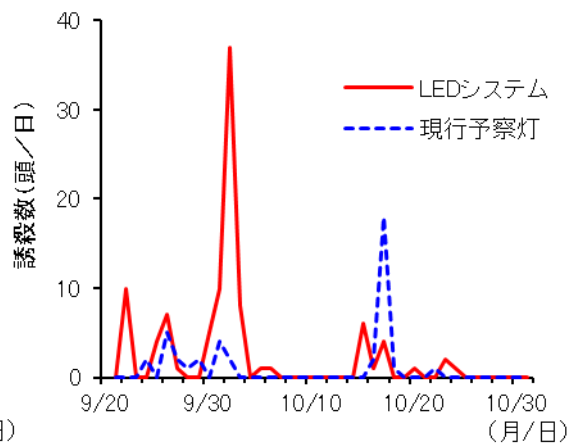


図3 セジロウンカの誘殺消長

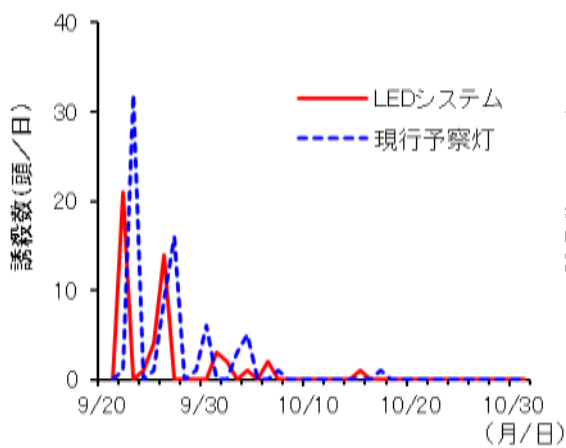


図4 ツマグロヨコバイの誘殺消長

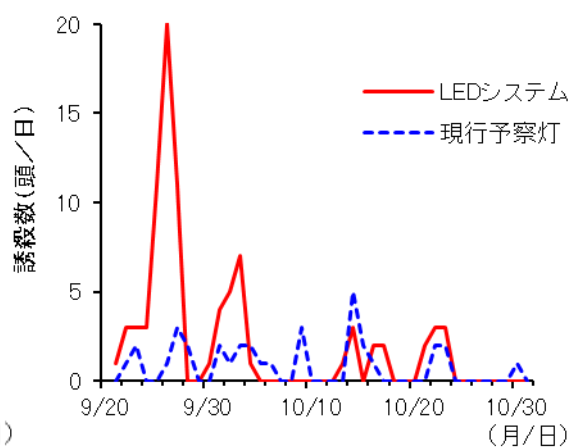


図5 ミナミアオカメシの誘殺消長

表2 近隣ほ場(無防除)における害虫寄生密度(頭/10株)

調査対象種	ステージ	調査日(地点)			
		9月16日 (A地点)	9月26日 (A地点)	9月30日 (B地点)	10月12日 (B地点)
トビイロウンカ	成虫(長翅)	19	270	20	29
	成虫(短翅)	1	2	24	3
	幼虫(老齢)	178	182	126	98
	幼虫(中齢)	141	18	358	501
	幼虫(若齢)	59	28	243	160
セジロウンカ	成虫	0	0	0	0
	幼虫	0	0	0	0
ヒメビウンカ	成虫(長翅)	19	19	3	0
	成虫(短翅)	1	0	0	1
	幼虫(老齢)	4	12	10	1
	成虫(中齢)	7	1	5	9
	幼虫(若齢)	4	0	6	0
ツマグロヨコバイ	成虫	0	1	0	0
	幼虫	5	2	0	0

3) 考察

本調査においてLEDシステムと現行予察灯による発生消長の比較が可能と考えられたのは、トビイロウンカ、セジロウンカ、ツマグロヨコバイ、ミナミアオカメムシの4種であった。LEDシステムへの誘殺数が日平均1頭未満の種については、誤判定による誤差の影響が大きいため消長の評価は困難と判断した。

LEDシステムにおける調査期間中のトビイロウンカの誘殺消長は、2022年の海外飛来と無防除ほ場における成育ステージの状況から、7月20日頃飛来の第2世代（9月下旬ピーク）、6月25日頃飛来の第3世代（10月上旬ピーク）、7月7日飛来の第3世代（10月中旬ピーク）、7月12日飛来の第3世代（10月下旬ピーク）を反映しているものと考えられた。両機材のピーク時の誘殺数は、10月上旬までと10月中旬で大きく逆転したが、LEDシステムは9月収穫の無防除ほ場（地点A）と近く、現行予察灯は10月収穫の被害発生ほ場（耐虫性品種比較試験；無防除）と比較的近かったことから、近隣の発生状況及びその収穫時期と距離の影響を受けたと考えられた（**図1**）。しかし、10月以降の誘殺ピークは良く一致していることから、普通期・晩期水稻における9月下旬以降の発生消長を把握する目的においては、両機材に能力差はないと考えられた。

セジロウンカの誘殺消長は9月第6半月以降のピークが両機材ともほぼ一致した。ピーク時の誘殺数は、時期によって両機材に優劣の逆転が見られ、トビイロウンカと同様に周辺環境の影響によるものと考えられた。本種は調査期間中にはほ場での発生が認められなかったため、LEDシステムは低密度時からの消長把握に利用できる可能性があるが、本種の発生に好適な夏季での検証が必要である。但し、セジロウンカの一部に、近隣ほ場で生息するヒメトビウンカを含んでいる可能性がある（**表2、調査2で後述**）。

ツマグロヨコバイの誘殺消長は、両機材ともほぼ同様であったが、ピーク日に1～2日のずれが見られた。LEDシステムで1番目と2番目に大きかったピーク日の撮影画像記録では、大半が18:00から22:00の間に計数されていたことから、本種は未明よりも日没後に誘殺されやすいと考えられた（データ省略）。このため、本種を含むいくつかの種では、現行予察灯と計数方法が異なるLEDシステムの仕様（現行予察灯は1夜分を1日分として計数するのに対し、LEDシステムは同日0:00～6:00と18:00～24:00の2夜分を同日として計数する）によるピーク日の差が表れる可能性がある。

LEDシステムによるミナミアオカメムシの誘殺消長は、現行予察灯に比べピークが明瞭であった。誘殺数も総じてLEDシステムの方が多かったことから、本種の消長把握には現行予察灯より優れている可能性があると考えられた。

<調査2 LEDシステムにおいて捕集される種の判別能確認調査>

1) 調査の目的

- ①画像から判別可能なものについて計数し、システムの判断と比較する。
- ②種が明確な害虫をシステムに投入し、システムの判断を検証する。

2) 調査方法

(1) 調査対象

ウンカ類飼育個体群

- ・トビイロウンカ 2022年採集（熊本県合志市）
- ・セジロウンカ 2007年採集（熊本県合志市）
- ・ヒメトビウンカ 2005年採集（熊本県熊本市）

(2) 種が明確な飼育個体の投入実験による識別能力の評価

2023年1月中旬に人工気象室内で飼育した各種長翅型成虫をLEDシステムの機材吸引口に投入した。投入数に対するシステムの自動判別による計数結果から、虫体の認識率及び正答率を算出した。

- ・パターン1：トビイロウンカ 20頭
- ・パターン2：トビイロウンカ 40頭
- ・パターン3：トビイロウンカ 15頭、ヒメトビウンカ 20頭（混合投入）
- ・パターン4：セジロウンカ 12頭

3) 調査結果

(1) トビイロウンカの識別能力

トビイロウンカのみを20頭、40頭単位で同時投入した結果、虫体の認識率は15.0～22.5%と低く、認識した個体のうち、33.3～100.0%を正しく判定した。3回合計100頭のうち、3頭をイナズマヨコバイと誤判定したが、他に誤判定した種は認められなかった（表3）。

トビイロウンカ15頭にヒメトビウンカ20頭を混合して投入した結果、54.2%を虫体と認識したが、トビイロウンカ以外に、セジロウンカ、イナズマヨコバイと判定された個体があり、ヒメトビウンカをこれらと誤判定した可能性があった（表3）。

(2) セジロウンカの識別能力

セジロウンカのみを12頭投入した結果、撮影画像から11頭を肉眼で捉えることができたが、1頭は見えなかった。LEDシステムは、11頭に対して画像中の7カ所を虫体と認識した。認識した個体の正答率は高く、他の種と誤判定したものはなかったが、1カ所は虫体ではない部分をセジロウンカと誤認識したものだ（表3、図6）。

表3 種が明確なウンカ類成虫個体に対する LED システムの判定結果

供試虫(頭数)	判定結果(頭数)				虫体認識率(%)	正答率(%)	正答検出率(%)
	トビイロウンカ	セジロウンカ	イナズマヨコバイ	無判定			
トビイロウンカ(20)	1	0	2	17	15.0	33.0	5.0
トビイロウンカ(40)	6	0	0	34	15.0	100.0	15.0
トビイロウンカ(40)	8	0	1	31	22.5	88.9	20.0
トビイロウンカ(15)	11	7	1	16	54.3	—	31.4
ヒメトビウンカ(20)						—	—
セジロウンカ(12)	0	7	0	5	58.3	100.0	58.3

注) 虫体認識率: 供試虫総数に対し、虫体として認識した場所数の率
 正答率 : 虫体として認識した場所のうち、正しく判定した率
 正答検出率: 供試虫総数に対し、正しく判定した率

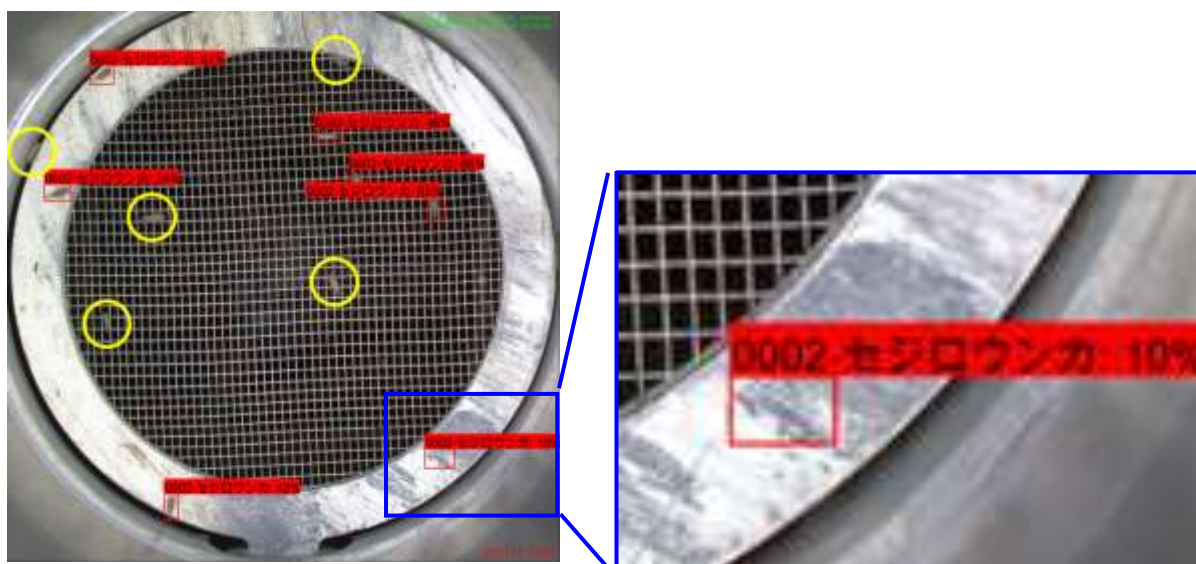


図6 LED システムによるのウンカ類識別結果の一例

左 : ラベル付きの赤色枠内は計数・判定対象となった場所、黄色円内は認識されなかった個体
 右 : 左図青色枠内の拡大

3) 考察

日本仕様の LED システムは、まだヒメトビウンカには対応していないが、トビイロウンカ、セジロウンカとして認識する能力は高く、両ウンカ以外のものと誤判定したのはイナズマヨコバイのみだった。本調査はウンカ類が自然発生していない冬季に実施したため、供試虫の翅が大きく開いた状態や横たわった状態で撮影された個体が多数存在した。本調査でイナズマヨコバイと誤判定された全5頭は、いずれも虫体側面や翅を広げた状態の撮影画像によるものだった(データ省略)。種のレベルでは、トビイロウンカとセジロウンカを他のウンカ種と誤って判断した例はなかった。しかし、LED システムが対応していないヒメトビウンカについては、捕集された個体の一部がセジロウンカと判定されている可能性があると考えられた(表3)。このため、現時点ではウンカ類としての識別能力に止まると推測されたが、今後、ヒメトビウンカを識別対象に加えることで、判定精度が向上すると思われる。

なお、本調査では虫体として認識されない個体の割合が高く、実施回毎にその割合が大きく異なつた。原因の1つとして、誤判定と同様に実施時期が不適當であつたと考えられるため、LEDシステムの実用場面（発生時期）における識別能力を正しく評価するには、更に実験回数を重ねる必要があることを付記する。

＜本システムを運用するなかで生じた問題点・利点等とその改善案・活用案等＞

1) 問題点と改善案

(1) 構造上、誘引された虫は画像撮影後に粉碎されるため、判定結果を直接検証することができない。正しい結果判定を積み重ねないと学習による識別能力の向上は見込めない。

⇒ 改善案：粉碎機能を停止できるように改造し、送風と落下により網袋等に回収する。

(2) 粉碎された死骸をバケツ等に回収する場合、降雨で水が溜まる、腐臭が激しい。

⇒ 改善案：粉碎機能を停止できるように改造し、送風と落下により網袋等に回収する。

(3) 屋根下部にクモの巣が張りやすい

⇒ 改善案：特になし（定期的な除去）

(4) 日当たりの良い場所に設置したが、10月に曇天1日でバッテリー切れが発生した。

⇒ 改善案：バッテリー容量の変更、アラート機能の付加

(5) 画像保存容量が小さい（約3カ月毎に回収する必要がある）

⇒ 改善案：保存容量の変更

(6) Webやアプリを介して得られる数値データと機材から直接回収した画像判定結果が異なる。

⇒ 判定能力バージョンの表記

(7) PCやスマホからの操作（光源色毎のON・OFF）が反映されていないことがあつた。

⇒ アプリのアップデート

2) 利点と活用案

(1) 一定時間毎に計数される。

⇒ 活用案：種別の活動時間帯や温・湿度等による影響の解明

(2) 光源の色調を変更できる

⇒ 活用案：種別の光に対する誘引特性の解明

(3) 独立電源であり、人的能力の影響を受けない。

⇒ 活用案：設置場所数の拡大による広域的なモニタリング機能の強化

(4) 自動通信によるデータ蓄積

⇒ 活用案：発生状況の相互把握による隣県との対策連携

病虫害発生予察情報サービス

病虫害防除に役立つ情報を提供しています。

<https://www.pref.kumamoto.jp/soshiki/75/125504.html>

熊本県病虫害防除所

(農業研究センター 生産環境研究所内)

〒861-1113 熊本県合志市栄3801

TEL : 096 (248) 6490~91

FAX : 096 (248) 6493

発行者：熊本県

所 属：病虫害防除所

発行年度：令和5年度

(2023年度)